

第7次大口町総合計画策定のためのアンケート 結果報告書

平成27年6月

大口町

目次

はじめに 調査の概要	1
1. 回答者のプロフィール	3
1-1 性別・年齢	3
1-2 居住地域	5
1-3 居住年数	6
1-4 職業	7
1-5 同居の家族	8
2. 住み心地と定住意向について	9
2-1 まちの住みやすさ	9
2-2 定住意向	11
2-3 移転理由	13
3. 町政等の満足度と重要度について	14
3-1 満足度の評価	15
3-2 重要度の評価	21
3-3 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）	25
4. 子育て・教育について	30
4-1 子どもの発育環境	30
4-2 子どもの教育における家庭の役割	33
4-3 子どもの教育における地域の役割	36
4-4 力をいれるべき教育分野	39
4-5 教員が授業以外で優先すべき業務	42
5. 環境に配慮した暮らしについて	46
5-1 暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み	46
5-2 家庭におけるごみ減量化の取組み	48
6. 身の回りの安全（防犯・防災）について	50
6-1 犯罪を未然防止するための地域の役割	50
6-2 詐欺や悪徳商法についての注意喚起	52
6-3 地震の備え	54
6-4 防災訓練等への参加	58
6-5 災害に備えた家庭内備蓄	60
6-6 災害時の避難方法等についての確認	62
6-7 地震による家具等の転倒防止策	64

6-8	住宅用火災報知器の設置	66
6-9	救命救急講習受講の有無	68
7.	健康や食生活について	70
7-1	健康への不安	70
7-2	健康に気がついた暮らし	73
7-3	かかりつけ医の有無	76
7-4	歯科検診の受診	79
7-5	運動ができる環境	82
7-6	健康的な食生活	85
7-7	朝食の摂取	88
7-8	地産地消を意識した購買行動	91
7-9	心豊かな生活	94
7-10	力を入れるべき健康づくり施策	98
8.	これからのライフスタイルと社会貢献について	101
8-1	豊かさの考え方	101
8-2	時間をとりたい活動	105
8-3	社会貢献に関する意識	108
8-4	具体的貢献内容	112
9.	人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について	116
9-1	地域でのあいさつ	116
9-2	子ども達とのあいさつ運動	119
9-3	高齢者・障がい者等への手助け	122
9-4	地域自治組織の認知	125
9-5	地域自治組織への参加意向	128
9-6	ボランティア活動への参加	132
9-7	住民の町行政への関わり	136
9-8	住民参画のまちづくり	140
9-9	まちづくり活動における考え方	144
10.	地域の情報化について	155
10-1	「広報おおぐち」の利用状況	155
10-2	個別受信機による放送状況	158
10-3	インターネットの利用	161
10-4	インターネット活用による地域情報化施策への期待	163
11.	町の事業やサービスなどの認知状況について	165

12. 公共施設と住民負担の関係について	167
12-1 公共施設の利用	167
12-2 公共施設の利用と負担の関係	169

資料編

自由意見の回答結果	173
アンケート調査票（原票）	197

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第7次大口町総合計画」を策定するにあたり、多くの町民に町政等の満足度や重要度、分野ごとの町民生活の実態や意向、将来のまちづくりの方向性などについて把握することによって、町民の意向を十分に反映した総合計画づくりをする上での基礎資料を得ることを目的に実施しました。

なお、調査票の設計にあたっては、平成17年度に実施したアンケートや国や県が実施したアンケート結果との比較分析ができるよう配慮に努めました。

2. 調査対象者

平成26年12月末時点において大口町内に住民登録している20歳以上の町民を対象に、無作為に2,500人を抽出しました。

3. 調査実施方法

郵送で配布し、郵送で回収しました。

4. 調査実施期間

平成27年1月14日（水）～平成27年1月31日（土）

5. 調査票の回収状況

表0-1 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,500	1,111	1,110	44.4%

6. 標本誤差の範囲

標本誤差の範囲は、結果との比率の関係から以下の式であらわすことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を95%でとると、定数kは1.96となるので、これをもとに誤差を算定すると表0-2になります。

表0-2 標本誤差の範囲（±%）

P	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
標本誤差	±1.72	±2.35	±2.63	±2.81	±2.87

7. グラフの見方に関する注意事項

- ・グラフは、帯グラフ、横棒グラフ、ダンゴグラフ、折れ線グラフ、散布図の5種類を必要に応じて使い分けています。例えば、クロス集計の場合、表頭が単数回答（SA）の時は帯グラフとし、複数回答（MA）の時は、ダンゴグラフとしています。該当サンプル数については、帯グラフの場合は図中右に、ダンゴグラフの場合は表側の横の（ ）内に表示しました。
- ・本文中の割合の合計は、各項目を合計した後、小数点以下第2位を四捨五入した数値となっています。また、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。
- ・クロス集計の表側における「回答なし」は省略してあるので、表側の各項目のサンプル数の合計と全体のサンプル数は一致していません。
- ・図中の構成比（%）は帯グラフ、ダンゴグラフとも小数点以下第2位を四捨五入してあるため、帯グラフの場合でも構成比の合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・複数回答（ダンゴグラフ）の場合、割合（%）の合計は、100.0%を超えます。

8. 調査実施方法

居住地域別のクロス集計は、3つの地域自治組織の区分で行いました。

区分	地区
南地域自治組織	秋田、豊田、大屋敷
北地域自治組織	外坪、河北、上小口、中小口、下小口
中地域自治組織	余野、垣田、さつきヶ丘

1. 回答者のプロフィール

1-1 性別・年齢 (問51・問52)

問51 あなたの性別はどちらですか【回答数：○印を1つだけ】

問52 あなたの年齢はいくつですか【回答数：○印を1つだけ】

回答者の性別は、「女性」が「男性」を上回っています。

回答者の年齢は、「70歳以上」(22.4%)や「60歳代」(20.4%)といった高齢者層が42.8%と大口町の実際の年齢構成よりも高齢者層が多くなっています。

【性別：全体】 (図1-1-1)

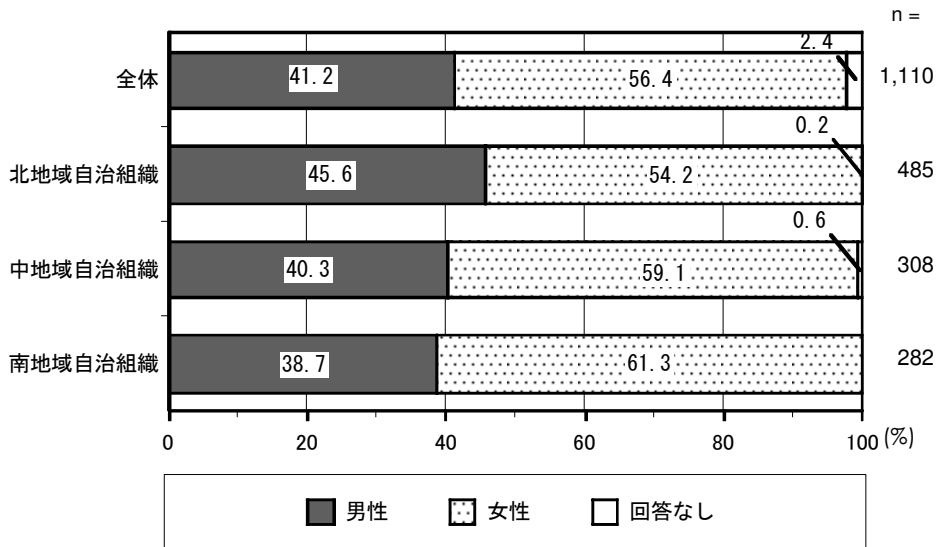
○「男性」が41.2%、「女性」が56.3%と「女性」が「男性」を上回っています。

○調査時点における町内全体の男女の比率が、ほぼ同じ割合であるのに対して、今回の調査では「女性」の割合が「男性」の割合を15.2ポイント上回る結果になっています。

【性別：居住地域別】 (図1-1-1)

○居住地域別にみると、特に南地域自治組織と中地域自治組織で「女性」が「男性」を大きく上回っています。

図1-1-1 居住地域別「性別」



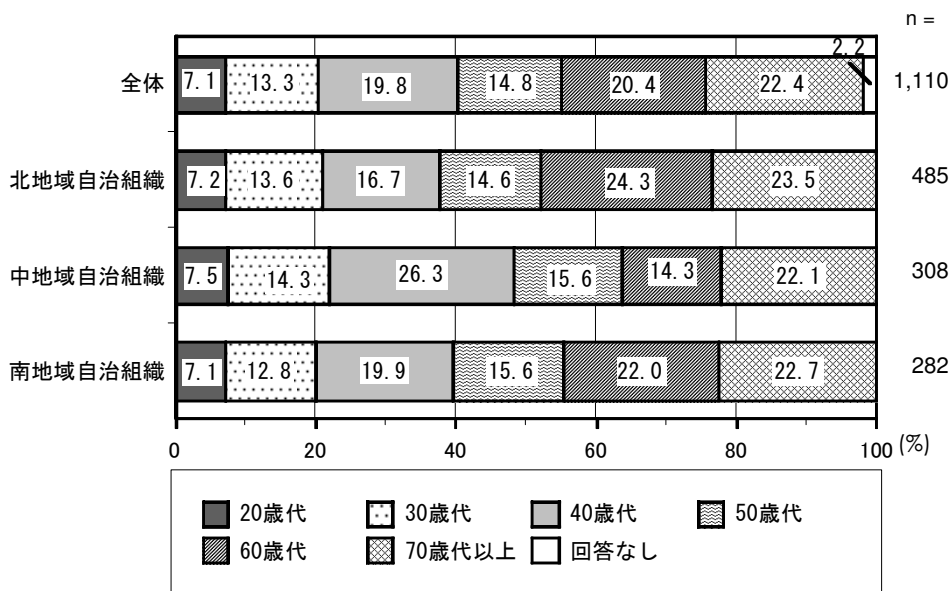
【年齢：全体】 (図 1-1-2)

- 「20 歳代」が 7.1%、「30 歳代」が 13.3%で、これらを合わせた若年層は 20.4%となっています。
- 「40 歳代」が 19.8%、「50 歳代」が 14.8%で、これらを合わせた壮年者層は 34.6%となっています。
- 「60 歳代」が 20.4%、「70 歳以上」が 22.4%で、これらを合わせた高齢者層は 42.8%となっています。
- 回答者は、大口町の実際の年齢構成よりも高齢者層に偏っています。

【年齢：居住地域別】 (図 1-1-2)

- 居住地域別にみると、中地域自治組織では、40 歳代が全体値に比べて若干多くなっており、その分、60 歳代が若干少なくなっています。

図 1-1-2 居住地域別「年齢」



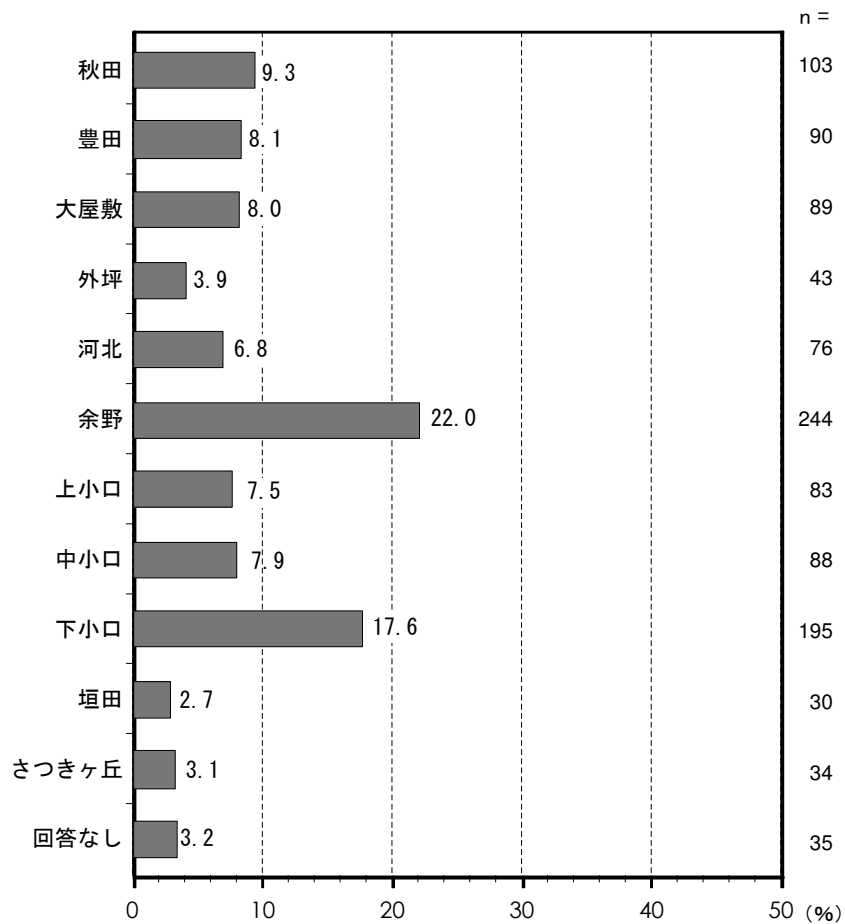
1-2 居住地域 (問 53)

問 53 あなたは、どの地区にお住まいですか。【回答数：○印を1つだけ】

【全体】 (図 1-2)

○「余野」が22.0%と最も多く、次いで「下小口」が17.6%、「秋田」が9.3%となっています。

図 1-2 居住地域



1-3 居住年数 (問 54)

問 54 あなたは大口町に住んで何年くらい経ちますか。【回答数：○印を1つだけ】

居住年数が「30年以上」という町民が47.7%と半数近くを占め最も多くなっています。中地域自治組織では居住年数が20年未満という町民が他の地域に比べて多くなっています。

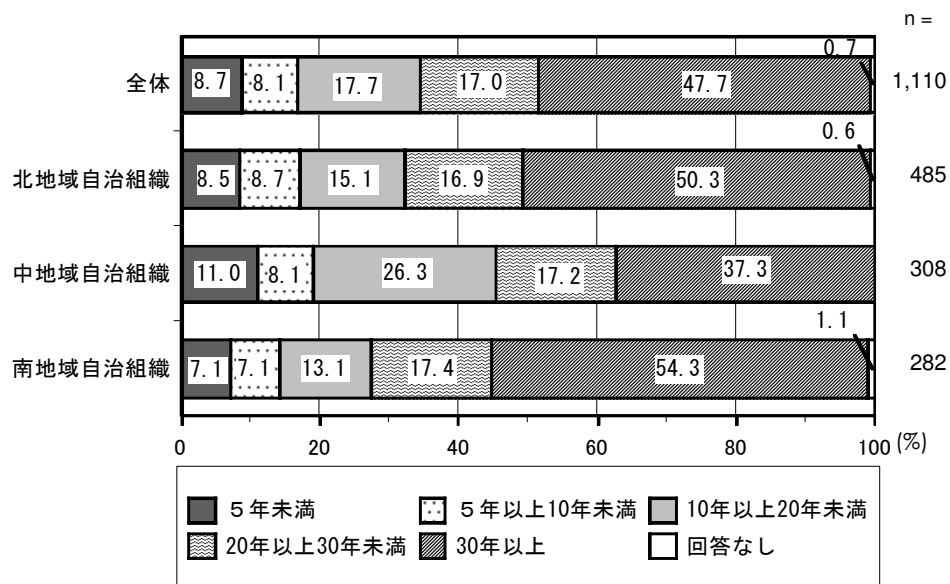
【全体】 (図 1-3)

○「30年以上」が47.7%と半数近くを占め最も多くなっています。次いで多いのが「10年以上20年未満」(17.7%)となっています。

【居住地域別】 (図 1-3)

○中地域自治組織では20年未満が他の地域に比べて多くなっています。一方、南地域自治組織では、「30年以上」が54.3%と全体値よりも6.6ポイント上回っています。

図 1-3 居住地域別「居住年数」



1-4 職業 (問 55)

問 55 あなたの職業は次のうちどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

「家事従事・無職」が35.0%と最も多く、次いで、「会社員・店員等」が26.8%と多くなっています。

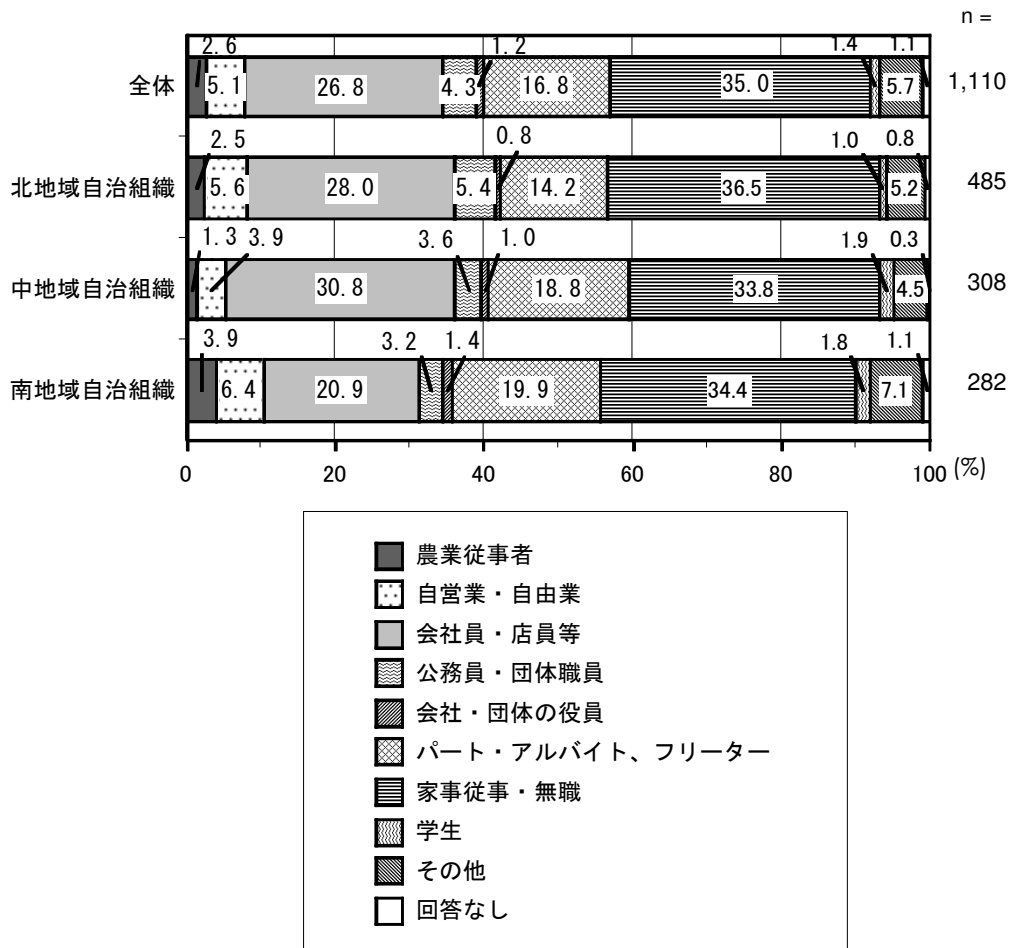
【全体】 (図1-4)

○「家事従事・無職」が35.0%と最も多く、次いで、「会社員・店員等」が26.8%、「パート・アルバイト、フリーター」が16.8%、「自営業・自由業」が5.1%、となっています。

【居住地域別】 (図1-4)

○南地域自治組織では、「会社員・店員等」が20.9%と他に比べて少なくなっていることが特徴としてみられます。

図1-4 居住地域別「職業」



1-5 同居の家族 (問 56)

問 56 あなたの同居家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなたご自身も含めてご回答ください。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

「65 歳から 74 歳までの同居人がいる」が 28.3%と最も多くなっています。

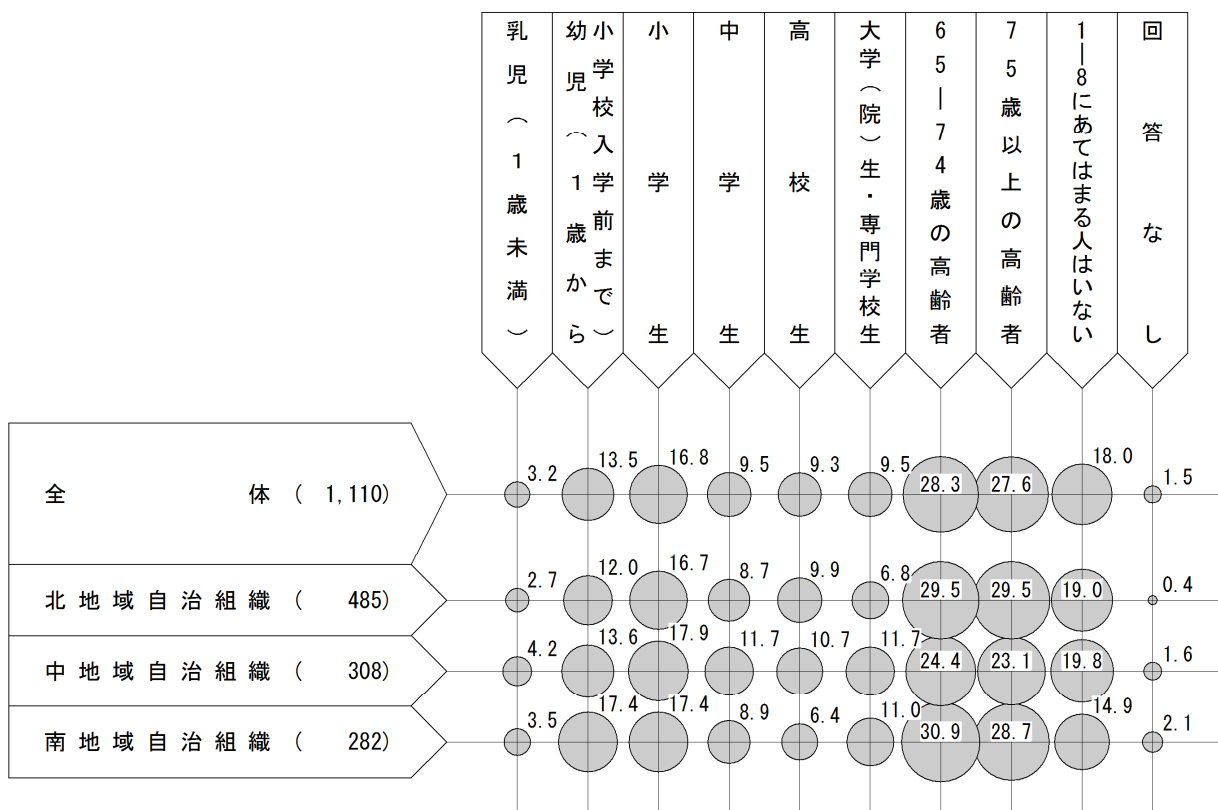
【全体】 (図 1-5-1)

- 「65 歳から 74 歳までの同居人がいる」が 28.3%と最も多くなっており、次いで、後期高齢者にあたる「75 歳以上の同居人がいる」についても 27.6%と多くなっています。
- 子どもの有無について目を向けると、「乳児（1 歳未満）」は、3.2%、「小学校入学前の子供がいる」が 13.5%、「小学生がいる」が 16.8%、「中学生がいる」が 9.5%、「高校生がいる」が 9.3%、「大学生（専門学校生）がいる」が 9.5%となっています。

【居住地域別】 (図 1-5-1)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図 1-5-1 居住地域別「同居の家族」



2. 住み心地と定住意向について

2-1 まちの住みやすさ (問1)

問1 大口町は住みやすいまちだと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

大口町に住みやすさを感じている町民は、9割超を占めています。「住みやすい」という回答は、30歳代や20歳代といった若年層や70歳代以上の高齢者層で多くなっています

【全体】 (図2-1-1)

- 「住みやすい」が48.4%、「どちらかといえば住みやすい」が44.8%となっており、これらを合わせた大口町に対して住みやすさを感じている町民の割合（以下“住みやすいという評価”）は93.2%を占めています。
- 一方、「どちらかといえば住みにくい」が4.2%、「住みにくい」が0.8%となっており、これらを合わせた大口町に対して住みにくさを感じている町民の割合（以下“住みにくいという評価”）は5.0%にとどまっており、総じて、大口町はほとんどの町民から住みよいまちであるとの評価が得られています。

【前回比較】 (図2-1-1)

- 平成17年に実施した調査結果と概ね同様の結果となっています。

【年齢別】 (図2-1-2)

- “住みやすいという評価”はいずれの年齢層においても9割を超えています。
- 「住みやすい」という回答は、30歳代(59.5%)や20歳代(53.2%)といった若年層や70歳代以上(51.4%)の高齢者層で多くなっています。

【居住地域別】 (図2-1-3)

- “住みやすいという評価”はいずれの地域自治組織においても9割を超えています。
- 「住みやすい」の回答は、中地域自治組織で43.6%と過半数以上を占め、他地域に比べて若干多くなっています。

図2-1-1 前回比較「まちの住みやすさ」

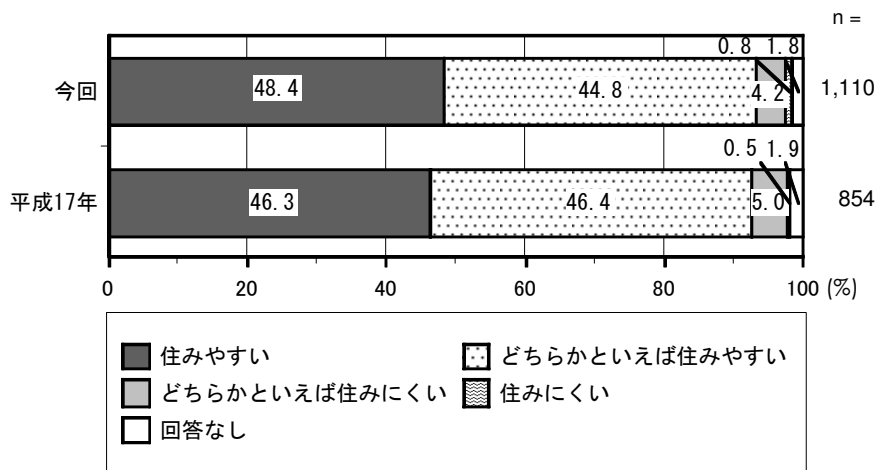


図2-1-2 年齢別「まちの住みやすさ」

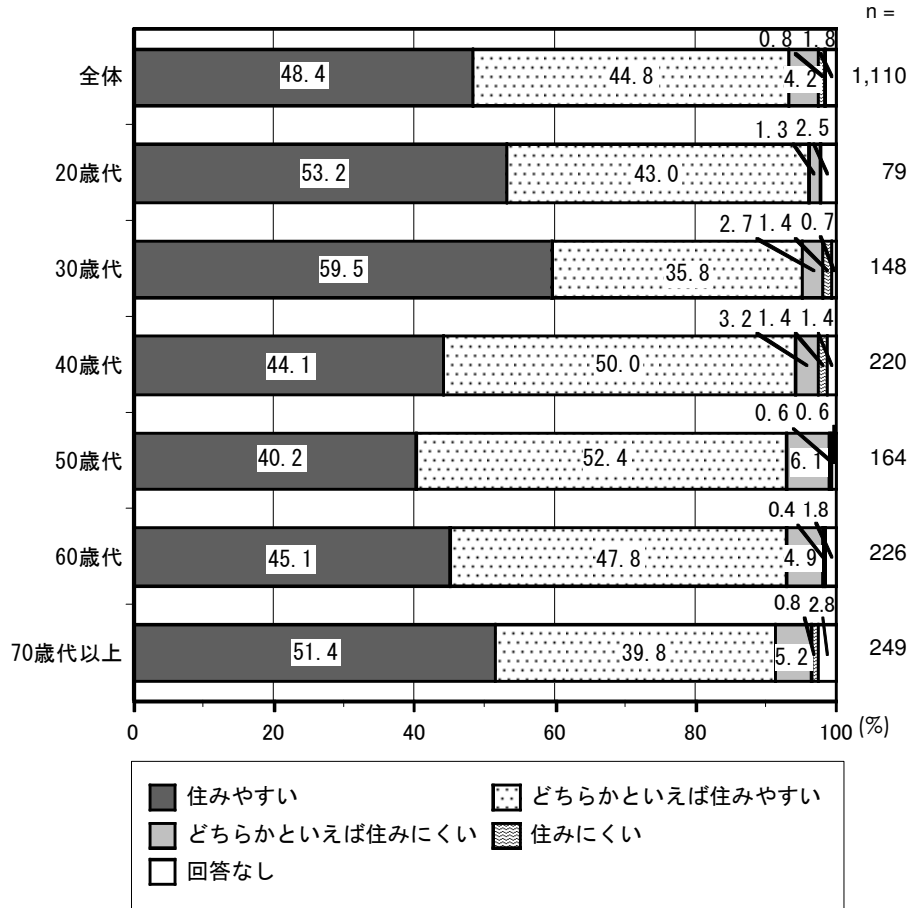
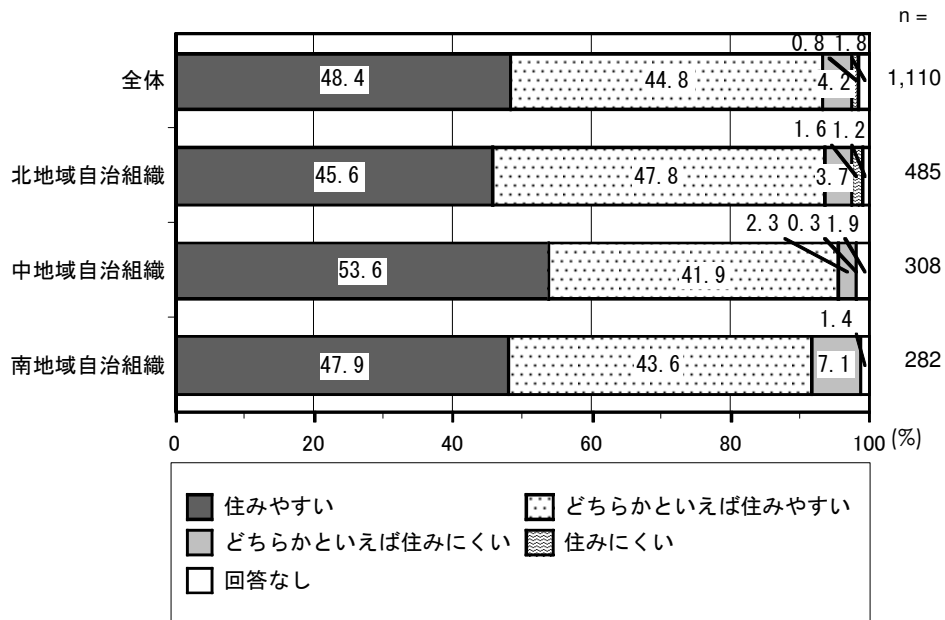


図2-1-3 居住地域別「まちの住みやすさ」



2-2 定住意向（問2）

問2 あなたはこれからも大口町に住む予定ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

大口町に“定住意向”を示している町民は、88.5%を占めています。平成17年調査と比べると、ごく僅かですが定住意向が高まっています。

【全体】（図2-2-1）

- 「ずっと住み続ける」が55.2%と過半数を占めています。「できれば続けたい」という町民33.3%を合わせた大口町に定住意向を持つ町民（以下、“定住意向”）は、88.5%になります。
- 「できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある」（3.6%）と「できるだけ早めに、町外に移り住みたい」（0.5%）は合わせても4.1%と僅かになっています。

【前回比較】（図2-2-1）

- 平成17年調査と比べると、ごく僅かですが定住意向が高まっています。

【年齢別】（図2-2-2）

- 年齢別にみると、“定住意向”を示している町民の割合が最も少ない20歳代でも74.6%の町民が“定住意向”を示しています。
- そして、年齢が高くなるにつれて、“定住意向”を示す町民の割合が順次多くなる傾向がみられます。
- 「ずっと住み続ける」という町民の割合についても概ね同様の傾向がみられ、70歳代ではその割合は70.3%に及んでいます。

【居住地域別】（図2-2-3）

- 居住地域別にみると、中地域自治組織では、「ずっと住み続ける」という町民の割合が他に比べて少なくなっていることが特徴としてみられるものの、“定住意向”を示す町民の割合についてはほとんど差異が認められません。

図2-2-1 前回比較「定住意向」

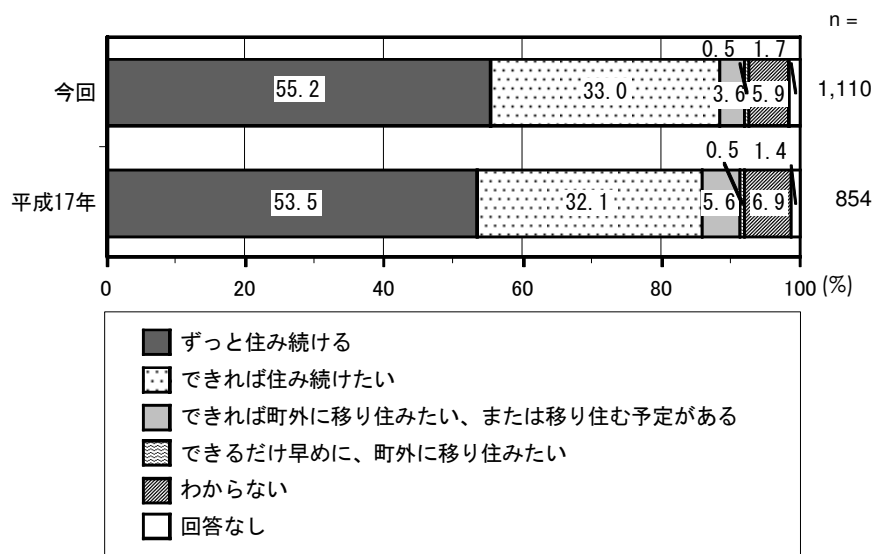


図 2-2-2 年齢別「定住意向」

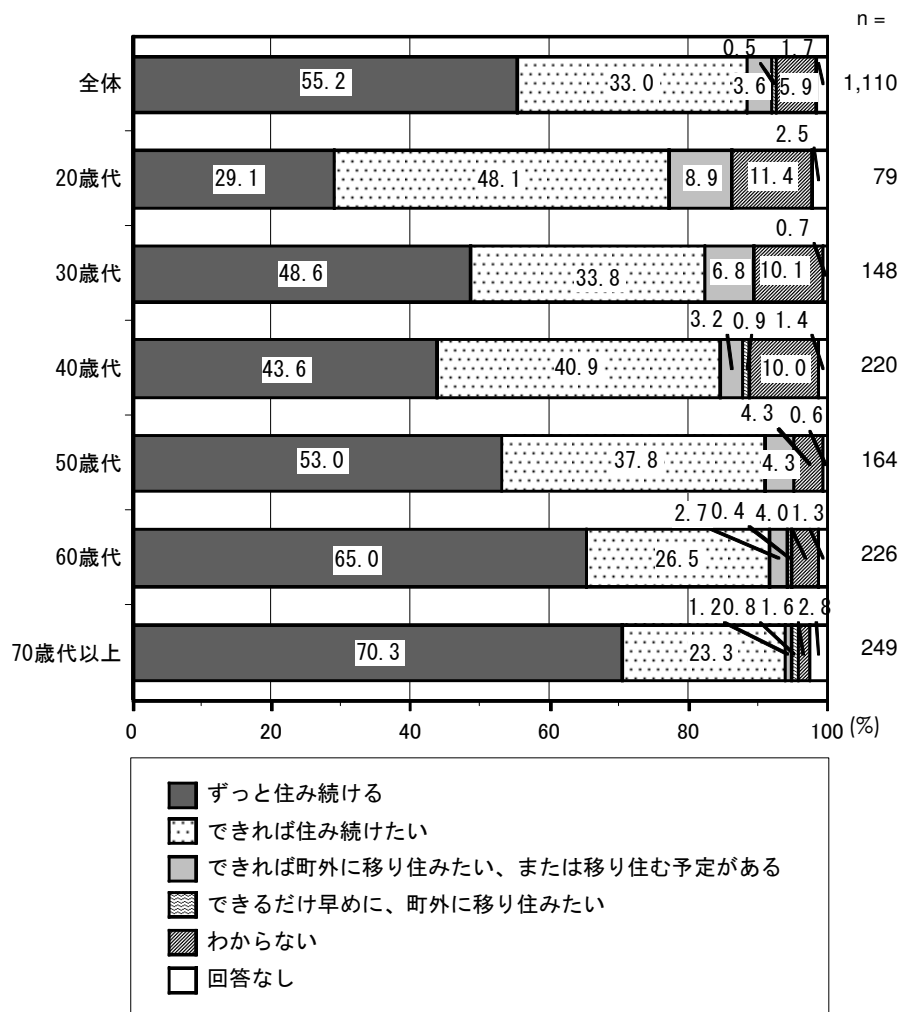
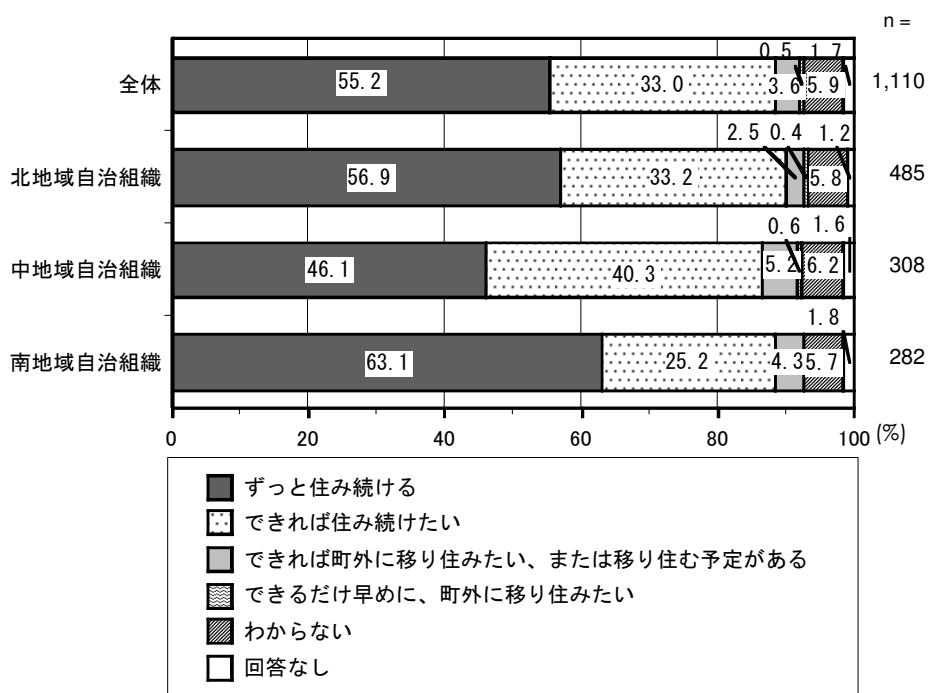


図 2-2-3 居住地域別「定住意向」



2-3 移転理由 (問3)

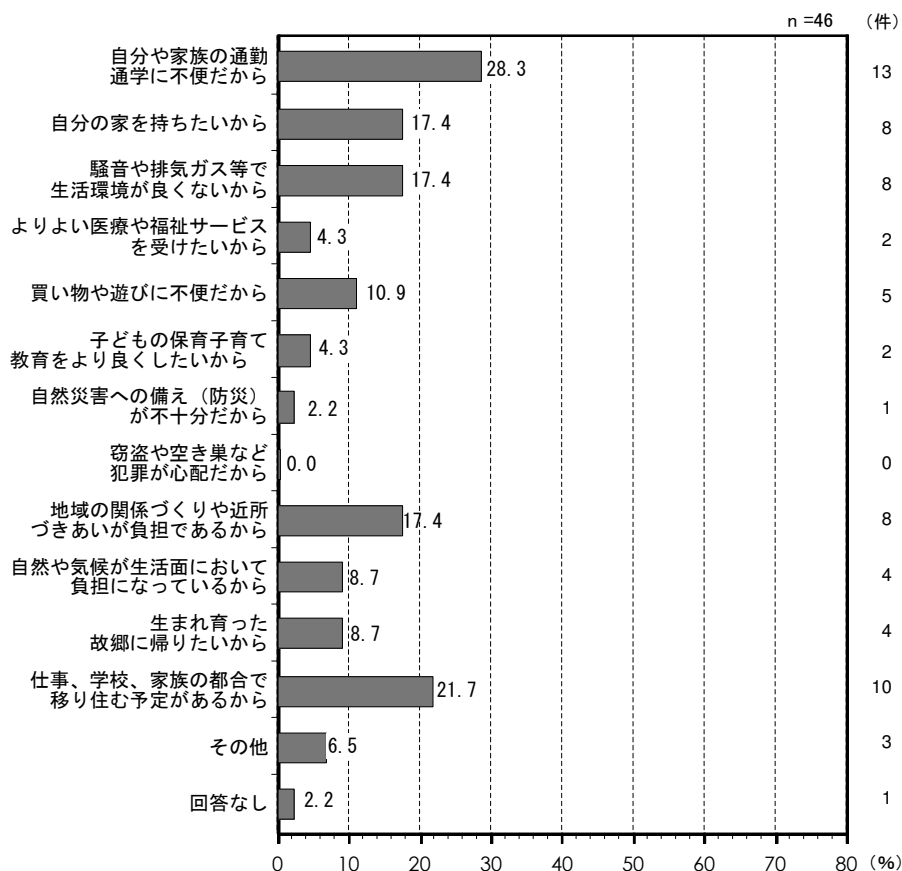
問3 問2で「3.」、「4.」と回答された方のみにかがいます。あなたが町外へ移りたい、または、移る予定の主な理由は何ですか。【回答数：2つまで〇印】

「自分や家族の通勤・通学に不便だから」(28.3%)や「仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから」(21.7%)が主な移転理由になっています。

【全体】(図2-3)

- 「できれば町外に移り住みたい、または予定がある」や「できるだけ早めに、町外に移り住みたい」と回答した町民(46人)にその理由を聞いたところ、「自分や家族の通勤・通学に不便だから」が28.3%(13人)と最も多く、「仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから」が21.7%(10人)と2番目に多くなっています。
- そして、「自分の家を持ちたいから」と「騒音や排気ガス等で生活環境が良くない」、「地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから」がいずれも17.4%(8人)で3番目に多くなっています。
- 家族や自己都合によることが主な理由になっているものの、「騒音や排気ガス等で生活環境が良くない」や「地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから」といった大口町の生活環境等に関わる事項を理由としてあげている町民がいることを課題として受け止める必要があると考えられます。

図2-3 転居理由



3. 町政等の満足度と重要度について

大口町の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法により4段階の得点を付け、平均得点を算出しました。この評点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。平均得点は、+2点に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、逆に-2点に近いほど満足度が低い(不満度が高い)、または重要度が低いことを示しています。

【満足度・重要度の平均得点の算出方法】

満足度	重要度	得点(評点)
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

満足度の平均得点

$$= \{ \text{「満足」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「やや満足」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「やや不満」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「不満」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

重要度の平均得点

$$= \{ \text{「非常に重要」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「重要」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「あまり重要でない」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「重要でない」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

3 町政等の満足度と重要度について（問4）

問4 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(34)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つずつ】

3-1 満足度の評価

【全体】（図3-1-1）

○プラスの評価の項目は、46項目中42項目あります。その中でも満足度が高い項目トップ10は、下表のとおりです。

満足度（ベスト10）			
①町による家庭ごみの収集回数	(0.99)	⑦ごみの分別や可燃ゴミ出しのルールが守られている状況	(0.60)
②五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	(0.95)	⑧家庭教育指導などの青少年の健全育成	(0.56)
③消防・救急体制	(0.92)	⑧防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	(0.56)
④広報おおぐちによる町の情報提供	(0.83)	⑨学校と地域や家庭との連携	(0.55)
⑤健康診断・保健指導などの健康づくり	(0.76)	⑩保育サービスや相談窓口などの子育て支援	(0.53)
⑥安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	(0.66)	⑩受付・窓口などにおける町職員の応対	(0.53)

○一方、マイナスの評価の項目は、46項目中3項目あります。その中でも満足度が低い（不満度の高い）項目ワースト10は下表のとおりです。

満足度（ワースト10）			
①町民の交通ルールやマナーを守る意識	(-0.08)	⑥大口町議会の活動	(0.07)
①巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	(-0.08)	⑦町立図書館の規模運営	(0.09)
③段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	(-0.04)	⑧犯罪にあうことのない安心感	(0.12)
④地域に住む外国人との交流・共生	(0.00)	⑨街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	(0.15)
⑤交通事故からの安全性	(0.03)	⑩町政への住民参画の機会や場	(0.20)

【前回との評点比較】（図3-1-1）

○平成17年調査と同じ項目設定をした19項目のうち、「区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ」と「NPO・ボランティア活動などへの支援」の2項目を除く残りの17項目が平成17年調査の結果に比べて満足度の評点がポイントアップしています。

○中でも、「家庭教育指導などの青少年の健全育成」（0.65ポイント（-0.09⇒0.56））や「犯罪にあうことのない安心感」（0.62ポイント（-0.50⇒0.12））、「地震や水害など防災に対する安心感」が（0.58ポイント（-0.35⇒0.23））などの満足度が大幅にポイントアップしています。

図3-1-1 前回との評点比較「満足度の評価」

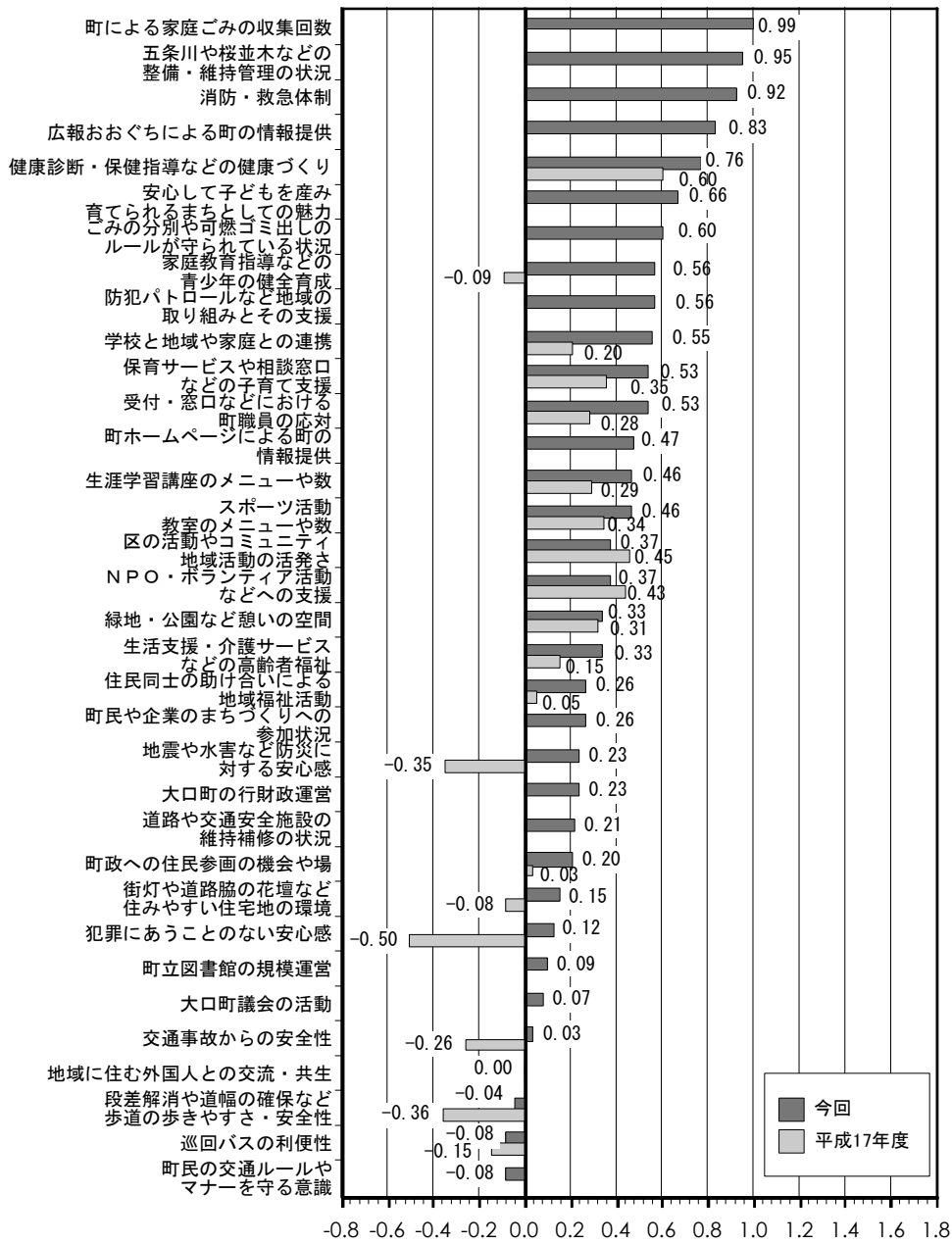
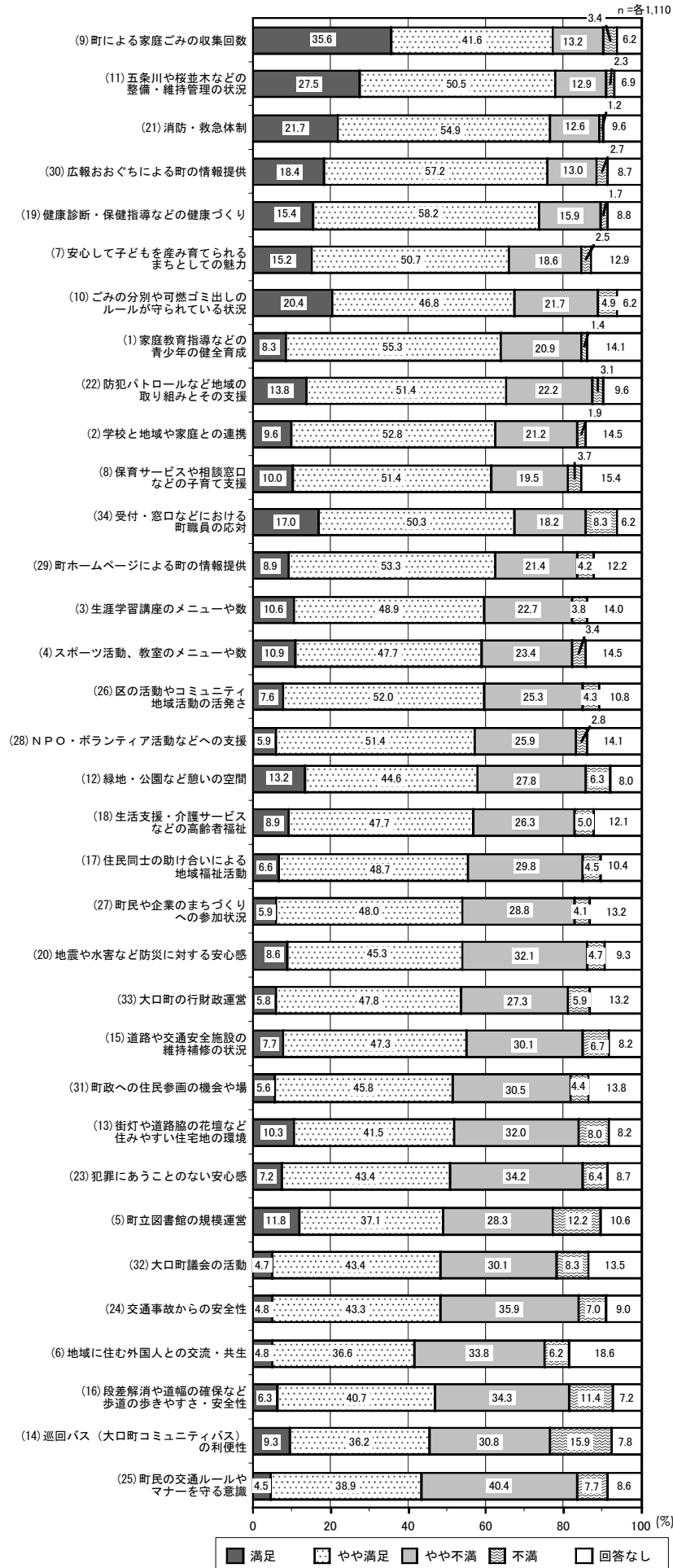


図3-1-2 満足度 (%表示)



【年齢別】 (図 3-1-3)

- 年齢によって満足度の評点格差が大きい項目についてその特徴について記述すると、まず、満足度が一番高い「町による家庭ごみの収集回数」については、70 歳代以上における満足度が高くなっていますが、20 歳代や 50 歳代における満足度は低くなっています。
- 「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」については、20 歳代で満足度が高くなっていますが、60 歳代では低くなっています。
- 「町立図書館の規模、運営」については、70 歳代以上で満足度が高くなっていますが、20 歳代や 30 歳代といった若い年齢層では低くなっています。
- 「町民や企業のまちづくりへの参加状況」については、30 歳代で満足度が高くなっていますが、50 歳代では低くなっています。
- 「街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境」については、20 歳代で満足度が高くなっていますが、50 歳代では低くなっています。
- 「道路や交通安全施設の維持補修の状況」についても、20 歳代で満足度が高くなっています。逆に、60 歳代では低くなっています。
- 「生涯学習講座のメニューや数」についても、20 歳代で満足度が高くなっています。逆に、50 歳代で満足度が低くなっています。

【居住地域別】 (図 3-1-4)

- 居住地区別の満足度については、年齢別程の格差はみられませんが、項目によっては地域性が見受けられます。
 - 具体的には、「緑地・公園など憩いの空間」については、土地区画整理事業が行われたのに伴って都市公園が整備された中地域自治組織では、満足度が高くなっていますが、公園の少ない南地域自治組織では低くなっています。また、「街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境」についても同様の傾向がみられます。
 - さらに、「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」や「巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性」についても、中地域自治組織における満足度が他地域に比べて高くなっています。
-

図 3-1-3 年齢別「満足度の評価」

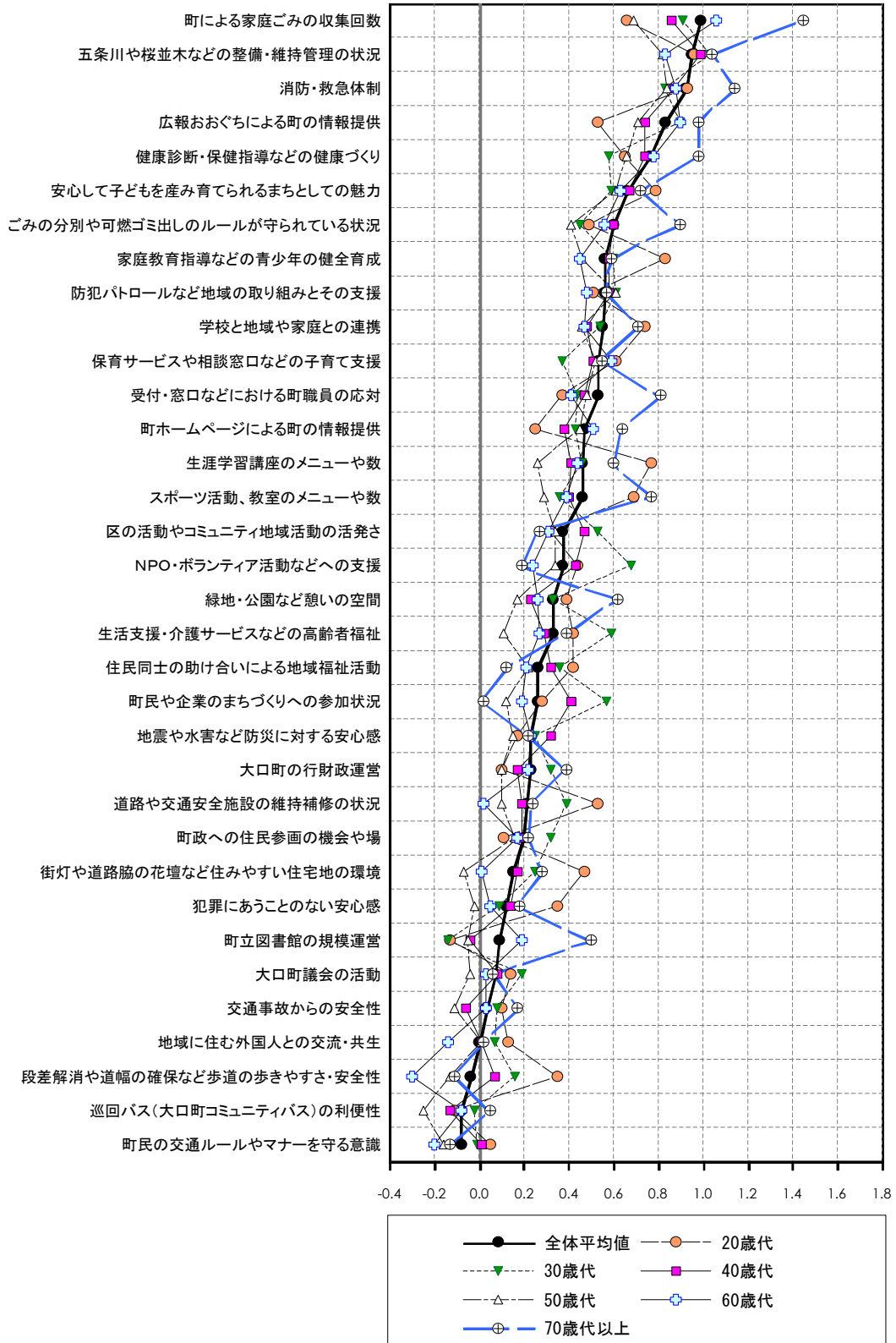
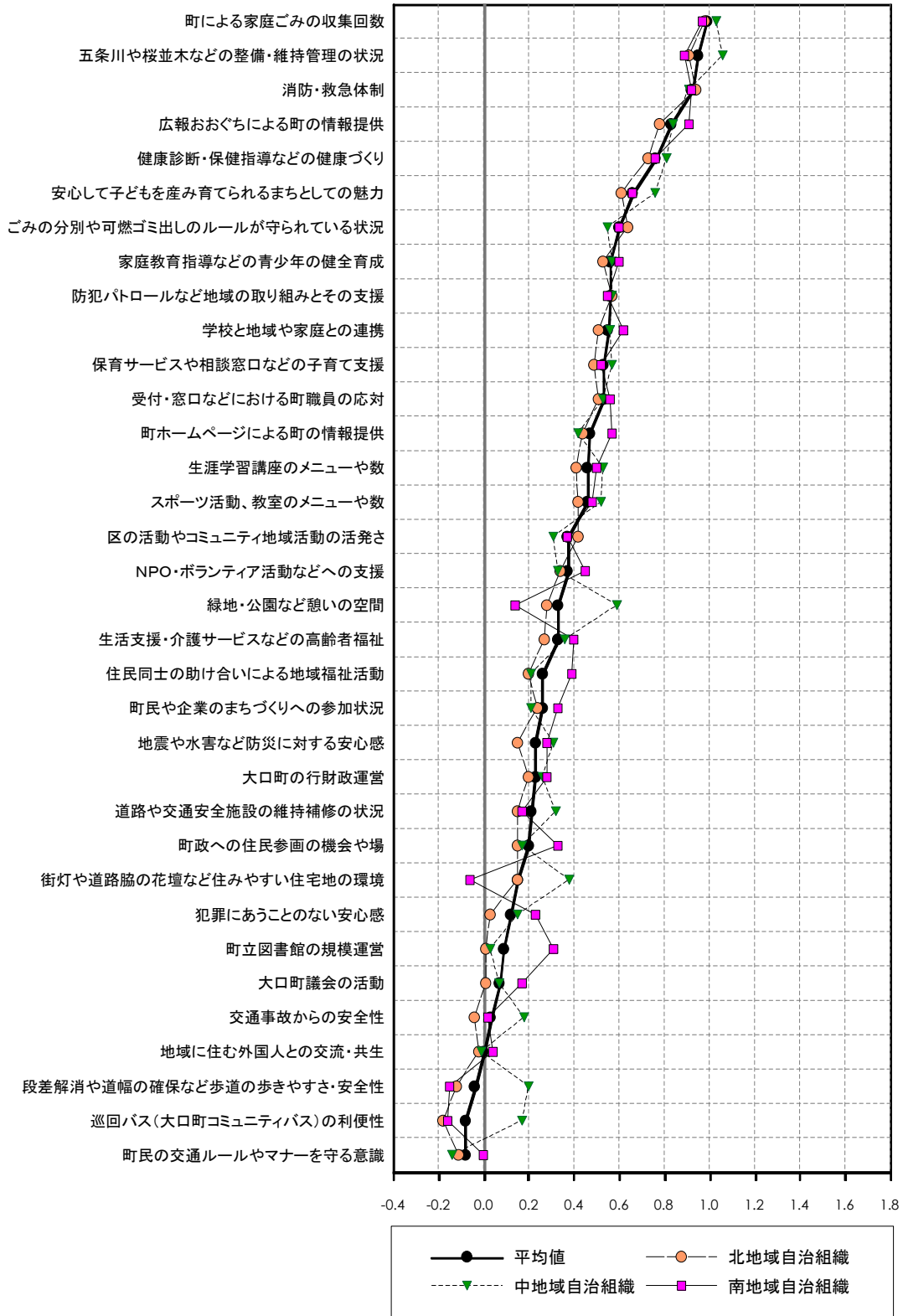


図 3-1-4 居住地域別「満足度の評価」



3-2 重要度の評価

【全体】(図 3-2-1)

○46 項目すべてがプラス得点となっています。その中でも満足度が高い項目トップ 10 は、下表のとおりです。

○交通や防犯、防災などの安全・安心に関する施策項目や子育て支援に関する施策項目などの重要度が高くなっています。

重要度 (ベスト 10)			
①犯罪にあうことのない安心感	(1.46)	⑥保育サービスや相談窓口などの子育て支援	(1.36)
②消防・救急体制	(1.45)	⑦町民の交通ルールやマナーを守る意識	(1.35)
③安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	(1.44)	⑧学校と地域や家庭との連携	(1.27)
④交通事故からの安全性	(1.43)	⑨ごみの分別や可燃ゴミ出しのルールが守られている状況	(1.24)
⑤地震や水害など防災に対する安心感	(1.41)	⑩生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	(1.24)

【前回との評点比較】(図 3-2-1)

○平成 17 年調査と同じ項目設定をした 19 項目のうち 9 項目が平成 17 年調査の結果に比べて重要度の得点がポイントアップしています。中でも、「巡回バスの利便性」(0.31 ポイント (0.33⇒0.64)) や「保育サービスや相談窓口などの子育て支援」(0.21 ポイント (1.15⇒1.36)) の重要度がポイントアップしています。

○逆に、19 項目のうち、7 項目が平成 17 年調査の結果に比べて重要度の得点がポイントダウンしています。中でも、「地震や水害など防災に対する安心感」(0.15 ポイント (1.56⇒1.41)) や「犯罪にあうことのない安心感」(0.12 ポイント (1.58⇒1.46)) の重要度が若干ポイントダウンしています。

【年齢別】(図 3-2-2)

○年齢によって重要度の得点格差が大きい項目についてその特徴について記述すると、まず、「町民同士の助け合いによる福祉活動」と「NPO・ボランティア活動などへの支援」については、70 歳代以上における重要度が高くなっていますが、20 歳代における重要度は低くなっています。

○また、「広報おおぐちによる町の情報提供」についても 70 歳代以上における重要度が高くなっています。一方で、50 歳代における重要度が低くなっています。

【居住地域別】(図 3-2-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図3-2-1 前回との評点比較「重要度の評価」

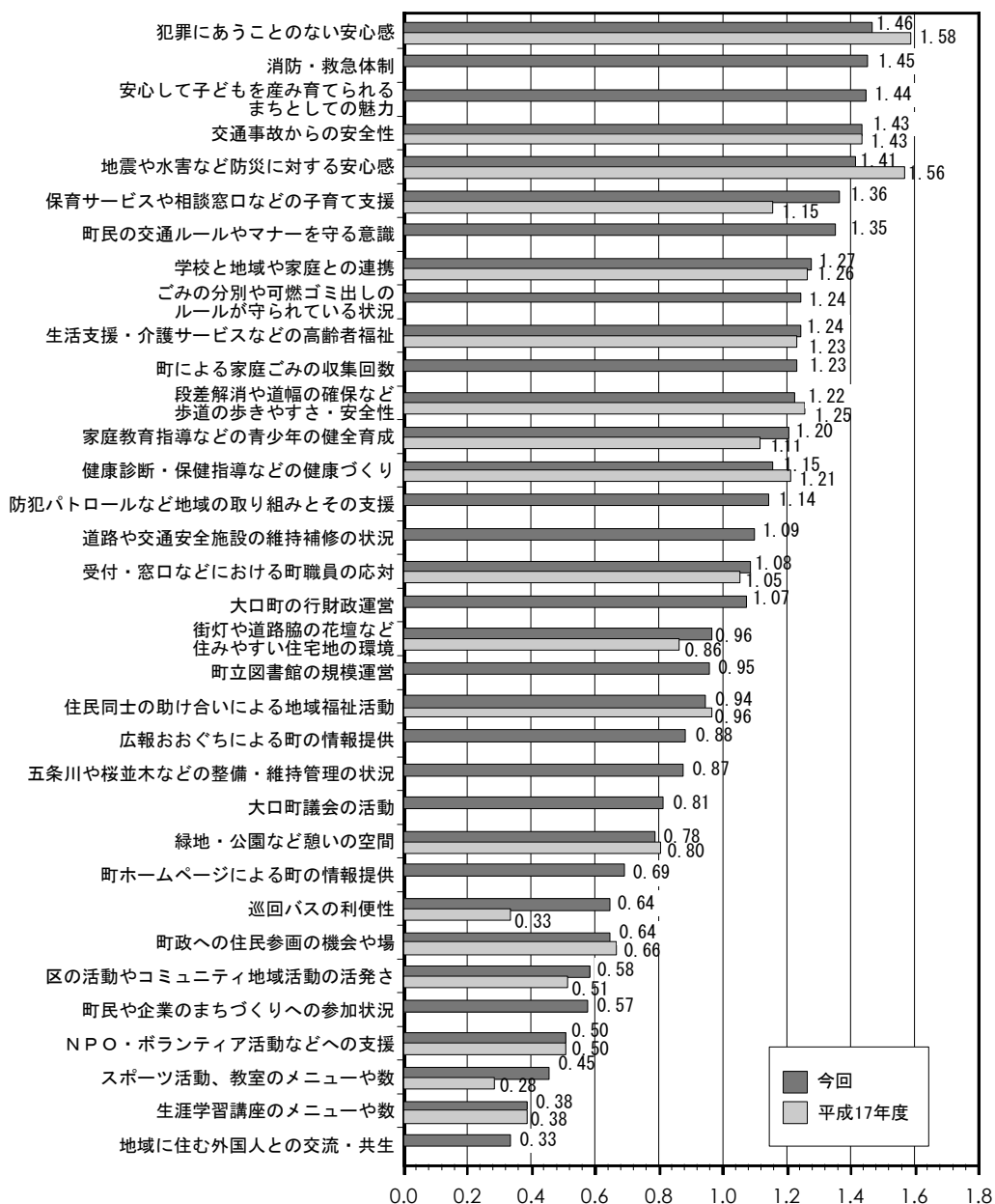


図 3-2-2 年齢別「重要度の評価」

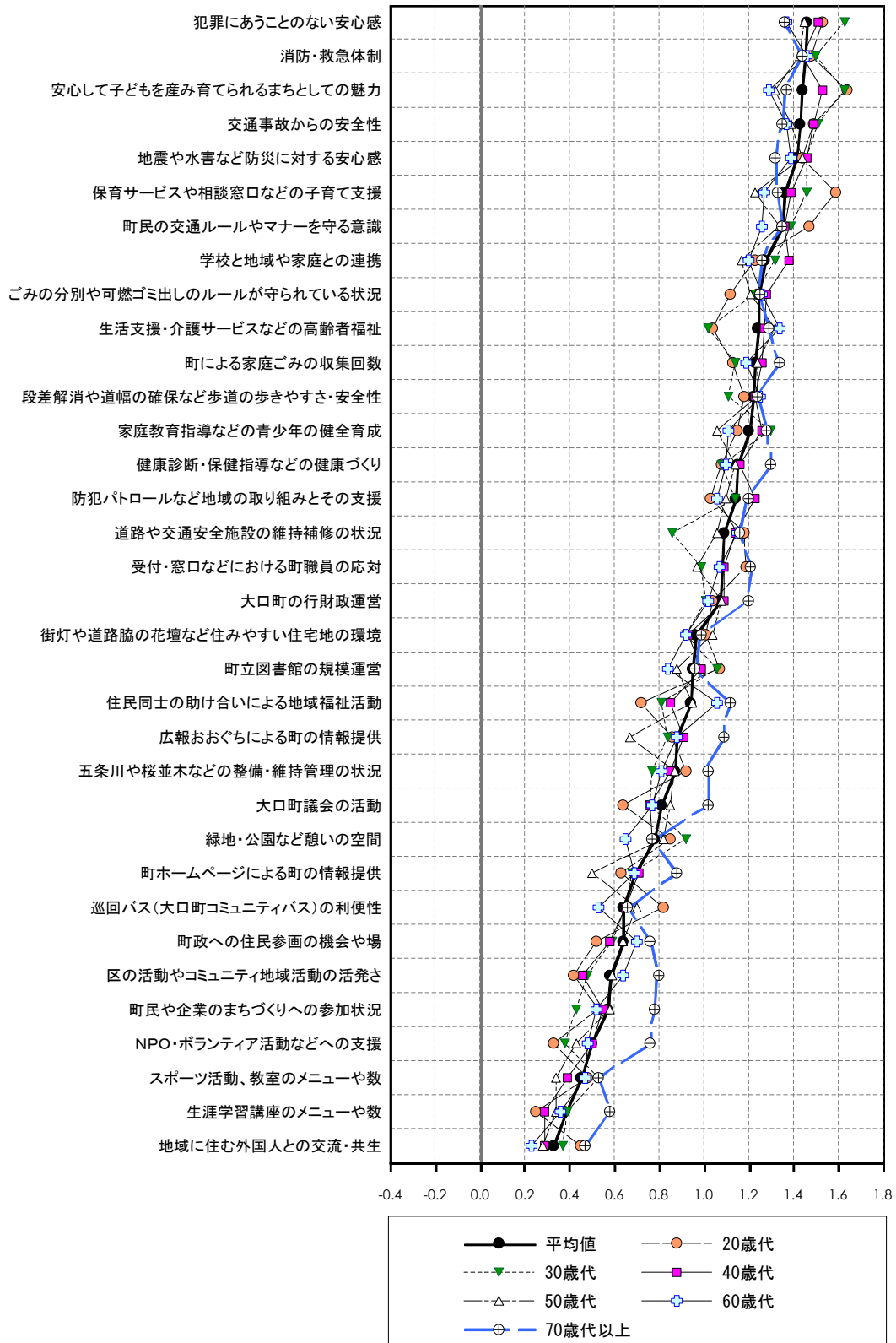
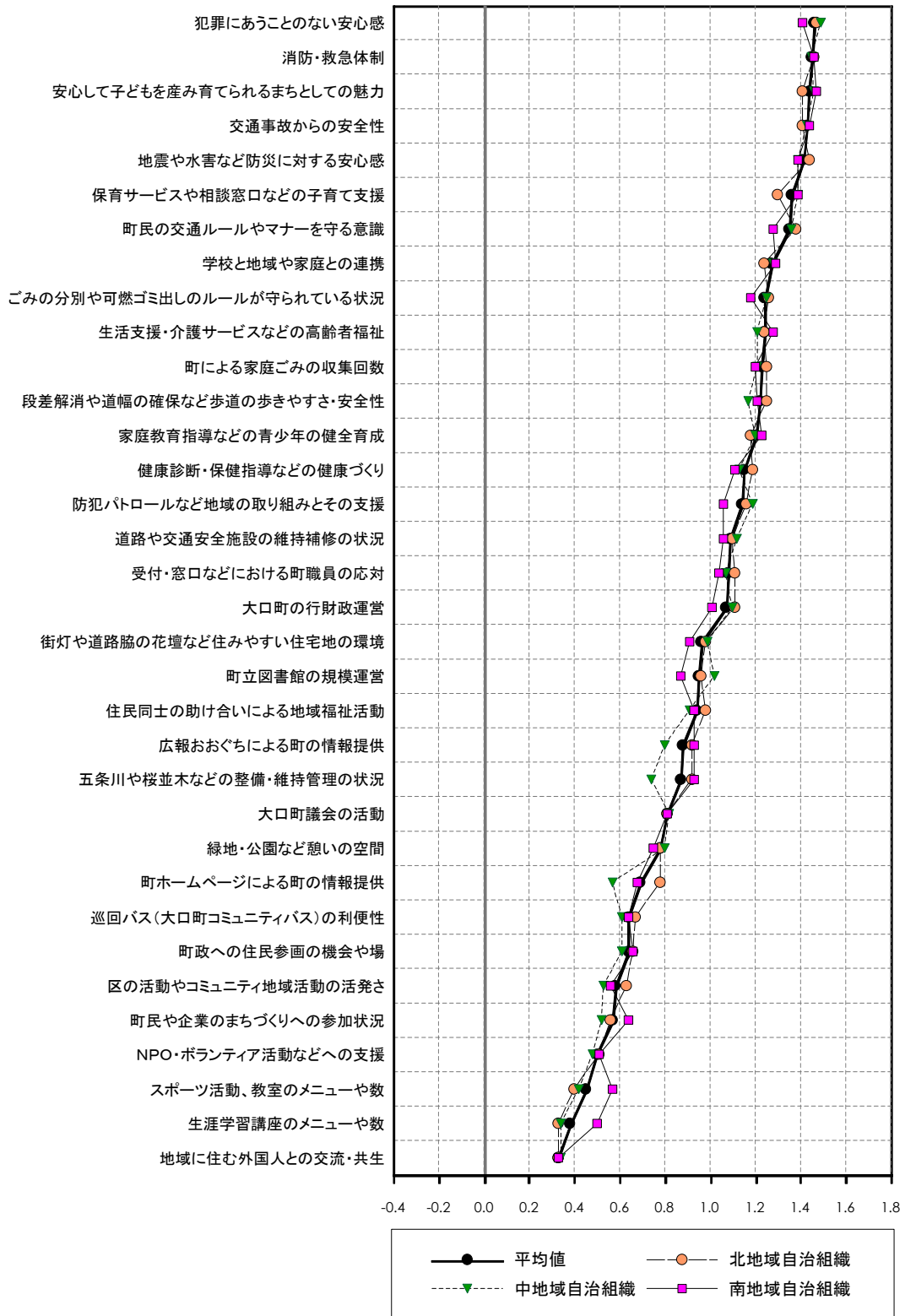


図 3-2-3 居住地域別「重要度の評価」



3-3 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）

- 大口町の施策に対する市民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸にして散布図を作成しました（図3-1-1）。
- 46項目全体の満足度の平均得点は、0.38となっています。図に示してある、0.38の線よりも左側にある項目は、満足度が46項目の平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）であり、逆に右側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）です。
- 一方、46項目全体の重要度の平均得点は、0.99となっています。図に示してある、0.99の線よりも下側にある項目は、満足度が46項目の平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）であり、逆に上側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）です。
- 着目すべきは、満足度が低く重要度が高い項目、すなわち、当該項目について重要と考えているにもかかわらず、現状において満足していない人が多い施策項目であり、図の左上の領域に該当する項目です（図3-3-1の下図「A：重点改善施策項目」）。
- 重要度がより高く、満足度がより低いほど、優先させて行っていく必要がある施策項目として捉えることができることから、「重要度と満足度の差（重要度－満足度）」を施策の「優先度」と定義づけ、施策の優先度を算定したものが表3-3-2です。その内、上位15位を抜粋し、優先度によって整えたものが表3-3-1です。

【優先度の高い施策項目】（図3-3-1、表3-3-1）

- 優先度の高い項目は、表3-3-1のとおりで、中でもゴシック文字の項目（図3-3-1の下図「A. 重点改善施策項目」の領域に該当する項目）を優先的に進めていく施策項目として位置づけることができます。
- 交通安全や防犯、防災などの安全・安心に関する施策項目や高齢者福祉やバリアフリーに関する施策項目、大口町の行財政運営に関する事項の優先度が高くなっています。

表3-3-1 満足度と重要度の評価（施策の優先度）トップ15

順位	項目	優先度	満足度	重要度
		重要度－満足度		
1	町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.43	-0.08	1.35
2	交通事故からの安全性	1.40	0.03	1.43
3	犯罪にあうことのない安心感	1.34	0.12	1.46
4	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.26	-0.04	1.22
5	地震や水害など防災に対する安心感	1.18	0.23	1.41
6	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.91	0.33	1.24
7	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.88	0.21	1.09
8	町立図書館の規模運営	0.86	0.09	0.95
9	大口町の行財政運営	0.84	0.23	1.07
10	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.83	0.53	1.36
11	街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.81	0.15	0.96
12	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.78	0.66	1.44
13	大口町議会の活動	0.74	0.07	0.81
14	学校と地域や家庭との連携	0.72	0.55	1.27
14	巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	0.72	-0.08	0.64
15	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.68	0.26	0.94

※ゴシック体の太字は図3-3-1の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

表 3-3-2 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

項目	満足度	順位	重要度	順位	優先度		
					重要度－満足度	順位	
1	家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.56	8	1.20	13	0.64	16
2	学校と地域や家庭との連携	0.55	10	1.27	8	0.72	14
3	生涯学習講座のメニューや数	0.46	14	0.38	33	-0.08	31
4	スポーツ活動、教室のメニューや数	0.46	15	0.45	32	-0.01	30
5	町立図書館の規模運営	0.09	28	0.95	20	0.86	8
6	地域に住む外国人との交流・共生	0.00	31	0.33	34	0.33	23
7	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.66	6	1.44	3	0.78	12
8	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.53	11	1.36	6	0.83	10
9	町による家庭ごみの収集回数	0.99	1	1.23	11	0.24	25
10	ごみの分別や可燃ゴミ出しのルールが守られている状況	0.60	7	1.24	9	0.64	16
11	五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	0.95	2	0.87	23	-0.08	31
12	緑地・公園など憩いの空間	0.33	18	0.78	25	0.45	20
13	街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.15	26	0.96	19	0.81	11
14	巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	-0.08	33	0.64	27	0.72	14
15	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.21	24	1.09	16	0.88	7
16	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	-0.04	32	1.22	12	1.26	4
17	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.26	20	0.94	21	0.68	15
18	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.33	19	1.24	10	0.91	6
19	健康診断・保健指導などの健康づくり	0.76	5	1.15	14	0.39	22
20	地震や水害など防災に対する安心感	0.23	22	1.41	5	1.18	5
21	消防・救急体制	0.92	3	1.45	2	0.53	19
22	防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.56	9	1.14	15	0.58	17
23	犯罪にあうことのない安心感	0.12	27	1.46	1	1.34	3
24	交通事故からの安全性	0.03	30	1.43	4	1.40	2
25	町民の交通ルールやマナーを守る意識	-0.08	34	1.35	7	1.43	1
26	区の活動やコミュニティ地域活動の活発さ	0.37	16	0.58	29	0.21	27
27	町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.26	21	0.57	30	0.31	24
28	NPO・ボランティア活動などへの支援	0.37	17	0.50	31	0.13	28
29	町ホームページによる町の情報提供	0.47	13	0.69	26	0.22	26
30	広報おおぐちによる町の情報提供	0.83	4	0.88	22	0.05	29
31	町政への住民参画の機会や場	0.20	25	0.64	28	0.44	21
32	大口町議会の活動	0.07	29	0.81	24	0.74	13
33	大口町の行財政運営	0.23	23	1.07	18	0.84	9
34	受付・窓口などにおける町職員の応対	0.53	12	1.08	17	0.55	18

	重要度－満足度のトップ 1～10
	重要度－満足度のトップ 11～20

※ゴシック体の太字は図 3-3-1 の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

【満足度と重要度（施策の優先度）の前回比較】（図 3-3-2）

○図 3-1-1 で見たように、平成 17 年調査と比べて満足度は全般的にポイントアップしています。一方、重要度については、図 3-2-1 で見たように、ポイントアップした項目もみられますが、満足度程の大幅にポイントアップしたような項目はありませんでした。

○このため、施策の優先度が大幅にポイントアップした項目ありませんが、図 3-2-2 から明らかなように、「巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性」については、満足度以上に重要度がポイントアップしたことから、施策の優先度もポイントアップ（0.24）しています。また、「区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ」については、満足度がポイントダウンし、重要度がポイントアップしたことから、施策の優先度（0.15）が若干ポイントアップしています。

【居住地区別の施策の優先度】（図 3-3-3）

○居住地域別の施策の優先度は、図 3-3-3 のとおりで、地域によって優先順位に多少の差異がみられます。

図 3-3-2 ポートフォリオ分析（前回比較）

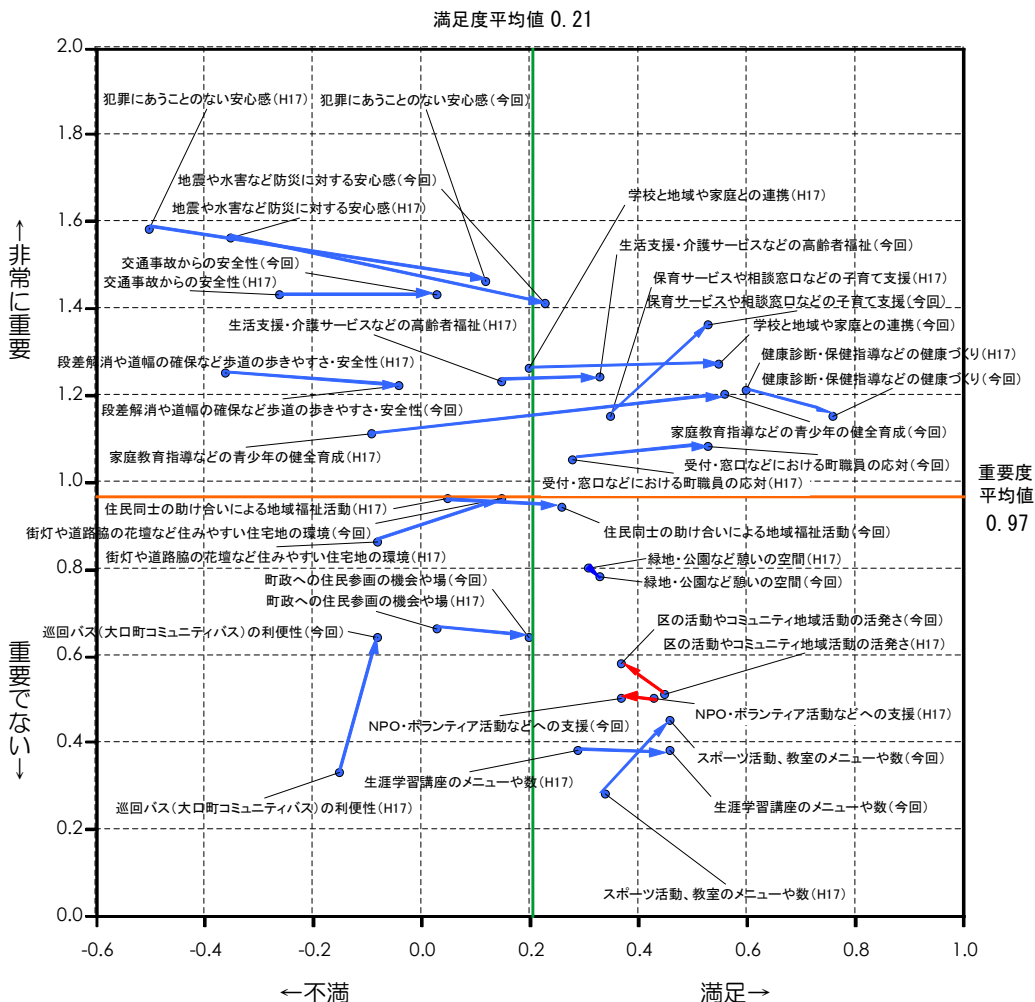


表 3-3-3 各居住地域の優先度順位

項目	全体	順位	北地域	順位	中地域	順位	南地域	順位
町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.43	1	1.49	1	1.50	1	1.28	3
交通事故からの安全性	1.40	2	1.45	2	1.25	3	1.42	1
犯罪にあうことのない安心感	1.34	3	1.44	3	1.34	2	1.18	4
段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.26	4	1.37	4	0.97	6	1.36	2
地震や水害など防災に対する安心感	1.18	5	1.29	5	1.08	4	1.11	5
生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.91	6	0.97	6	0.85	7	0.88	8
道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.88	7	0.95	7	0.80	10	0.89	7
町立図書館の規模運営	0.86	8	0.95	7	0.99	5	0.56	18
大口町の行財政運営	0.84	9	0.91	9	0.84	8	0.73	12
保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.83	10	0.81	12	0.82	9	0.87	9
街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	0.81	11	0.83	11	0.61	18	0.97	6
安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.78	12	0.80	13	0.70	13	0.81	10
大口町議会の活動	0.74	13	0.80	13	0.75	11	0.64	14
巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	0.72	14	0.85	10	0.44	21	0.80	11
学校と地域や家庭との連携	0.72	14	0.73	16	0.72	12	0.67	13
住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.68	16	0.78	15	0.70	13	0.54	19
ごみの分別や可燃ゴミ出しのルールが守られている状況	0.64	17	0.62	18	0.70	13	0.58	17
家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.64	17	0.65	17	0.63	16	0.63	15
防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.58	19	0.59	20	0.62	17	0.51	20
受付・窓口などにおける町職員の応対	0.55	20	0.60	19	0.54	19	0.48	21
消防・救急体制	0.53	21	0.52	21	0.54	19	0.54	19
緑地・公園など憩いの空間	0.45	22	0.50	23	0.21	27	0.61	16
町政への住民参画の機会や場	0.44	23	0.51	22	0.44	21	0.33	23
健康診断・保健指導などの健康づくり	0.39	24	0.46	24	0.32	24	0.35	22
地域に住む外国人との交流・共生	0.33	25	0.35	25	0.35	23	0.29	25
町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.31	26	0.32	27	0.31	25	0.31	24
町による家庭ごみの収集回数	0.24	27	0.27	28	0.18	28	0.23	26
町ホームページによる町の情報提供	0.22	28	0.34	26	0.15	29	0.11	28
区の活動やコミュニティ地域活動の活発さ	0.21	29	0.21	29	0.22	26	0.19	27
NPO・ボランティア活動などへの支援	0.13	30	0.17	30	0.15	30	0.06	30
広報おおぐちによる町の情報提供	0.05	31	0.14	31	-0.04	31	0.02	32
スポーツ活動、教室のメニューや数	-0.01	32	-0.02	33	-0.10	32	0.09	29
五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	-0.08	33	0.01	32	-0.32	34	0.04	31
生涯学習講座のメニューや数	-0.08	34	-0.08	34	-0.19	33	0.00	33

4. 子育て・教育について

4-1 子どもの発達環境（問5）

問5 あなたは、大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思っている町民は、70.2%を占めています。年齢別にみると「そう思う」の割合は、70歳代以上（21.3%）で若干多くなっています。また、他の地域に比べて南地域自治組織（19.5%）で多くなっています。

【全体】（図4-1-1）

○大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っているかどうかについて尋ねたところ、「あまりそう思わない」（11.8%）と「そう思わない」（2.1%）という回答は合わせても13.9%です。

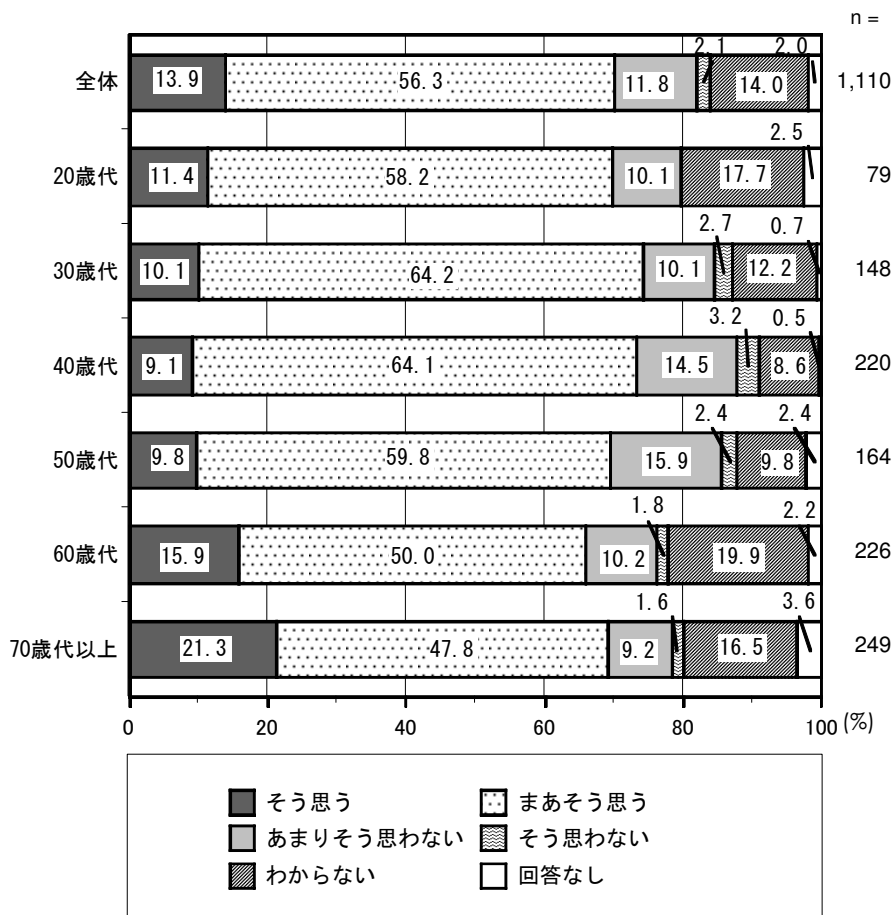
○一方、「そう思う」と回答した町民は13.9%、「まあそう思う」は56.3%となっており、合わせて70.2%を占めており、「あまりそう思わない・そう思わない」という回答割合を56.3ポイントも上回る結果になっています。

【年齢別】（図4-1-1）

○年齢別にみると、70歳代以上で「そう思う」の割合が21.3%で若干多くなっています。

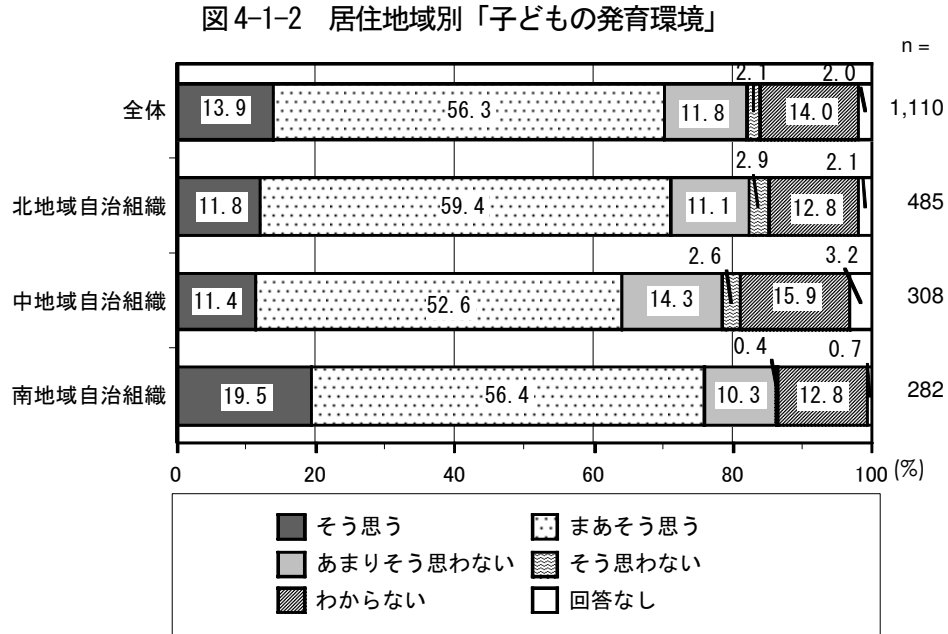
○また、小・中学生の子どもがいる年齢層にあたる40歳代や50歳代において、「そう思う」の割合が他の年齢層に比べて僅かながら少ない一方で、「あまりそう思わない」の割合が他の年齢層に比べて僅かながら多くなっています。

図4-1-1 年齢別「子どもの発達環境」



【居住地域別】 (図 4-1-2)

○居住地域別にみると、農村的な雰囲気が残っている南地域自治組織で「そう思う」の割合が19.5%と他の地域に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。

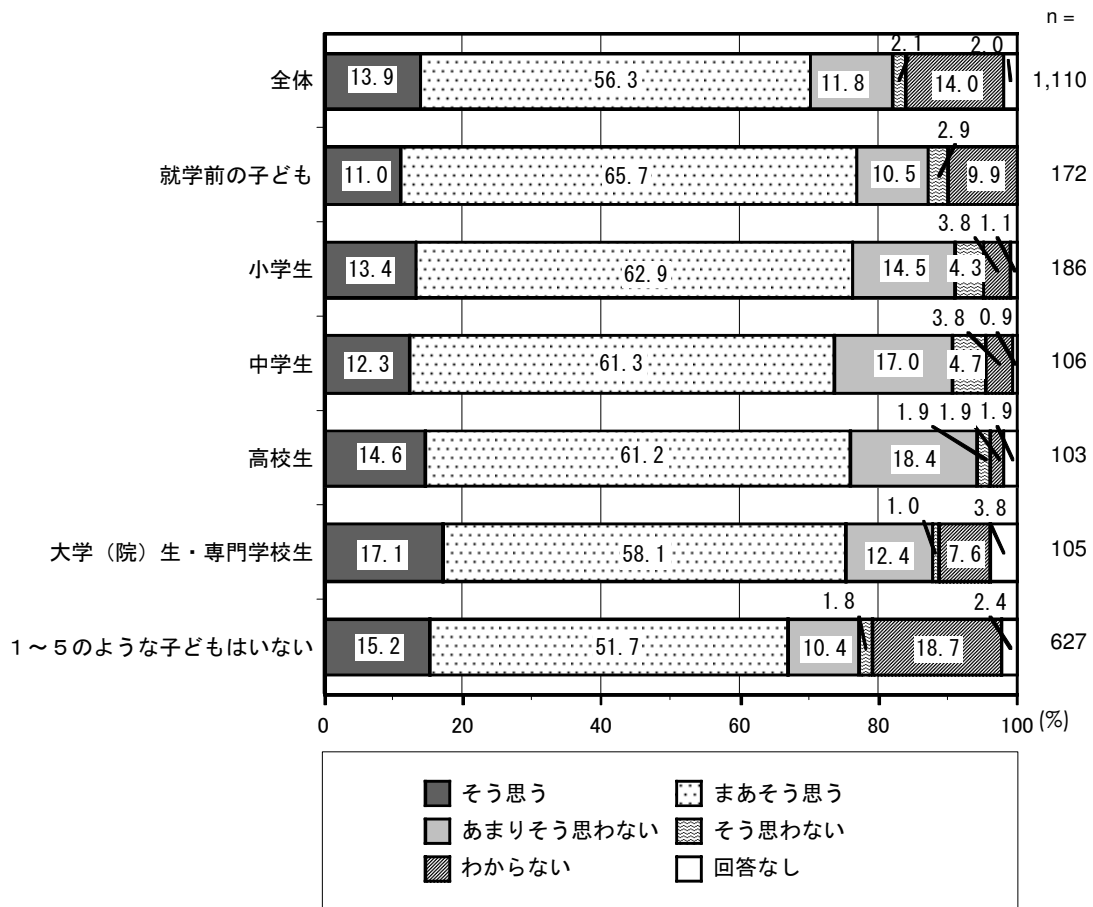


【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-1-3)

○「あまりそう思わない・そう思わない」の割合は、一般的に同居家族の中に「子ども」がいる町民において割合が若干多くなっています。

○具体的には、「就学前の子ども」がいる町民をはじめ、「小学生」がいる町民、「高校生」がいる町民、「大学(院)生・専門学校生」がいる町民において全体値に比べて若干多くなっています。なお、これらに比べると、「中学生」がいる町民における「あまりそう思わない・そう思わない」の割合は僅かではあるが少なくなっています。

図 4-1-3 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの発達環境」



4-2 子どもの教育における家庭の役割（問6）

問6 家庭は、すべての教育の出発点となりますが、近年、家庭の教育力が低下していると言われています。あなたは、子どもを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。【回答数：2つまで○印】

子どもの教育における家庭の役割としては、「親が責任を持ってしつけを行うこと」が62.9%と最も多くなっています。次いで、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」(47.2%)、「家族で団らんの時間をつくること」(40.8%)が多くなっています。

県政世論調査の結果よりも、「家族で団らんの時間をつくること」については下回っていますが、「親が責任を持ってしつけを行うこと」については上回っています。

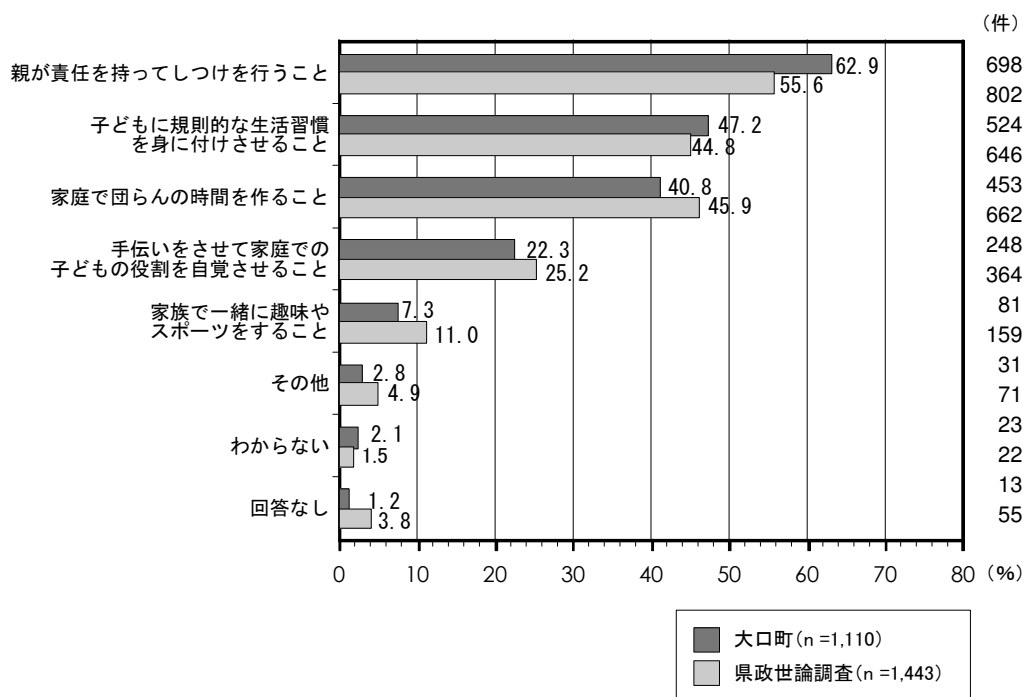
【全体】（図4-2-1）

○子どもの教育における家庭の役割として回答が最も多いのは、「親が責任を持ってしつけを行うこと」で、62.9%になっています。次いで、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」が47.2%、「家族で団らんの時間をつくること」が40.8%となっています。

【世論調査比較】（図4-2-1）

○県政世論調査の結果と比べると、「家族で団らんの時間をつくること」の回答割合は県政世論調査結果よりも5.1ポイント下回っていますが、「親が責任を持ってしつけを行うこと」については、7.3ポイント上回っています。

図4-2-1 世論調査比較「子どもの教育における家庭の役割」



県政世論調査(平成26年11月)

【年齢別】 (図 4-2-2)

- 「親が責任を持ってしつけを行うこと」の回答は50歳代で、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」の回答は40歳代で、若干多くなっています。
- 「家族で団らんの時間をつくること」については、20歳代(57.0%)や30歳代(56.1%)といった若い世代で多くなっている一方で、70歳代以上の高齢者層では28.5%と少なくなっています。
- 逆に、「手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が多くなる傾向がみられます。

【居住地域別】 (図 4-2-3)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図 4-2-2 年齢別「子どもの教育における家庭の役割」

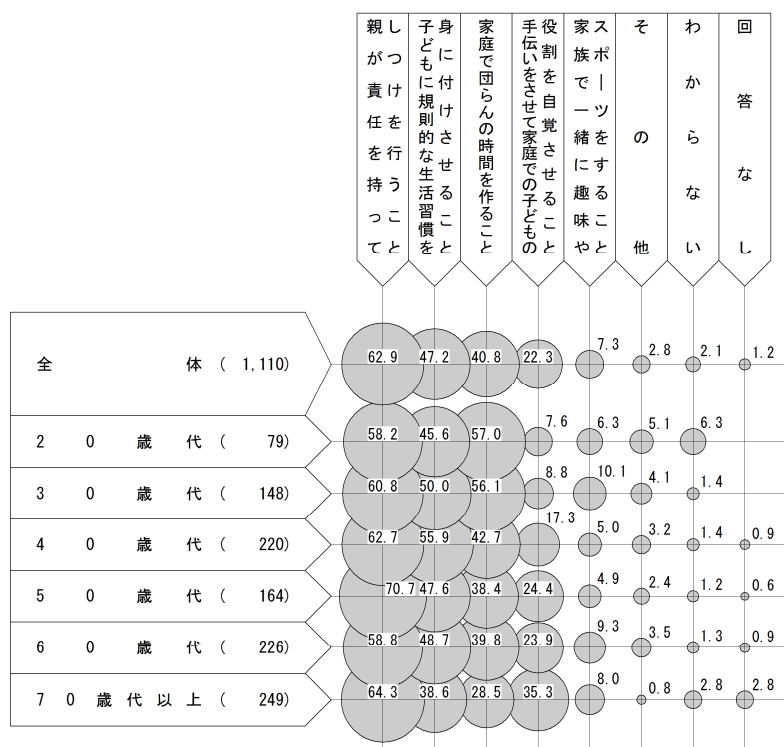
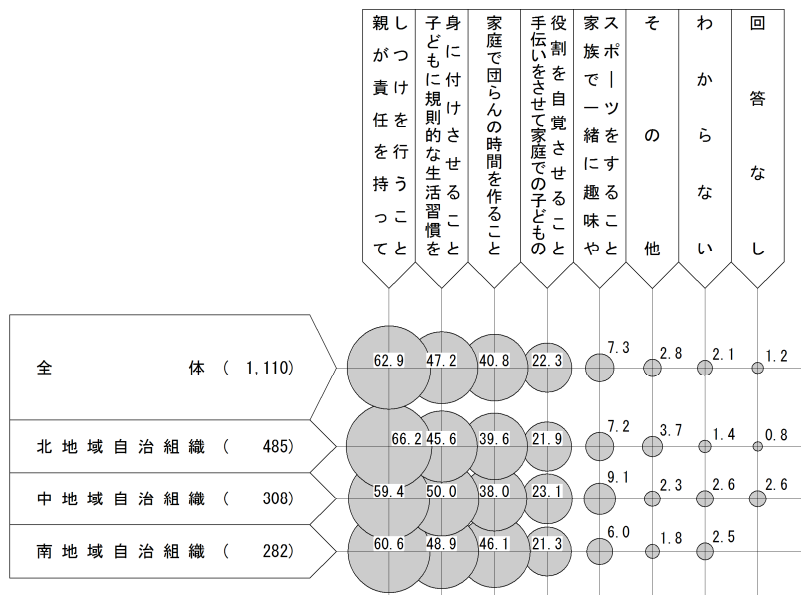


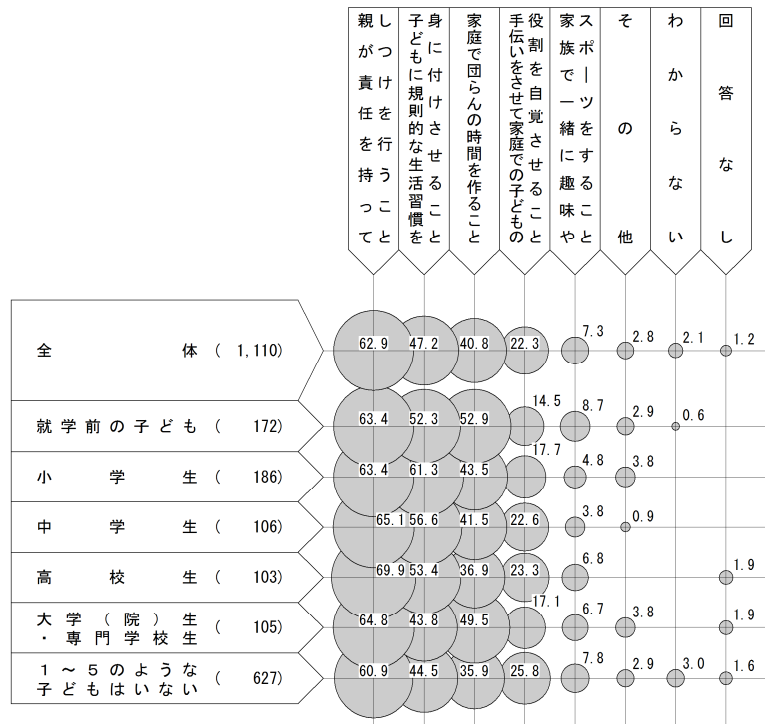
図 4-2-3 居住地域別「子どもの教育における家庭の役割」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-2-4)

- 「親が責任を持ってしつけを行うこと」の回答は「高校生」がいる町民 (69.9%) で若干多くなっています。
- 「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」の回答は、全般的に「高校生以下の子ども」がいる町民において多くなっています。中でも、「小学生」がいる町民で61.3%と多くなっており、
- 「家族で団らんの時間をつくること」については、「就学前の子ども」がいる町民で52.9%と多くなっています。また、「大学(院)生・専門学校生」がいる町民で若干多くなっています。

図 4-2-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの教育における家庭の役割」



4-3 子どもの教育における地域の役割（問7）

問7 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせません。あなたは、地域ではどのような取組が重要であると思いますか。【回答数：2つまで○印】

子どもの教育における地域社会の取組として重要な取組として最も多くの町民が「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」（71.7%）をあげています。次いで、「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」（34.4%）や「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」（28.3%）が多くなっています。

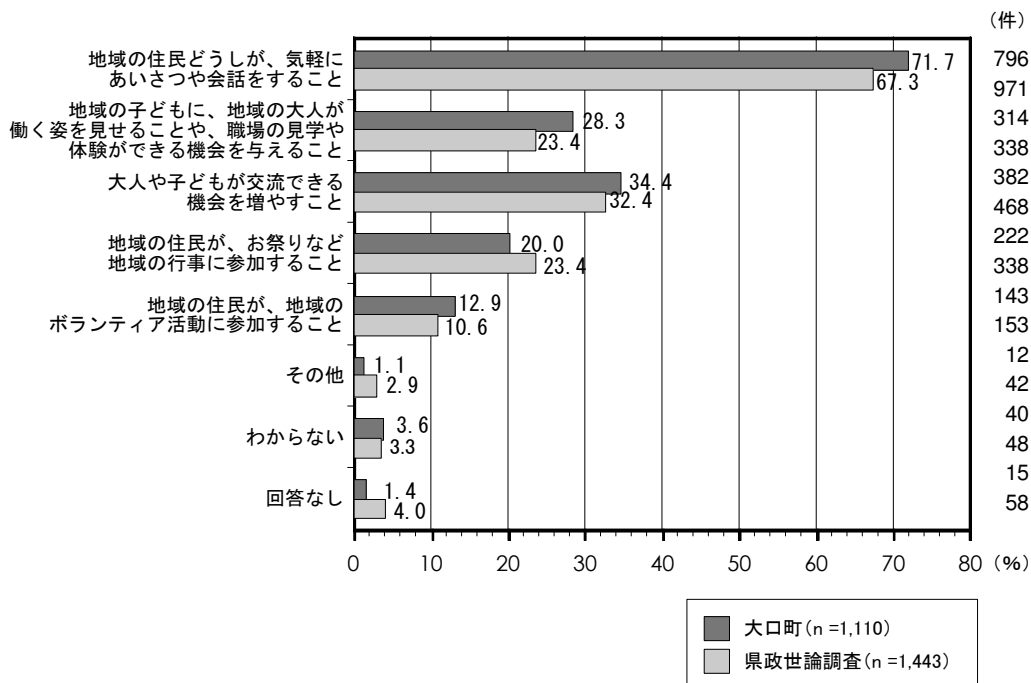
【全体】（図4-3-1）

○子どもの教育における地域社会の取組として重要なものとして最も多いのは、「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」で、71.7%になっています。次いで、「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」が34.4%、「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」が28.3%となっています。

【世論調査比較】（図4-3-1）

○県政世論調査の結果と比べると、「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」や「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」などが県政世論調査結果よりも僅かながら上回っているものの、特に有意な差はみられません。

図4-3-1 世論調査比較「子どもの教育における地域の役割」



県政世論調査（平成26年11月）

【年齢別】 (図 4-3-2)

- 「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」については、60歳代(39.4%)と70歳代(41.0%)といった高齢者層で若干多くなっている一方で、「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」については、幼児や小中学生等の子どもがいる世代にあたる30歳代(34.5%)と40歳代(35.0%)で若干多くなっており、60歳代(21.2%)で若干少なくなっています。
- 「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」という回答は、20歳代(65.8%)で若干少なくなっています。また、「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」についても、20歳代で少なくなっています。一方、「地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること」については、20歳代(30.4%)で多くなっています。

【居住地域別】 (図 4-3-2)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 4-3-2 年齢別「子どもの教育における地域の役割」

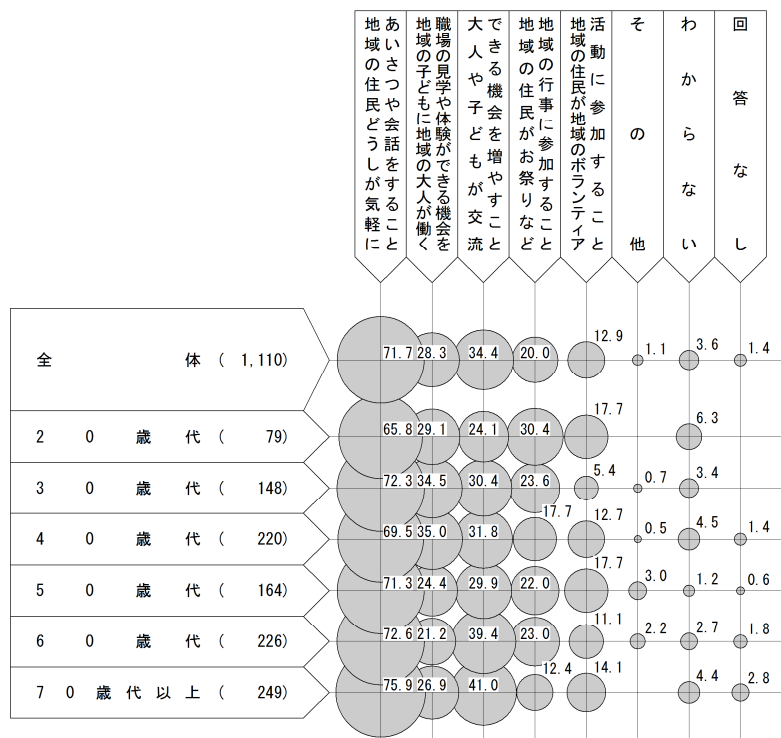
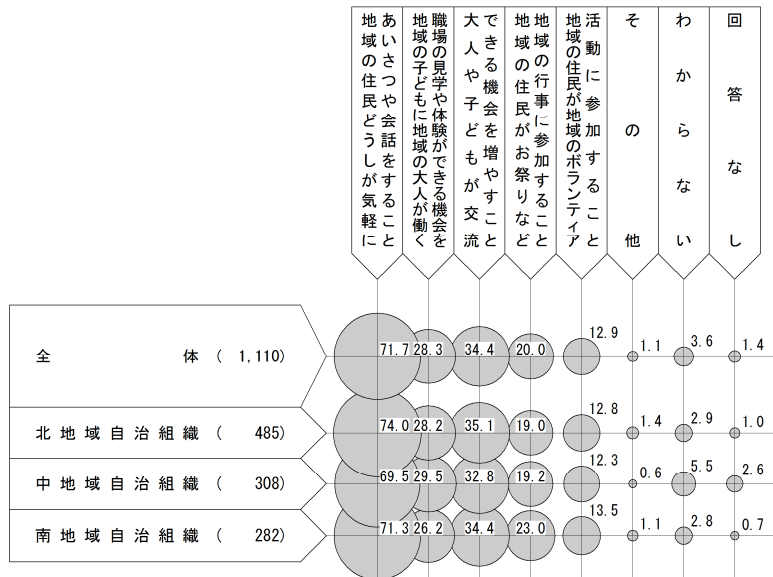


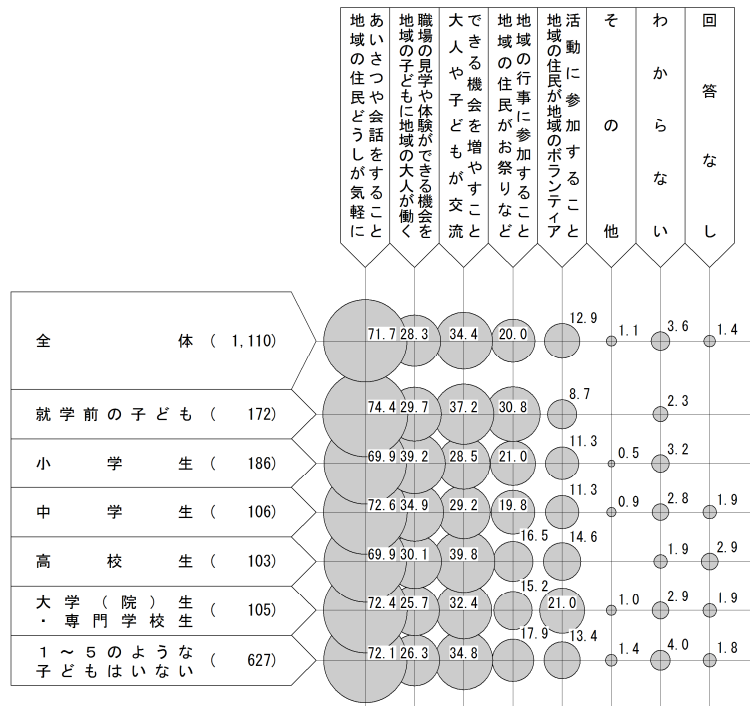
図 4-3-3 居住地域別「子どもの教育における地域の役割」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-3-4)

- 「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」という回答は「高校生」がいる町民 (39.8%) で若干多く、「小学生」がいる町民 (28.5%) や「中学生」がいる町民 (29.2%) で若干少なくなっています。
- 逆に、「地域の子どもに、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」については、「小学生」がいる町民 (39.2%) で多く、「中学生」がいる町民 (24.9%) でも若干多くなっています。
- 「地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること」の回答は、「就学前の子ども」がいる町民で 30.8%と多くなっています。

図 4-3-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの教育における地域の役割」



4-4 力をいれるべき教育分野（問8）

問8 子どもの将来のために、大口町は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。
【回答数：2つまで○印】

子どもの将来のために力をいれるべき教育分野として、最も多くの町民（52.3%）が「道德教育」をあげています。次いで、「キャリア教育」（27.8%）や「学力の育成」（26.5%）、などが多くなっています。

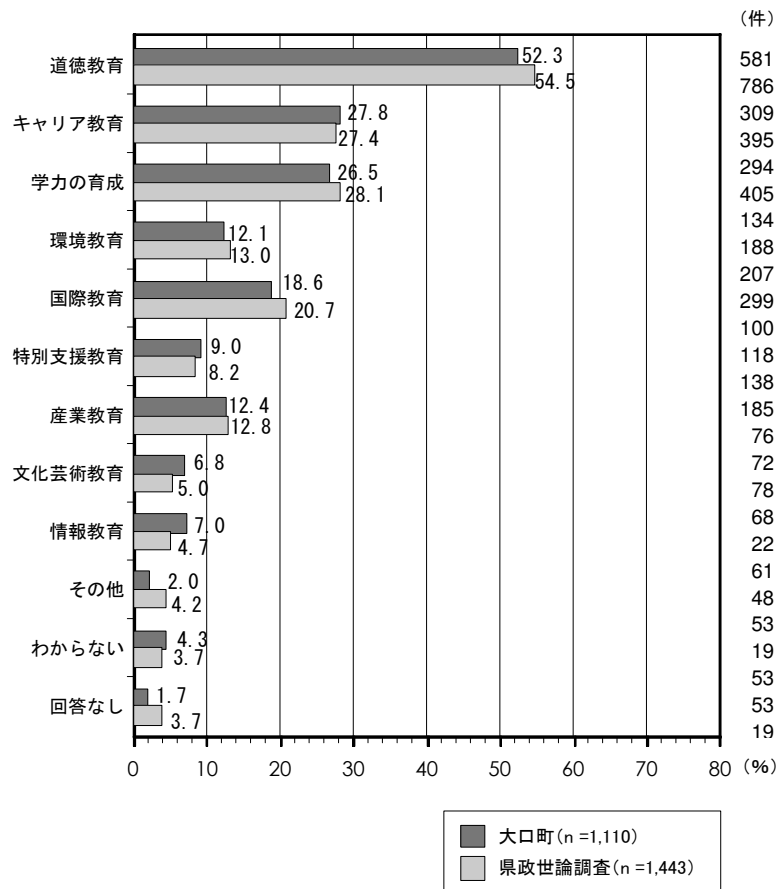
【全体】（図4-4-1）

- 子どもの将来のために力をいれるべき教育分野について尋ねたところ、「道德教育」が52.3%と最も多くなっています。次いで、「キャリア教育」が27.8%、「学力の育成」が26.5%、「国際教育」が18.6%、「産業教育」が12.4%と多くなっています。
- 「学力の育成」を重視する町民よりも「道德教育」や「キャリア教育」を重視する町民が多くなっていることが特徴としてみられます。

【世論調査比較】（図4-4-1）

- 県政世論調査の結果との比較において有意な差は認められません。

図4-4-1 世論調査比較「力をいれるべき教育分野」



県政世論調査（平成26年11月）

【年齢別】(図4-4-2)

- 最も多くの町民が力を入れるべきとしている「道德教育」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が多くなる傾向が顕著にみられ、70歳代以上では66.7%になっています。同様の傾向は、「環境教育」においてもみられます。
- 逆に、「キャリア教育」については、30歳代から50歳代の年齢層の回答割合がやや多くなっている一方で、60歳代や70歳代では若干少なくなっています。
- 「学力の育成」についても似たような傾向がみられ、20歳代(36.7%)をはじめとした20歳代から40歳代にかけての年齢層で力を入れるべきという回答割合が多くなっている一方で、70歳代では若干少なくなっています。
- また、「国際教育」の回答割合についても、30歳代(31.8%)をはじめ、どちらかといえば若い年齢層の町民の方が多く、年齢が高いほど割合少なくなるような傾向がみられます。

【居住地域別】(図4-4-3)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図4-4-2 年齢別「力を入れるべき教育分野」

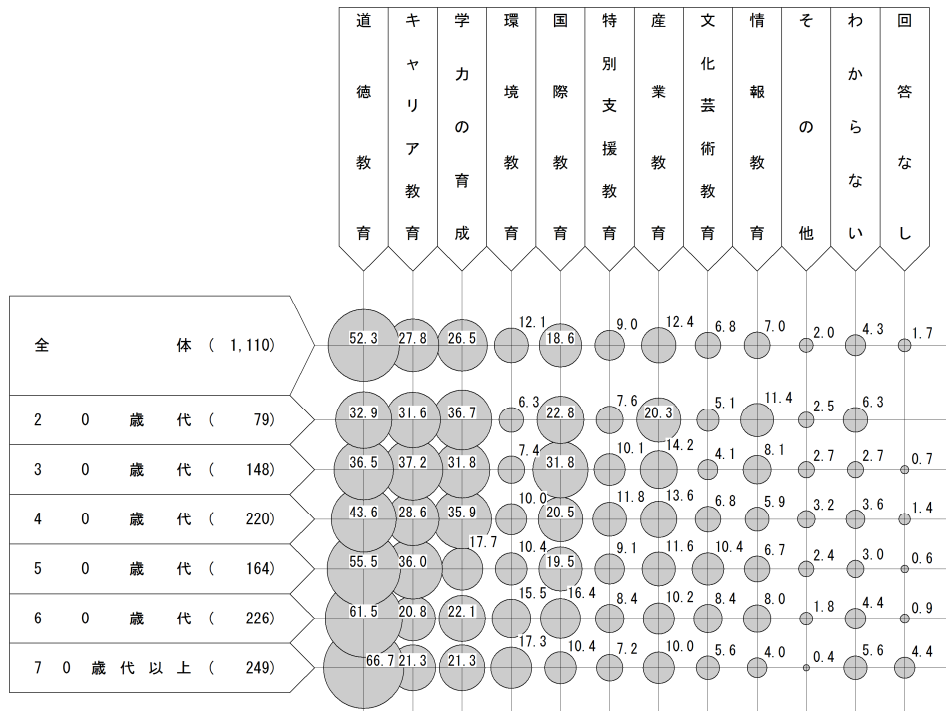
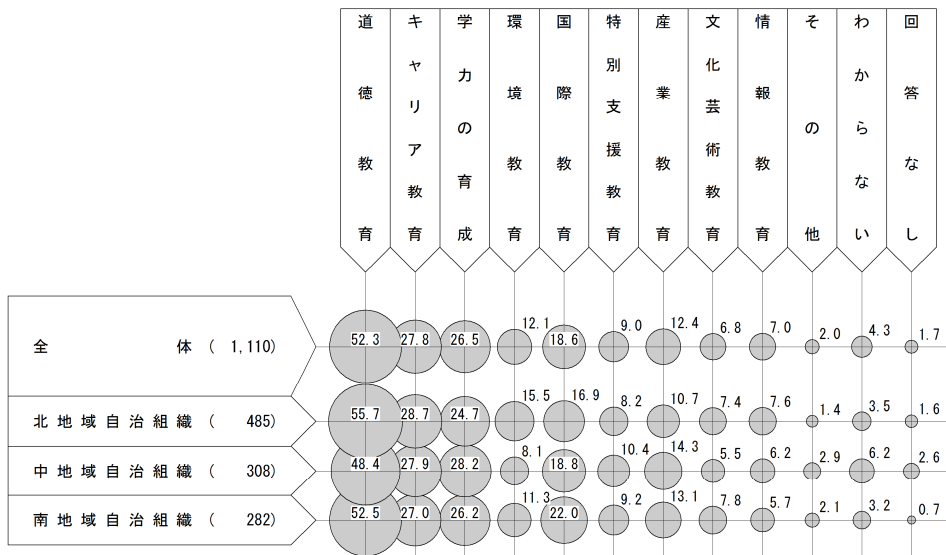


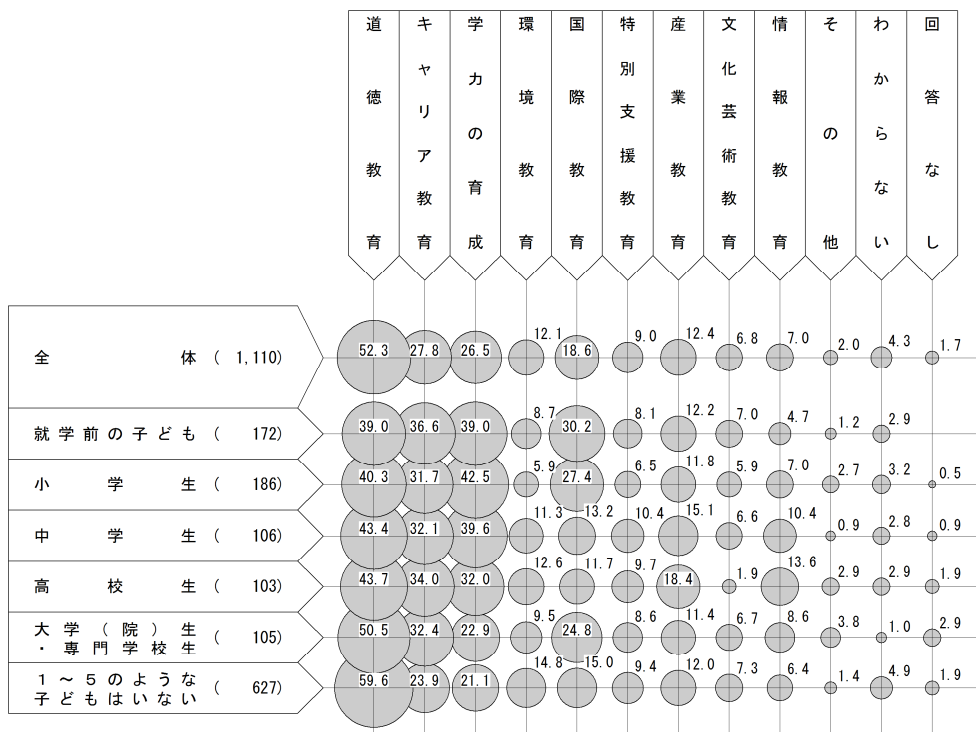
図4-4-3 居住地域別「力を入れるべき教育分野」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-4-4)

- 最も多くの町民が力を入れるべきとしている「道徳教育」については、「就学前の子ども」がいる町民 (39.0%) や「小学生」がいる町民 (40.3%) で少なく、また、「中学生」や「高校生」がいる町民においても若干少なくなっています。
- 一方、「キャリア教育」については、「就学前の子ども」がいる町民 (36.6%) で若干多くなっています。また、「学力の育成」については、「就学前の子ども」(39.0%) や「小学生」(42.5%)、「中学生」(39.6%) において多くなっており、「高校生」がいる町民 (32.0%) においても若干少なくなっています。
- 「国際教育」については、「就学前の子ども」がいる町民 (36.6%) で多くなっています。また、「小学生」(27.4%) や「大学(院)生・専門学校生」(24.8%) でも若干多くなっています。

図 4-4-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「力をいれるべき教育分野」



4-5 教員が授業以外で優先すべき業務（問9）

問9 国際的な調査で、日本の教員は世界で一番多忙であるとの結果が示されるなど、「教員の多忙化」により教員が子どもと向き合う時間を十分に確保できないことが課題となっています。あなたは、授業以外で教員が行っている次の業務のうち優先すべき業務は何だと思えますか。【回答数：3つまで○印】

授業以外で教員が行っている業務のうち優先すべき業務は、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」が39.5%と最も多くなっています。次いで、「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」(36.5%)や「基本的な生活習慣を確立するための指導」(32.1%)が多くなっています。

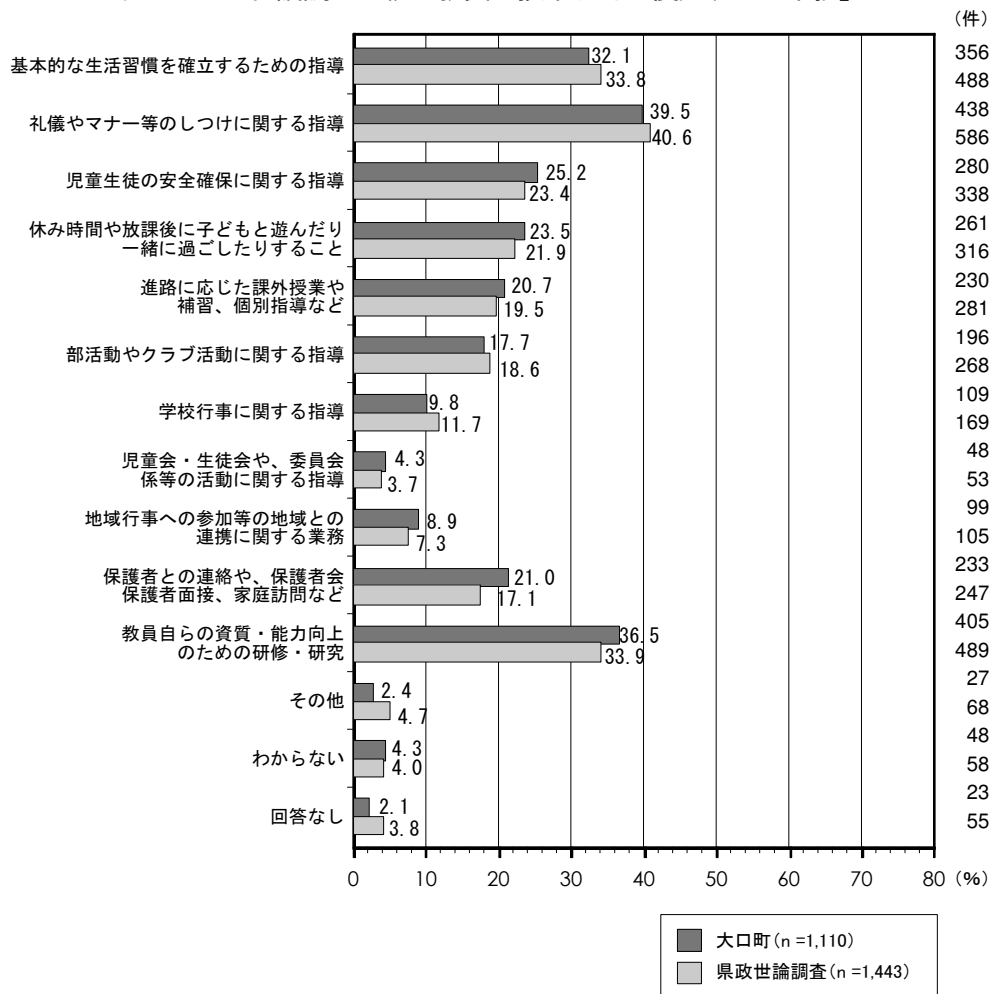
【全体】(図4-5-1)

○授業以外で教員が行っている業務のうち優先すべき業務について尋ねたところ、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」が39.5%と最も多くなっています。次いで、「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」が36.5%、「基本的な生活習慣を確立するための指導」が32.1%、「児童生徒の安全確保に関する指導（登下校の指導や学校内での安全）」が25.2%、「休み時間や放課後に子どもと遊んだり、一緒に過ごしたりすること」が23.5%と多くなっています。

【世論調査比較】(図4-5-1)

○県政世論調査の結果との比較において有意な差は認められません。

図4-5-5 世論調査比較「教員が授業以外で優先すべき業務」

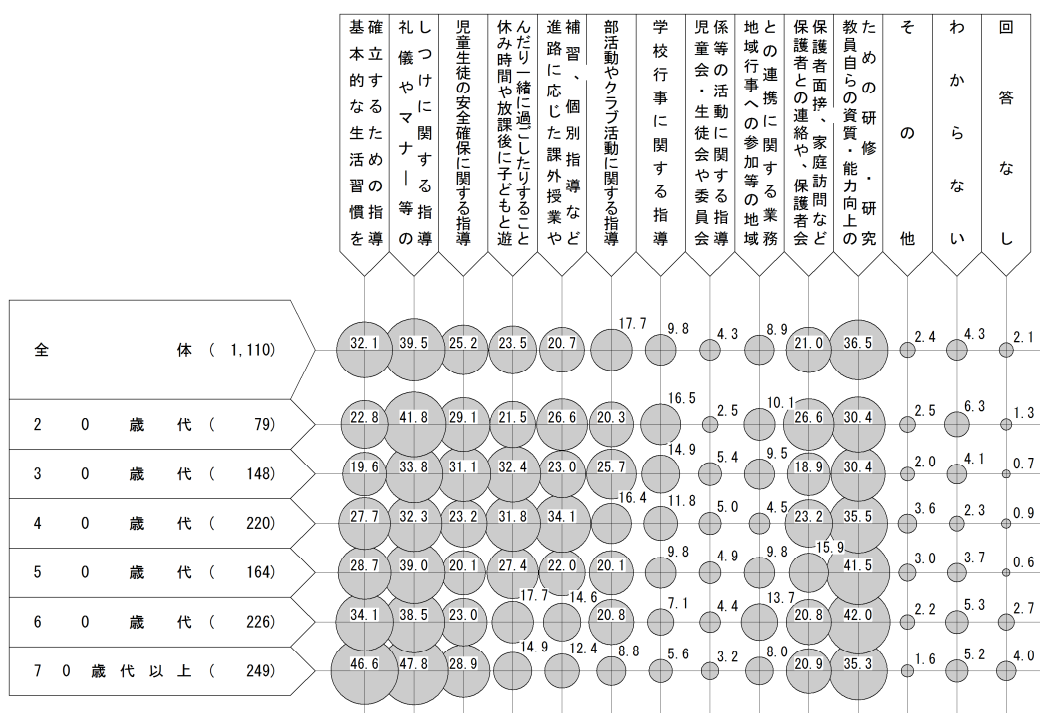


県政世論調査(平成26年11月)

【年齢別】(図 4-5-2)

- 最も多くの町民が優先すべきとしている「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」については、70 歳代 (47.8%) で特に多くなっています。一方、40 歳代 (32.3%) や 30 歳代 (33.8%) で若干少なくなっています。
- 40 歳代の町民は、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」よりも「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」を優先すべきとする割合 (34.1%) の方が多くなっていることが特徴としてみられます。これは、40 歳代の町民はちょうど受験生を抱えるような年齢層であることが影響しているものと考えられます。
- 優先すべきとしているという町民が 2 番目に多い「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」については、20 歳代 (30.4%) や 30 歳代 (30.4%) では若干少なくなっているものの、50 歳代 (41.5%) や 60 歳代 (42.0%) で他の年齢層に比べて若干多くなっており、その割合は、50 歳代と 60 歳代では共に「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」の割合を上回っています。
- 優先すべきとしているという町民が 3 番目に多い「基本的な生活習慣を確立するための指導」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が概ね多くなる傾向がみられ、20 歳代で 22.8%、30 歳代で 19.6% であるのに対して 70 歳代以上では 46.6%と 20 ポイント超の差がみられます。
- 「児童生徒の安全確保に関する指導 (登下校の指導や学校内での安全)」については、30 歳代 (31.1%) で若干多く、50 歳代 (20.1%) で若干少なくなっています。また、「休み時間や放課後に子どもと遊んだり、一緒に過ごしたりすること」については、30 歳代 (32.4%) や 40 歳代 (31.8%) で若干多い一方で、70 歳代以上 (14.9%) で若干少なくなっています。

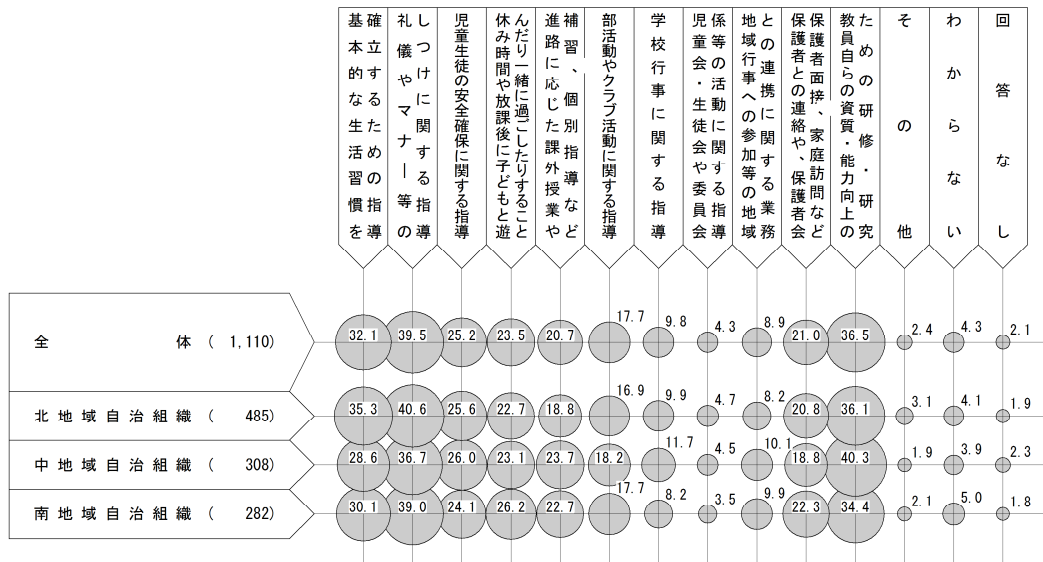
図 4-5-2 年齢別「教員が授業以外で優先すべき業務」



【居住地域別】 (図 4-5-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

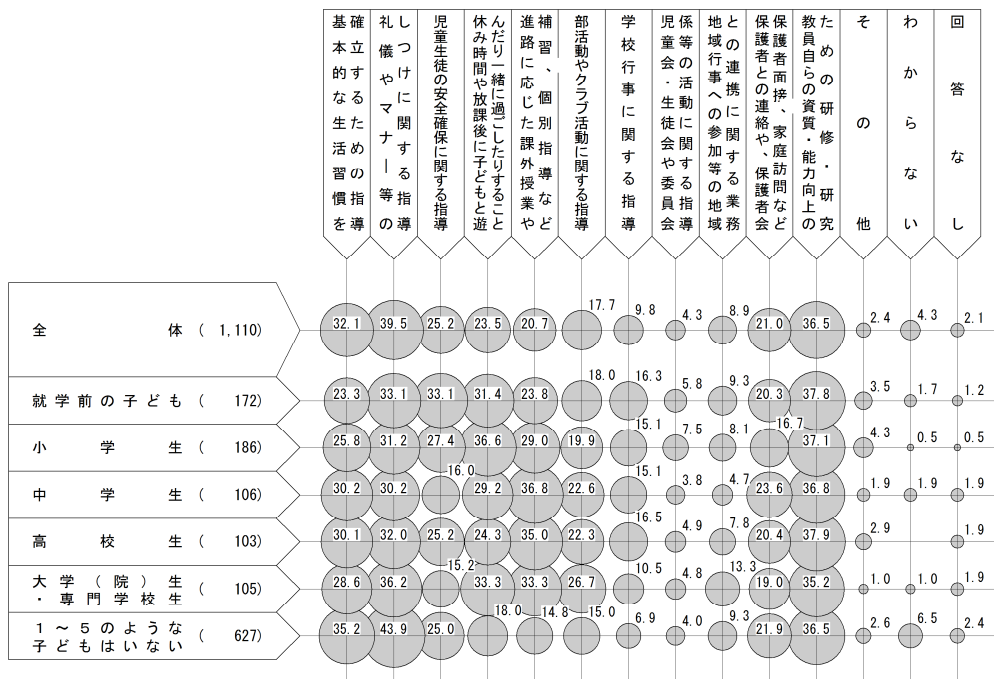
図 4-5-3 居住地域別「教員が授業以外で優先すべき業務」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-5-4)

- 最も多くの町民が優先すべきとしている「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」については、子どものいる町民の中でも「高校生」以下の子どもがいる町民で若干少なくなっています。
- 一方、「高校生」以下の子どもがいる町民の中でも、進学受験を控えている年齢層にあたる「中学生」や「高校生」がいる町民では、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」以上に「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」を優先すべきとする割合（中学生：36.8%、高校生：35.0%）の方が多くなっていることが特徴としてみられます。また、「大学(院)生・専門学校生」がいる町民でも「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」以上に「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」を優先すべきとする割合（33.3%）の方が多くなっています。
- 優先すべきとしているという町民が2番目に多い「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」については、子どもの有無等による有意な差はみられません。
- 優先すべきとしているという町民が3番目に多い「基本的な生活習慣を確立するための指導」については、「小学生」以下の子どもがいる町民において若干少なくなっています。
- 「児童生徒の安全確保に関する指導（登下校の指導や学校内での安全）」については、「就学前の子ども」がいる町民（33.1%）において若干多くなっています。また、「休み時間や放課後に子どもと遊んだり、一緒に過ごしたりすること」については、「小学生」がいる町民（36.6%）において多く、「就学前の子ども」がいる町民（31.4%）で若干多くなっています。

図 4-5-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「教員が授業以外で優先すべき業務」



5. 環境に配慮した暮らしについて

5-1 暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み (問 10)

問 10 あなたのご家庭では、節電などの省エネの実践やマイカーの利用を控えるなど日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という町民は半数近くを占めていますが、「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」という町民も2割弱を占めており、決して少なくありません。年齢の低い町民ほど、「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」の割合が多くなっています。

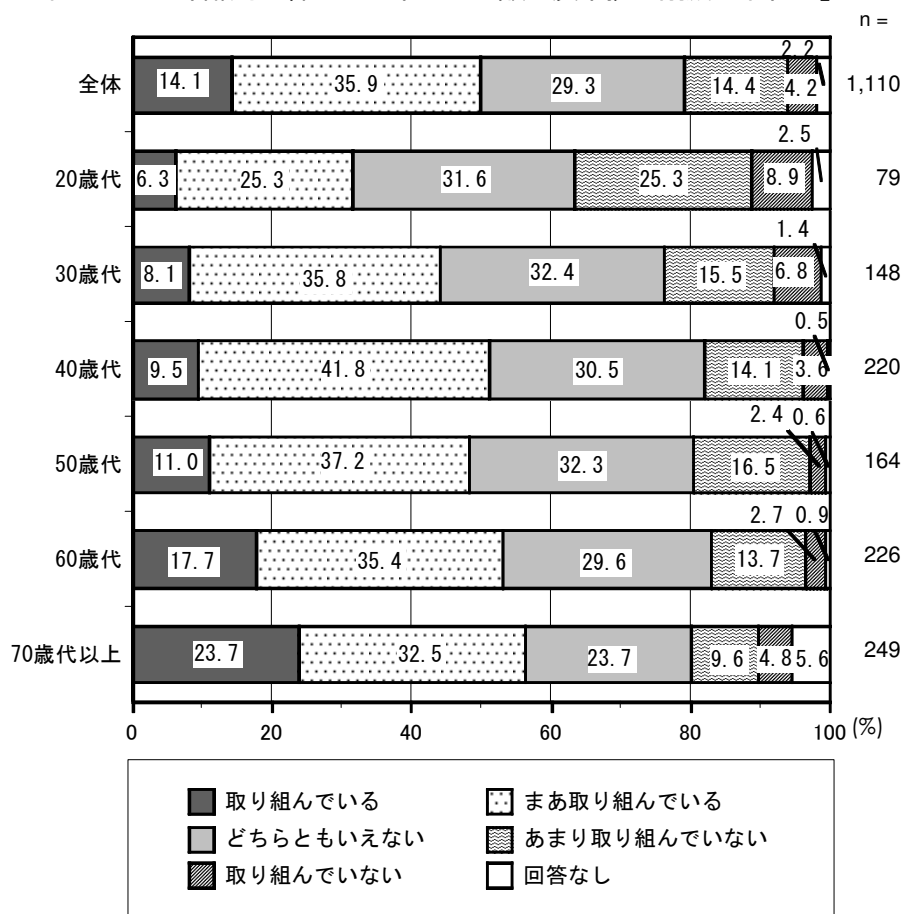
【全体】 (図 5-1-1)

- 日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減の取組状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した町民は14.1%、「まあ取り組んでいる」は35.9%で、合わせて49.7%を占めています。
- 一方、「あまり取り組んでいない」と回答した町民は14.4%、「取り組んでいない」は4.2%で合わせて18.6%で、「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という回答割合を31.1ポイントも下回っています。しかしながら、その割合は、決して少なくない割合であり、二酸化炭素の排出の削減の取組をより一層多くの町民に浸透させていくことが求められます。

【年齢別】 (図 5-1-1)

- 「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」という回答は、年齢が低いほど多い傾向がみられ、最も多い20歳代では、34.2% (25.3%+8.9%) を占めており、「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という回答割合 (6.3%+25.3%=31.6%) を2.6ポイント上回っています。

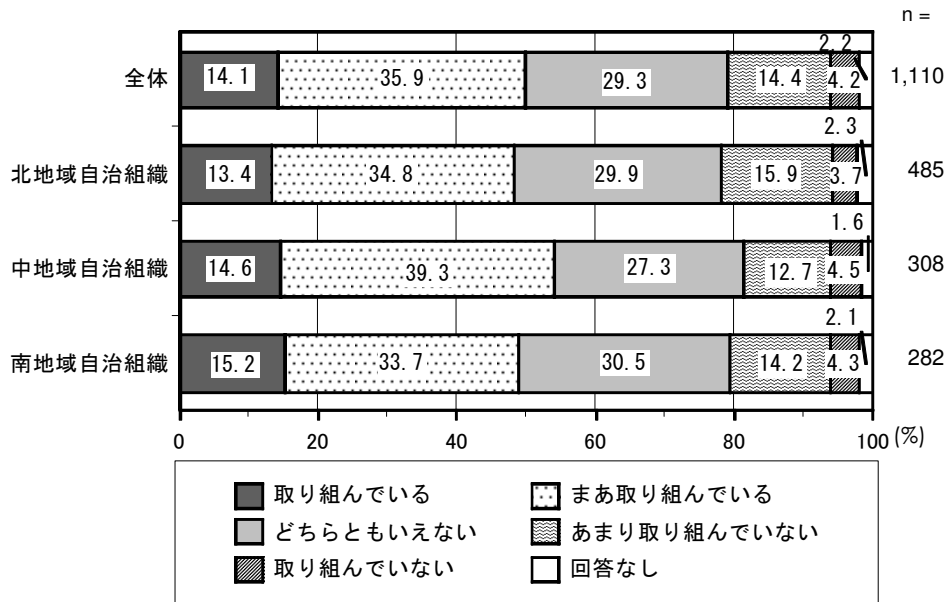
図 5-1-1 年齢別「暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み」



【居住地域別】 (図 5-1-2)

○居住地域別にみると、中地域自治組織で「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」の割合が 53.9% (14.6% +39.3%) と他の地域に比べて若干多くなっていることが特徴としてみられます。

図 5-1-2 居住地域別「暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み」



5-2 家庭におけるごみ減量化の取組み（問11）

問11 あなたの家庭では、ごみの減量化や分別によるごみの資源化に取り組んでいますか。

【回答数：○印を1つだけ】

ごみの減量化や分別によるごみの資源化に「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という町民は83.6%を占めていますが、年齢の低い町民ほど、その割合は少なく、20歳代では67.1%になっています。

【全体】（図5-2-1）

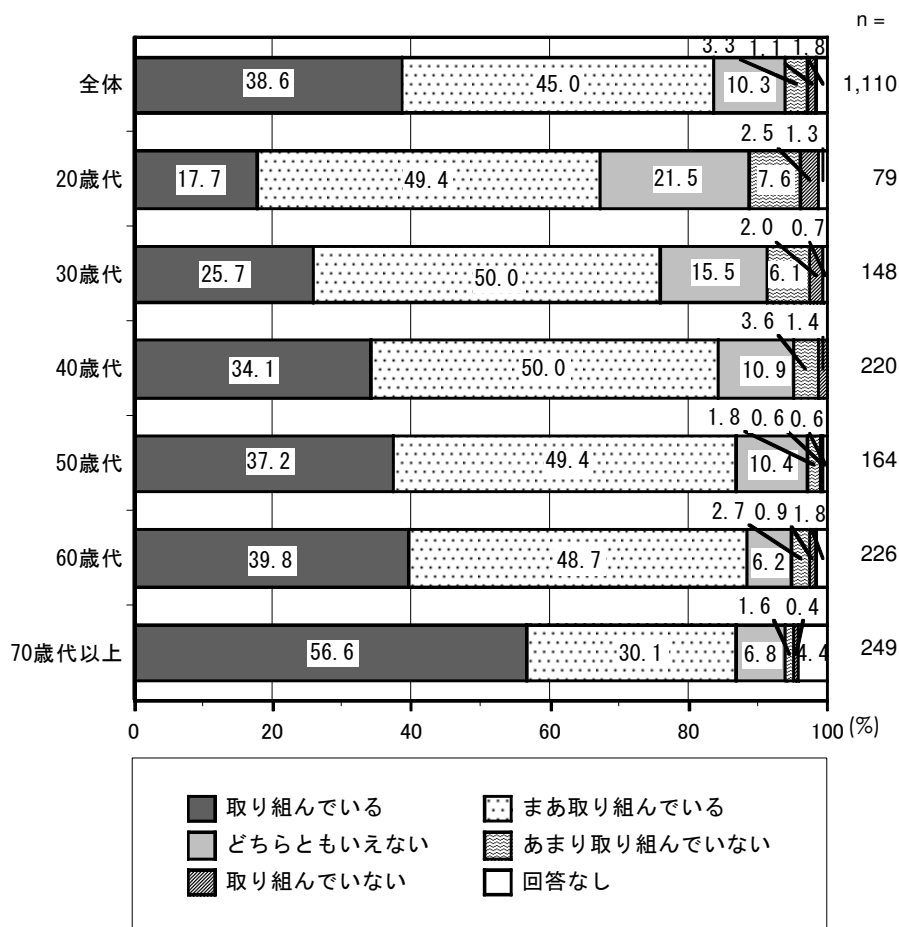
○ごみの減量化や分別によるごみの資源化の取組状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した町民は38.6%、「まあ取り組んでいる」は45.0%で合わせて83.6%を占めています。

○一方、「あまり取り組んでいない」と回答した町民は3.3%、「取り組んでいない」は1.1%と合わせても4.4%と僅かです。

【年齢別】（図5-2-1）

○「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という回答割合は、概ね年齢が低いほど少なくなる傾向がみられ、「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」の割合が67.1%と最も少ない20歳代では、「取り組んでいる」という回答は17.7%にとどまっています。

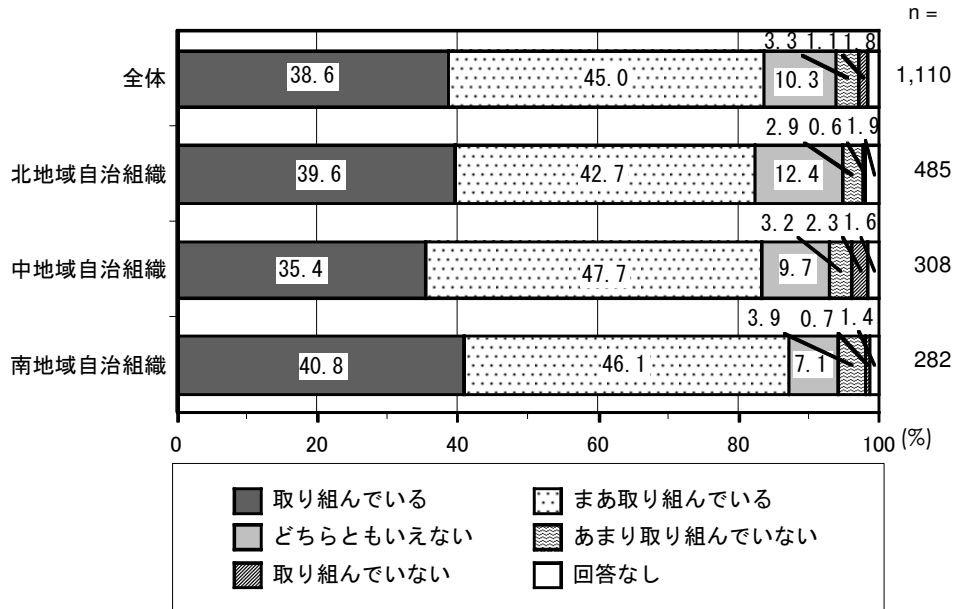
図5-2-1 年齢別「家庭におけるごみ減量化の取組み」



【居住地域別】 (図 5-2-2)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 5-2-2 居住地域別「家庭におけるごみ減量化の取組み」



6. 身の回りの安全（防犯・防災）について

6-1 犯罪の未然防止のための地域の役割（問 12）

問 12 あなたは、身の回りで起きる犯罪を未然に防止するため、地域の役割としてどのようなことが主に重要だと思いますか。 【回答数：3つまで○印】

犯罪の未然防止のための地域の役割としては、「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」が58.5%と最も多く、次いで、「地域安全パトロール隊の活動を進める」(46.3%)、「地域の犯罪が起こりそうな場所の点検を行う」(39.5%)、「夜間の門灯点灯を地域の活動として進める」(35.9%)が多くなっています。

【全体】(図6-1-1)

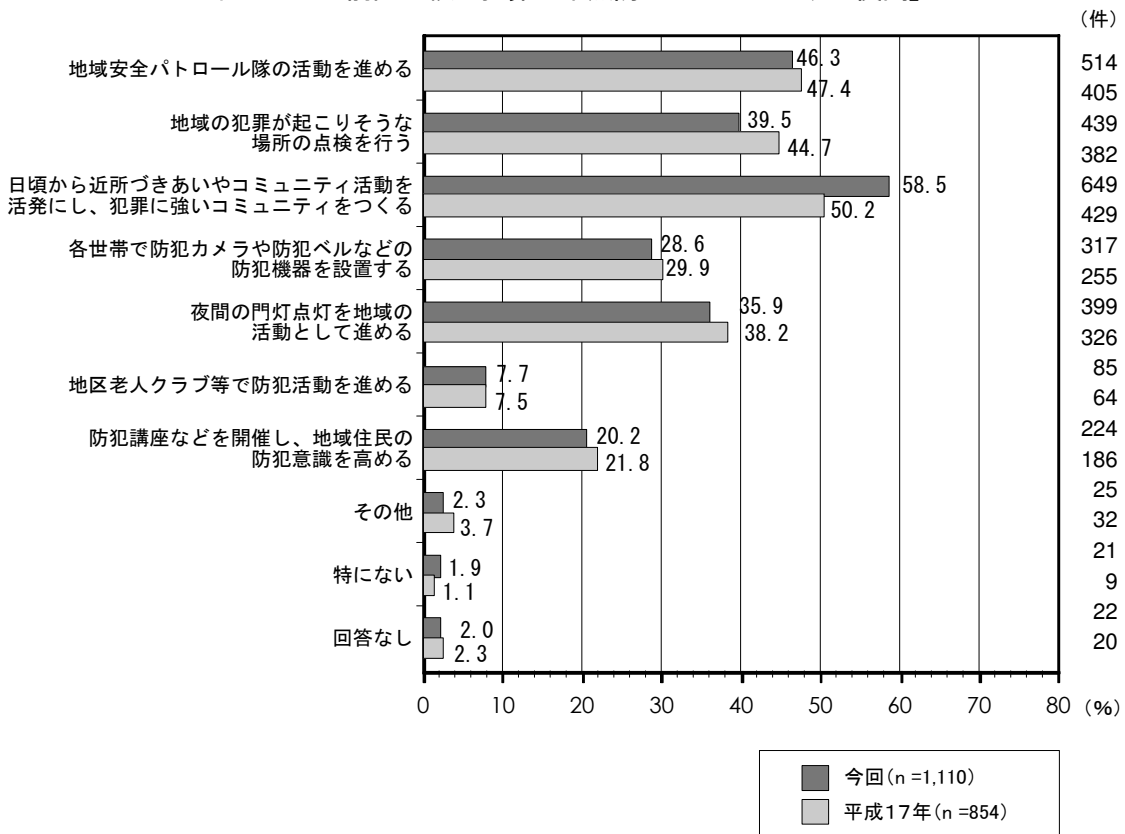
○犯罪の未然防止のための地域の役割としては、「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」が58.5%と最も多くなっています。次いで、「地域安全パトロール隊の活動を進める」が46.3%、「地域の犯罪が起こりそうな場所の点検を行う」が39.5%、「夜間の門灯点灯を地域の活動として進める」が35.9%、「各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する」が28.6%となっています。

【前回比較】(図6-1-1)

○平成17年調査と比べると、今回の調査で最も多かった「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」については、前回調査よりも8.3ポイント多くなっています。逆に、今回の調査で3番目に多かった「地域の犯罪が起こりそうな場所の点検を行う」については、前回調査よりも5.2ポイント少なくなっています。

○しかしながら、今回調査と平成17年調査では順位の変動まではみられず、概ね前回調査と同等の結果になっています。

図6-1-1 前回比較「犯罪の未然防止のための地域の役割」



【年齢別】 (図6-1-2)

- 年齢別にみると、全般的には、年齢による大きな差異はみられませんが、最も多くの町民が地域の役割として重要であると回答している「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」の割合は、20歳代(51.9%)で若干少なくなっています。
- また、2番目に多くの町民が地域の役割として重要であると回答している「地域安全パトロール隊の活動を進める」の割合は、30歳代(52.0%)で若干多くなっています。
- 3番目に多くの町民が地域の役割として重要であると回答している「地域の犯罪が起こりそうな場所の点検を行う」の割合についても30歳代(46.6%)で若干多くなっています。加えて、40歳代(44.5%)でも若干多くなっている一方で、70歳代以上(31.7%)では若干少なくなっています。

【居住地域別】 (図6-1-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図6-1-2 年齢別「犯罪の未然防止のための地域の役割」

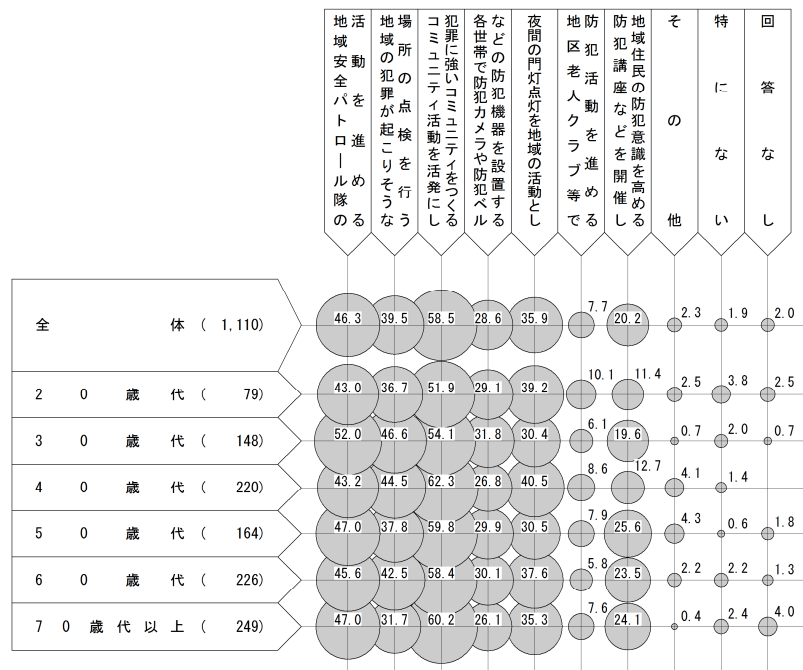
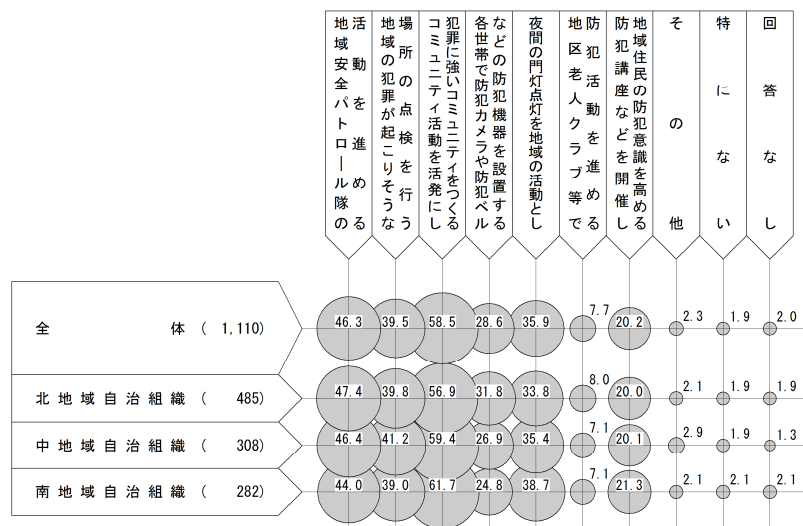


図6-1-3 居住地域別「犯罪の未然防止のための地域の役割」



6-2 詐欺や悪徳商法についての注意喚起 (問 13)

問 13 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と振り込め詐欺や悪徳商法について話し合うなど被害にあわないよう注意していますか。【回答数：○印を1つだけ】

振り込め詐欺や悪徳商法について被害にあわないように「注意している・まあ注意している」という町民は 80.2%になります。その割合は、年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられ、70歳代以上の高齢者層では、94.4%を占めています。

【全体】 (図 6-2-1)

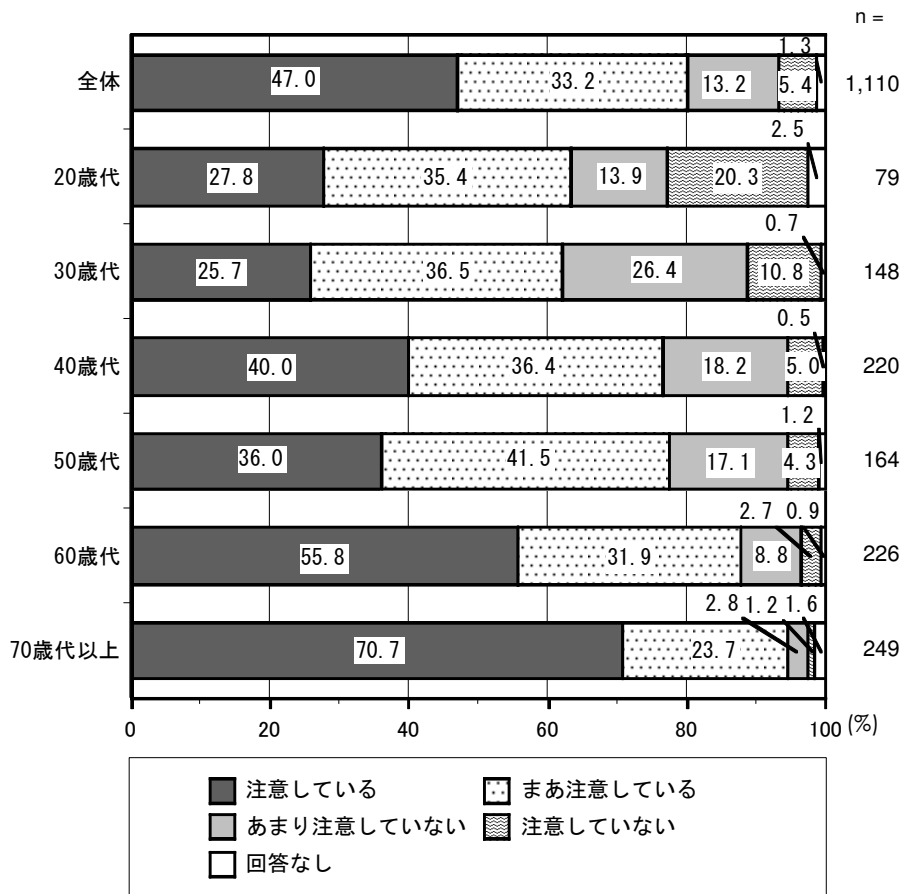
○ここ1～2年ぐらいの間に、振り込め詐欺や悪徳商法について被害にあわないように「注意している」という町民は、47.0%と半数近くを占めています。「まあ注意している」の33.2%と合わせると、「注意している・まあ注意している」という町民は、80.2%になります。

○一方、「注意しない」は5.4%と僅かですが、「あまり注意していない」の13.2%と合わせると、18.6%と決して少なくありません。

【年齢別】 (図 6-2-1)

○年齢が高くなるにつれて「注意している・まあ注意している」の割合は多くなる傾向がみられ、70歳代以上の高齢者層では、94.4% (70.7%+23.7%) を占めています。

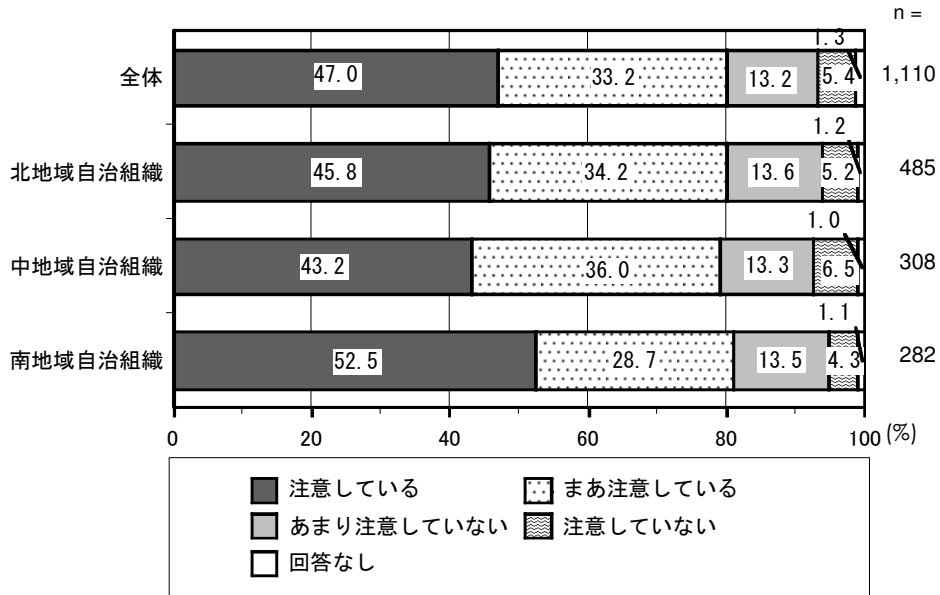
図 6-2-1 年齢別「詐欺や悪徳商法についての注意喚起」



【居住地域別】 (図 6-2-2)

○居住地域別にみると、3世代世帯の多く、農村的なコミュニティが残っている南地域自治組織で「注意している」の割合が52.5%と他の地域に比べて若干多くなっていることが特徴としてみられます。

図 6-2-2 居住地域別「詐欺や悪徳商法についての注意喚起」



6-3 地震の備え (問 14)

問 14 あなたの家庭では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。

【回答数：あてはまるものすべてに○印】

家庭で行っている大震災対策としては、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が 52.5%と最も多くなっています。次いで、「食料や飲料水を準備している」(45.3%) や「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」(43.7%)、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」(35.1%)が多くなっています。

国が実施した防災に関する世論調査の結果と比較すると、「耐震性のある家に住んでいる」（大口町：30.9%、国：20.4%）をはじめとした、16 項目中 4 項目については、実践している人の割合が国よりも上回っていますが、「家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」をはじめとした 11 項目については、国よりも実践している人の割合が下回っています。

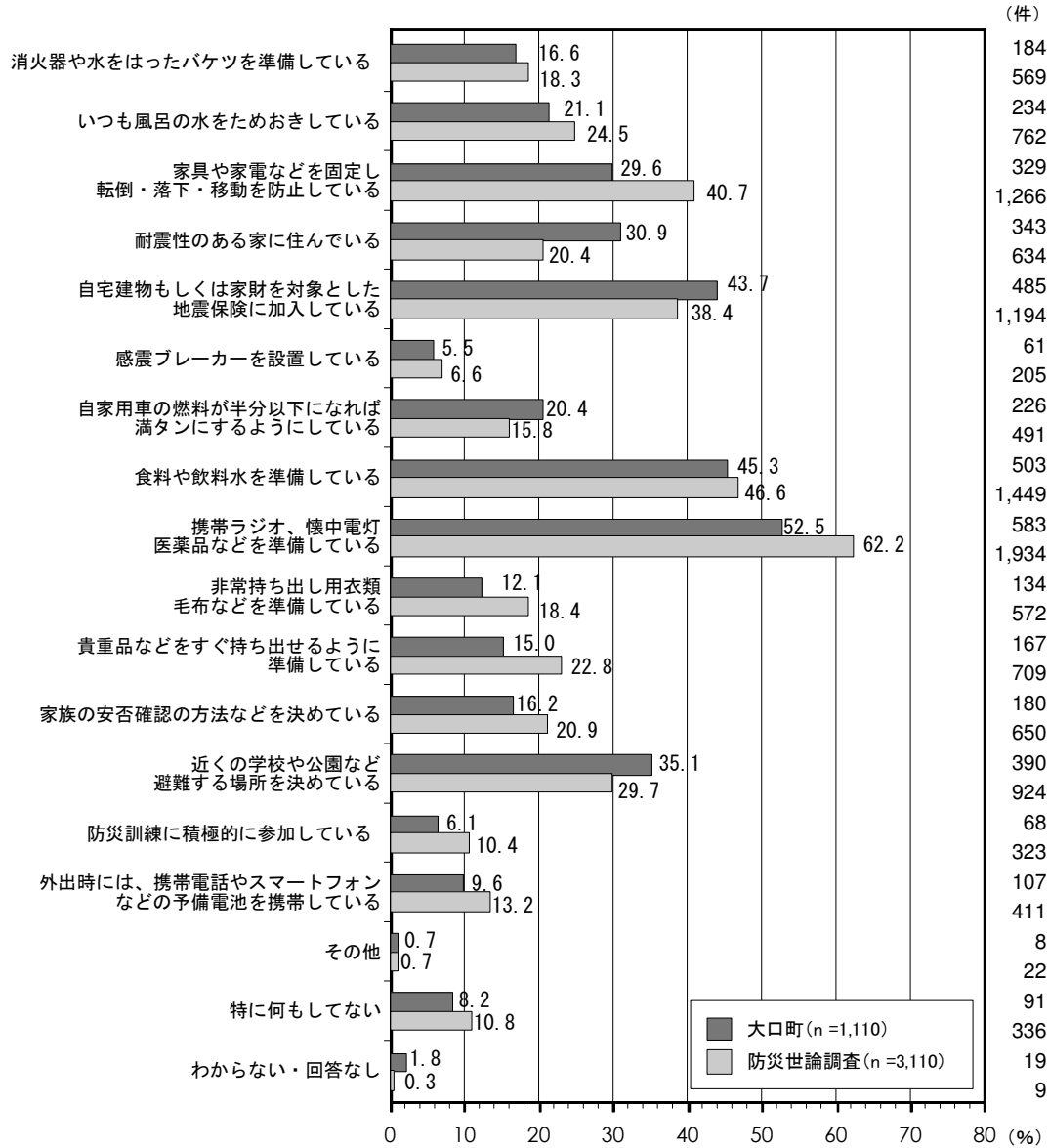
【全体】 (図 6-3-1)

- 家庭で行っている大震災対策として最も多いのは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」で 52.5%になっています。2 番目に多いのは「食料や飲料水を準備している」で 45.3%、3 番目は「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」で 43.7%、4 番目は「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」で 35.1%、5 番目は「耐震性のある家に住んでいる」で 30.9%となっています。
- 逆に、「感震ブレーカーを設置している」(5.5%) や「防災訓練に積極的に参加している」(6.1%)、「外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している」(9.6%) については、いずれも 1 割未満となっています。
- また、携帯ラジオや食料や飲用水等の非常用の持ち出し備品を準備している町民は多いものの、「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」(16.2%) や「非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している」(12.1%) となると、少ない状況にあります。

【世論調査比較】 (図 6-3-1)

- 国が実施した防災に関する世論調査の結果と比較すると、「耐震性のある家に住んでいる」（大口町：30.9%、国：20.4%）をはじめ、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」（大口町：35.1%、国：29.7%）、「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」（大口町：43.7%、国：38.4%）などの 16 項目中 4 項目については、実践している人の割合が国よりも上回っています。
- 一方、16 項目中 11 項目については、実践している人の割合が国よりも下回っています。中でも、「家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」については、実践している人の割合が国よりも 15.1 ポイント（大口町：29.6%、国：40.7%）も下回っています。
- また、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」（大口町：29.6%、国：40.7%）や「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」（大口町：15.0%、国：22.8%）、「非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している」（大口町：12.1%、国：18.4%）についても、それぞれ、9.7 ポイント、7.8 ポイント、6.3 ポイント、国よりも実践している人の割合が下回っています。

図 6-3-1 世論調査比較「地震の備え」

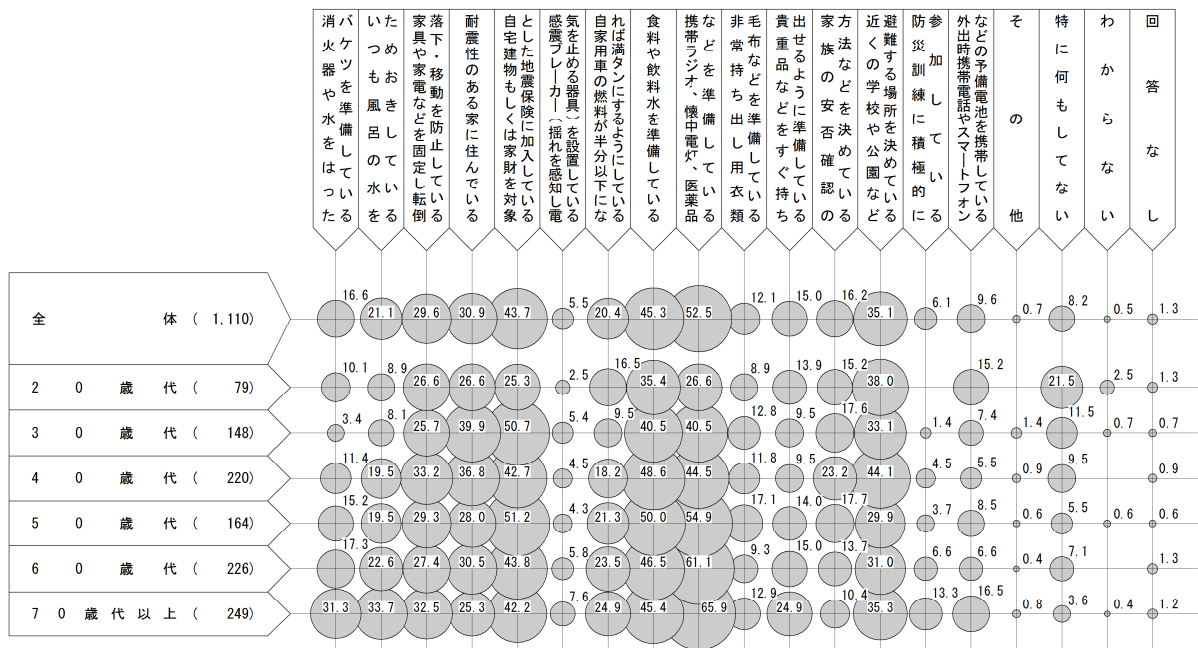


防災に関する世論調査(平成26年12月)

【年齢別】 (図 6-3-2)

- 年齢別にみると、20 歳代において、家庭で行っている大震災対策の割合が全般的に少なくなっています。
- 具体的には、20 歳代では、「外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している」については、他の年齢層に比べて割合が若干多くなっているものの、そのほかのほとんどすべての事項は他の年齢層に比べて少なくなっています。その中でも、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(26.6%) や「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」(25.3%) などの割合が少なくなっています。
- 一方、70 歳代以上において、家庭で行っている大震災対策を行っている割合が全般的に多くなっており、中でも、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(65.9%) や「いつも風呂の水をためおきしている」(33.7%) や「消火器や水をはったバケツを準備している」(31.3%) などが、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 家庭で行っている大震災対策として割合が最も多い「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」については、前述のとおり、70 歳代以上 (65.9%) において多く、20 歳代 (26.6%) で少なくなっていますが、30 歳代 (40.5%) や 40 歳代 (44.5%) でも若干少なくなっていることも特徴としてみられます。
- その分、30 歳代では、「耐震性のある家に住んでいる」(39.9%) や「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している」(50.7%) が若干多くなっています。また、40 歳代では、「耐震性のある家に住んでいる」(36.8%) や「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」(44.1%) などが若干多くなっています。
- このように「耐震性のある家に住んでいる」の割合が、30 歳代や 40 歳代で若干多いのは、この年齢層の町民は新たに住宅を取得する年齢層であることが影響しているものと考えられます。なお、70 歳代以上では、「耐震性のある家に住んでいる」の割合が若干少なくなっています。

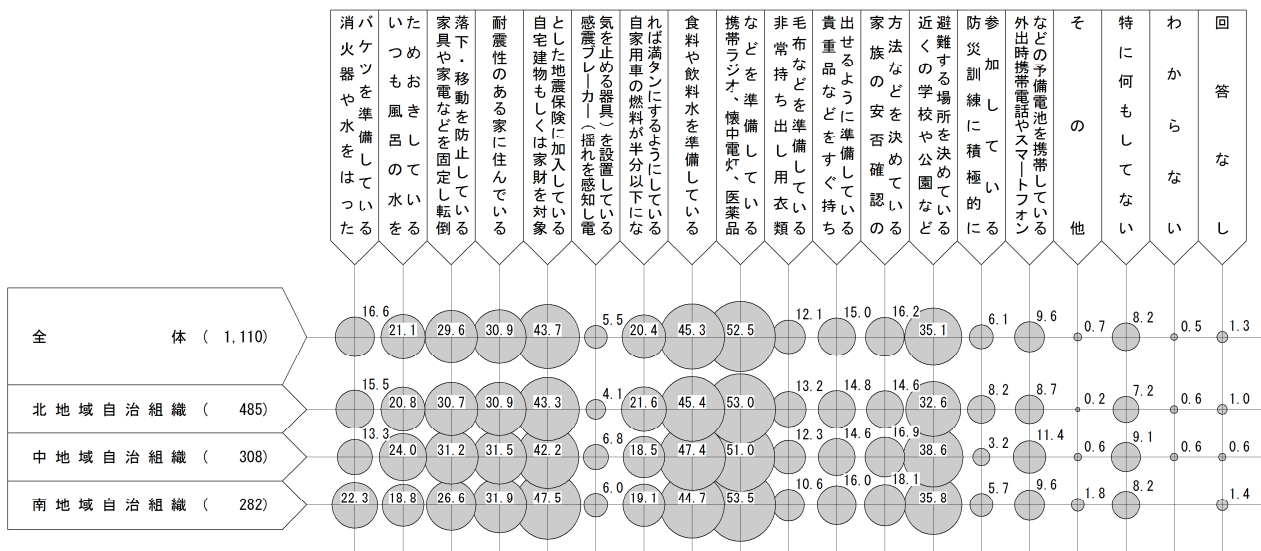
図 6-3-2 年齢別「地震の備え」



【居住地域別】 (図 6-3-3)

○他の地域に比べて南地域自治組織において「消火器や水をはったバケツを準備している」の割合が若干多くなっている以外は、居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-3-3 居住地域別「地震の備え」



6-4 防災訓練等への参加（問15）

問15 あなたは、お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に「参加している」という町民は僅か5.9%で、「まあ参加している」の12.4%と合わせても18.3%にとどまっています。年齢が低いほど「参加している・まあ参加している」の割合が順次少なくなる傾向が顕著にみられ、最も少ない20歳代では僅か2.6%となっています。

【全体】（図6-4-1）

○地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に「参加している」という町民は僅か5.9%で、「まあ参加している」の12.4%と合わせても18.3%にとどまっています。

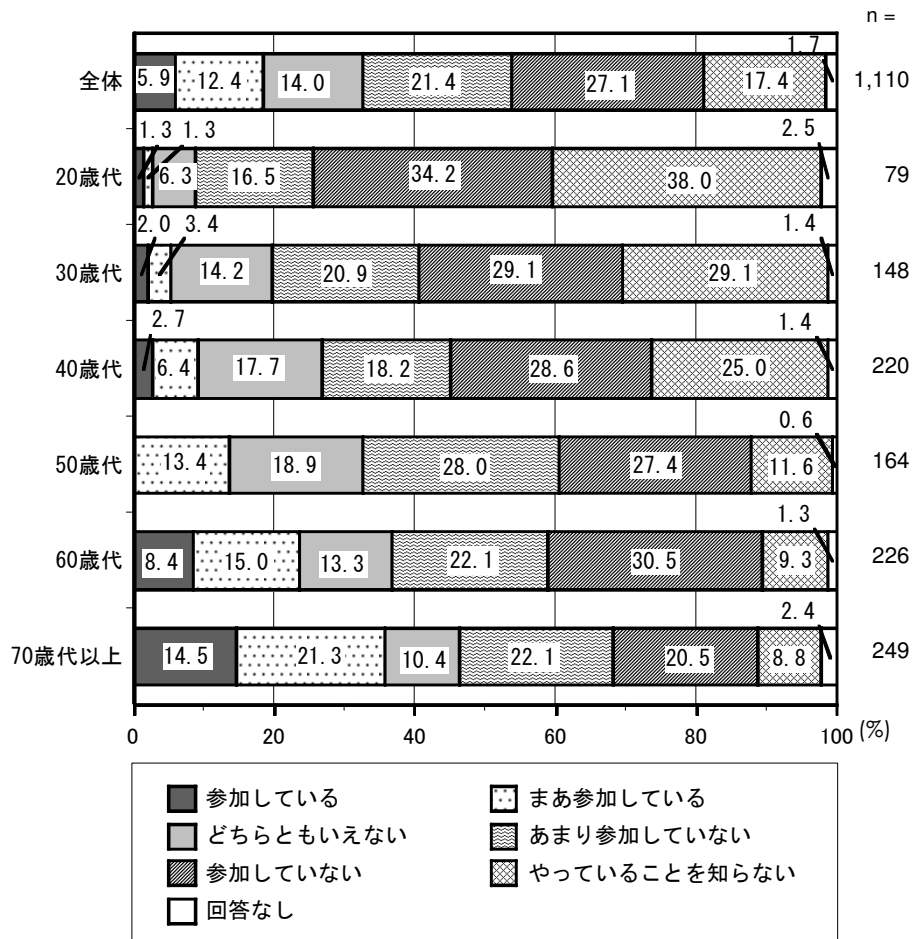
○一方、「参加していない」は27.1%、「あまり参加していない」は21.4%で合わせて48.5%と半数近くを占めています。また、「やっていることを知らない」という回答も17.4%と少なくありません。

【年齢別】（図6-4-1）

○年齢が低いほど「参加している・まあ参加している」の割合が順次少なくなる傾向が顕著にみられ、最も少ない20歳代では僅か2.6%（1.3%+1.3%）となっています。

○その一方で、20歳代では、「あまり参加していない・参加していない」が50.7%（16.5%+34.2%）、「やっていることを知らない」が38.8%も占めています。

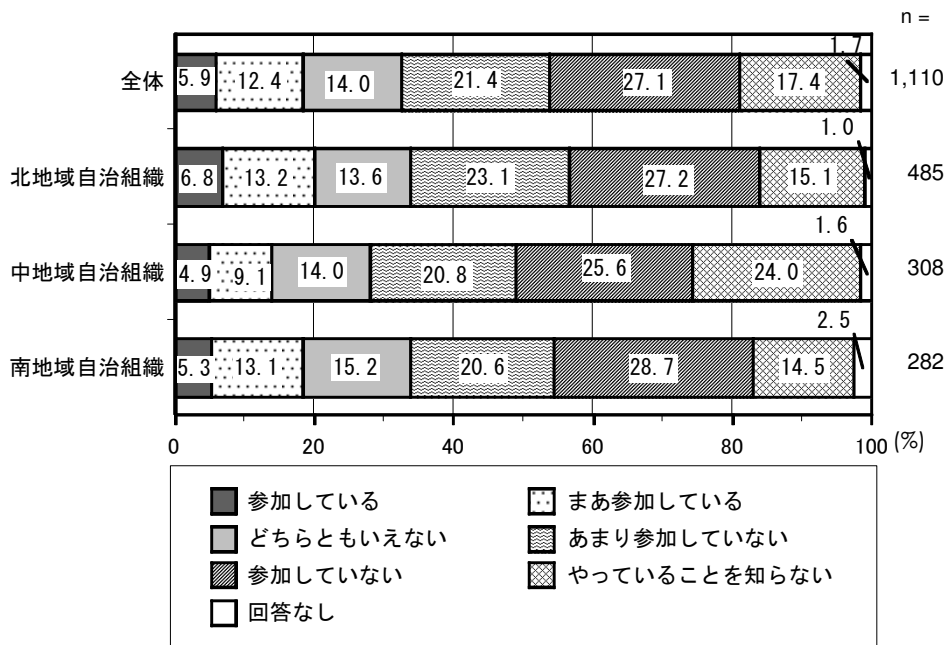
図6-4-1 年齢別「防災訓練等への参加」



【居住地域別】 (図 6-4-2)

○中地域自治区では、「やっていることを知らない」が 24.0%を占めており、他の地域に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。

図 6-4-2 居住地域別「防災訓練等への参加」



6-5 災害に備えた家庭内備蓄 (問 16)

問 16 あなたのご家庭では、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

「家庭内備蓄は何も行っていない」が1/4以上を占めています。以前の目安である「3日分の家庭内備蓄を行っている」については、18.5%とあまり多くありません。現在の目安とされている7日以上以上の備えをしている町民は、僅か2.9%にとどまっています。

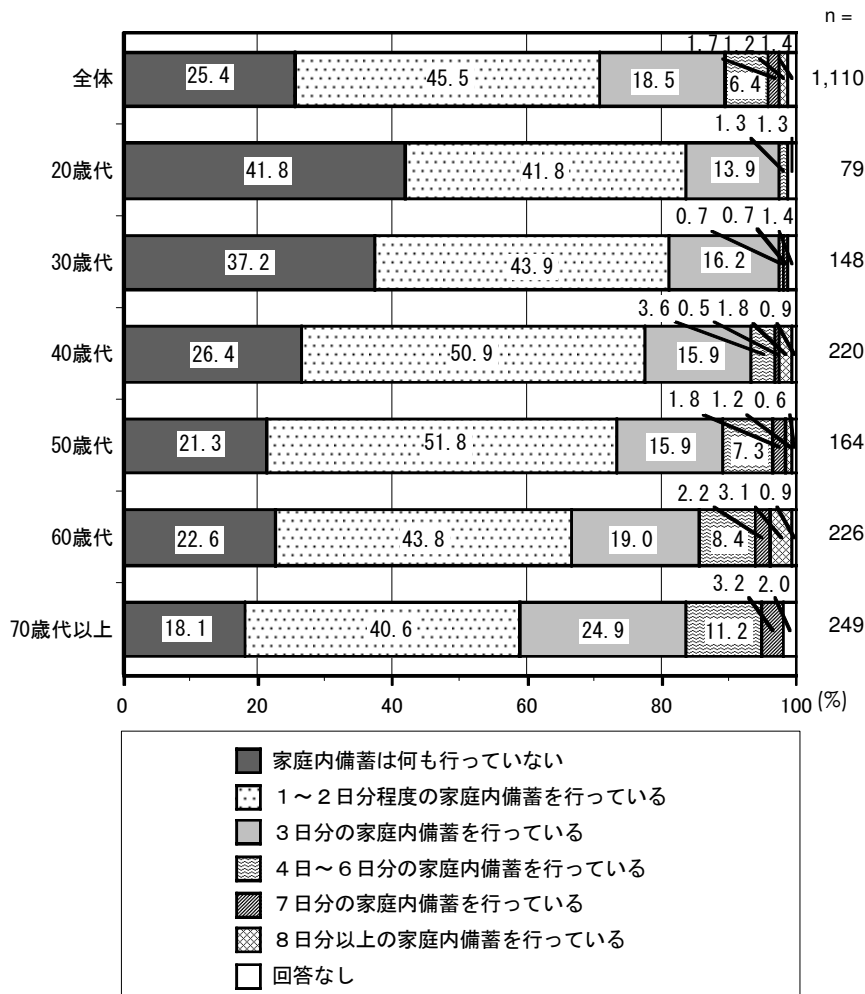
【全体】 (図 6-5-1)

- これまでは、阪神・淡路大震災を教訓に、各家庭で3日分の水や食料などを備蓄することが目安とされてきましたが、東日本大震災を踏まえ、1週間分の備蓄が新たな目安として国から示されています。
- そこで、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄をどの程度行っているか尋ねたところ、「家庭内備蓄は何も行っていない」が25.4%と、1/4以上の町民が何の備えもしていない結果となっています。
- 備えをしている町民であっても、以前の目安とされてきた日数分を確保していない「1～2日分程度の家庭内備蓄を行っている」が45.5%と半数近くを占めています。また、「3日分の家庭内備蓄を行っている」については、18.5%とあまり多くありません。さらに、現在の目安とされている7日以上以上の備えをしている町民となると、僅か2.9%（7日分：1.7%、8日以上：1.2%）にとどまっています。

【年齢別】 (図 6-5-1)

- 年齢が低いほど「家庭内備蓄は何も行っていない」の割合が順次少なくなる傾向がみられ、最も少ない20歳代では41.8%も占めています。

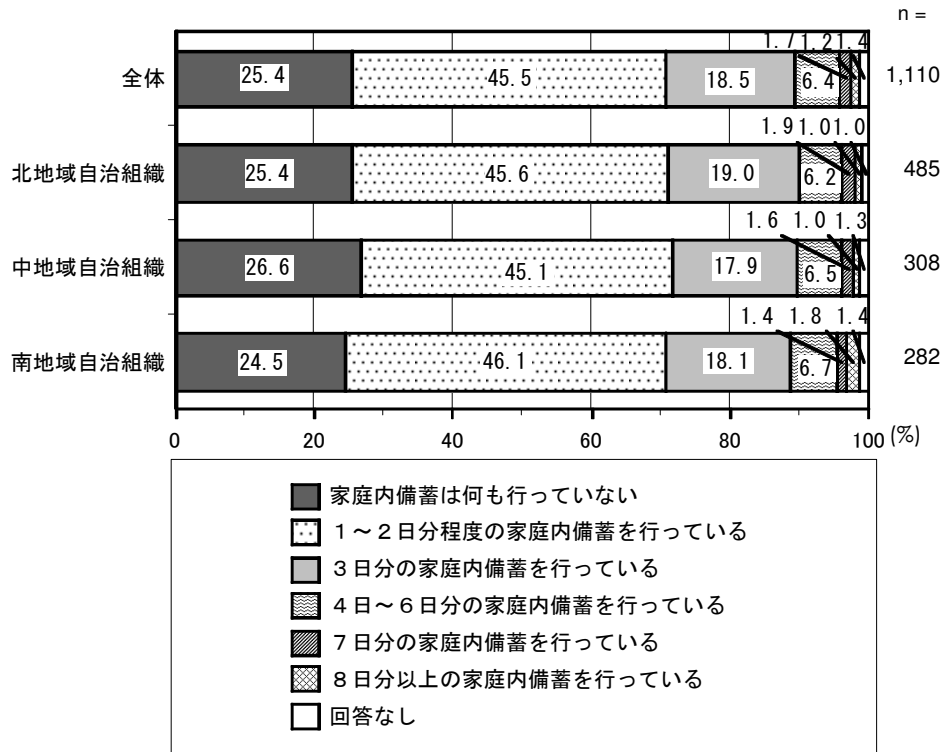
図 6-5-1 年齢別「災害に備えた家庭内備蓄」



【居住地域別】 (図 6-5-2)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-5-2 居住地域別「災害に備えた家庭内備蓄」



6-6 災害時の避難方法等についての確認 (問 17)

問 17 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことが「ある」という町民は43.2%を占めています。40歳代では、「ある」が50.9%と過半数を占めていますが、40歳代以降、年齢が高くなるにつれて「ある」の割合が少なくなる傾向がみられます。

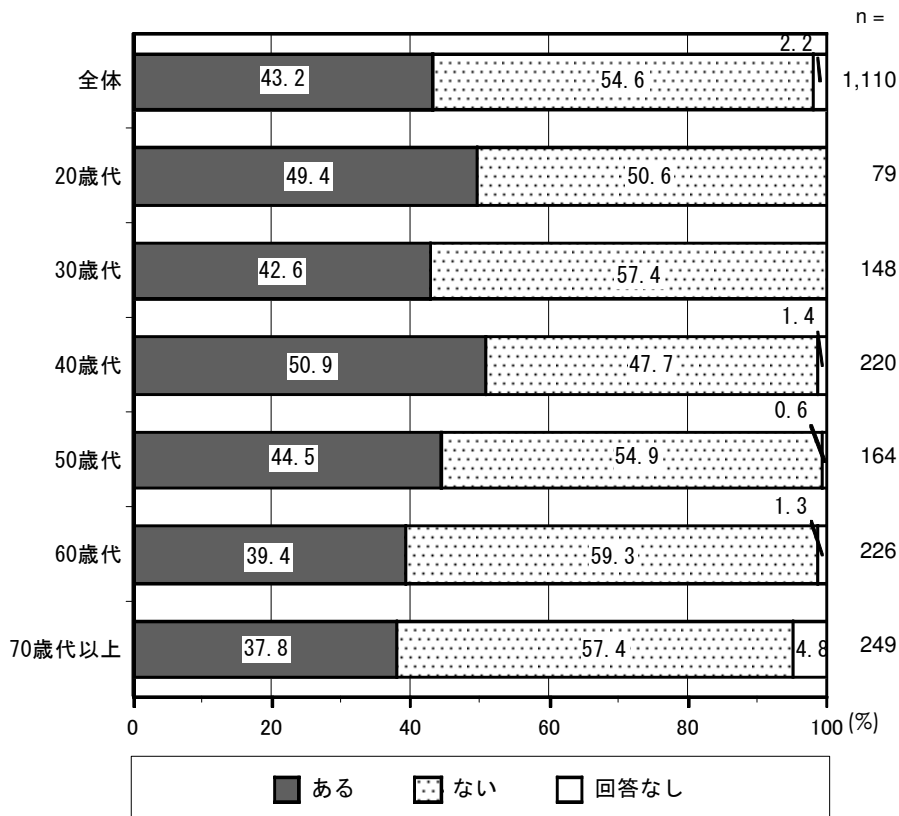
【全体】 (図6-6-1)

○家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことが「ある」という町民は43.2%で、「ない」(54.6%)よりも11.4ポイント下回っています。

【年齢別】 (図6-6-1)

○40歳代では、「ある」が50.9%と過半数を占めていますが、40歳代以降、年齢が高くなるにつれて「ある」の割合が少なくなる傾向がみられ、最も少ない70歳代以上では「ある」が37.8%になっています。○20歳代(49.4%)や30歳代(42.6%)は、40歳代ほどではないものの、「ある」という割合が比較的多くを占めています。

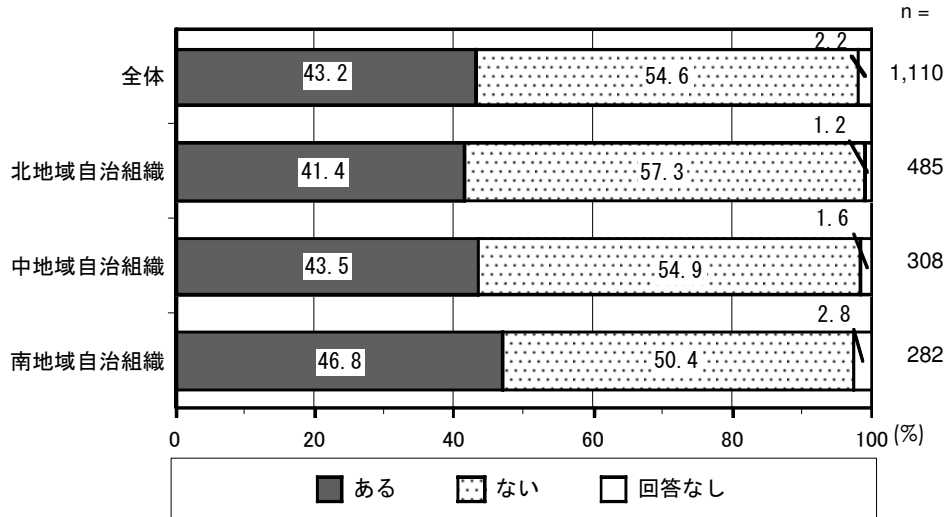
図6-6-1 年齢別「災害時の避難方法等についての確認」



【居住地域別】 (図 6-6-2)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-6-2 居住地域別「災害時の避難方法等についての確認」



6-7 地震による家具等の転倒防止策（問 18）

問 18 あなたのお住まいでは、家具・家電などを固定し、地震による家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

地震に備えて「家具・家電などの固定は行ってない」という町民が43.8%であるのに対して、「何らか固定している」という町民は合わせて54.3%と、「家具・家電などの固定は行ってない」という町民を10.5ポイント上回っています。「何らか固定している」といっても、その半数近くは、一部の固定にとどまっています。

【全体】（図 6-7-1）

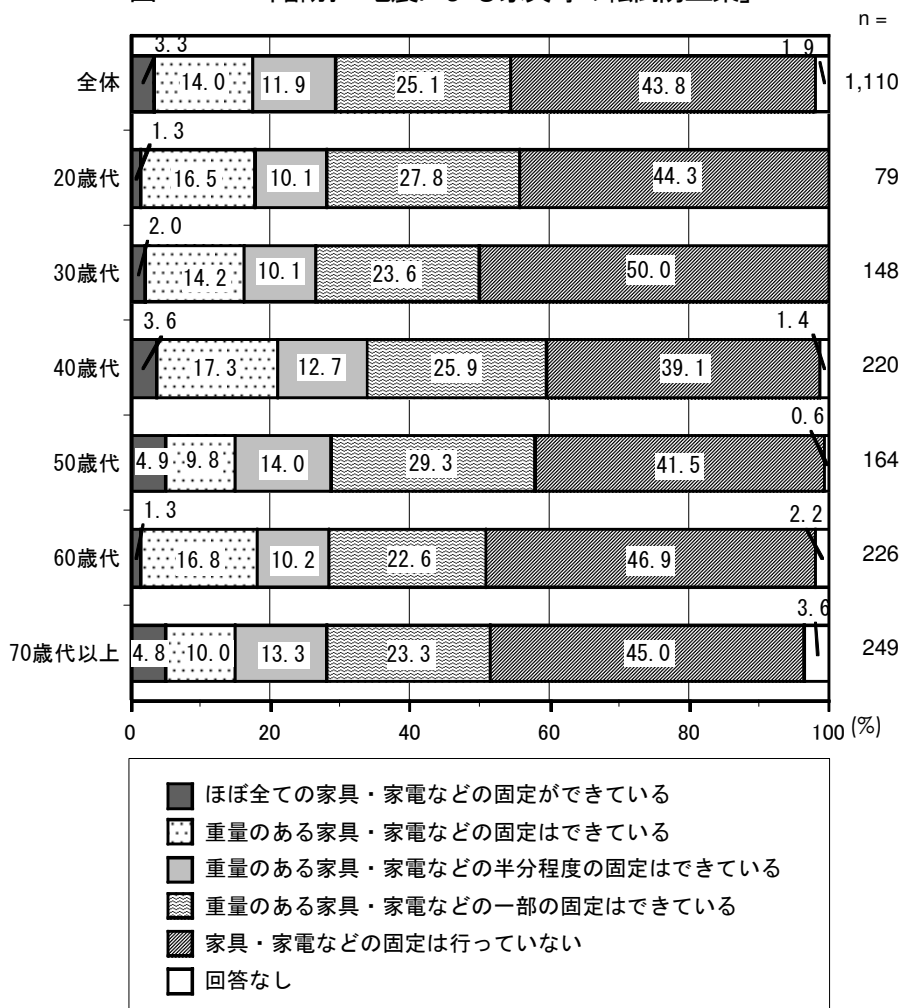
○地震に備えて「家具・家電などの固定は行ってない」という町民が43.8%も占めています。

○これに対して、「ほぼ全ての家具・家電などの固定ができていいる」という町民は3.3%、「重量のある家具・家電などの固定はできていいる」は14.0%、「重量のある家具・家電などの半分程度の固定はできていいる」は11.9%、「重量のある家具・家電などの一部の固定はできていいる」は25.1%で、家具・家電などを「何らか固定している」という町民は合わせて54.3%を占めています。

【年齢別】（図 6-7-1）

○40歳代の59.5%（3.6%+17.3%+12.7%+25.9%）を筆頭に概ねすべての年齢層で「何らか固定している」という町民が過半数を占めていますが、唯一30歳代については、「何らか固定している」という町民が49.9%と半数を割っています。

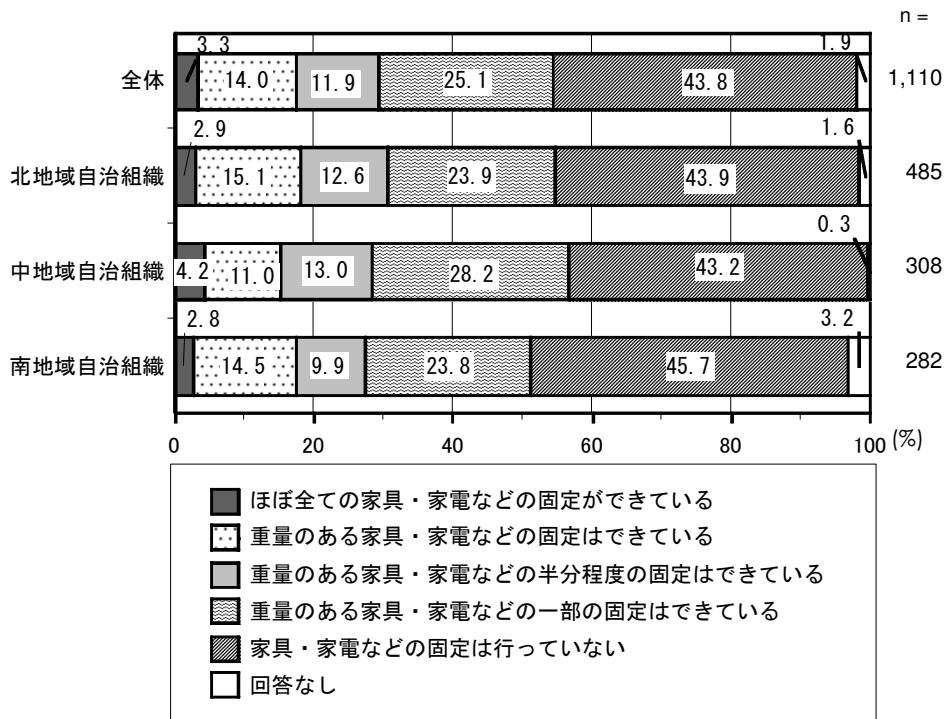
図 6-7-1 年齢別「地震による家具等の転倒防止策」



【居住地域別】 (図 6-7-2)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-7-2 居住地域別「地震による家具等の転倒防止策」



6-8 住宅用火災報知器の設置 (問 19)

問 19 あなたのお住まいでは、住宅用火災報知機の設置を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

住宅用火災報知機を「法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している」は、48.1%を占めているものの、半数には満たない状況です。その割合は、特に50歳代（37.8%）で少なくなっています。

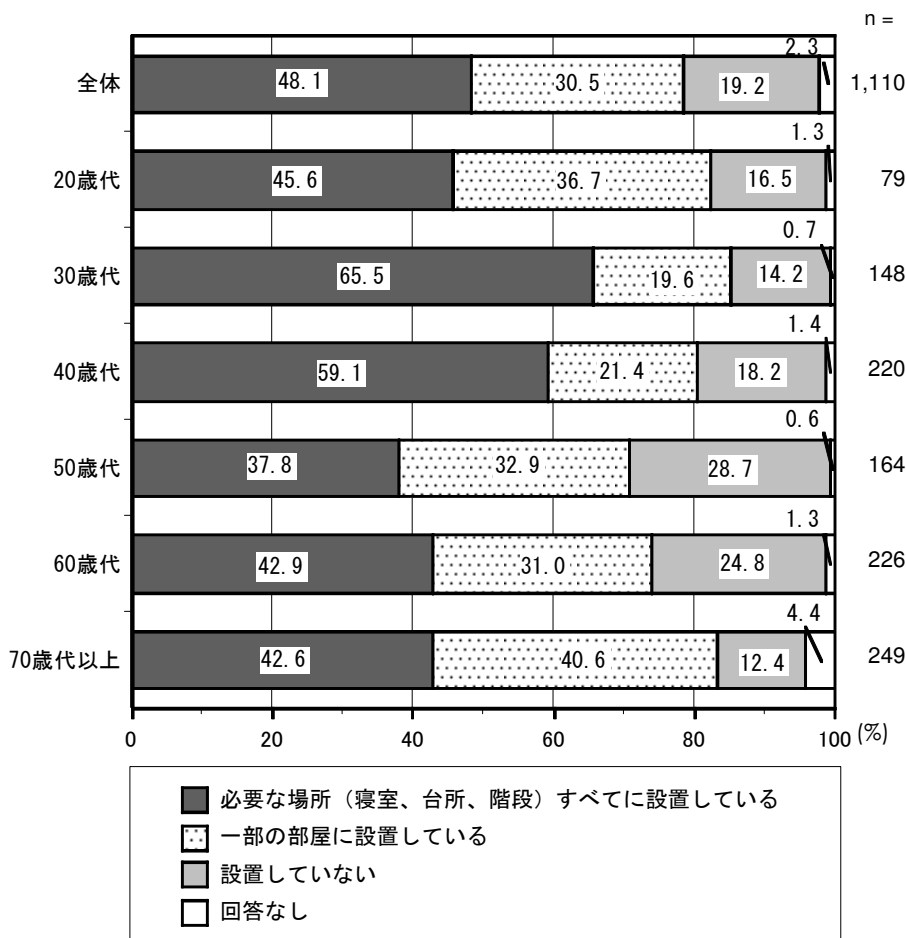
【全体】 (図 6-8-1)

- 法律で設置が義務付けられている住宅用火災報知機を「法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している」という町民は48.1%と最も多くを占めているものの、半数に満たない状況です。
- 「設置していない」という町民は19.2%と決して少なくありません。

【年齢別】 (図 6-8-1)

- 「法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している」は、30歳代（65.5%）や40歳代（59.1%）で多く、50歳代（37.8%）で少なく、また、60歳代（42.9%）、70歳代以上（42.6%）でも若干少なくなっています。
- その分、50歳代と60歳代では、「設置していない」がそれぞれ、28.7%、24.8%と全体値に比べて若干多くなっています。また、70歳代では、「一部の部屋で設置している」が多くなっています。

図 6-8-1 年齢別「住宅用火災報知器の設置」

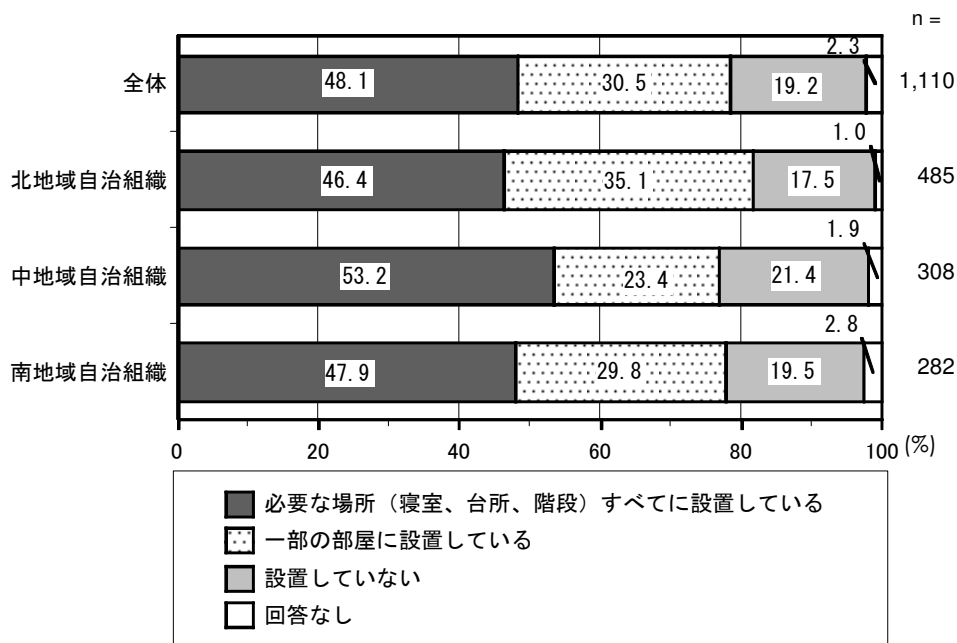


【居住地域別】 (図 6-8-2)

○中地域自治組織では、「法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している」が 53.2% を占め、全体値に比べて若干多くなっており、その分、「一部の部屋で設置している」が 23.4%と若干少なくなっています。

○北地域自治組織では、「一部の部屋で設置している」が 35.1%を占め、若干多くなっています。

図 6-8-2 居住地域別「住宅用火災報知器の設置」



6-9 救命救急講習受講の有無 (問 20)

問 20 あなたは、これまで救命救急講習を受けたことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という町民は 53.1%と過半数を占めています。60 歳代 (39.4%) や 70 歳代以上 (40.6%) では少なく、「ない」という割合を大きく下回っています。

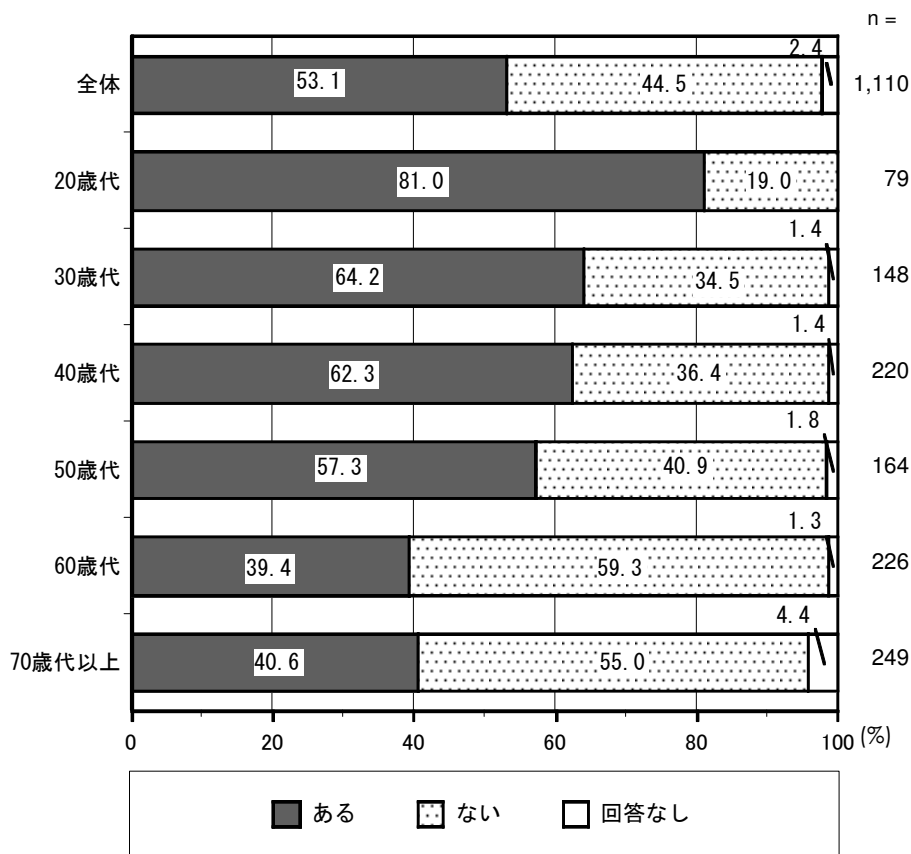
【全体】 (図 6-9-1)

○これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という町民は 53.1%と過半数を占めています。

【年齢別】 (図 6-9-1)

○これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という割合は、特に 20 歳代 (81.0%) や 30 歳代 (64.2%) で多く、逆に、60 歳代 (39.4%) や 70 歳代以上 (40.6%) では少なく、「ない」という割合を大きく下回っています。

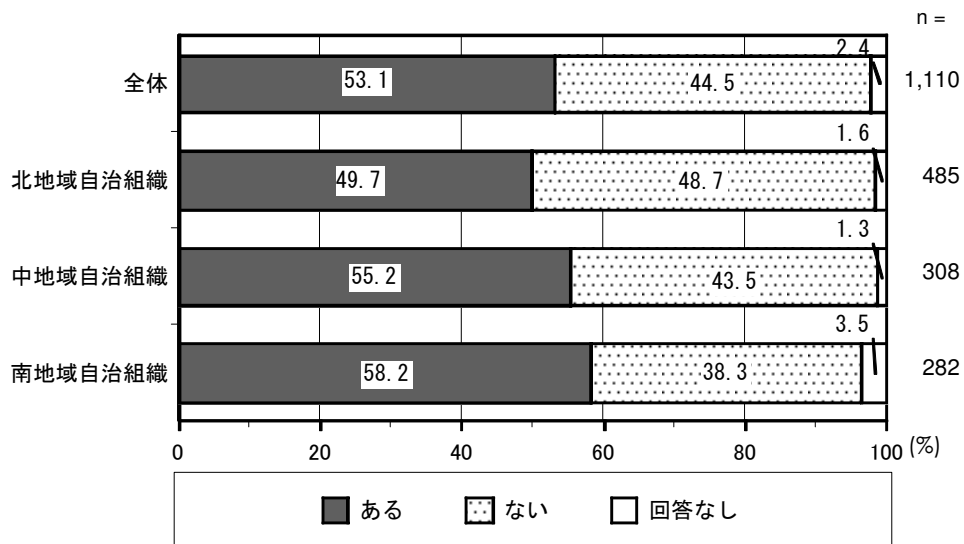
図 6-9-1 年齢別「救命救急講習受講の有無」



【居住地域別】 (図 6-9-2)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-9-2 居住地域別「救命救急講習受講の有無」



7. 健康や食生活について

7-1 健康への不安（問21）

問21 あなたは、健康に不安を感じていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「ある」が14.2%、「まあある」が41.8%と、合わせて56.0%の人が健康への不安を感じています。また、年齢が上がるにつれて、その割合は増え、70歳代では63.9%となっています。

【全体】（図7-1-1）

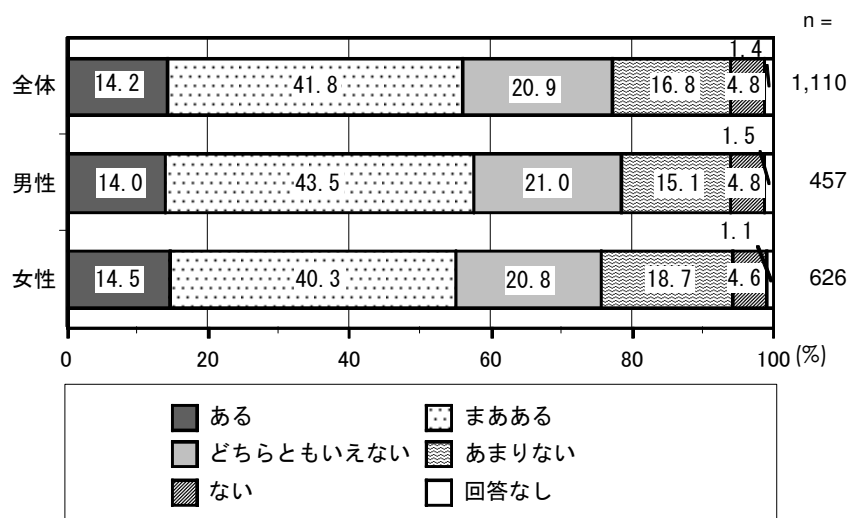
○健康への不安は「まあある」が41.8%と最も多くなっています。「ある」は14.2%であり、56.0%の人が健康に何らかの不安を感じています。

○また、「どちらともいえない」は20.9%であり、「あまりない」は16.8%、「ない」は4.8%となっています。

【性別】（図7-1-1）

○「まあある」は、男性の方が女性よりも3.2ポイントと上回り、「あまりない」は女性の方が男性よりも3.6%と上回っています。

図7-1-1 性別「健康への不安」

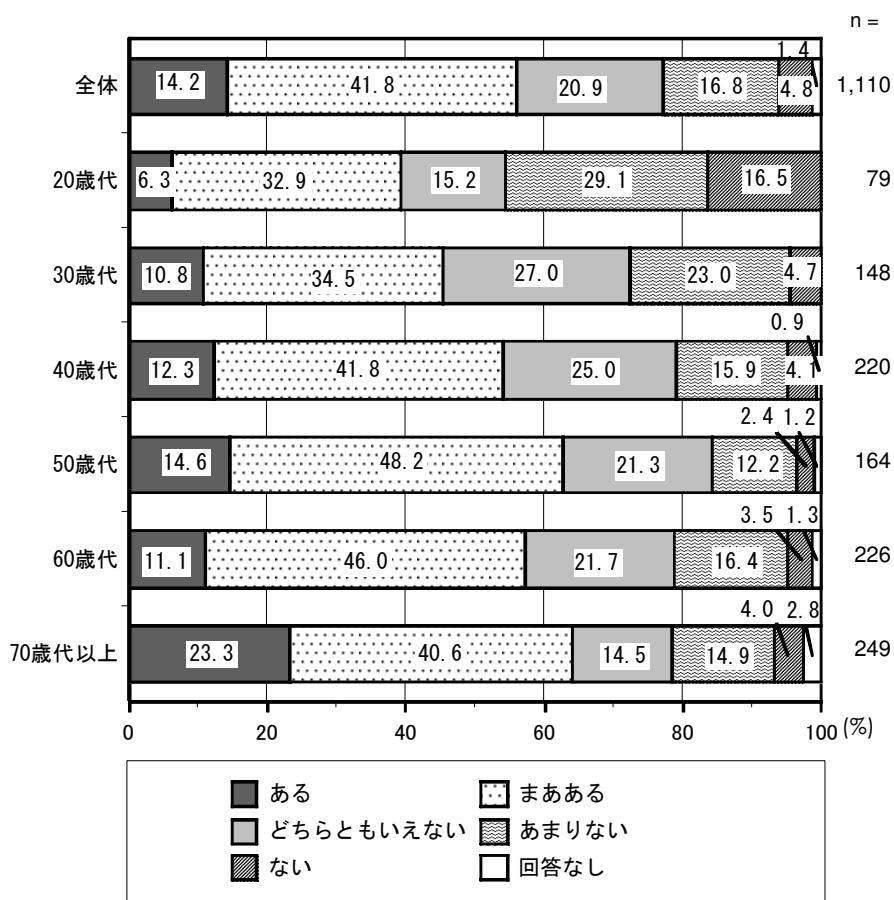


【年齢別】 (図 7-1-2)

○20 歳代では「あまりない」が 29.1%、「ない」が 16.5%、合わせると 45.6%と半数近くが程度に差はあれ、不安を感じていません。この割合は 30 歳代では 27.7%、40 歳代では 20.0%と減少し、50 歳代になると 14.6%と最も少なくなっています。

○健康への不安感は、年齢が上がるにつれて増大し、70 歳以上では「ある」の 23.3%と「まあある」の 40.6%を合わせると、63.9%が健康への不安を感じています。

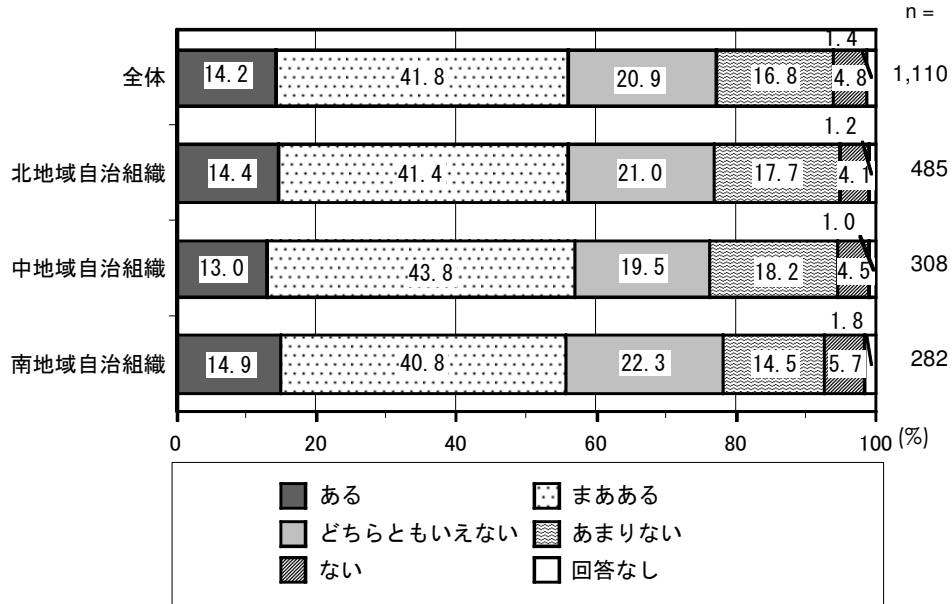
図 7-1-2 年齢別「健康への不安」



【居住地域別】 (図 7-1-3)

○健康への不安に関して、居住地域別では、全般的に大きな差は認められません。

図 7-1-3 居住地域別「健康への不安」



7-2 健康に気がつかった暮らし（問 22）

問 22 あなたは、日頃、検査を受けたり運動をしたりと健康に気がつかった暮らしができていると思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の6割以上が”健康に気がつかった暮らしができている”と考えています。年代が高いほど、健康への関心は高く、70歳代以上は79.9%と、30歳代の39.2%に比べ、非常に多くの方が健康に気がついています。

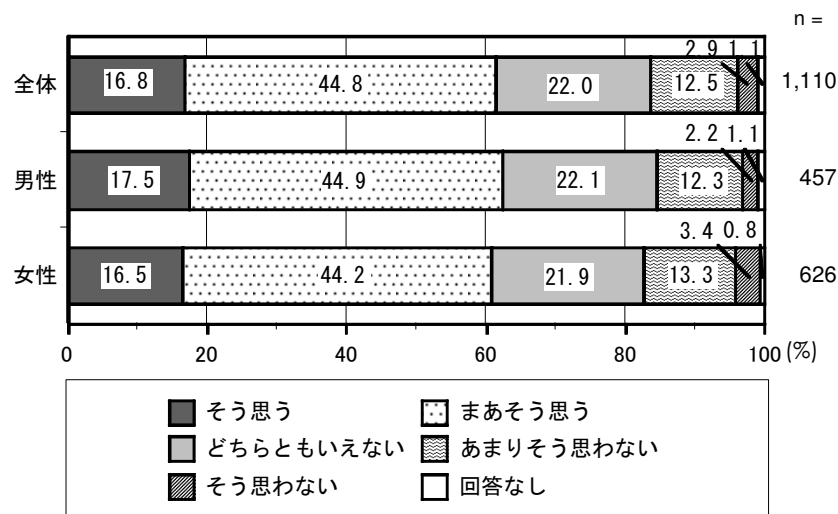
【全体】（図 7-2-1）

- 「まあそう思う」が44.8%と最も多くなっています。ここに「そう思う」の16.8%を合わせると、61.6%の人が“健康に気がつかった暮らしができている”と考えています。
- 一方、「あまりそう思わない」は12.5%、「そう思わない」は2.9%と、“健康に気がつかった暮らしができている”と考える人は15.4%でした。

【性別】（図 7-2-1）

- 性別による有意な差は認められません。

図 7-2-1 性別「健康に気がつかった暮らし」

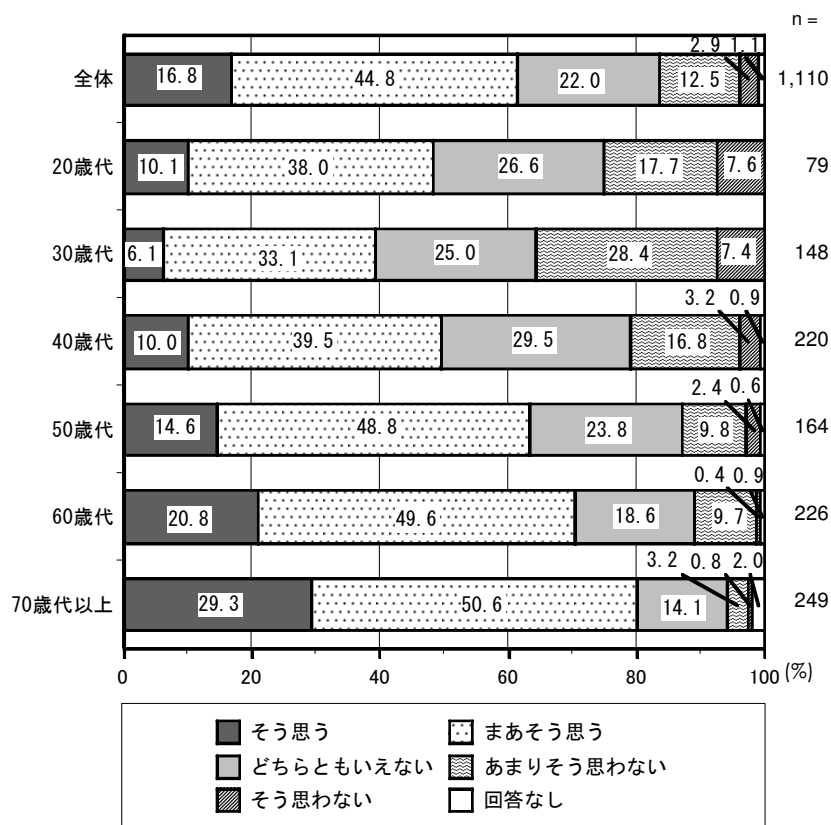


【年齢別】 (図 7-2-2)

○年代別では大きな差がみられ、70歳代以上は「そう思う」が29.3%、「まあそう思う」が50.6%と、合わせると約8割の人が“健康に気がつかった暮らしができています”としています。

○この傾向は年代が若くなるにつれて低下し、60歳代で70.4%、50歳代で63.4%、40歳代で49.5%、30歳代においては、39.2%となり、「あまりそう思わない」が28.4%、「そう思わない」が7.4%と、合わせると35.8%と“健康に気がつかった暮らしができていない”と考える人が他の世代に比べ、最も多くなっています。

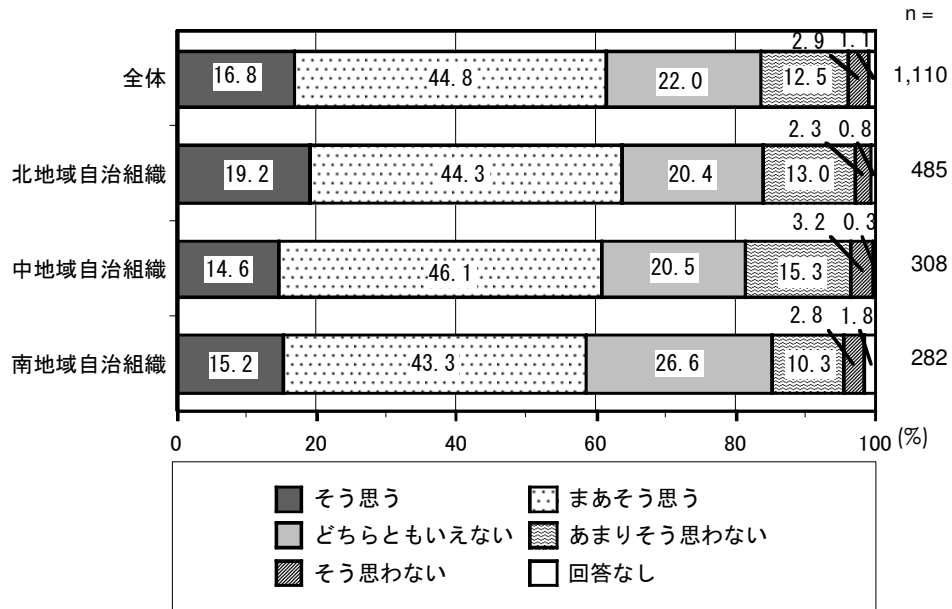
図 7-2-2 年齢別「健康に気がつかった暮らし」



【居住地域別】 (図 7-2-3)

○北地域自治組織において、「そう思う」が 19.2%と他の地区に比べ、若干多くなっていますが、これは高齢者の割合が高いためと思われます。

図 7-2-3 居住地域別「健康に気がつかった暮らし」



7-3 かかりつけ医の有無 (問 23)

問 23 あなたには「かかりつけ医」がいますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の 64.4%が“かかりつけ医がいる”と答えています。若い世代では半数以下と少ないのですが、高齢になるにつれて、かかりつけ医を持つ人は増え、健康への不安感も最も高い 70 歳代以上では約 9 割となっています。

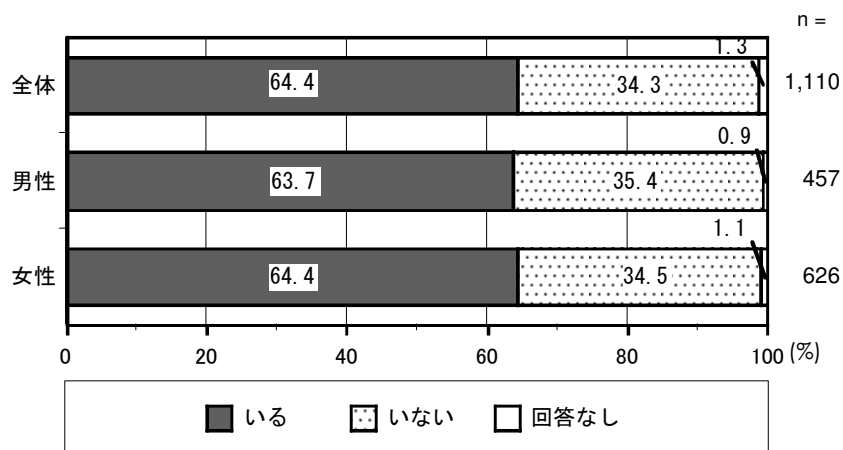
【全体】 (図 7-3-1)

○かかりつけ医が「いる」は 64.4%と、「いない」の 34.3%を上まわりました。

【性別】 (図 7-3-1)

○性別による有意な差は認められません。

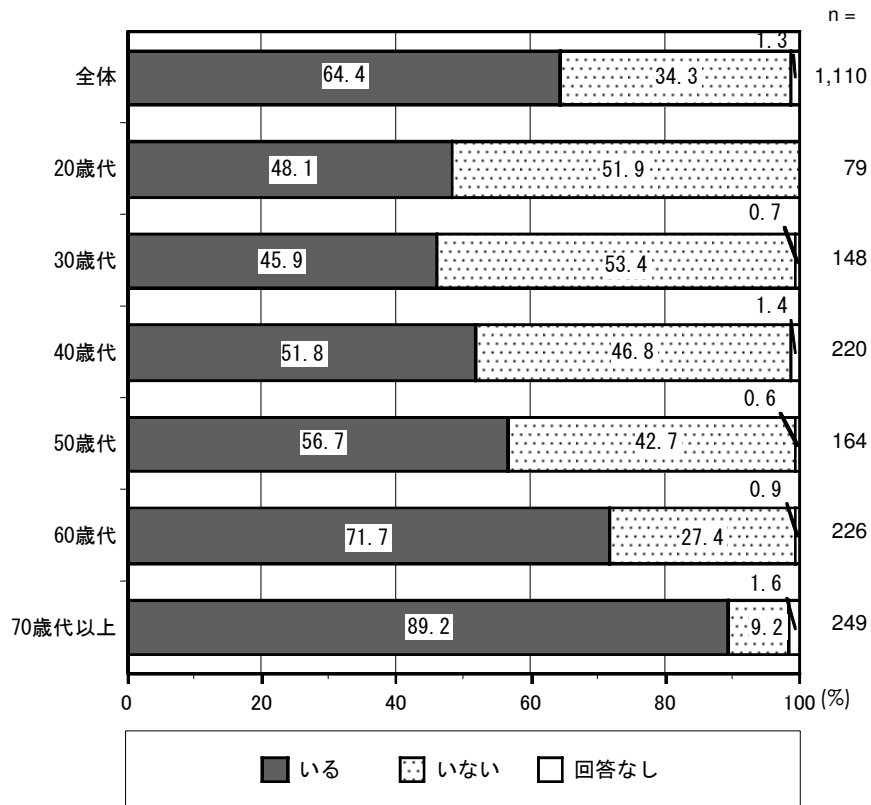
図 7-3-1 性別「かかりつけ医の有無」



【年齢別】 (図 7-3-2)

○かかりつけ医が「いる」割合は、20歳代は48.1%、30歳代では45.9%と、若い世代では半数に満たないのに対し、年代があがるにつれて、増加し、70歳代以上では89.2%と9割近くになっています。

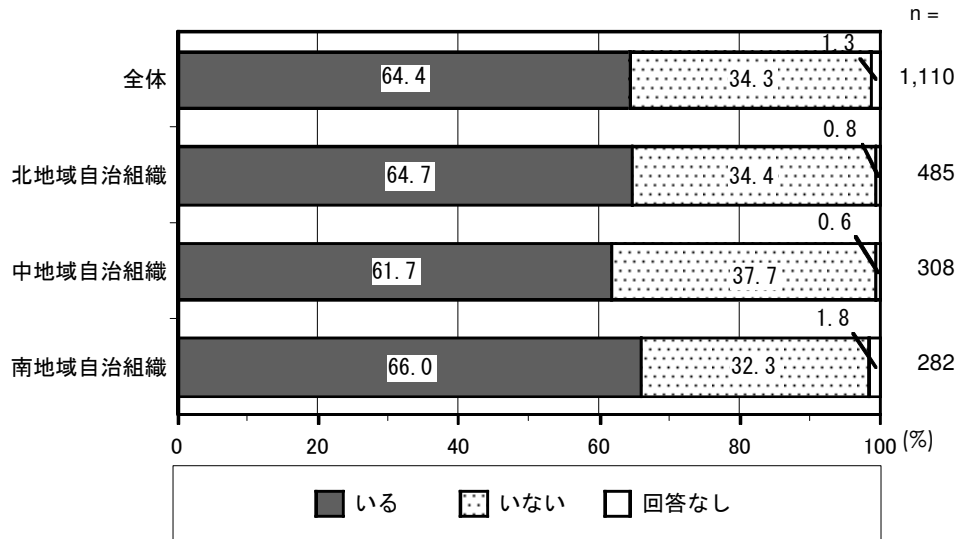
図 7-3-2 年齢別「かかりつけ医の有無」



【居住地域別】 (図 7-3-3)

○南地域自治組織では「いる」が66.0%、北地域自治組織では64.7%と、中地域自治組織の61.7%に比べ、若干多くなっていますが、これは高齢者の割合が高いためと思われます。

図 7-3-3 居住地域別「かかりつけ医の有無」



7-4 歯科検診の受診 (問 24)

問 24 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に定期的に歯科の健康診査を受けましたか。
【回答数：○印を1つだけ】

ここ1～2年の間に治療目的以外で歯科を受診した人は46.8%、受診していない人は52.2%となっています。年代別でみると、若い世代での受診率が低く、20～40歳代は6割前後が受診していません。また男性よりも女性の方が受診率が高くなっています。

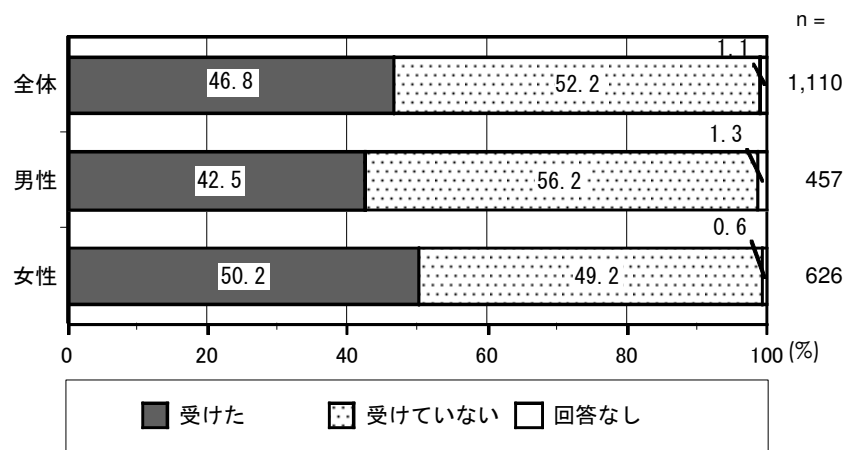
【全体】 (図 7-4-1)

○ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に歯科の健康診査を「受けた」は46.8%、「受けていない」は52.2%となっています。

【性別】 (図 7-4-1)

○女性の方が「受けた」が男性よりも7.7ポイント高くなっています。

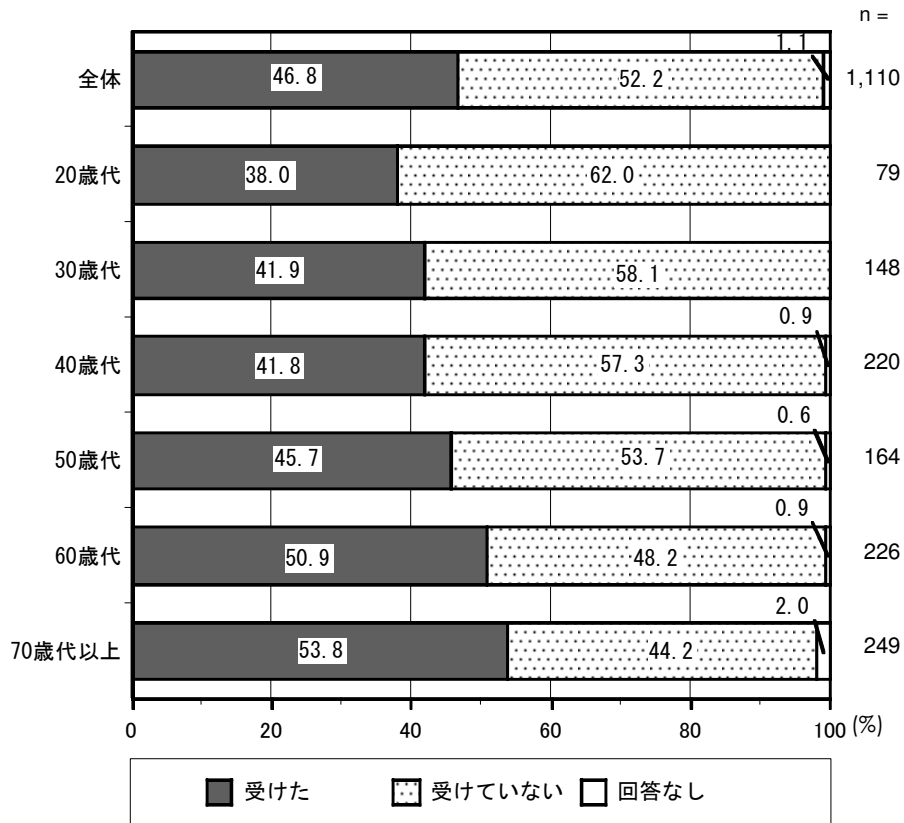
図 7-4-1 性別「歯科検診の受診」



【年齢別】 (図 7-4-2)

○20 歳代は「受けた」が 38.0%と最も少なく、年代が上がるにつれて、受診率も上がり、70 歳代以上では 53.8%となっています。

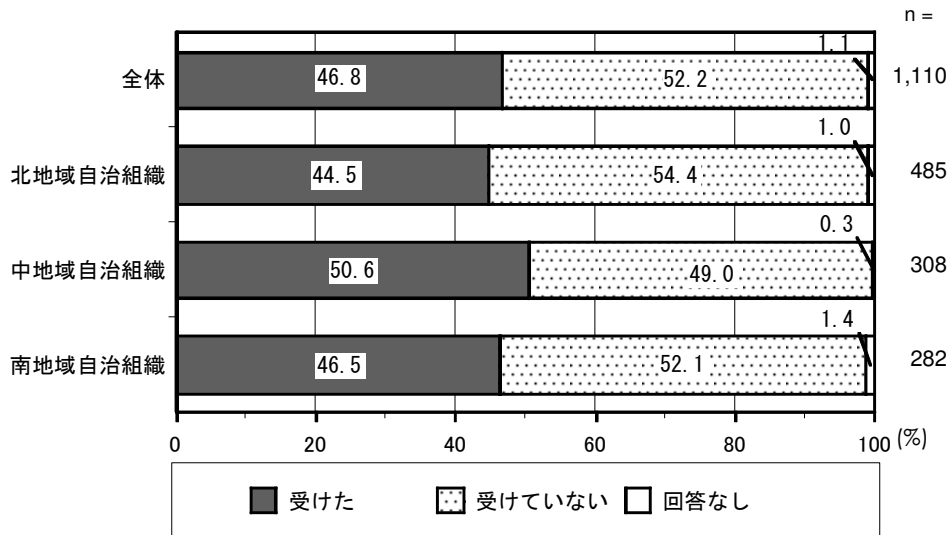
図 7-4-2 年齢別「歯科検診の受診」



【居住地域別】 (図 7-4-3)

○中地域自治組織では、「受けた」が 50.6%と、他の地区に比べ、多くなっています。中地域自治組織には、さつきヶ丘や垣田地区などの高齢化率が高く、比較的健康意識が高い地区があることなどが考えられます。

図 7-4-3 居住地域別「歯科検診の受診」



7-5 運動ができる環境（問 25）

問 25 お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

全体では7割以上の方が“気軽に運動できる場所や機会など、環境がある”としていますが、若い世代ほど、不足を感じる傾向にあります。また居住地区別では、南地域自治組織において、不足を感じる人が多くなっています。

【全体】（図 7-5-1）

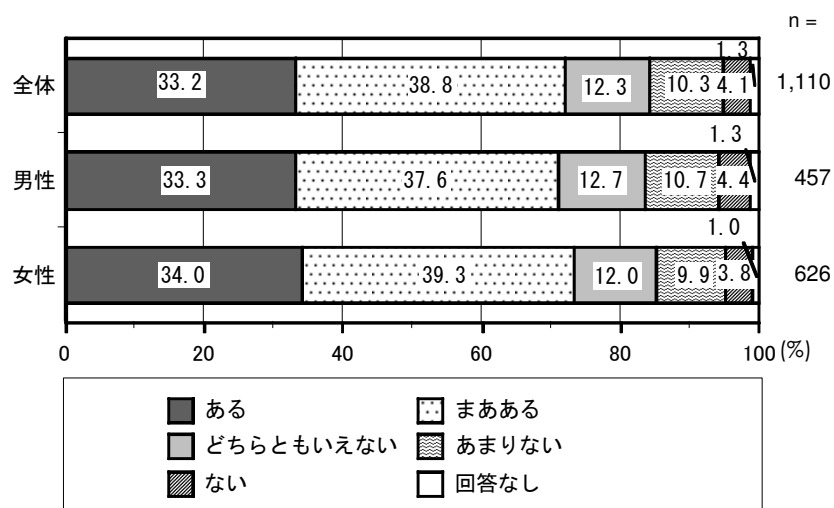
○「まあある」が38.8%と最も多く、「ある」の33.2%を合わせると、72.0%の人が“運動ができる環境はある”と評価しています。

○「あまりない」は10.3%、「ない」は4.1%となっています。

【性別】（図 7-5-1）

○女性の方が男性よりも“運動ができる環境はある”とする人が2.4ポイントと若干多くなっていますが、有意な差は認められません。

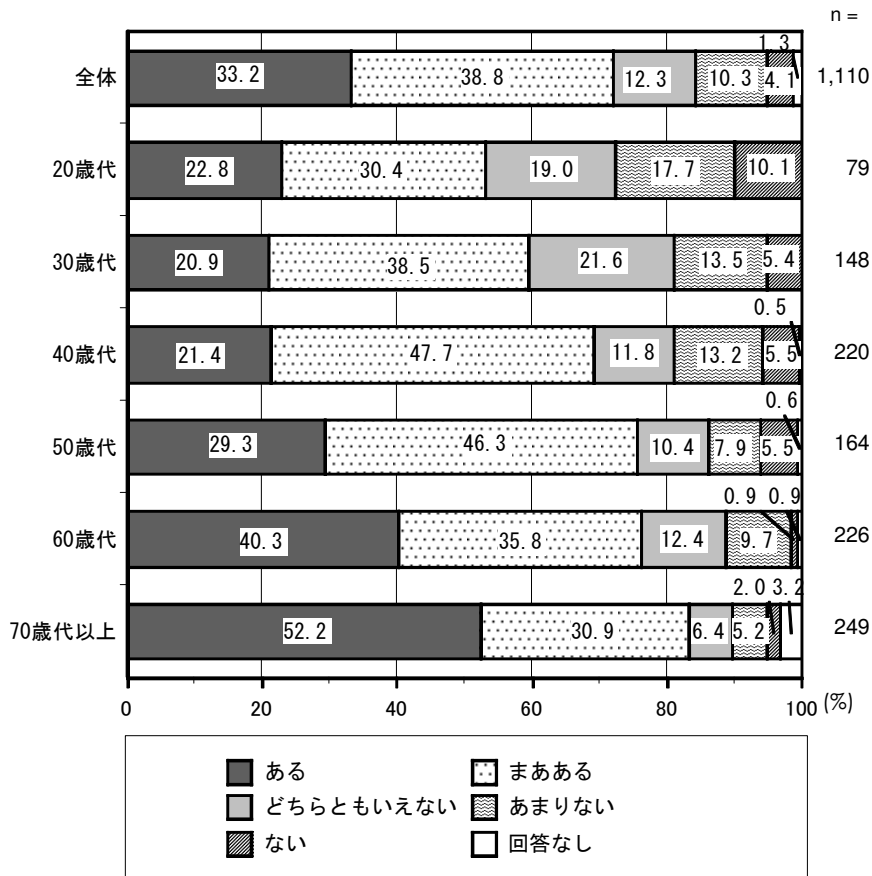
図 7-5-1 性別「運動ができる環境」



【年齢別】 (図 7-5-2)

○ “運動ができる環境がある” とする人が、70 歳代以上は 83.1% と非常に多いのに対し、年代が若くなるにつれ、その割合は低くなり、30 歳代では 59.4%、20 歳代においては 53.2% と、若い世代では” 運動ができる環境が不足している “と考える人が他の世代に比べ、多くなっています。

図 7-5-2 年齢別「運動ができる環境」

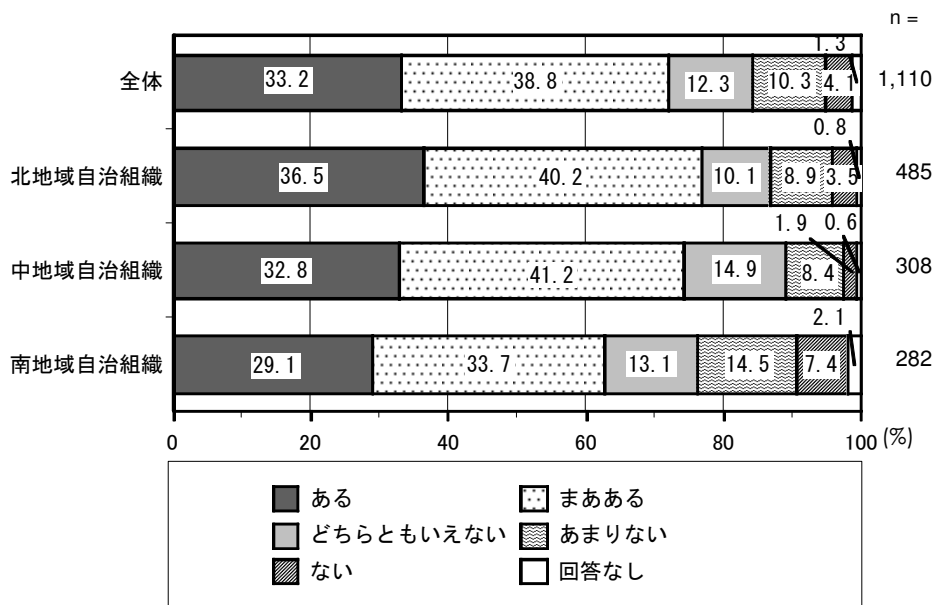


【居住地域別】 (図 7-5-3)

○北地域自治組織では「ある」が36.5%と他の地区に比べ、多くなっています。

○南地域自治組織では「あまりない」が14.5%、「ない」が7.4%といずれも他の地区に比べて多くなっています。当地域は農地が多く、また町の体育施設も中や北地域に多くあることから、運動ができる環境が不足していると考えられています。

図 7-5-3 居住地域別「運動ができる環境」



7-6 健康的な食生活 (問 26)

問 26 あなたは、健康的な食生活ができていると思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

全体では、57.2%の人が“健康的な食生活ができている”としています。男性よりも女性の方が、また若い世代よりも高齢者の方が、より健康的な食生活を心がけているようです。

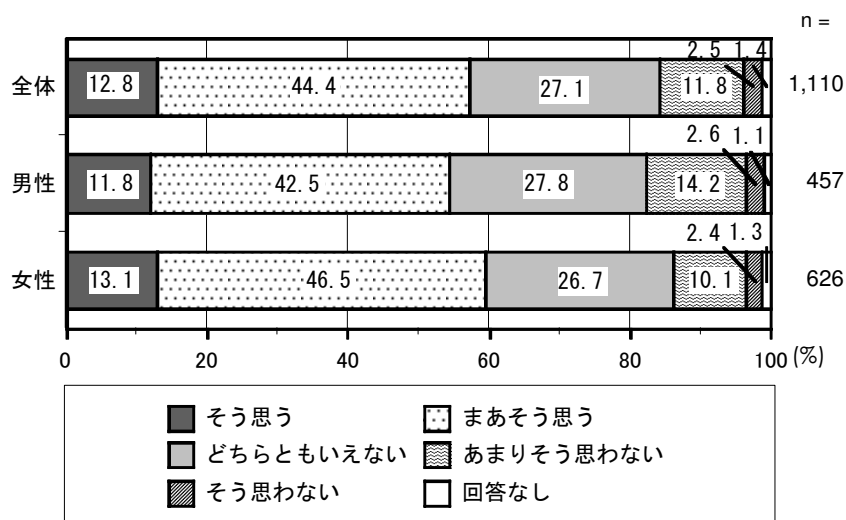
【全体】 (図 7-6-1)

- 「まあそう思う」が44.4%と最も多く、「そう思う」の12.8%と合わせると、57.2%の人が“健康的な食生活ができている”と考えています。
- 「どちらともいえない」が27.1%と2番目に多く、「あまりそう思わない」は11.8%、「そう思わない」は2.5%と、“健康的な食生活ができている”と考える人は14.3%となっています。

【性別】 (図 7-6-1)

- 男性よりも女性の方が“健康的な食生活ができている”人は5.3ポイント多くなっています。

図 7-6-1 性別「健康的な食生活」

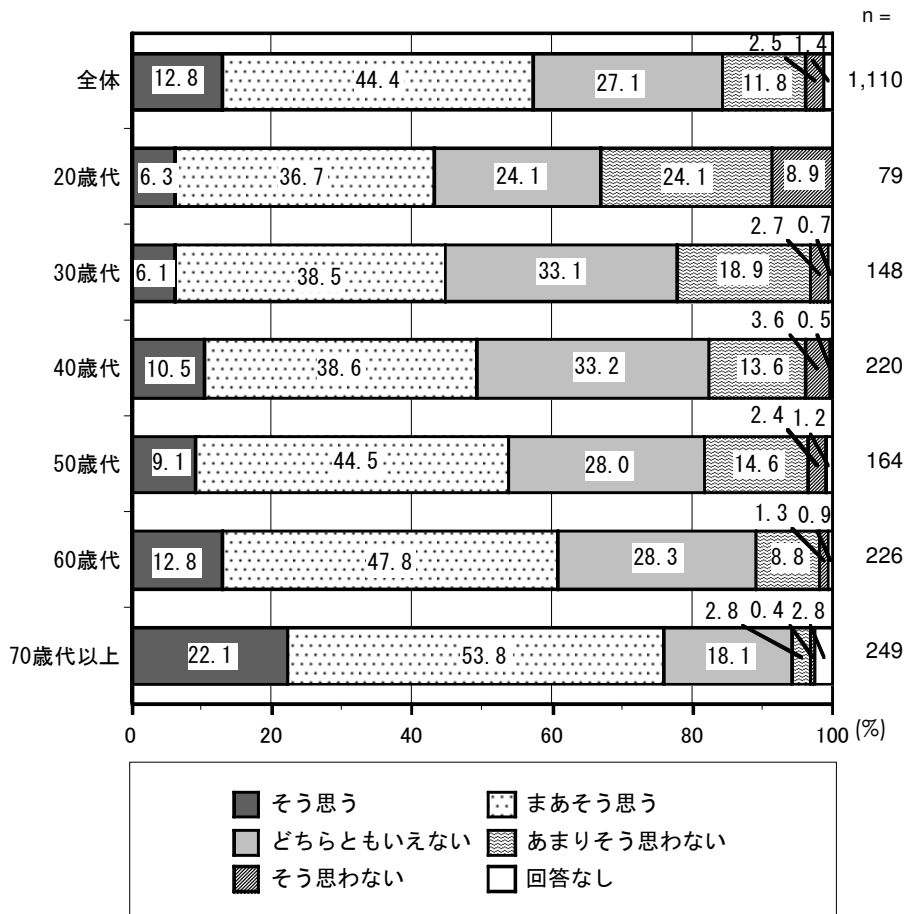


【年齢別】 (図 7-6-2)

○健康的な食生活に関しては、年代が上がるほど、“できている”とする人が増え、70歳代以上では75.9%と非常に多くなっています。

○20歳代において、「あまりそう思わない」が24.1%、「そう思わない」が8.9%と、他の世代に比べ、非常に多く、合わせると33.0%が“健康的な食生活ができていない”と自覚しています。

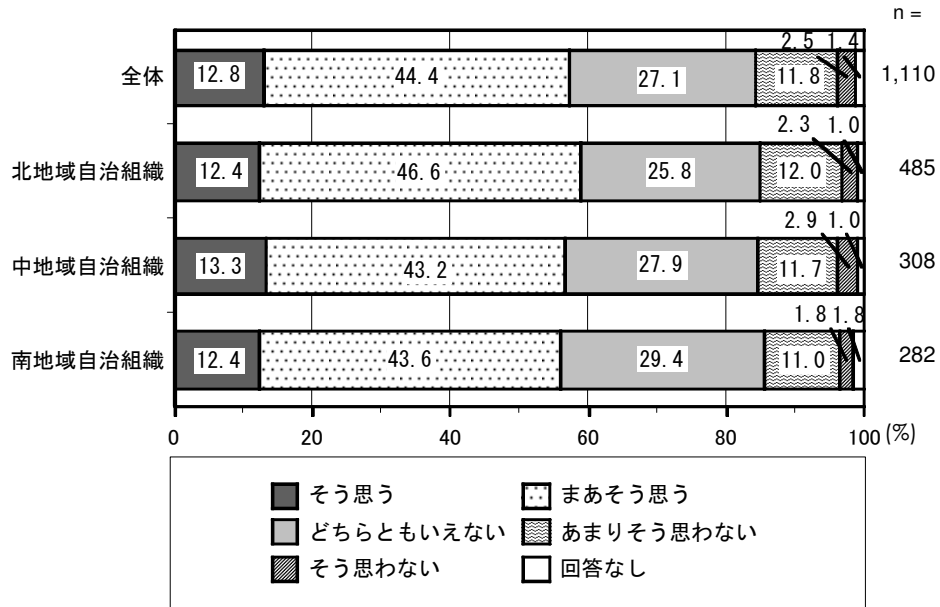
図 7-6-2 年齢別「健康的な食生活」



【居住地域別】 (図 7-6-3)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図 7-6-3 居住地域別「健康的な食生活」



7-7 朝食の摂取 (問 27)

問 27 あなたは、毎日朝食を食べていますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の 91.3%が“毎日あるいはほぼ毎日朝食を食べている”と答えました。高齢者は朝食摂取率が非常に高いのですが、若い世代では低くなる傾向にあり、特に 20 歳代においては 5.1%が「まったく食べていない」としています。

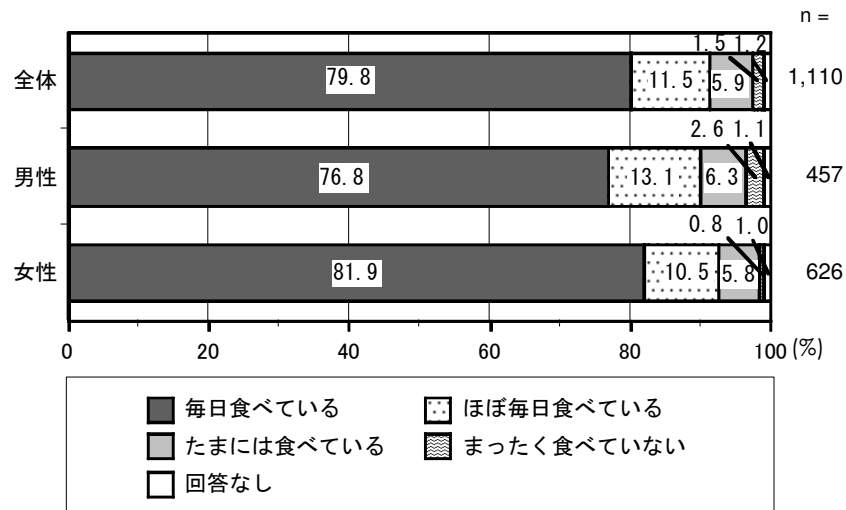
【全体】 (図 7-7-1)

○「毎日食べている」が 79.8%と最も多く、「ほぼ毎日食べている」が 11.5%、「たまには食べている」が 5.9%と続き、「まったく食べていない」は 1.5%にとどまりました。

【性別】 (図 7-7-1)

○男性よりも女性の方が、「毎日食べている」が 5.1 ポイント高くなっています。

図 7-7-1 性別「朝食の摂取」

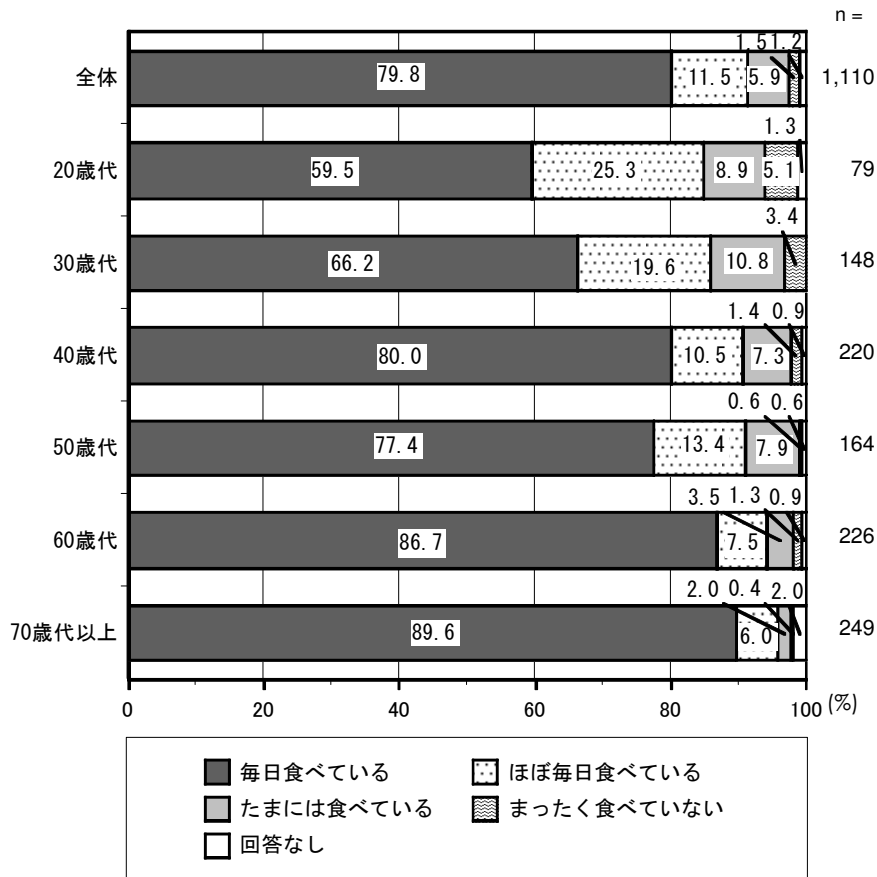


【年齢別】 (図 7-7-2)

○朝食の摂取率は、若い世代において低くなる傾向にあり、20歳代では「毎日食べている」が59.5%、「まったく食べていない」が5.1%となっています。

○40歳代以上では「まったく食べていない」はいずれも1%未満と少なくなっています。

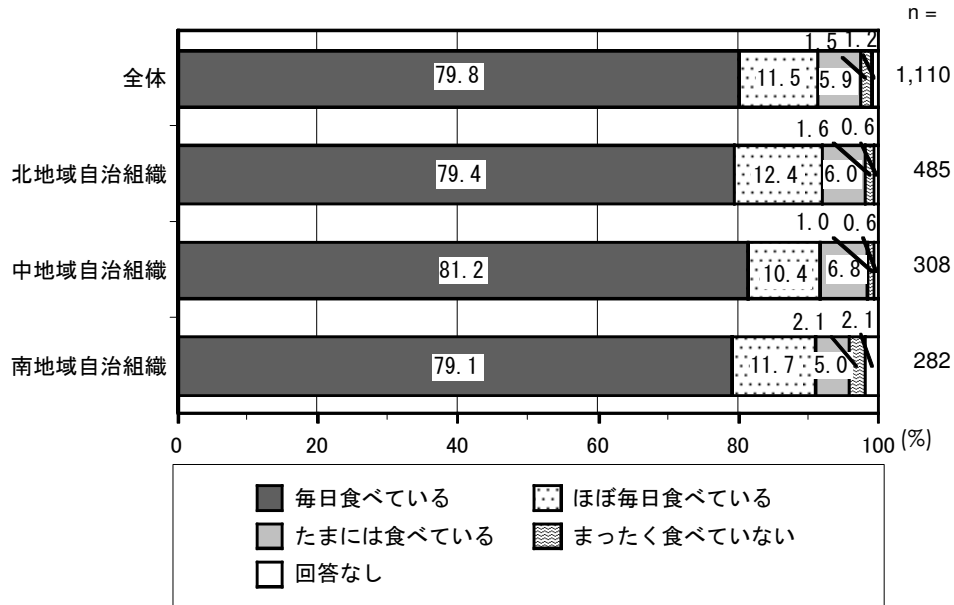
図 7-7-2 年齢別「朝食の摂取」



【居住地域別】 (図 7-7-3)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図 7-7-3 居住地域別「朝食の摂取」



7-8 地産地消を意識した購買行動（問28）

問28 あなたは、地産地消を意識して食材の買い物を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「あまり意識していない」が45.8%と最も多く、“地産地消を意識した購買行動”はまだ浸透しているとは言えません。特に若い世代において、「まったく意識していない」人が20歳代で27.8%、30歳代で15.5%と目立って多くなっています。

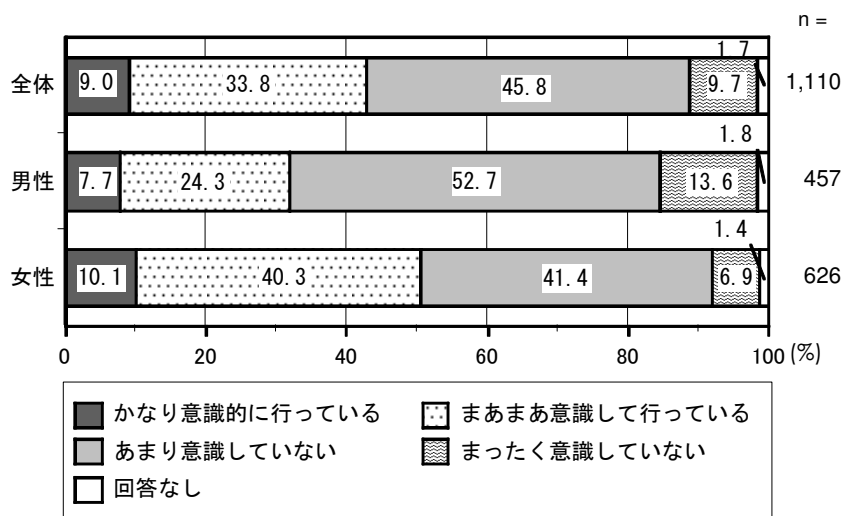
【全体】（図7-8-1）

○「あまり意識していない」が45.8%と最も多く、「まあまあ意識して行っている」が33.8%と続きます。これに「かなり意識的に行っている」の9.0%を合すると”地産地消を意識した購買行動“の浸透率は4割強となっています。

【性別】（図7-8-1）

○女性の方が男性よりも、“地産地消を意識した購買行動”をしている割合が非常に高く、「かなり意識的に行っている」の10.1%と「まあまあ意識して行っている」の40.3%を合わせると、50.4%であり、男性の32.0%よりも18.4ポイントも高くなっています。

図7-8-1 性別「地産地消を意識した購買行動」

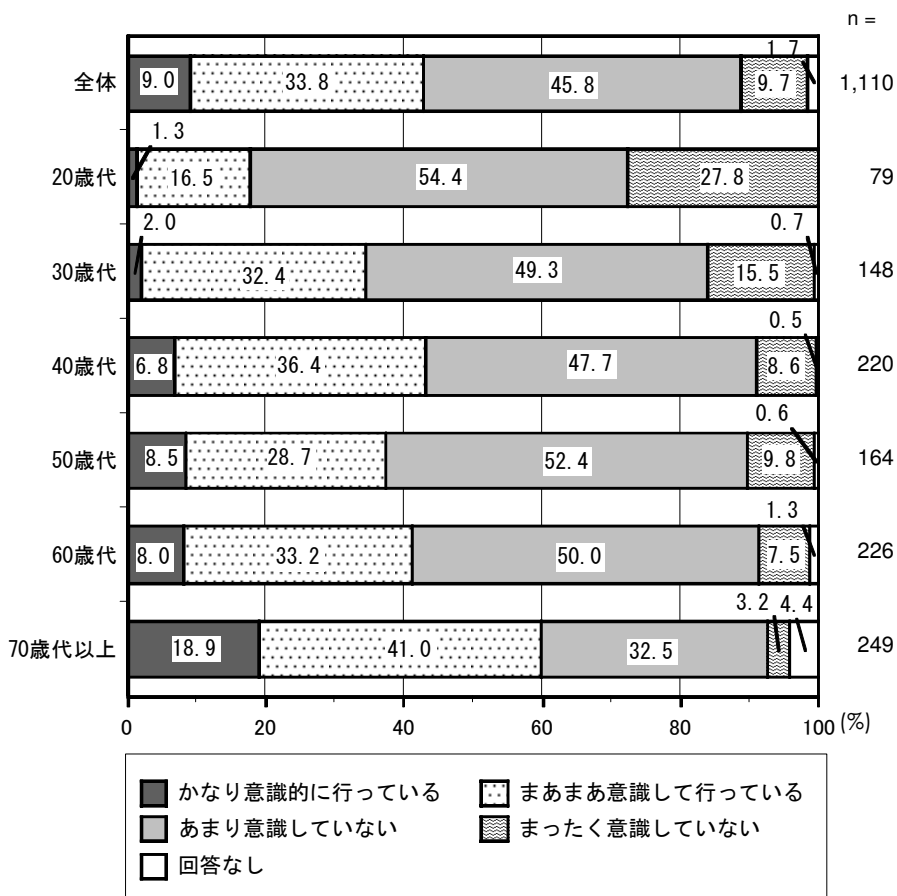


【年齢別】 (図 7-8-2)

○年齢別では20歳代において、「かなり意識的に行っている」が1.3%、「まあまあ意識的に行っている」が16.5%と目立って少なくなっています。

○70歳代以上は「かなり意識的に行っている」が18.9%、「まあまあ意識的に行っている」が41.0%と、合わせると約6割の人が“地産地消を意識した購買行動”をしています。

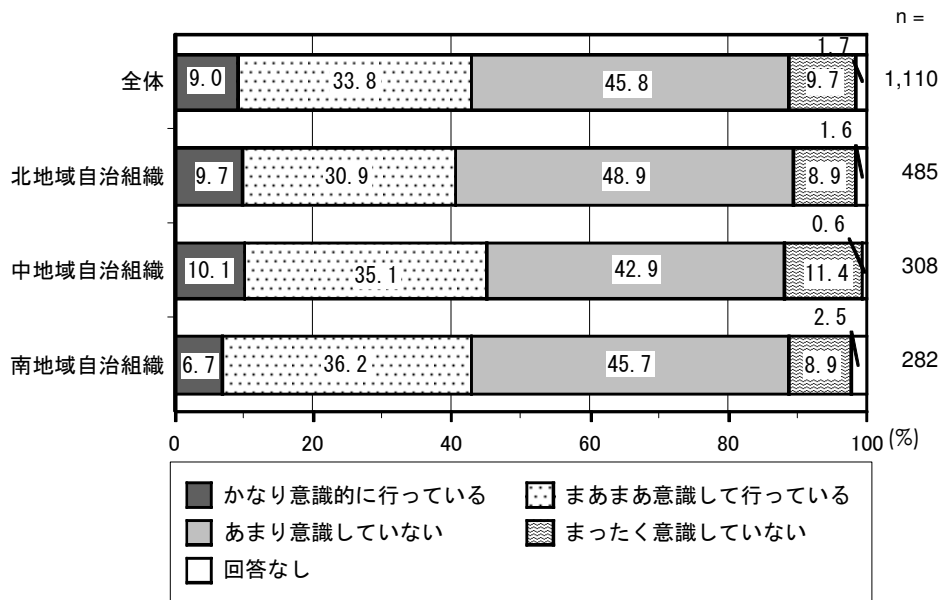
図 7-8-2 年齢別「地産地消を意識した購買行動」



【居住地域別】 (図 7-8-3)

○中地域自治組織において、他の地区よりも“地産地消を意識した購買行動”をする人が多くなっています。

図 7-8-3 居住地域別「地産地消を意識した購買行動」



7-9 心豊かな生活 (問29)

問29 あなたは、日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の半数以上が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”と答えています。女性の方がその傾向は強く、また、20歳代と70歳代以上で、特に多くなっています。

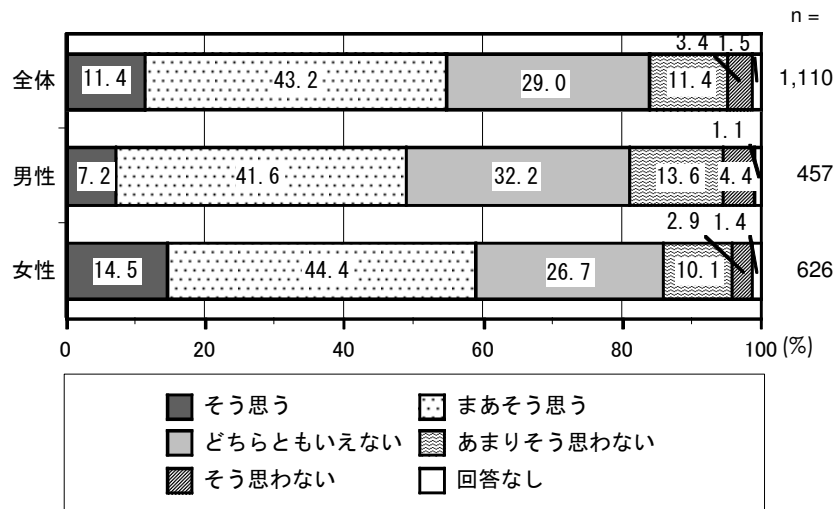
【全体】 (図7-9-1)

- 「まあそう思う」が43.2%と最も多く、ここに「そう思う」の11.4%を合わせると、54.6%が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”と考えています。
- 「どちらともいえない」が29.0%と、二番目に多くなっています。
- 「あまりそう思わない」の11.4%と、「そう思わない」の3.4%と合わせると“日頃から笑顔で心豊かな生活ができていない”と考える人は14.8%です。

【性別】 (図7-9-1)

- 男性よりも女性の方が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”人は非常に多く、「そう思う」は7.3ポイント、「まあそう思う」は2.8ポイント高くなっています。

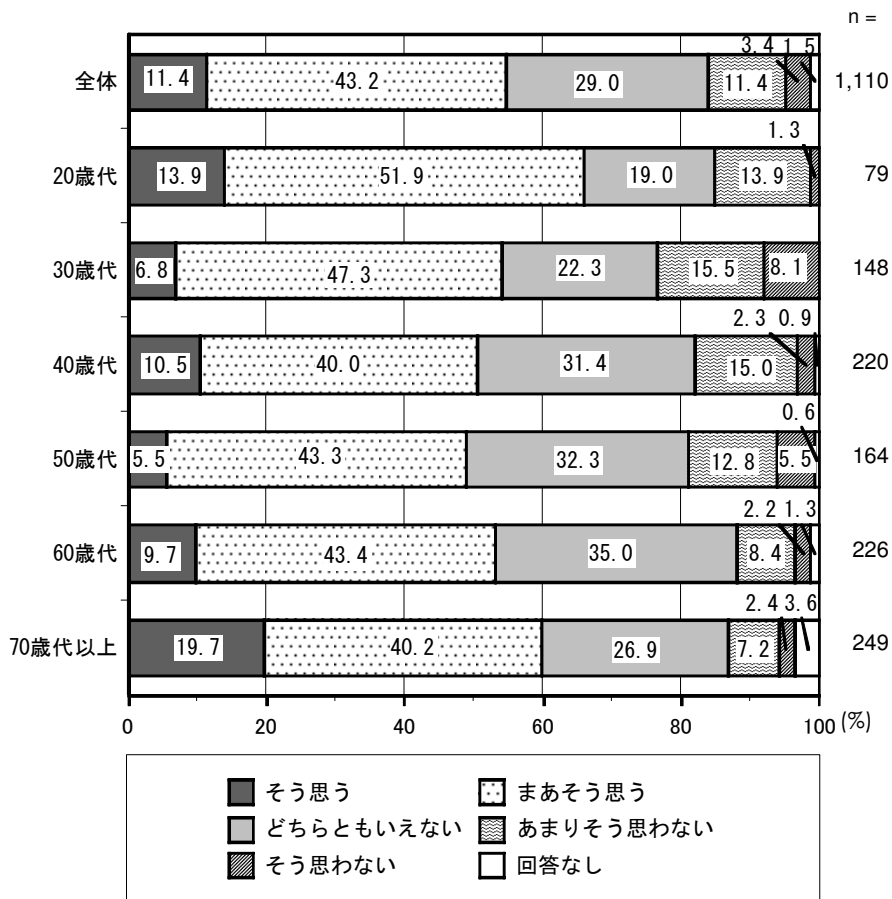
図7-9-1 性別「心豊かな生活」



【年齢別】 (図 7-9-2)

- 「そう思う」は70歳代以上において、19.7%と目立って多くなっています。
- 20歳代において、「そう思う」の13.9%、「まあそう思う」の51.9%を合わせると、“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”人は64.8%と他の世代に比べて多くなっています。
- 40～60歳代は「どちらともいえない」がいずれも30%を超え、他の世代に比べて多くなっています。

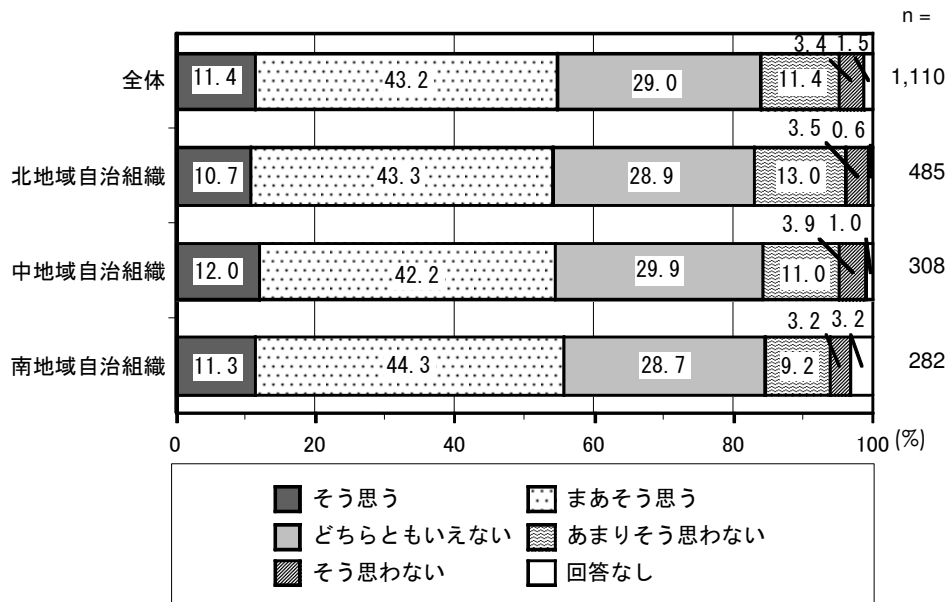
図 7-9-2 年齢別「心豊かな生活」



【居住地域別】 (図 7-9-3)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図 7-9-3 居住地域別「心豊かな生活」



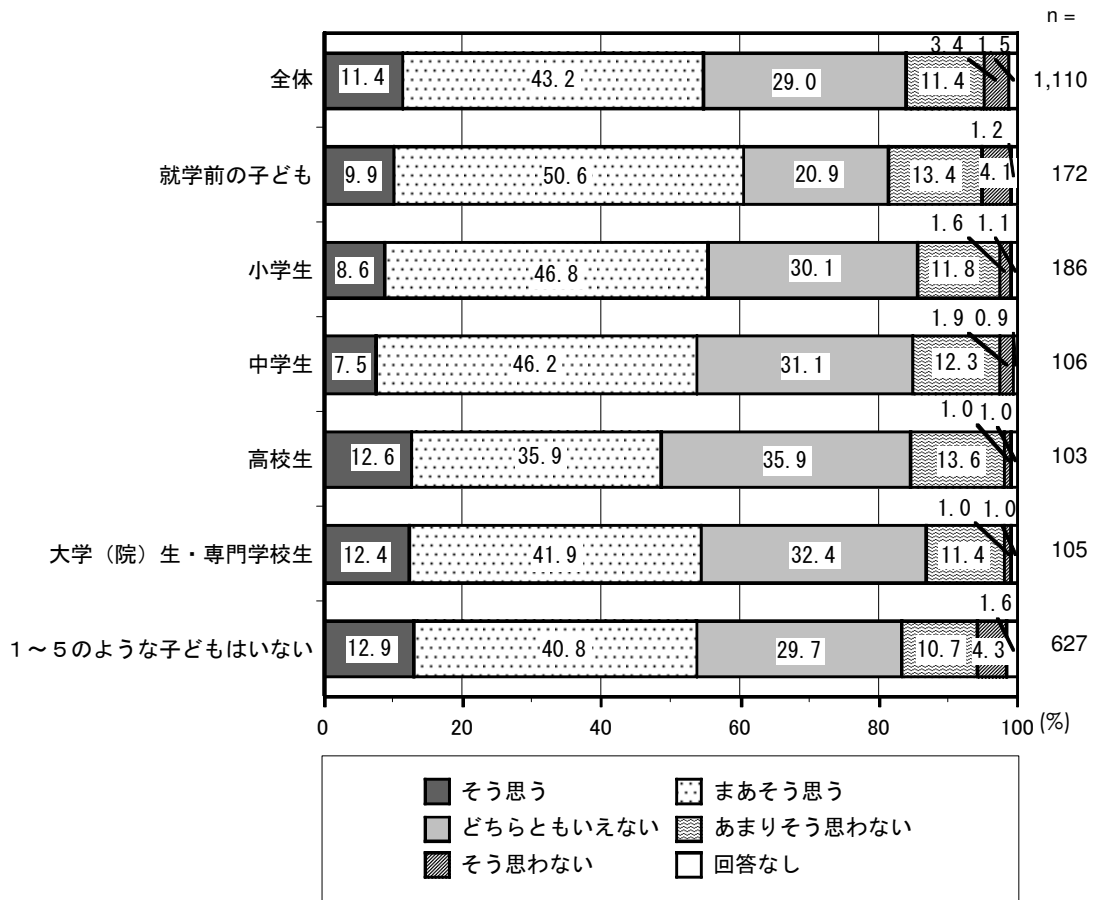
【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 7-9-4)

○子どもの有無、および子どもの学齢別にみると、就学前の子どもを持つ回答者において、“日頃から笑顔で心豊かな生活ができている”は60.5%と高くなっています。

○「そう思う」は大学(院)生・専門学校生以下の子どもは少ない回答者において、12.9%と最も多くなっています。

○高校生の子どもを持つ回答者は「そう思う」が12.6%と多くなっていますが、「どちらともいえない」も35.9%と非常に多くなっています。

図 7-9-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「心豊かな生活」



7-10 力を入れるべき健康づくり施策（問30）

問30 大口町では、次のような健康づくりの施策を実施していますが、今後、どの施策により一層力を入れるべきと思われますか。【回答数：3つまで〇印】

「健康診断やがん検診の充実」が65.0%、「健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実」が41.7%と、よりいっそう力をいれるべきだと考えられています。また、若い世代は疾病の早期発見のための施策を、高齢世代は健康維持・増進のための施策をより強く望んでいます。

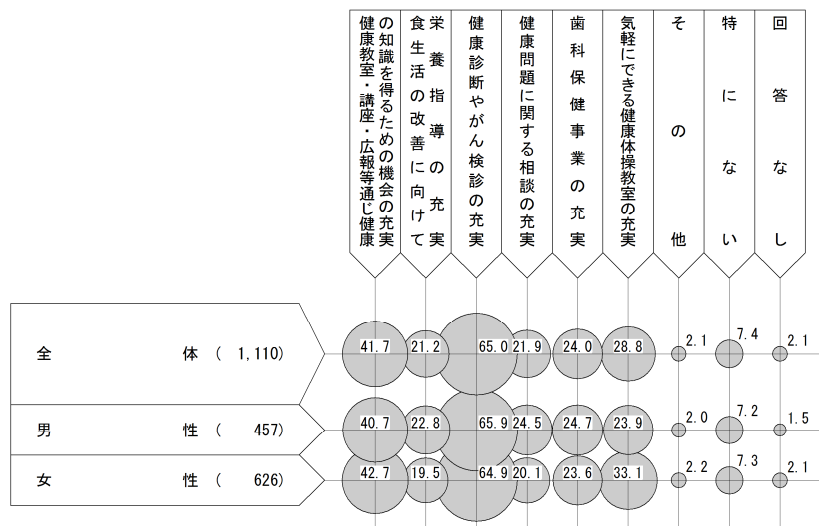
【全体】（図7-10-1）

- 「健康診断やがん検診の充実」が65.0%、「健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実」が41.7%と目立って多くなっています。
- 次いで「気軽にできる健康体操教室の充実」が28.8%、「歯科保健事業（歯科健診・相談、フッ素塗布など）の充実」が24.0%、「健康問題にかんする相談の充実」が21.9%、「食生活の改善に向けて栄養指導の充実」が21.2%の順になっています。

【性別】（図7-10-1）

- 女性の「気軽に参加できる健康体操教室の充実」は男性よりも9.2ポイント高く、より強く望んでいます。それに対し、男性は「健康問題にかんする相談の充実」を4.4ポイント、「食生活の改善に向けて栄養指導の充実」を3.3ポイント、女性よりも強く望んでいます。

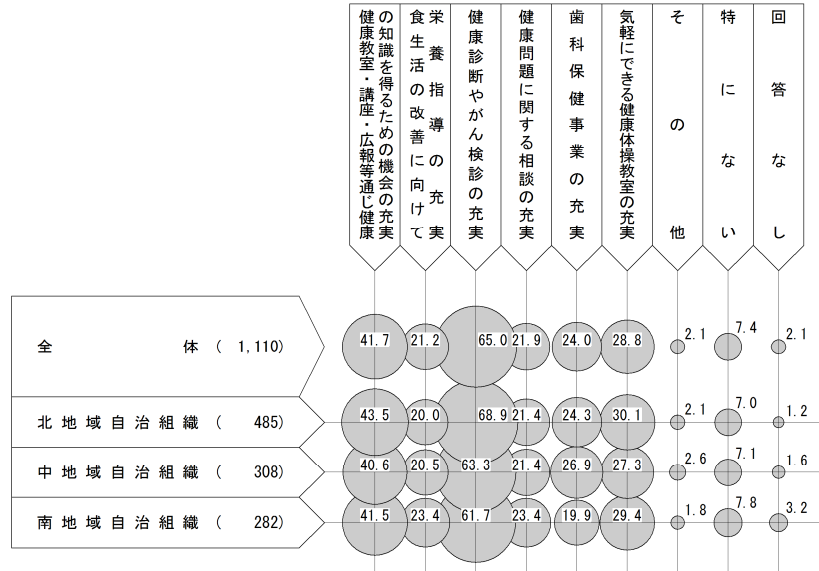
図7-10-1 性別「力を入れるべき健康づくり施策」



【居住地域別】 (図 7-10-3)

○居住地域別において、有意な差は認められません。

図 7-10-3 居住地域別「力を入れるべき健康づくり施策」



8. これからのライフスタイルと社会貢献について

8-1 豊かさの考え方 (問31)

問 31 今後の生活において、物の豊かさと心の豊かさに関して、次の考え方の中で、あなたの考え方に近いのはどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」のほうが、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」よりも多い結果となりましたが、平成17年度の調査からは「心の豊かさ」は減少し「まだまだ物質的な豊かさ」が増加しています。この傾向は20・30歳代において顕著で、近年の若い世代の経済的な苦しさがかうかがえます。

【全体】 (図8-1-1)

○「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」は43.5%と、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」の22.9%を20.6ポイント上回りました。

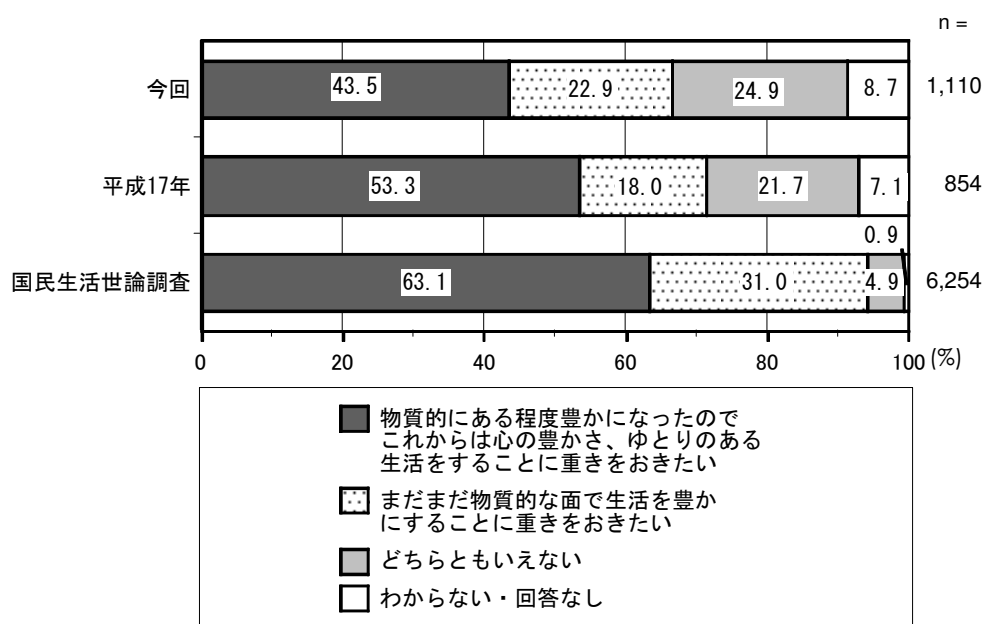
【前回比較】 (図8-1-1)

○平成17年調査から、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」は9.8ポイント減少し、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」は4.9ポイント増加しています。

【世論調査比較】 (図8-1-1)

○国民生活世論調査との比較では、両選択肢ともパーセンテージは低いのですが、これは本町のアンケート結果では「どちらともいえない」が24.9%と多いためだと考えられます。

図8-1-1 前回比較・世論調査比較「豊かさの考え方」



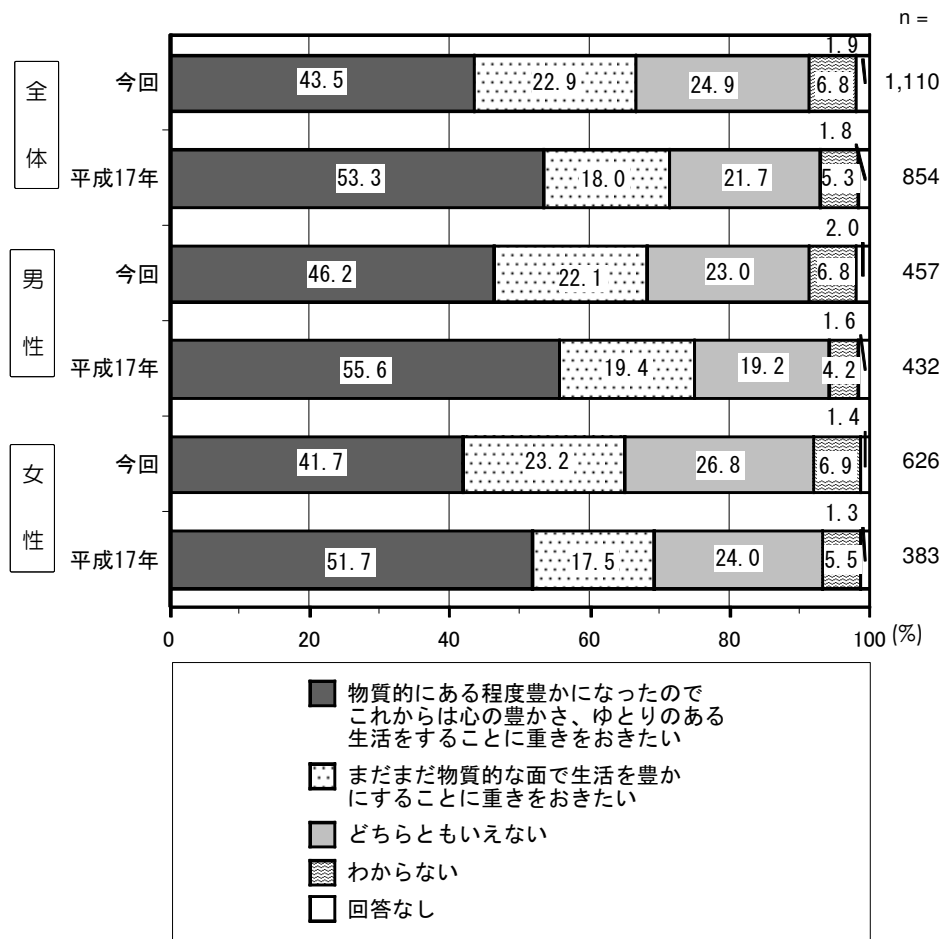
国民生活に関する世論調査(平成26年6月)

【性別（前回比較）】（図8-1-2）

○女性よりも男性の方が、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」と考える人が4.5ポイント多くなっています。

○平成17年度調査からの、性別における大きな差異はありません。

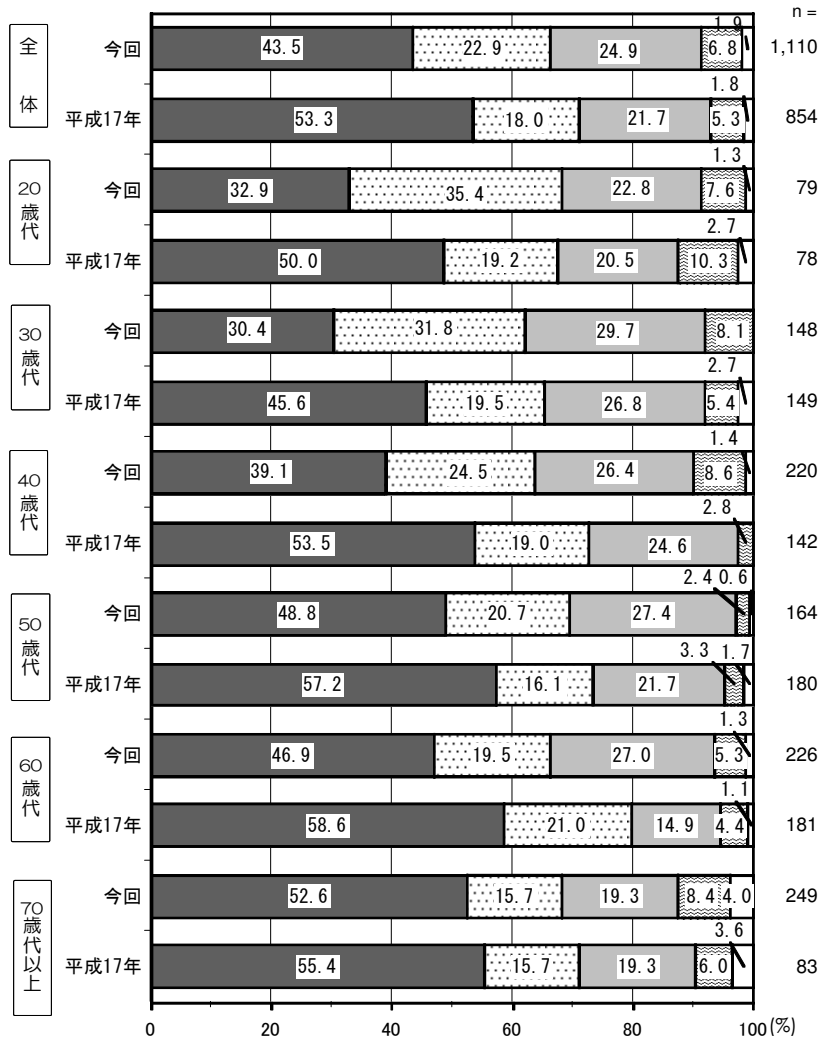
図8-1-2 性別（前回比較）「豊かさの考え方」



【年齢別（前回比較）】（図8-1-3）

○若い世代の方が、物質的な豊かさを求める人が多く、中でも 20・30 歳代は、今回の調査で「心の豊かさ、ゆとりのある生活」よりも「まだまだ物質的な豊かさ」の方が上回りました。

図8-1-3 年齢別（前回比較）「豊かさの考え方」

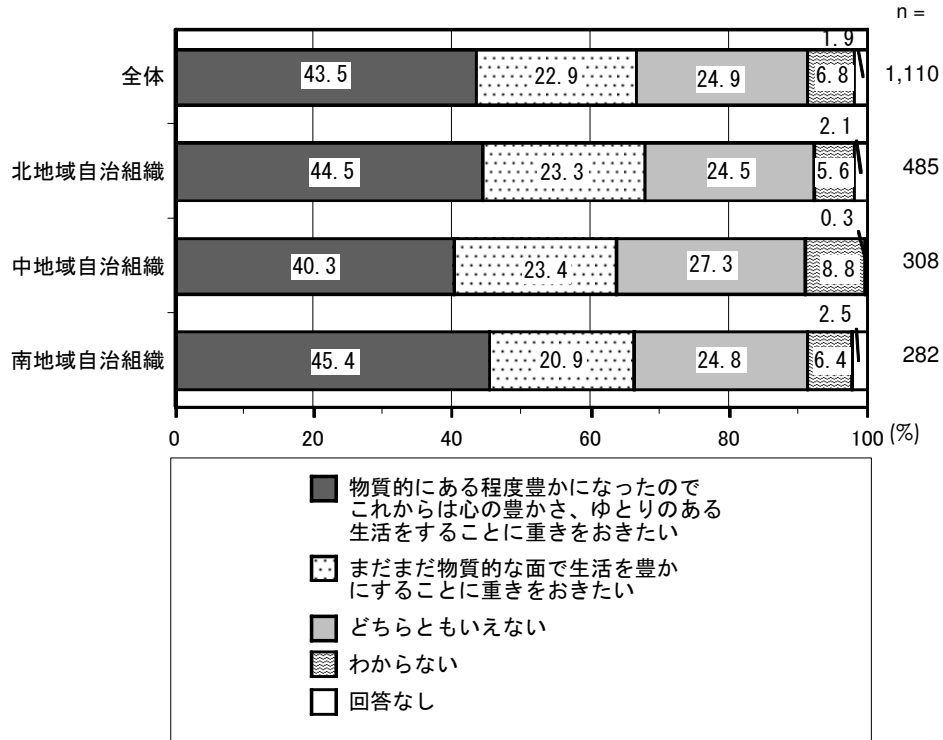


物質的にある程度豊かになったのでこれからは心の豊かさゆとりのある生活をするに重きをおきたい
 まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい
 どちらともいえない
 わからない
 回答なし

【居住地域別】 (図 8-1-4)

○中地域自治組織では「どちらともいえない」が他の地域に比べ、多くなっています。

図 8-1-4 居住地域別「豊かさの考え方」



8-2 時間をとりたい活動（問 32）

問 32 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

半数以上の人々が「趣味」と「健康づくり」を選択しています。20 歳代は「友人とのつきあい」、30 歳代は「子育て」、40 歳代は「趣味」、50 歳代以上は「健康づくり」と時間をとりたい活動の第 1 位は年代によって差が出ました。

【全体】（図 8-2-1）

○「趣味」が 56.4%、「健康づくり」が 55.8%と多くなっています。

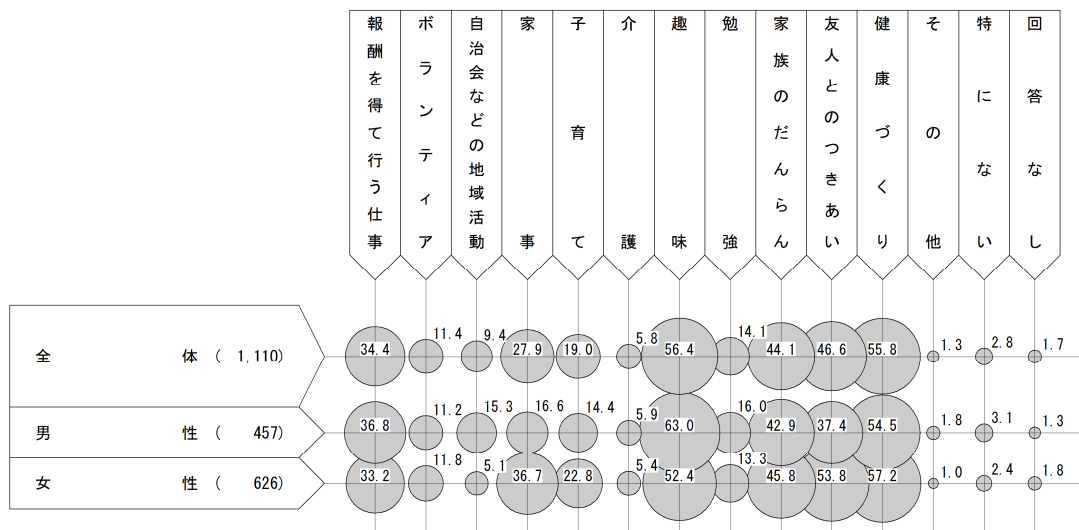
○次いで「友人とのつきあい」が 46.6%、「家族とのだんらん」が 44.1%、「報酬を得て行う仕事」が 34.4%の順になっています。

【性別】（図 8-2-1）

○女性は男性よりも「家事」が 20.1 ポイント、「友人とのつきあい」が 16.4 ポイント多くなっています。

○男性は女性よりも「趣味」が 10.6 ポイント、「自治会などの地域活動」が 10.2 ポイント多くなっています。

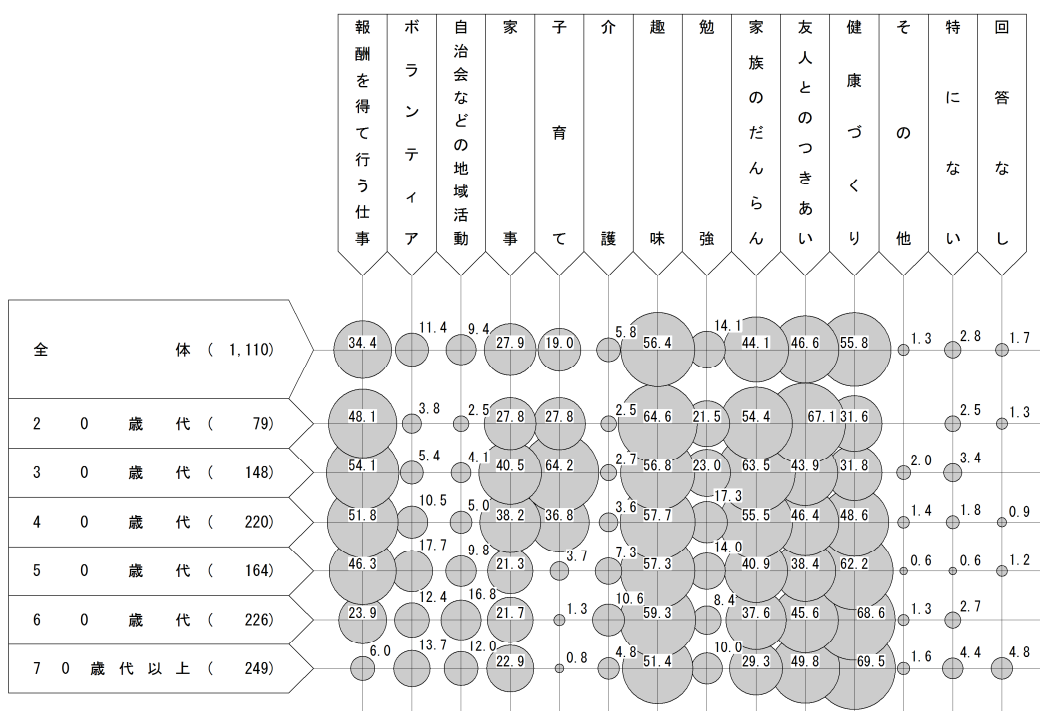
図 8-2-1 性別「時間をとりたい活動」



【年齢別】 (図8-2-2)

- 20 歳代は、「友人とのつきあい」を 67.1%と最も多く選び、「趣味」が 64.6%、「家族のだんらん」が 54.4%と続きます。
- 30 歳代は「子育て」が 64.2%、「家族のだんらん」が 63.5%と多く、「趣味」が 56.8%、「報酬を得て行う仕事」が 54.1%と続きます。
- 40 歳代は「趣味」を 57.7%と最も多く選び、「家族のだんらん」が 55.5%、「報酬を得て行う仕事」が 51.8%と続きます。
- 50 歳代以上になると、「健康づくり」が最も多くなっています。

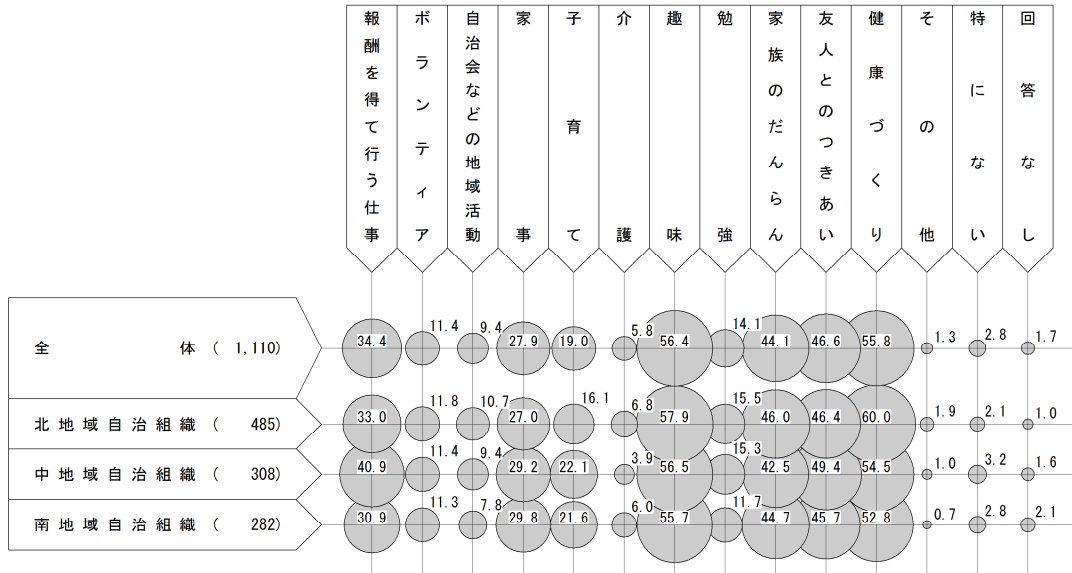
図8-2-2 年齢別「時間を取りたい活動」



【居住地域別】 (図 8-2-3)

○居住地別では有意な差は認められません。

図 8-2-3 居住地域別「時間を取りたい活動」



8-3 社会貢献に関する意識 (問 33)

問33 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【回答数：○印を1つだけ】

世論調査では何か社会のために役立ちたいと「思っている」人のほうが65.3%と多いのですが、大口町では「思っている」が38.3%と、「あまり考えていない」の48.6%を下回りました。また、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下する傾向にあります。

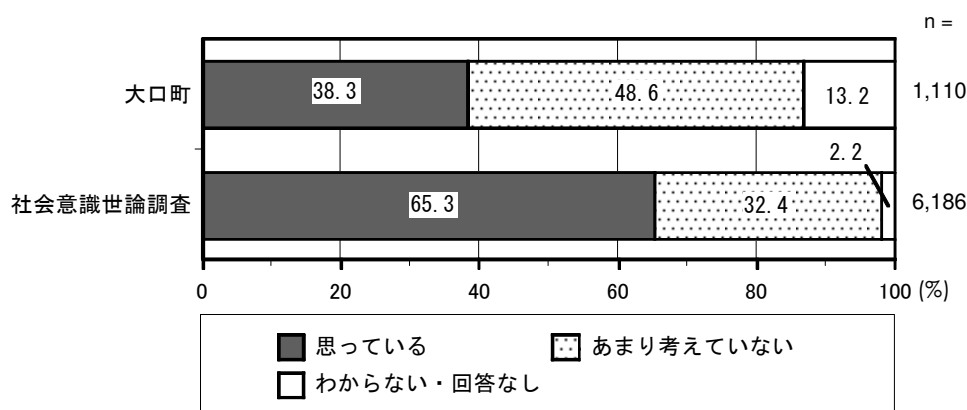
【全体】 (図8-3-1)

- 日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと「思っている」は38.3%と「あまり考えていない」の48.6%を下回りました。
- 「わからない・回答なし」は13.2%です。

【世論調査比較】 (図8-3-1)

- 平成26年の社会意識に関する世論調査では「思っている」が65.3%と、「思っていない」の32.4%を大きく上回っており、本町では“社会貢献に関する意識”が低いようです。

図8-3-1 世論調査比較「社会貢献に関する意識」

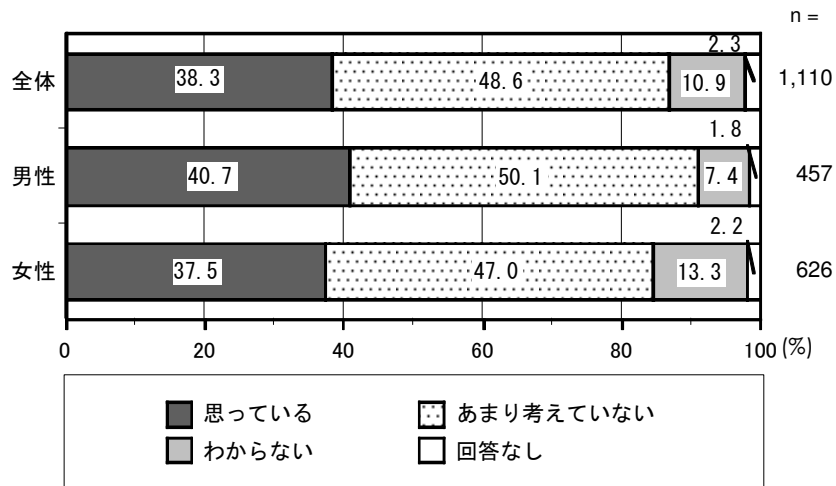


社会意識に関する世論調査(平成26年1月)

【性別】 (図8-3-2)

○男性は「思っている」が40.7%と、女性より3.2ポイント多くなっています。

図8-3-2 性別「社会貢献に関する意識」

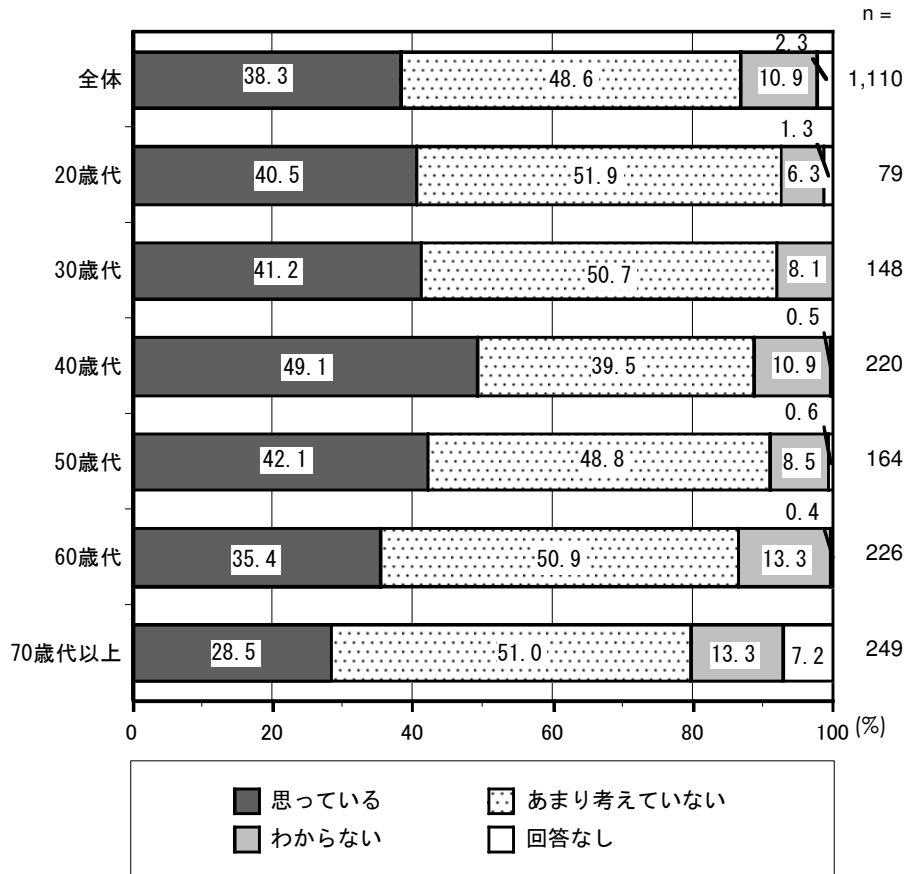


【年齢別】 (図 8-3-3)

○40 歳代において、「思っている」は 49.1%と最も多くなっています。

○60 歳代は「思っている」が 35.4%、70 歳以上は 28.5%と、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下しています。

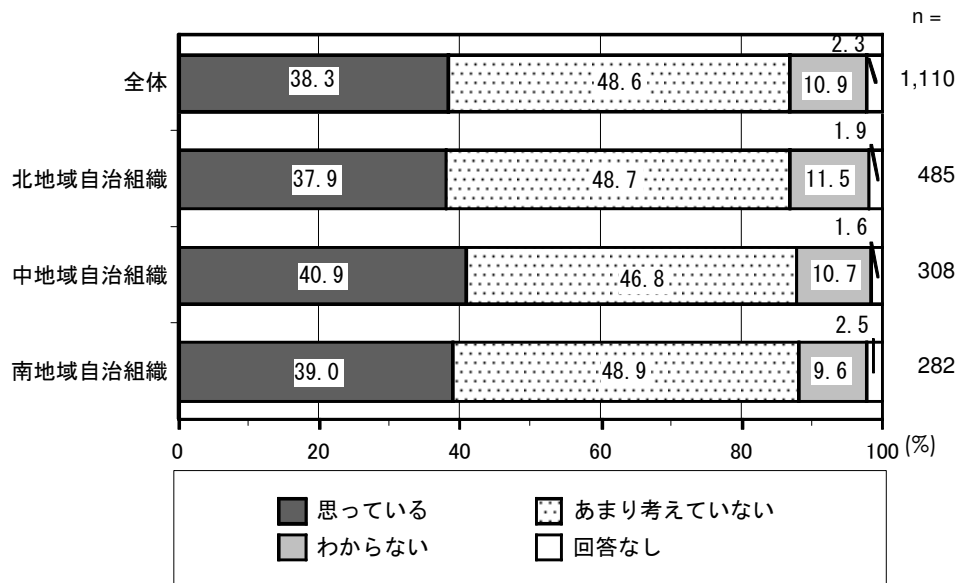
図 8-3-3 年齢別「社会貢献に関する意識」



【居住地域別】 (図8-3-4)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図8-3-4 居住地域別「社会貢献に関する意識」



8-4 具体的貢献内容（問34）

問34 問33で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っ
ているのはどのようなことですか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

前問で「思っている」と答えた425人のうち、30.6%が「自分の職業を通して」何か社会のために役立ちたいとしています。働く世代は「自分の職業を通して」を、子育て世代は「家事や子どもの養育を通して」をより多く選び、高齢になるにつれて、より具体的な活動を選んでいきます。

【全体】（図8-4-1）

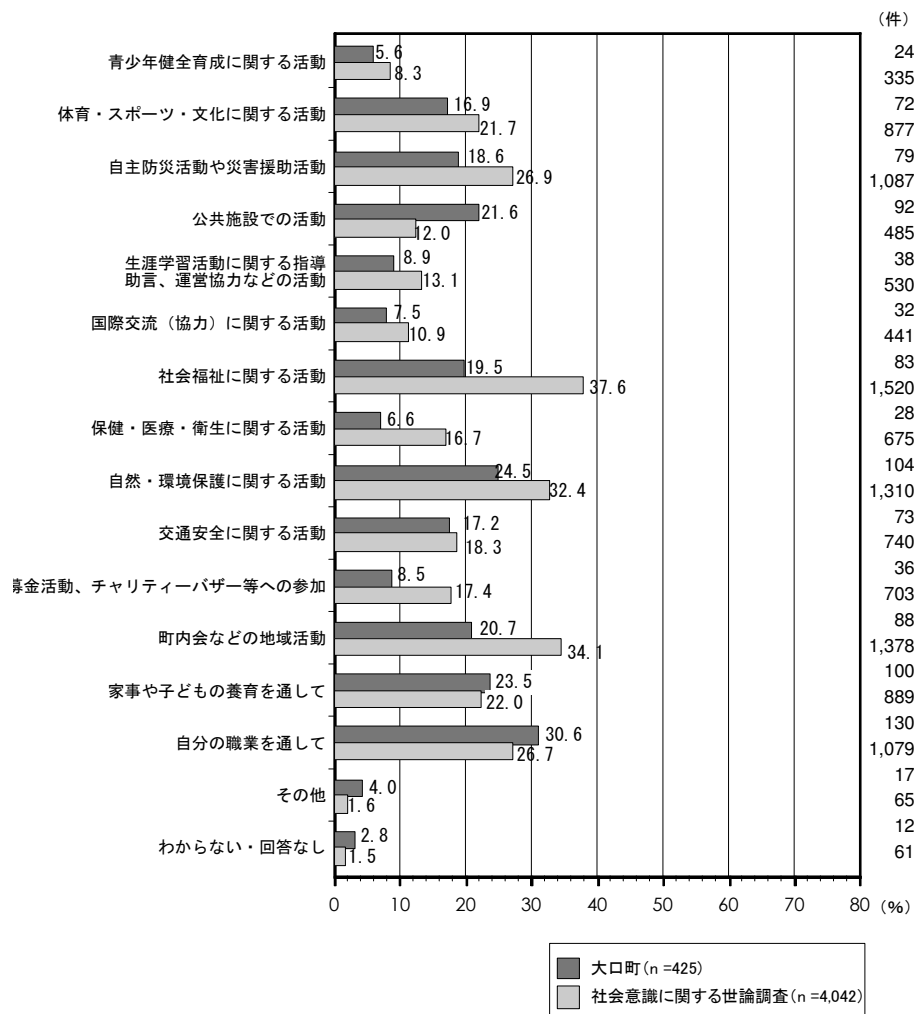
○社会貢献の具体的な内容は、「自分の職業を通して」が30.6%と、最も多く、「自然・環境保護に関する活動」が24.5%、「家事や子どもの養育を通して」が23.5%、「公共施設での活動」が21.6%と続きます。

【世論調査比較】（図8-4-1）

○世論調査では、順位が全く異なっており、大口町では6位であった「社会福祉に関する活動」が37.6%と最も多く、「町内会などの地域活動」が34.1%、「自然・環境保護に関する活動」が32.4%と続きます。

○大口町では1位の「自分の職業を通して」は世論調査では26.7%で、5位となっています。

図8-4-1 世論調査比較「具体的貢献内容」

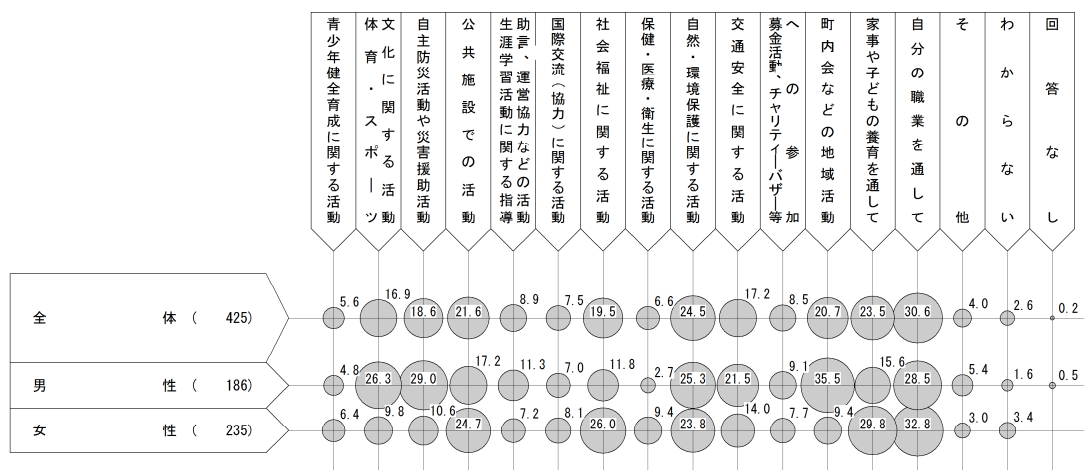


【性別】 (図8-4-2)

○男性は全体では5位であった「町内会などの地域活動」が35.5%と最も多く、「自主防災活動や災害援助活動」が29.0%、「自分の職業を通して」が28.5%と続きます。

○女性は「自分の職業を通して」が32.8%、「家事や子どもの養育を通して」が29.8%と日常生活の中の社会貢献をより望んでいます。

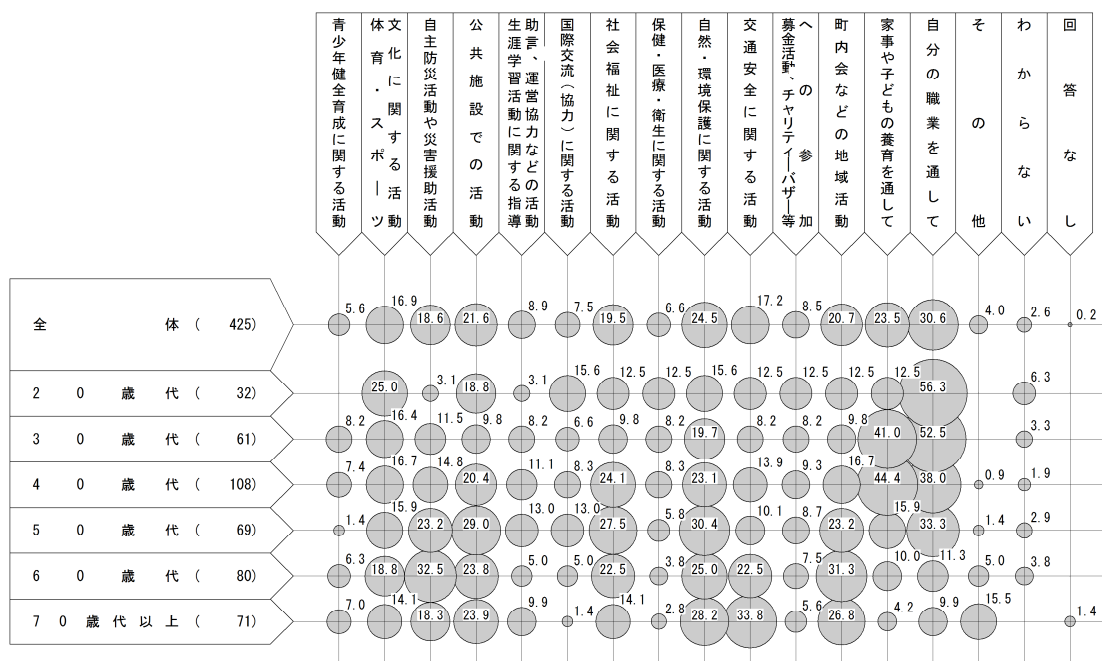
図8-4-2 性別「具体的貢献内容」



【年齢別】 (図8-4-3)

- 20～50 歳代の現役世代は「自分の職業を通して」が最も多く、20・30 歳代においては、半数以上が選択しています。
- 「家事や子どもの養育を通して」は子育て世代である30 歳代で41.0%、40 歳代で44.4%と多くなっています。
- 60・70 歳代は、“職業や育児を通して”ではなく、60 歳代は「自主防災活動や災害援助活動」を、70 歳以上は「交通安全に関する活動」を最も多く選び、より具体的な活動での社会貢献をあげています。

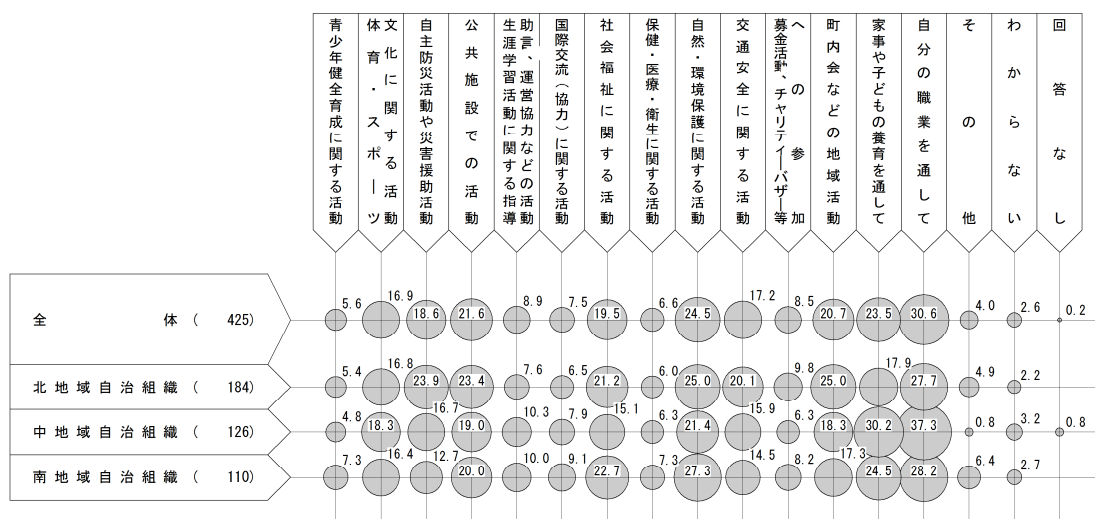
図8-4-3 年齢別「具体的貢献内容」



【居住地域別】 (図8-4-4)

- 北地域自治組織では「町内会などの地域活動」が4.3ポイント、「自主防災活動や災害援助活動」が5.3ポイント、全体よりも多くなっています。
- 中地域自治組織では「自分の職業を通して」が6.7ポイント、「家事や子どもの養育を通して」が6.7ポイント、全体よりも多くなっています。
- 南地域自治組織では「社会福祉に関する活動」が3.2ポイント全体よりも多くなっています。

図8-4-4 居住地域別「具体的貢献内容」



9. 人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について

9-1 地域でのあいさつ（問 35）

問35 あなたは、日常的に身近な地域の方々とあいさつをしていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「している」は43.2%、「まあしている」は39.1%と、合わせると8割以上が日常的に地域の方々とあいさつをしています。高齢になるほど、あいさつは活発に行われています。

【全体】（図9-1-1）

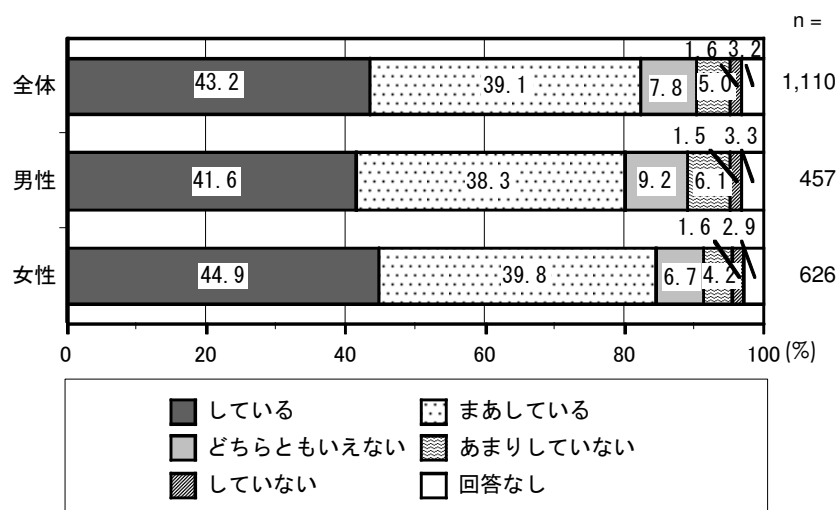
○「している」が43.2%、「まあしている」が39.1%と、合わせると8割以上が“日常的に身近な地域の方々とあいさつをしている”としています。

○「あまりしていない」が5.0%、「していない」は1.6%です。

【性別】（図9-1-1）

○女性のほうが「している」は3.3ポイント、「まあしている」が1.5ポイント、男性より多く、地域の人と日常的にあいさつをかわしています。

図9-1-1 性別「地域でのあいさつ」

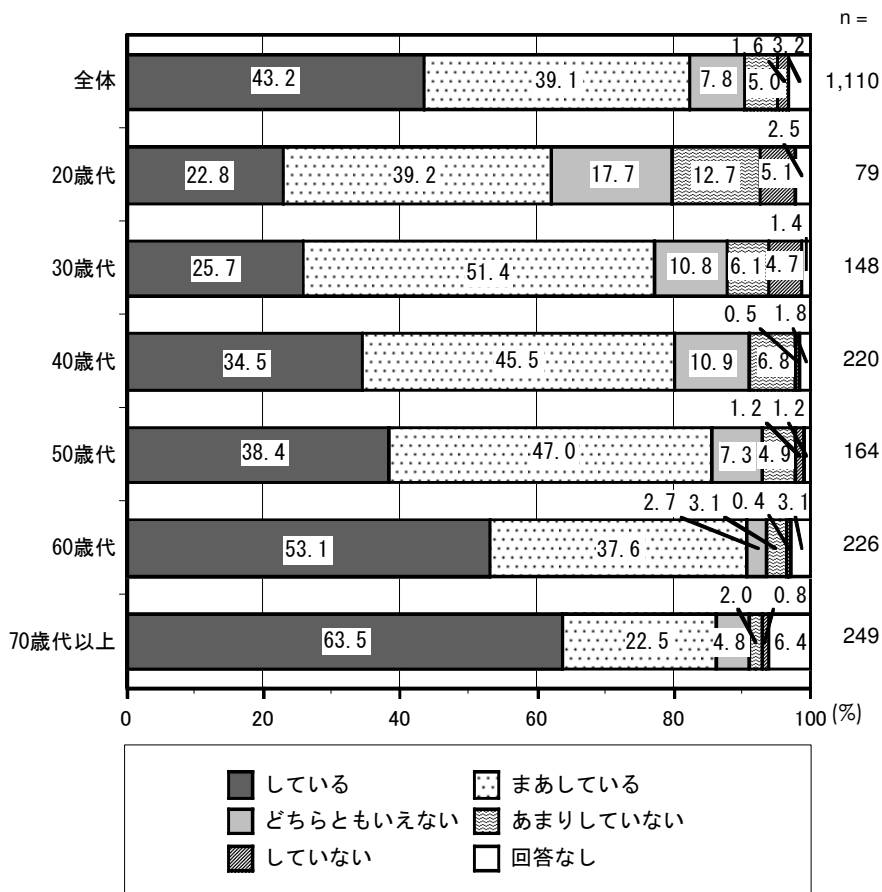


【年齢別】 (図9-1-2)

○20歳代では「している」が22.8%、「まあしている」が39.2%、合わせて62.0%ですが、30歳代では77.1%、40歳代で80.0%、50歳代で85.4%、60歳代では90.7%となり、地域でのあいさつは、高齢になるほど活発に行われています。

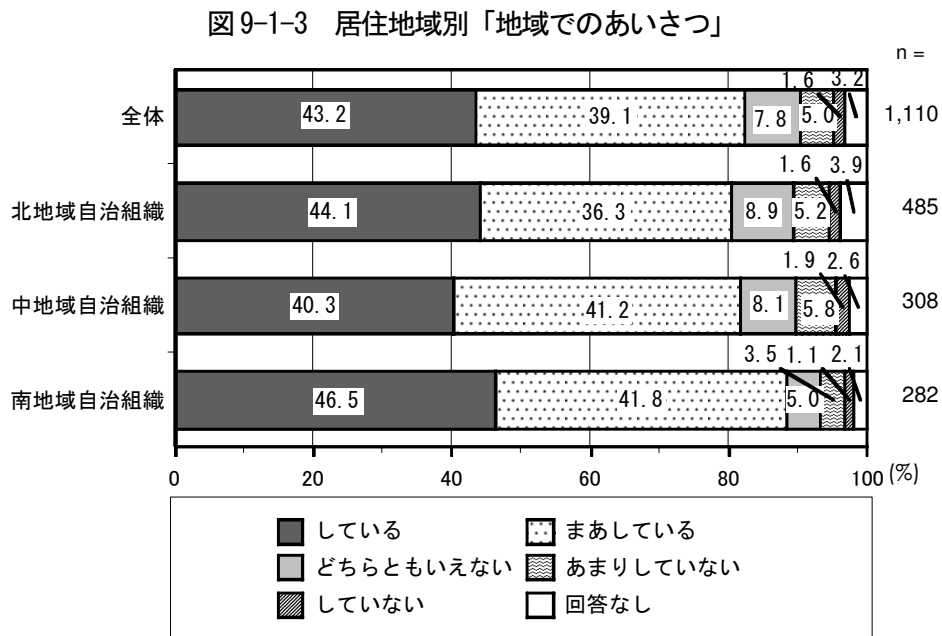
○70歳以上では「している」が63.5%と最も多くなっていますが、「まあしている」が22.5%と少ないため、合計では60歳代より4.7ポイント少なくなっています。

図9-1-2 年齢別「地域でのあいさつ」



【居住地域別】 (図9-1-3)

○南地域自治組織では「している」が46.5%、「まあしている」が41.8%と、いずれも最も多くなっています。当地域は兼業農家など三世代で暮らしている世帯の割合も多く、他地域と比較してコミュニティのつながりが強いことなどが原因として考えられます。



9-2 子ども達とのあいさつ運動（問36）

問36 あなたは、登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動は、42.8%が行っています。若い世代よりも高齢者で活発で、70歳代以上では7割近くの人が行っています。また、南地域自治組織において特に活発に行われています。

【全体】（図9-2-1）

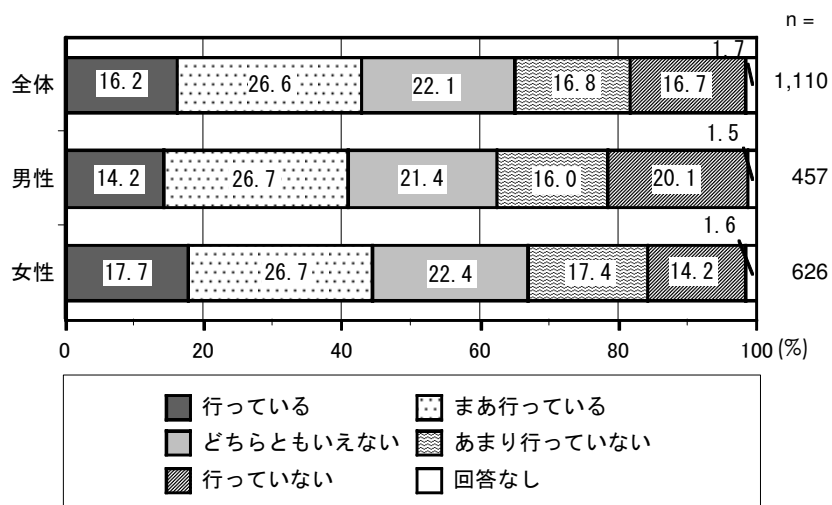
○「まあ行っている」が26.6%と最も多く、「行っている」の16.2%を合わせると42.8%が“登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っている”としています。

○「どちらともいえない」が22.1%、「あまり行っていない」が16.8%、「行っていない」が16.7%となっています。

【性別】（図9-2-1）

○女性のほうが、「行っている」はが3.5ポイント多くなっています。「まあ行っている」は男女ともに26.7%です。

図9-2-1 性別「子ども達とのあいさつ運動」

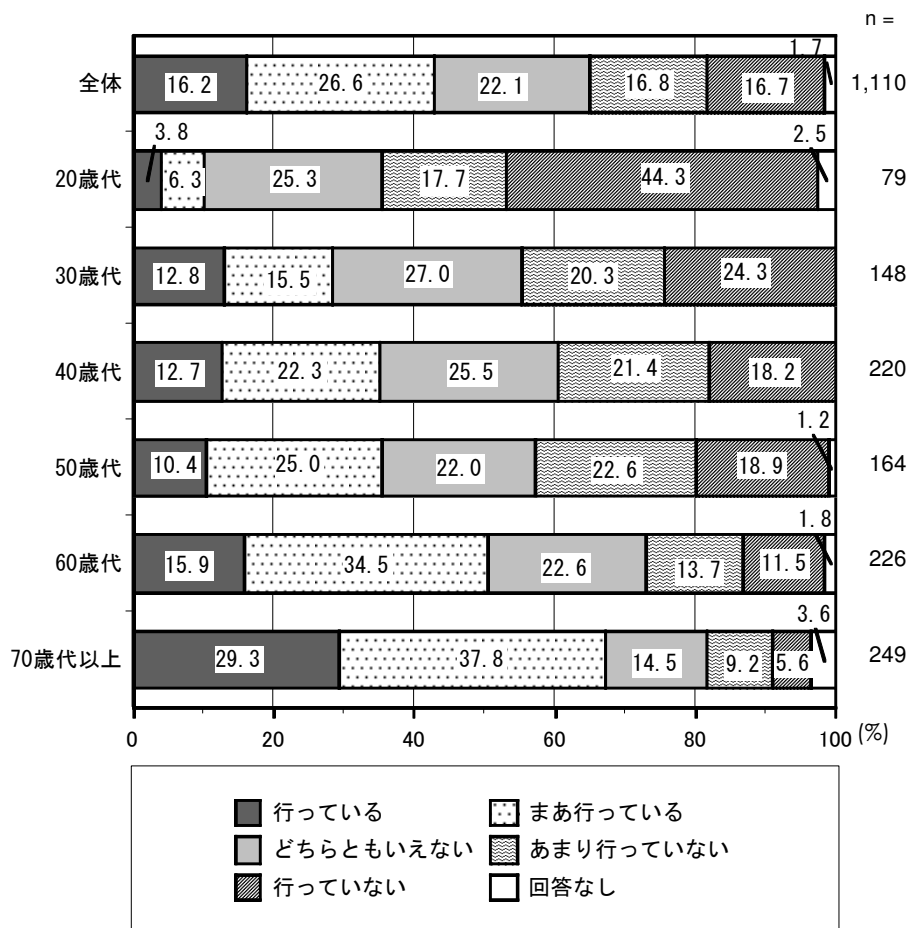


【年齢別】 (図 9-2-2)

○70 歳代以上において、あいさつ運動は最も活発で、「行っている」が 29.3%、「まあ行っている」が 37.8%と、合わせると 67.1%が子どもたちとのあいさつ運動を行っています。

○20 歳代では「行っている」が 3.8%、「まあ行っている」が 6.3%にとどまりました。

図 9-2-2 年齢別「子ども達とのあいさつ運動」

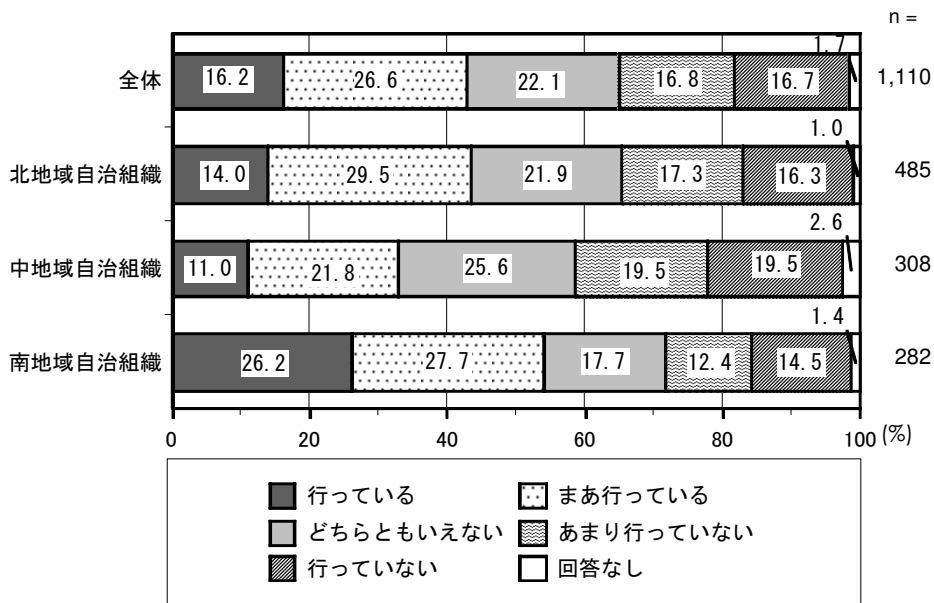


【居住地域別】 (図9-2-3)

○子ども達とのあいさつ運動は南地域自治組織において、「行っている」は10.0ポイント、「まあ行っている」は1.1ポイント全体よりも多く、目立って活発になっています。

○中地域自治組織では、「行っている」が5.2ポイント、「まあ行っている」が4.8ポイントと、全体より少なくなっています。

図9-2-3 居住地域別「子ども達とのあいさつ運動」



9-3 高齢者・障がい者等への手助け（問37）

問 37 あなたは、高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会った時、手助けをしたことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

「手助けをしたことがある」が 41.5%と最も多く、「そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う」の 32.5%と、合わせると 74.0%が“まちで困っている人に出会ったら手助けする意思がある”としています。男性よりも女性のほうが、また 40・50 歳代において「手助けをしたことがある」人が多くなっています。

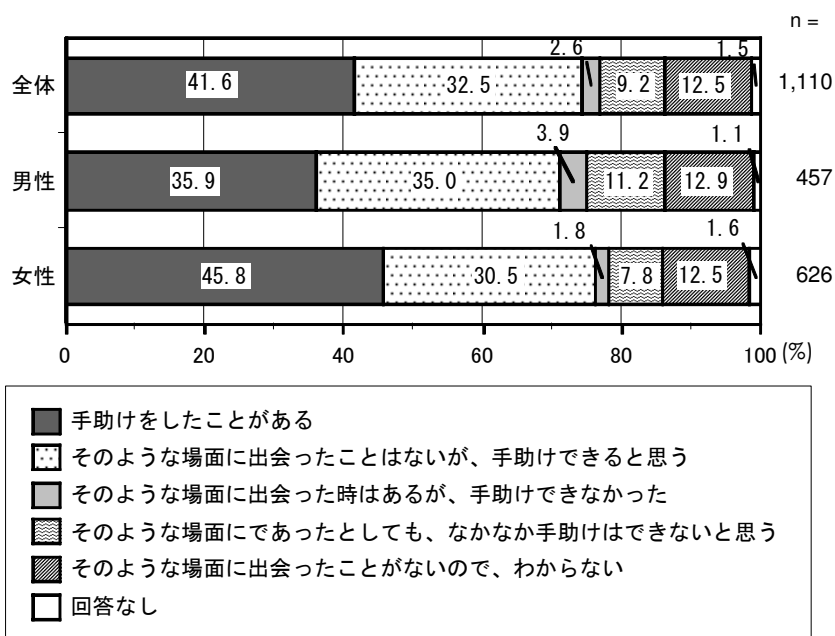
【全体】（図 9-3-1）

- 「手助けをしたことがある」が 41.5%と最も多く、「そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う」は 32.5%と、合わせると 74.0%が“まちで困っている人に出会ったら手助けする意思がある”としています。
- 「そのような場面に出会ったが手助けできなかった」は 9.2%、「そのような場面に出会ったとしても手助けできないと思う」は 2.6%と、“手助けする意思がない”人は 11.8%となっています。

【性別】（図 9-3-1）

- 女性は「手助けをしたことがある」は男性よりも 9.9 ポイント多くなっています。
- 男性は「そのような場面に出会ったとしても手助けできないと思う」が 4.4 ポイント多くなっています。

図 9-3-1 性別「高齢者・障がい者等への手助け」

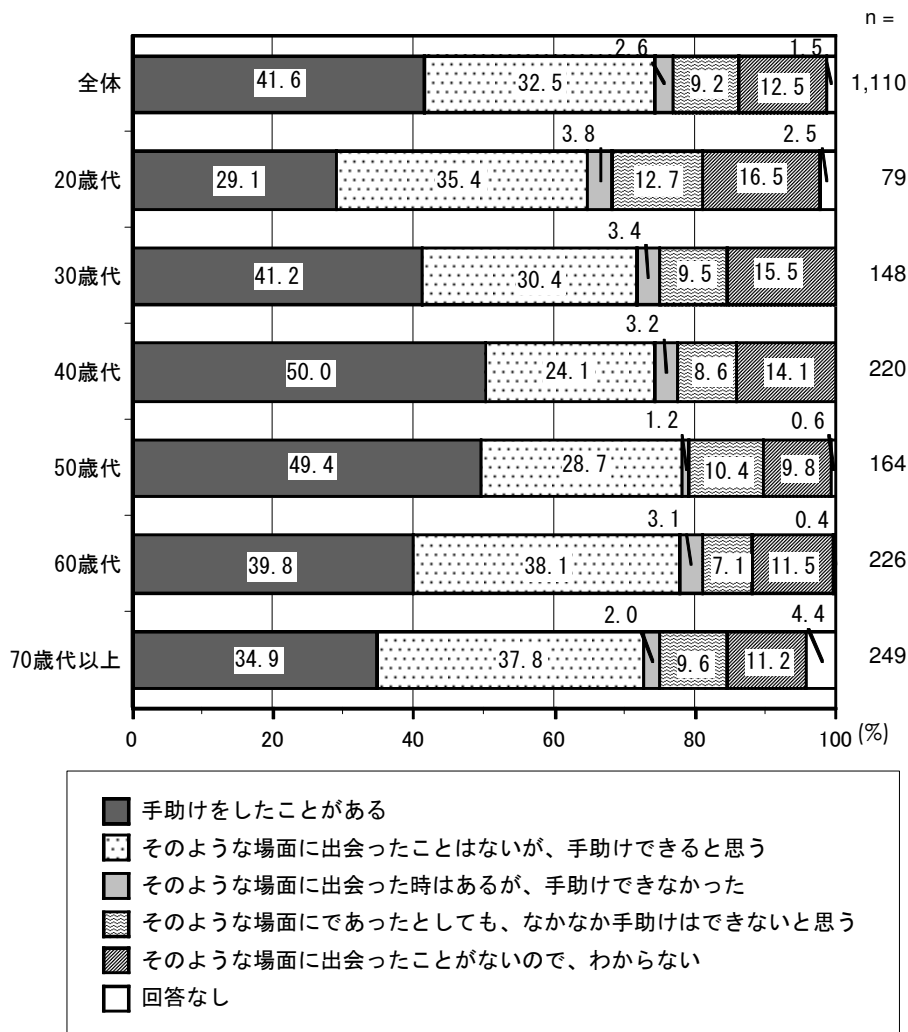


【年齢別】 (図 9-3-2)

○40・50 歳代は「手助けしたことがある」が、それぞれ半数近く、“高齢者・障がい者等への手助け経験値”が高くなっています。

○60 歳代・70 歳以上は、「手助けしたことがある」は全体よりやや少ないのですが、「そのような場面に会ったら手助けできると思う」は60 歳代で38.1%、70 歳以上で37.8%と多くなっています。

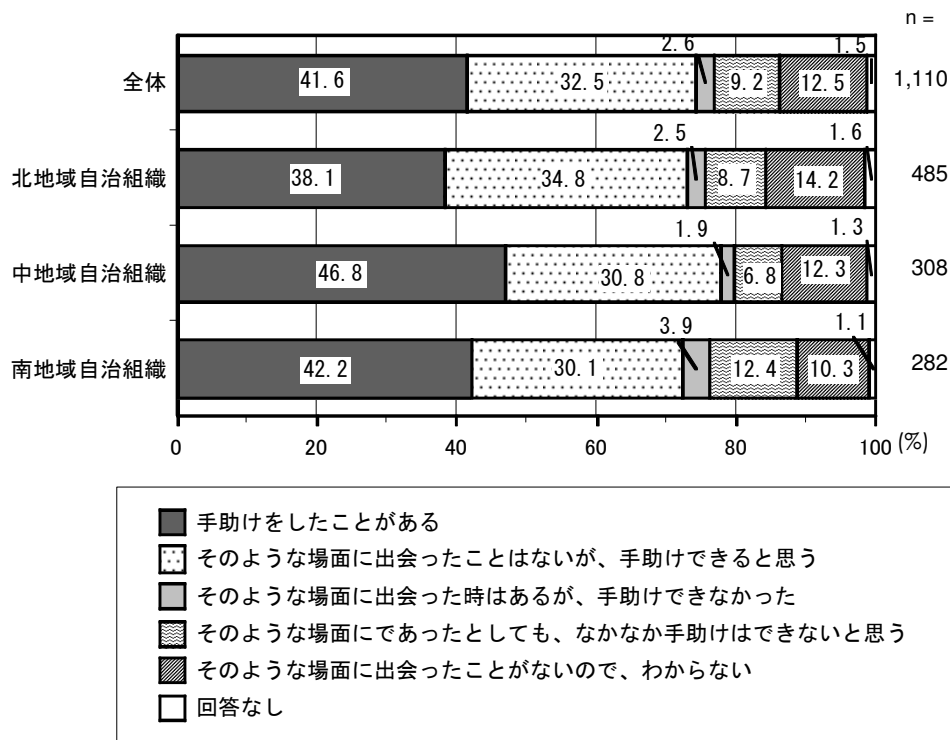
図 9-3-2 年齢別「高齢者・障がい者等への手助け」



【居住地域別】 (図9-3-3)

○中地域自治組織では、「手助けをしたことがある」が5.2ポイント多くなっています。

図9-3-3 居住地域別「高齢者・障がい者等への手助け」



9-4 地域自治組織の認知（問 38）

問 38 大口町では、平成 22 年にまちづくり基本条例を制定し、これに基づき 3 つの小学校区毎に地域自治組織を設置して、行政区の範囲を超えた地域の課題を把握してその改善等を進めていくための活動を始めています。あなたは、こうしたことをご存じですか。【回答数：○印を 1 つだけ】

「設立されていることも知らない」が 53.2%と最も多くなっています。地域自治組織活動への参加は 3.5%、「活動に関わっていないが概ね知っている」は 11.7%、「設立したこと程度は知っている」は 29.5%です。20・30 歳代若い世代の認知度は非常に低いのですが、年齢が上がるにつれて認知度も上がり、60 歳代以上になると半数以上の人がある存在を知っています。また、南地域自治組織では他の地域に比べ、認知度が高くなっています。

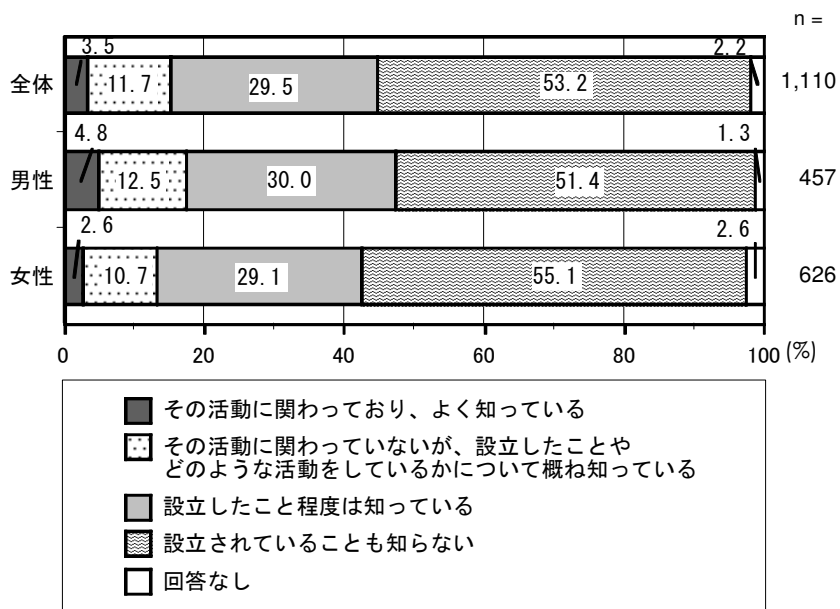
【全体】（図 9-4-1）

- 「設立されていることも知らない」が 53.2%と半数を占めています。
- 以下、「設立したこと程度は知っている」が 29.5%、「その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている」が 11.7%、「その活動に関わっており、よく知っている」が 3.5%と続き、地域自治組織活動は程度に差はあれ、44.7%に認知されています。

【性別】（図 9-4-1）

- 男性の方が「その活動に関わっており、よく知っている」は 2.2 ポイント、女性よりも多くなっています。「認知度」は 4.9 ポイント多くなっています。

図 9-4-1 性別「地域自治組織の認知」

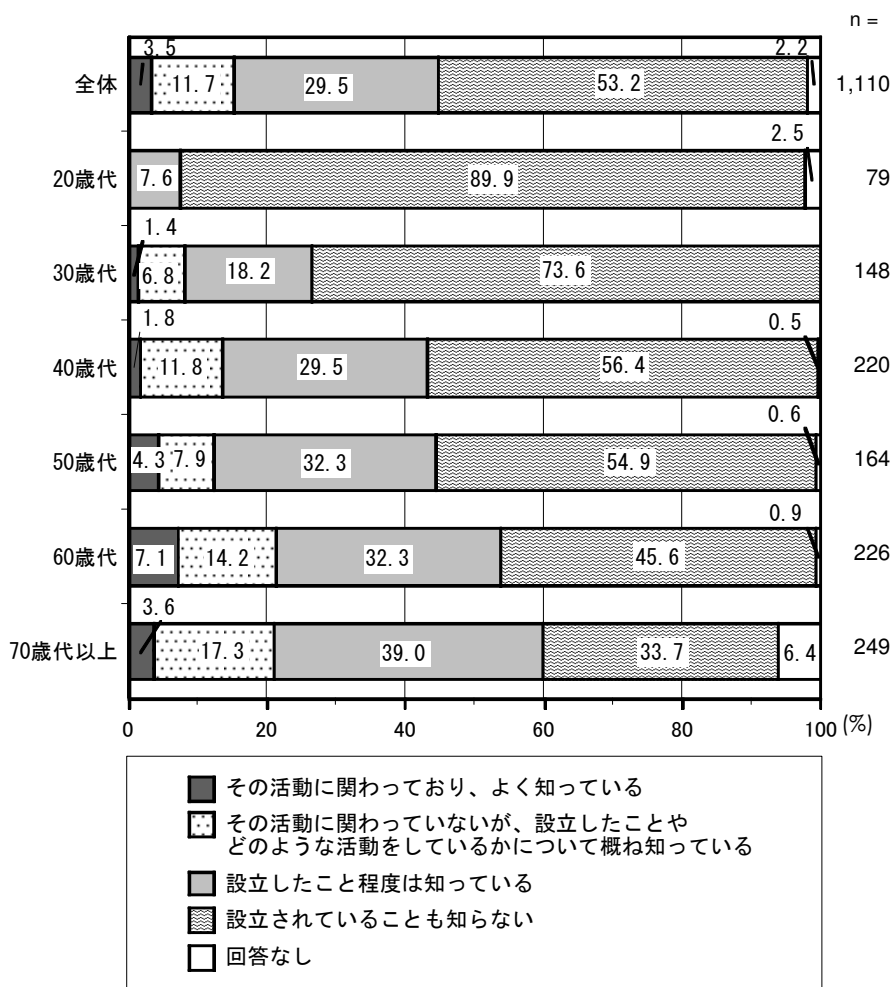


【年齢別】 (図9-4-2)

○地域自治組織の認知度は年齢別で大きな差があり、20歳代では「設立されていることも知らない」が89.9%と大半を占め、「設立したことは知っている」は7.6%、参加している人やよく知っている人はいませんでした。

○年齢が上がるにつれて、認知度は増加し、30歳代は26.4%、40歳代は43.1%、50歳代は44.5%、60歳代は53.6%、70歳代以上では59.9%と6割近くとなっています。

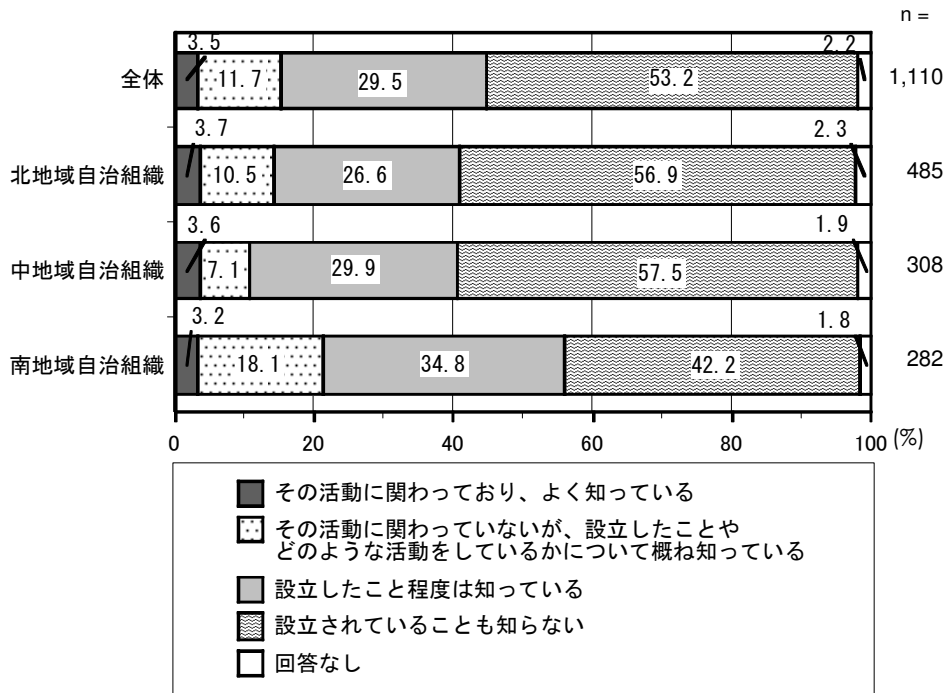
図9-4-2 年齢別「地域自治組織の認知」



【居住地域別】 (図9-4-3)

○南地域自治組織において、「その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている」は6.4ポイント、「設立したこと程度は知っている」は5.3ポイント全体よりも多く、他の地域に比べ、認知度が高くなっている。

図9-4-3 居住地域別「地域自治活動の認知」



9-5 地域自治組織への参加意向（問 39）

問 39 あなたは、地域自治組織の活動に参加したいと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

「既に参加している」は5.7%、「参加したいと思う」は24.8%と合わせると“地域自治組織への今後の参加意向”は、30.5%となっています。男性の参加意向は、女性よりも高くなっています。また、若い世代は「興味もない」とする人が多く、活動への理解をよびかける必要があります。また、組織の認知度が高いほど参加意向も高くなっており、積極的な情報発信が求められます。

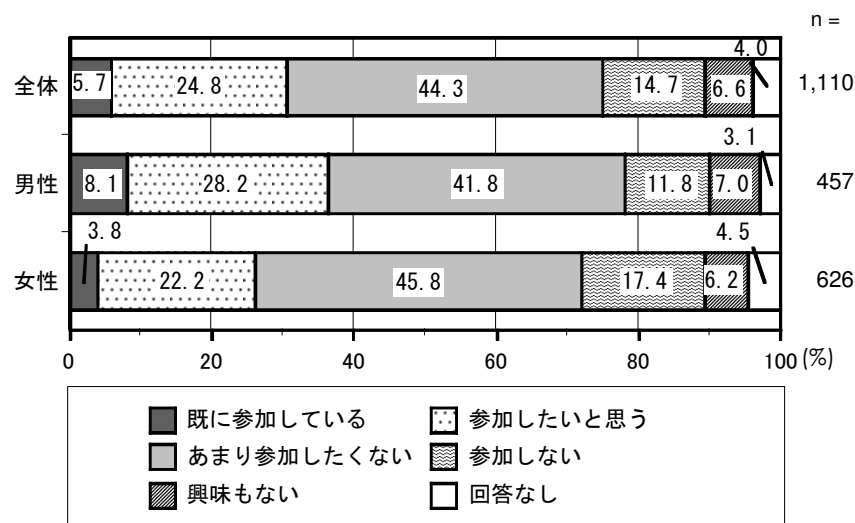
【全体】（図9-5-1）

- 「あまり参加したくない」が44.3%と最も多くなっています。
- 「参加したいと思う」は24.8%であり、「既に参加している」の5.7%を合わせると“今後の参加意向がある”のは30.5%です。
- 「参加しない」は14.7%、「興味もない」は6.6%です。

【性別】（図9-5-1）

- 男性は「既に参加している」が4.3ポイント、「参加したいと思う」が6.0ポイント、女性よりも多くなっています。

図9-5-1 性別「地域自治組織への参加意向」

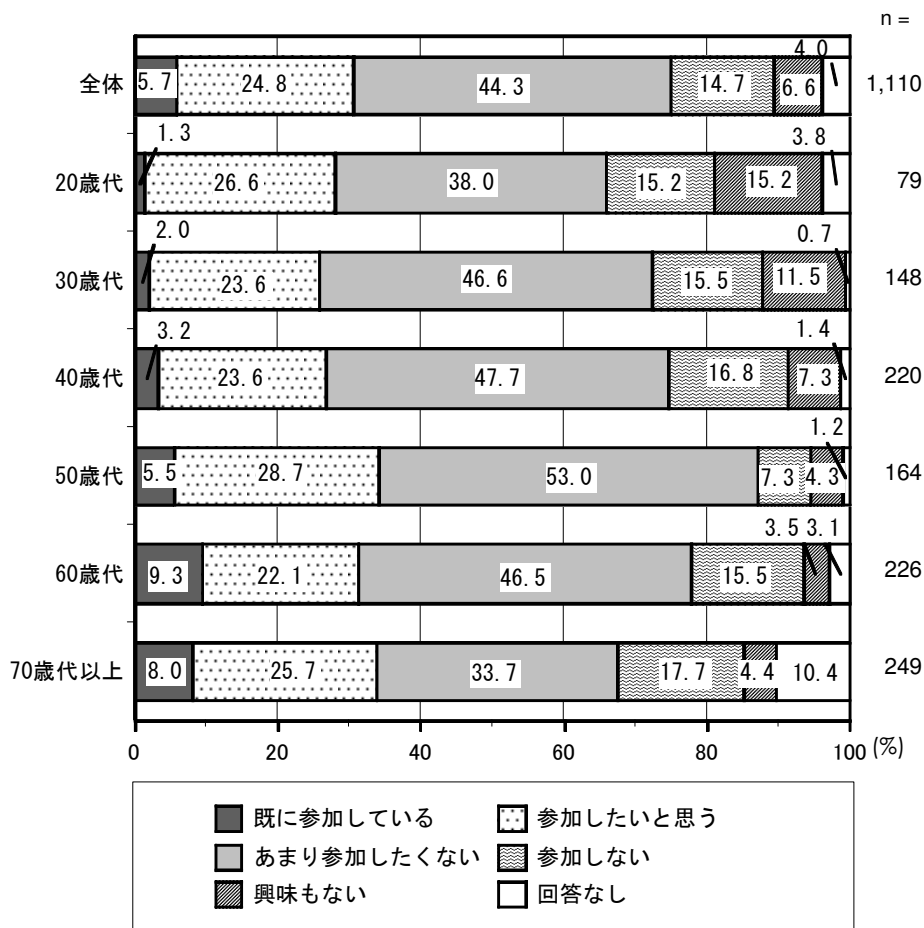


【年齢別】 (図 9-5-2)

○50 歳代は「参加したい」が 28.7%と他の世代に比べ、最も多いのですが、同時に「あまり参加したくない」も 53.0%と最も多くなっています。

○20 歳代は「既に参加している」が 1.3%と他の世代に比べ、最も少なく、また「興味もない」が 15.2%と最も多くなっています。

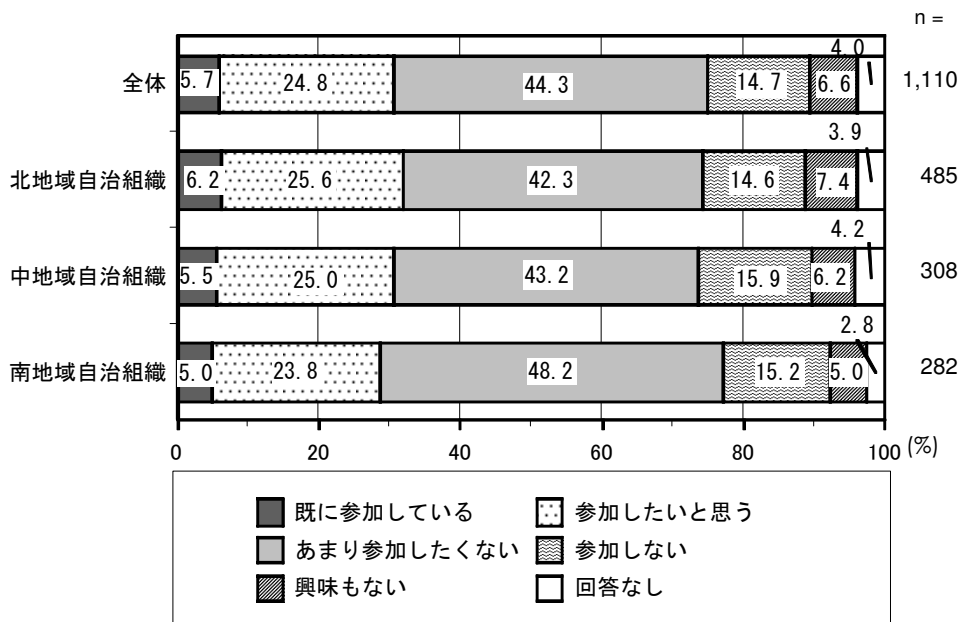
図 9-5-2 年齢別「地域自治組織への参加意向」



【居住地域別】 (図 9-5-3)

○前問で地域自治組織の認知度が最も高かった南地域自治組織の「あまり参加したくない」は全体よりも3.9ポイント多くなっています。

図 9-5-3 居住地域別「地域自治組織への参加意向」

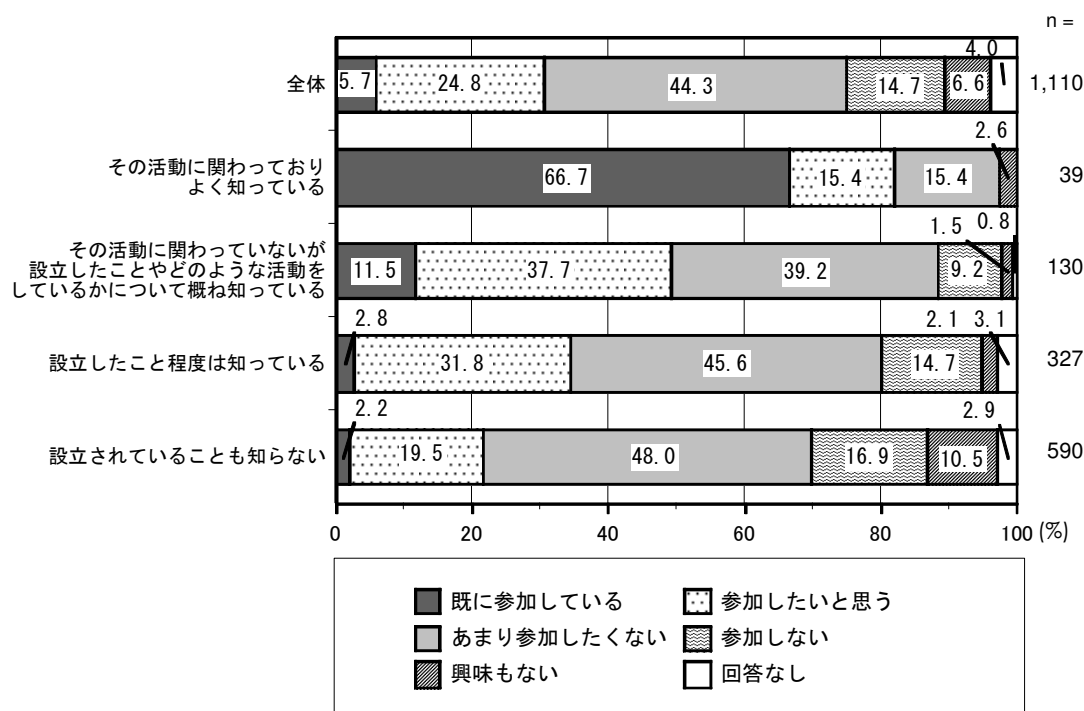


【地域自治組織の認知別】 (図 9-5-4)

○前問で地域自治組織の認知度が最も高かった南地域自治組織の「あまり参加したくない」は全体よりも3.9ポイント多くなっています。

○前問の地域自治組織の認知度との関係を見ると、認知度が高いほど「既に参加している」「参加したいと思う」の割合が多くなっています。今後、地域自治組織への参加を促していくために、積極的な情報発信が不可欠であることがわかります。

図 9-5-4 地域自治組織の認知別「地域自治組織への参加の意向」



9-6 ボランティア活動への参加 (問 40)

問 40 あなたは、ここ1年間の中で、ボランティア活動にどの程度参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

程度に差はあれ、現在“ボランティア活動に参加している”人は全体の22.0%であるのに対し、“参加していない”人は76.6%と大きく上回りますが、そのうち14.1%が「参加する考えはあるが、参加できていない」と答えており、また若い世代において、参加率が非常に低いことから、参加できない理由を明らかにして、多様な参加方法を考える必要があります。

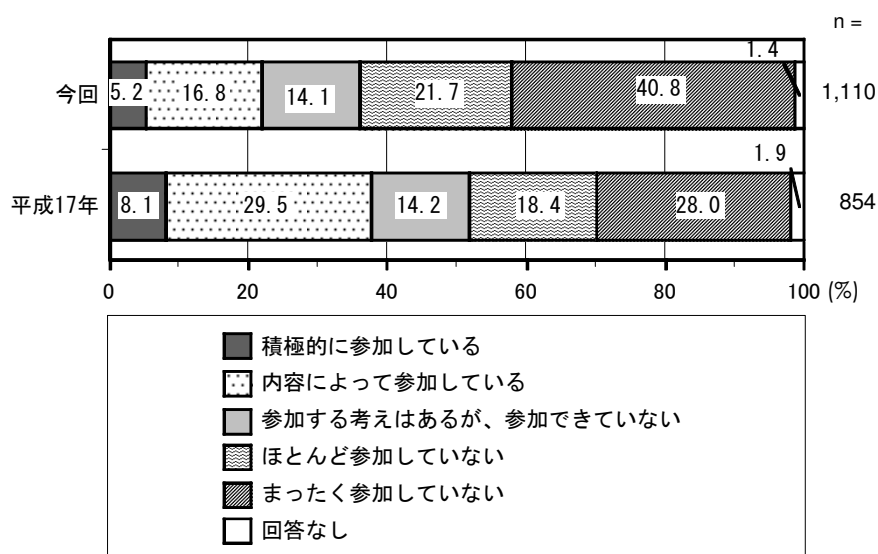
【全体】 (図9-6-1)

- 「まったく参加していない」が40.8%と最も多く、「ほとんど参加していない」が21.7%と続きます。
- 「積極的に参加している」は5.2%、「内容によって参加している」は16.8%と現在の参加割合は、22.0%、「参加する考えはあるが、参加できていない」は14.1%です。

【前回比較】 (図9-6-1)

- 平成17年度からは、「積極的に参加している」は2.9ポイント減少し、「内容によって参加している」は12.7ポイント減少し、「全く参加していない」は12.8ポイント増加していますが、年齢層の変化の影響もあると考えられます。

図9-6-1 前回比較「ボランティア活動への参加」

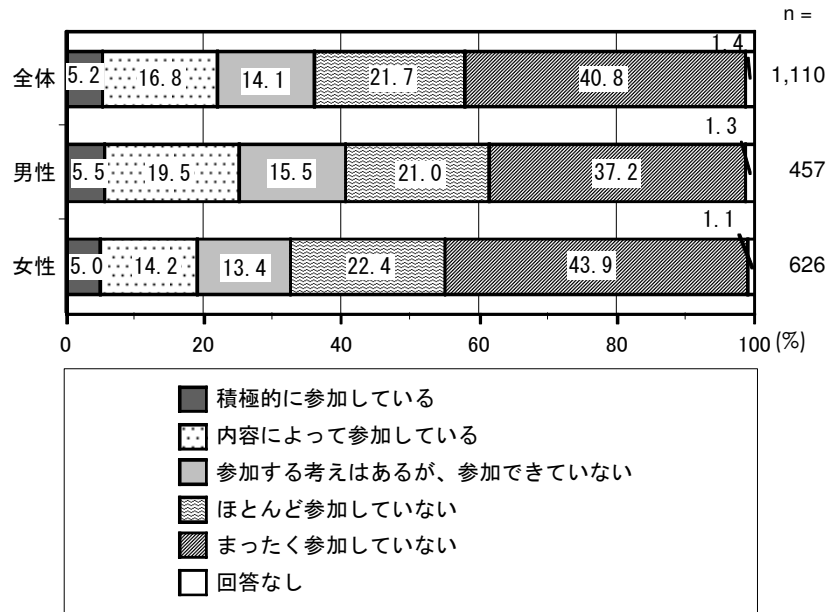


【性別】 (図9-6-2)

○男性の方が「内容によって参加している」は5.3ポイント、「積極的に参加している」は0.5ポイント、女性よりも多くなっています。

○また、「参加する考えはあるが、参加できていない」も男性の方が2.1ポイント多く、全体的に“ボランティア活動への参加意欲”は男性のほうが高くなっています。

図9-6-2 性別「ボランティア活動への参加」

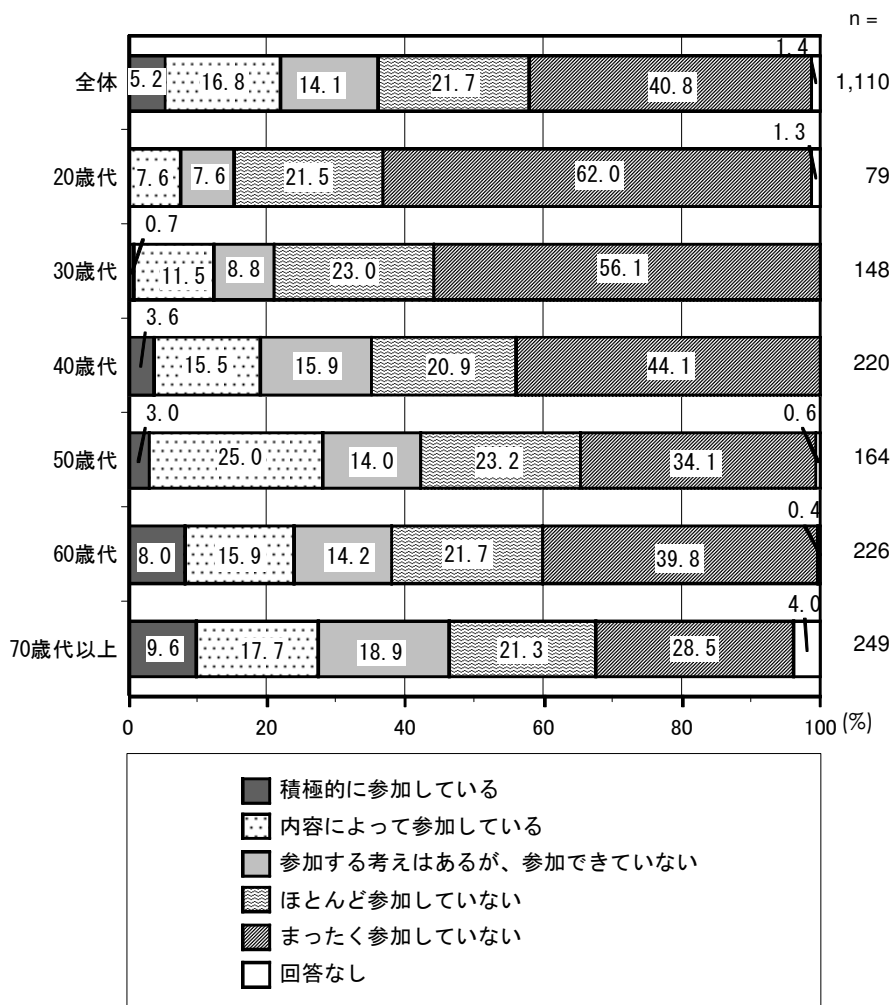


【年齢別】 (図9-6-3)

○「積極的に参加している」は60歳代で8.0%、70歳代以上で9.6%と多くなっています。50歳代は「内容によって参加している」が全体よりも8.2ポイント多くなっています。

○一方、20歳代では「積極的に参加している」は0%で、「内容によって参加している」も7.6%にとどまりました。30歳代も“ボランティア活動への参加”は他の世代に比べて、少なくなっています。

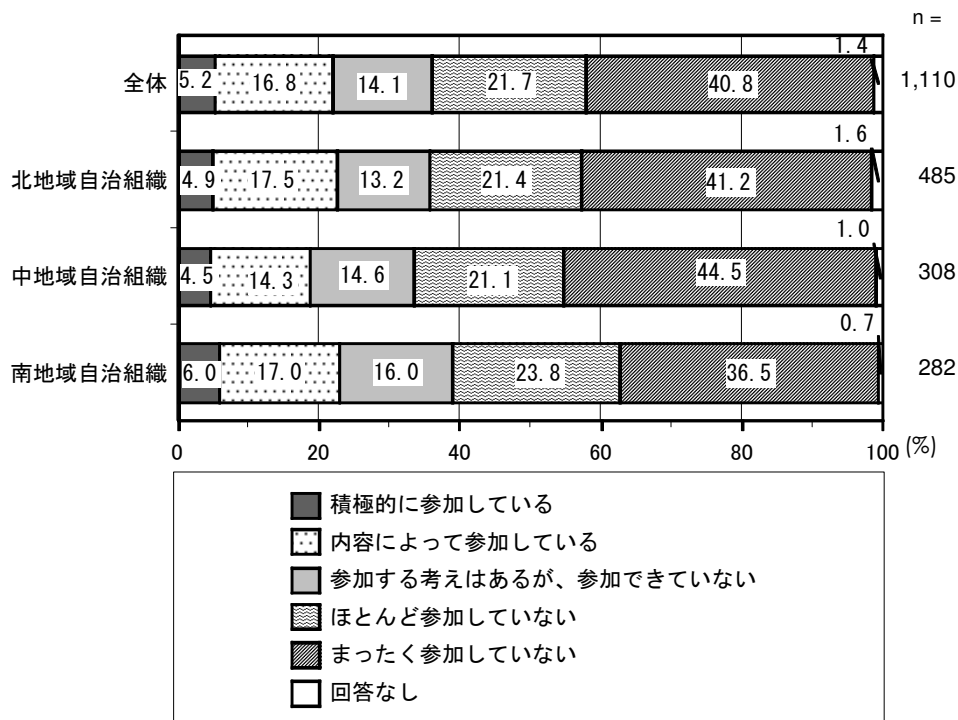
図9-6-3 年齢別「ボランティア活動への参加」



【居住地域別】 (図9-6-4)

○中地域自治組織の参加割合は「積極的に参加している」が4.5%、「内容によって参加している」が14.3%と、合わせると、18.8%で、全体よりも3.2ポイント少なくなっています。

図9-6-4 居住地域別「ボランティア活動への参加」



9-7 住民の町行政への関わり (問 41)

問41 住民の町行政への関わりについて、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：○印を1つだけ】

“住民の町行政への関わり方”は、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施すべき」と「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」にほぼ、二分され、行政か住民のどちらかのみが主体となるのではなく、協働が望まれています。

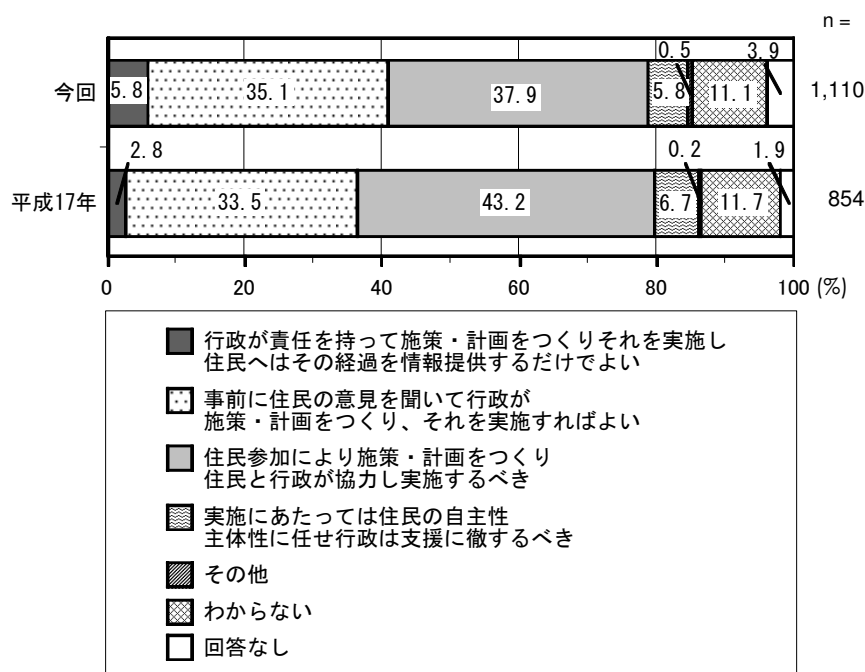
【全体】 (図 9-7-1)

- 「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施すべき」が 37.9%と最も多く、「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」が 35.1%と続きます。
- 「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」と「実施にあたっては住民の自主性主体性に任せ行政は支援に徹すべき」は共に 5.8%です。

【前回比較】 (図 9-7-1)

- 平成 17 年度の調査結果からは、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施すべき」が変わらず 1 位ですが、5.4 ポイント減少しています。
- 「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」は 3.0 ポイント増加しています。
- これらの推移は年齢構成の変化を受けているのではないかと思います。

図 9-7-1 前回比較「住民の町行政への関わり」

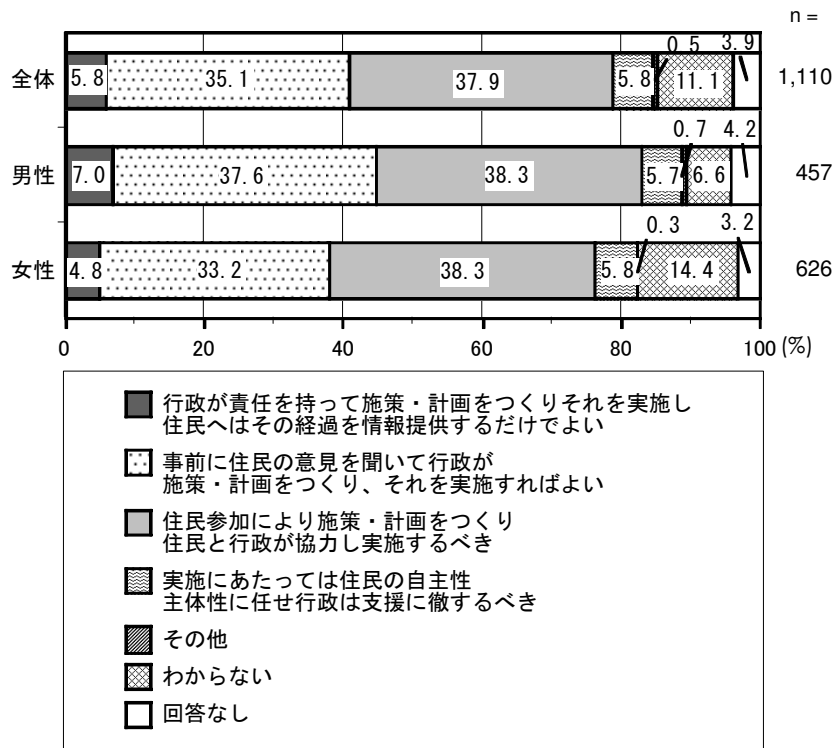


【性別】 (図9-7-2)

○男性の「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」は女性よりも4.4ポイント多く、また「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」は2.2ポイント多くなっています。

○女性は、「わからない」が男性よりも7.8ポイント多くなっています。

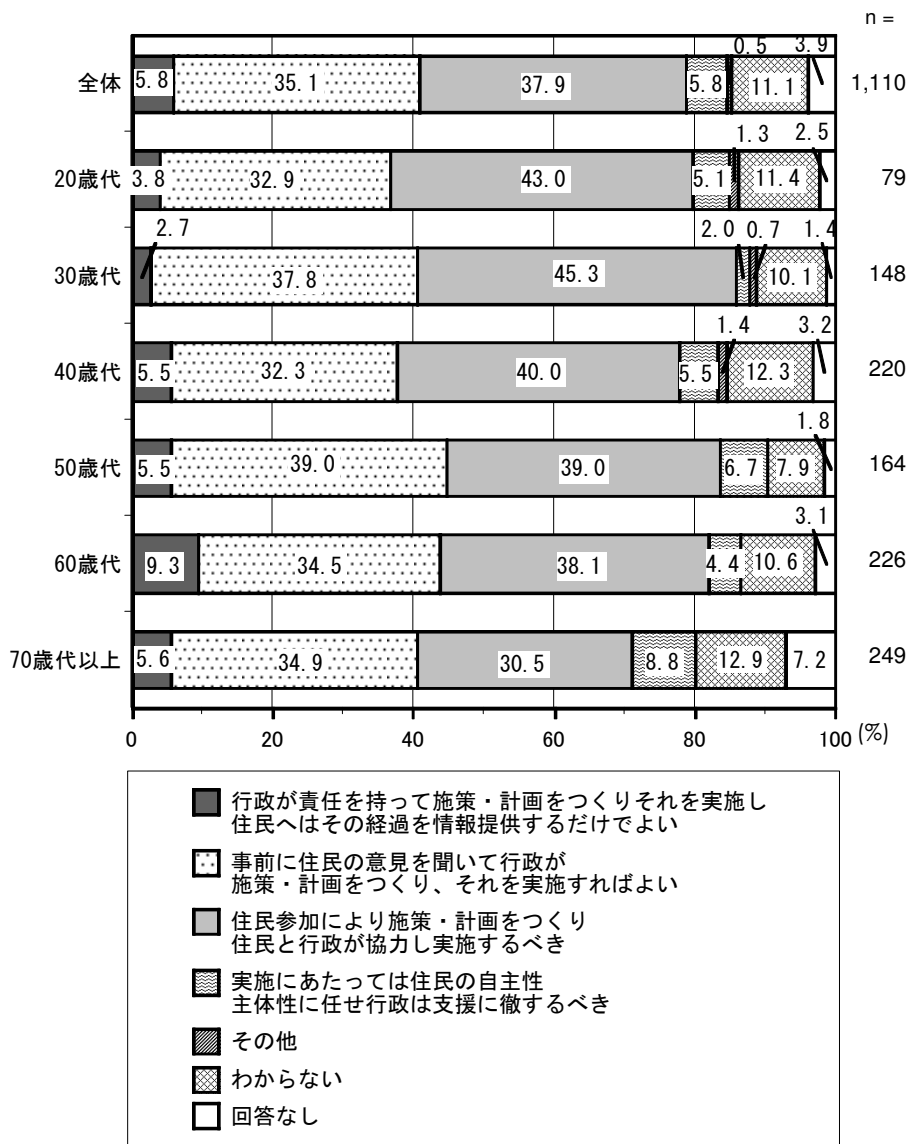
図9-7-2 性別「住民の町行政への関わり」



【年齢別】 (図 9-7-3)

- 「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」は、20歳代は5.1ポイント、30歳代は7.4ポイント、全体よりも多くなっています。
- 60歳代は「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」が全体よりも3.5ポイント多くなっています。
- 70歳代以上だけが、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」よりも「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」が多くなっています。

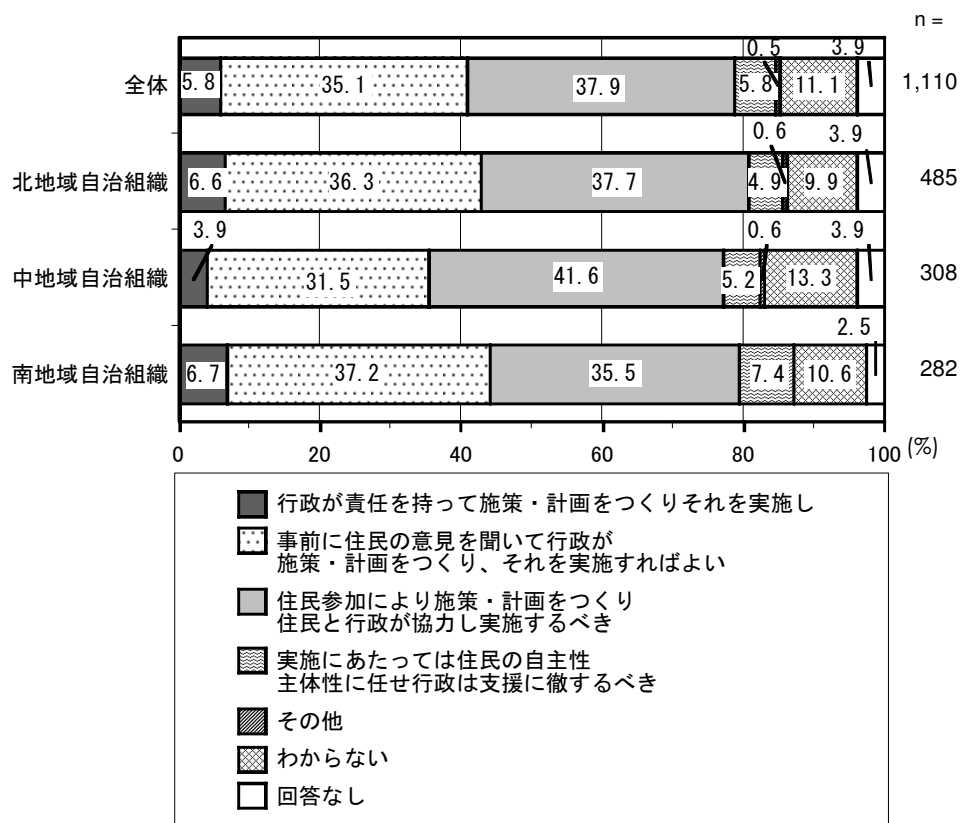
図 9-7-3 年齢別「住民の町行政への関わり」



【居住地域別】 (図9-7-4)

○中地域自治組織は、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」が、全体よりも3.7ポイント多くなっています。

図9-7-4 居住地域別「住民の町行政への関わり」



9-8 住民参画のまちづくり (問 42)

問 42 住民の参画と参加のまちづくりのために、町ではどのようなことを進める必要があると思いますか。【回答数：3つまで○印】

住民の参画と参加のまちづくりのためには、「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」(39.9%)、「区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」(33.6%)、「情報提供・情報公開の拡充」(33.2%)の3項目が多く望まれています。

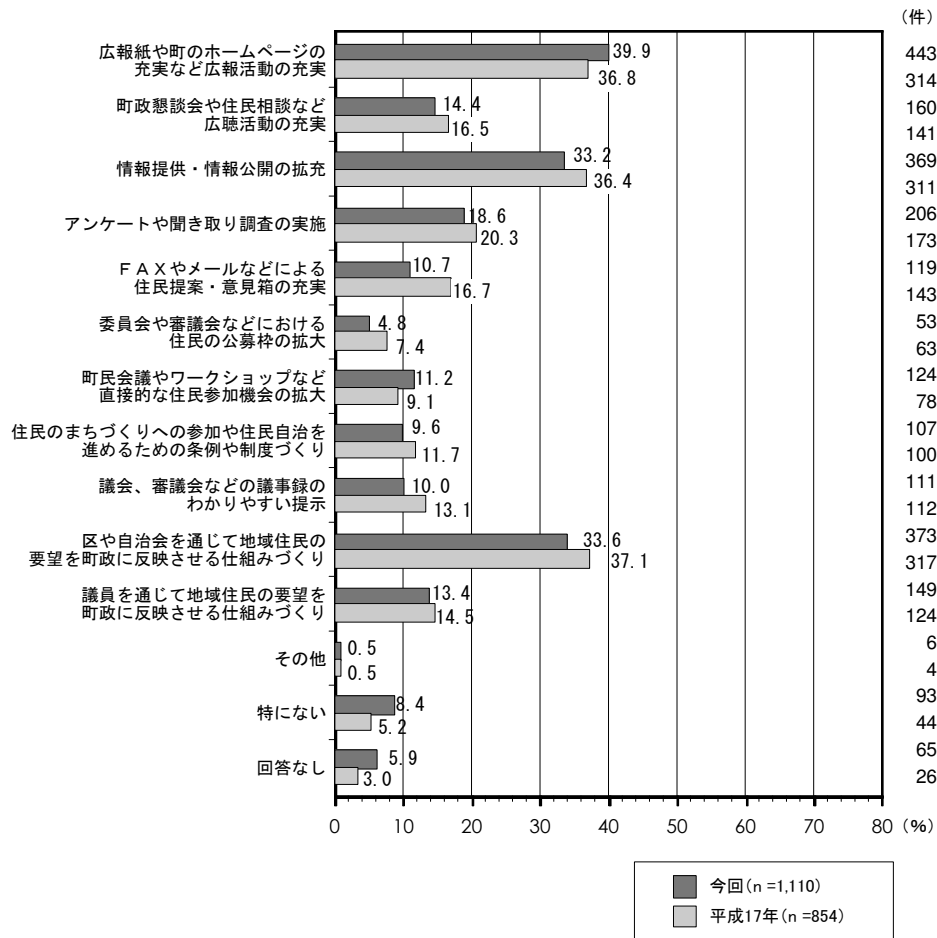
【全体】(図 9-8-1)

- 「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」が 39.9%と最も多く、次いで「区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」が 33.6%、「情報提供・情報公開の拡充」が 33.2%と多くの市民に望まれています。
- これら3項目に次いで、少なくなりますが、望まれているのは「アンケートや聞き取り調査の実施」(18.6%)や「町政懇談会や住民相談など広報活動の充実」(14.4%)、「議員を通じて地域住民の要望を反映させる仕組みづくり」(13.4%)です。

【前回比較】(図 9-8-1)

- 「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」は平成 17 年度調査では、36.8%でしたが、今回調査では3.1ポイント増加しています。
- 「特にない」とする人が3.2ポイント増加しました。

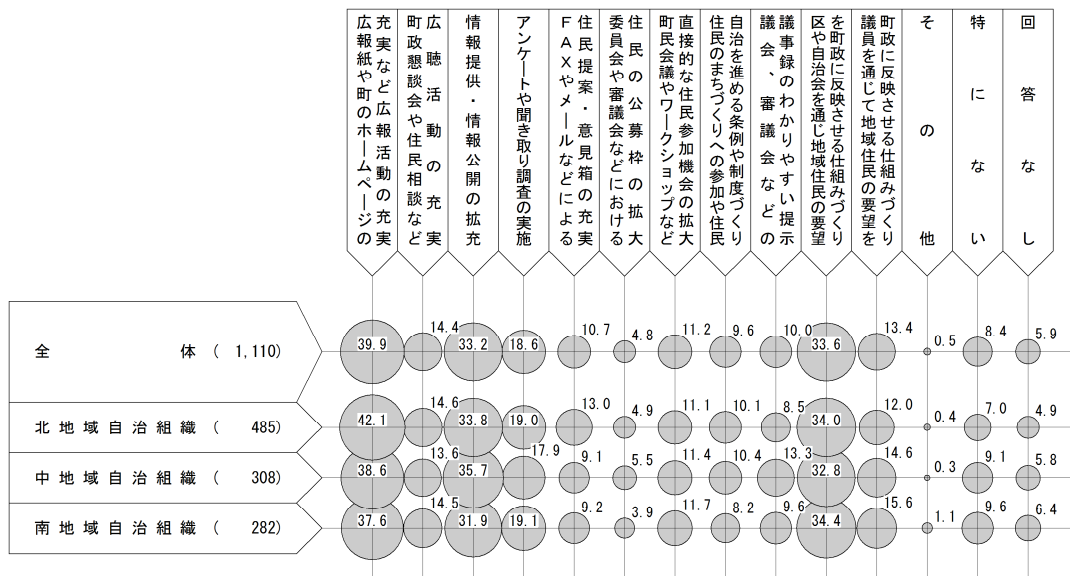
図9-8-1 前回比較「住民参画のまちづくり」



【居住地域別】 (図 9-8-2)

○一般的に居住地域別による有意な差は認められません。

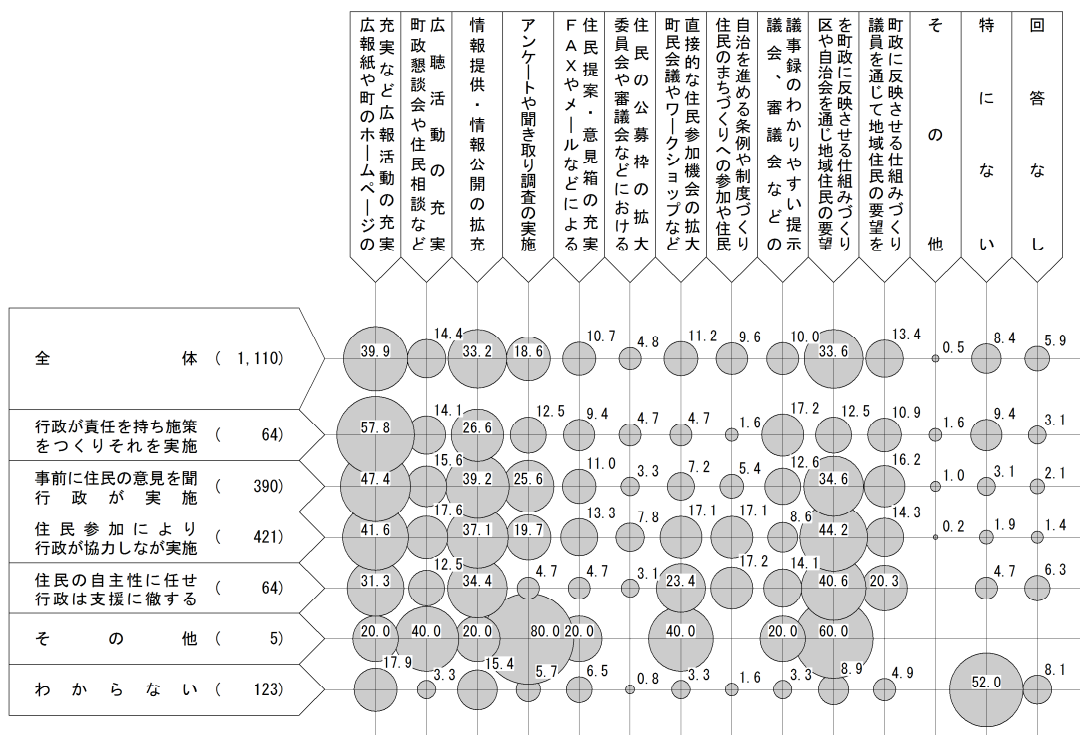
図 9-8-2 居住地域別「住民参画のまちづくり」



【問41「住民の町行政への関わり」別】(図9-8-3)

- “住民参加のまちづくりのために望まれること”を、前問の“住民の町行政への関わり方”別で見ると、大きな違いができました。最も多かった「住民参加により施策・計画をつくり、住民と行政が協力し実施すべき」を選んだ人は、「区や自治会を通じ地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」を10.6ポイント、「住民のまちづくりへの参加や住民自治を進める条例や制度づくり」を7.5ポイント、全体よりも強く望んでいます。
- 「事前に住民の意見を聞いてそれを行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」を選んだ人は「アンケートや聞き取り調査の実施」を7.0ポイント、「情報提供・情報公開の拡充」を6.0ポイント、全体よりも強く望んでいます。
- 「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し住民へはその経過を情報提供するだけでよい」を選んだ人は「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」を17.9ポイント、「議会、審議会などの議事録のわかりやすい提示」を7.2ポイント全体よりも多く選んでいます。
- 「実施にあたっては住民の自主性主体性に任せ行政は支援に徹すべき」を選んだ人は、「町民会議やワークショップなど直接的な住民参加機会の拡大」が全体よりも12.2ポイント多く、非常に強く望んでいます。

図9-8-3 問41「住民の町行政への関わり」別「住民参画のまちづくり」



9-9 まちづくり活動における考え方 (問 43)

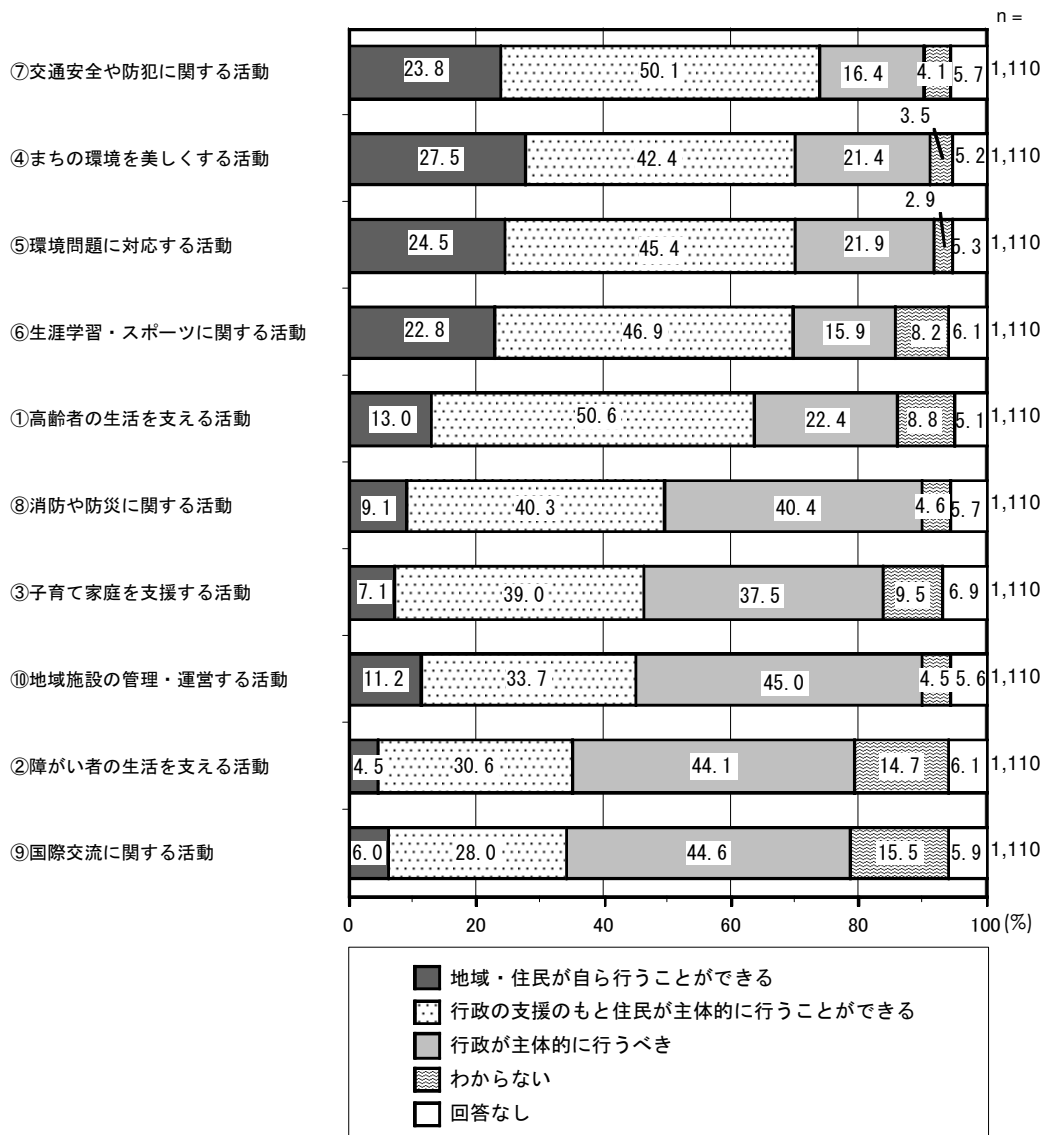
問 43 町では、地域の自治を大切にして、これから町民の皆さんと一緒にまちづくりを一段と強く進めていこうと考えています。そこで、次に掲げる①～⑩の活動について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。【回答数：それぞれ①～⑩について1つずつあてはまる番号に○印】

様々なまちづくり活動における

【全体】 (図 9-9-1)

- 様々な活動の中で、他の活動よりも「地域・住民が自ら行うことができる」がより多く選択されているのは④まちの環境を美しくする活動(27.5%)、⑤環境問題に対応する活動(24.5%)です。
- 「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」とより多く選択されているのは①高齢者の生活を支える活動(50.6%)、⑦交通安全や防犯に関する活動(50.1%)です。
- 「行政が主体的に行うべき」を選ぶ人が他の活動に比べ多かったのは⑩公民館や公園など地域施設の管理・運営する活動(45.0%)、⑨国際交流に関する活動(44.6%)、②障がい者の生活を支える活動(44.1%)です。

図 9-9-1 まちづくり活動における考え方



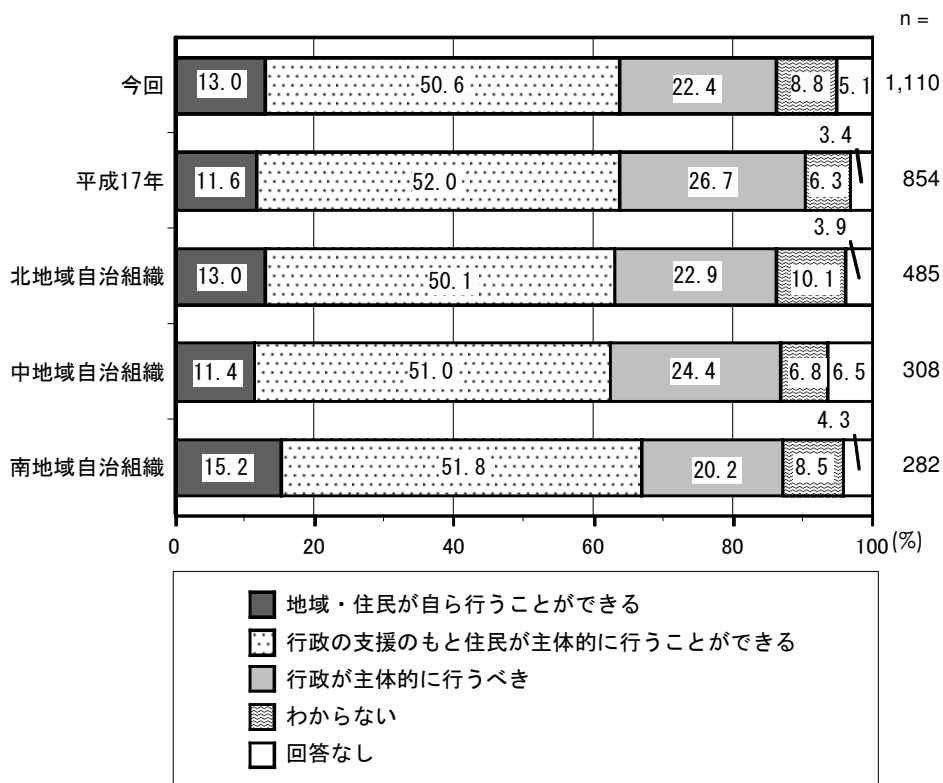
【項目①：前回比較】 (図9-9-2)

○平成17年度よりも、「行政が主体的に行うべき」が2.3ポイント、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が1.4ポイント減少し、「地域・住民が自ら行うことができる」が1.4ポイント増加しています。

【項目①：居住地域別】 (図9-9-2)

○居住地域別では、有意な差は認められません。

図9-9-2 前回比較・居住地域別「①日常の安否確認や外出支援など高齢者の生活を支える活動」
(まちづくり活動における考え方)



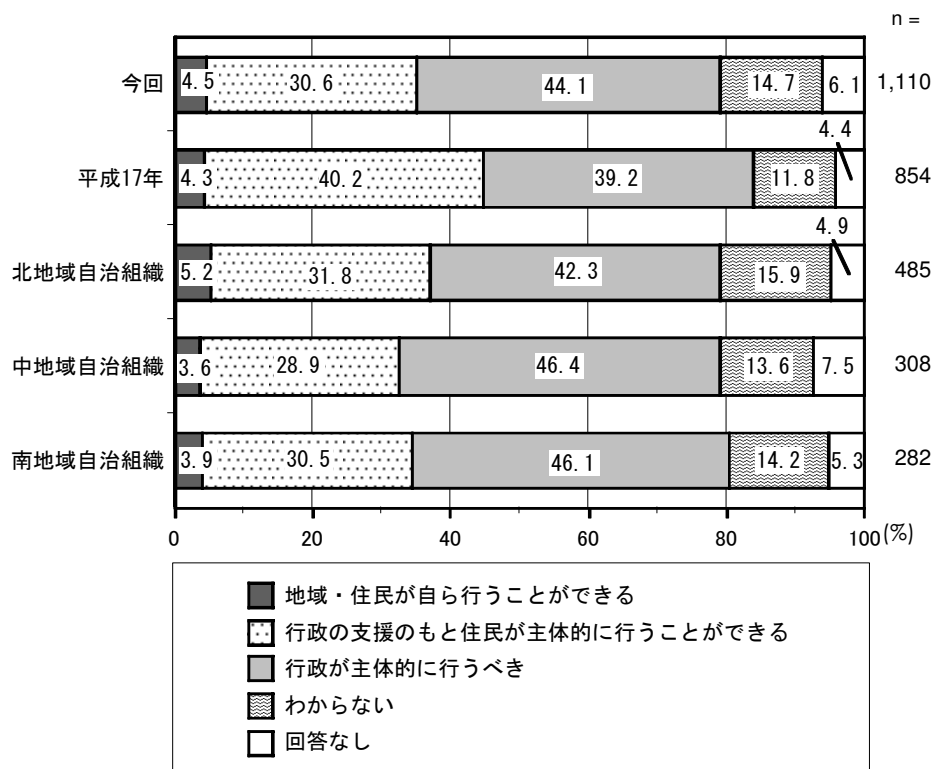
【項目②：前回比較】 (図9-9-3)

○平成17年度には「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が最も多かったのが9.6ポイント減少し、「行政が主体的に行うべき」が44.1%と最も多くなっています。

【項目②：居住地域別】 (図9-9-3)

○居住地域別では、有意な差は認められません。

図9-9-3 前回比較・居住地域別「②点訳や要約筆記、手話通訳など障がい者の生活を支える活動」(まちづくり活動における考え方)



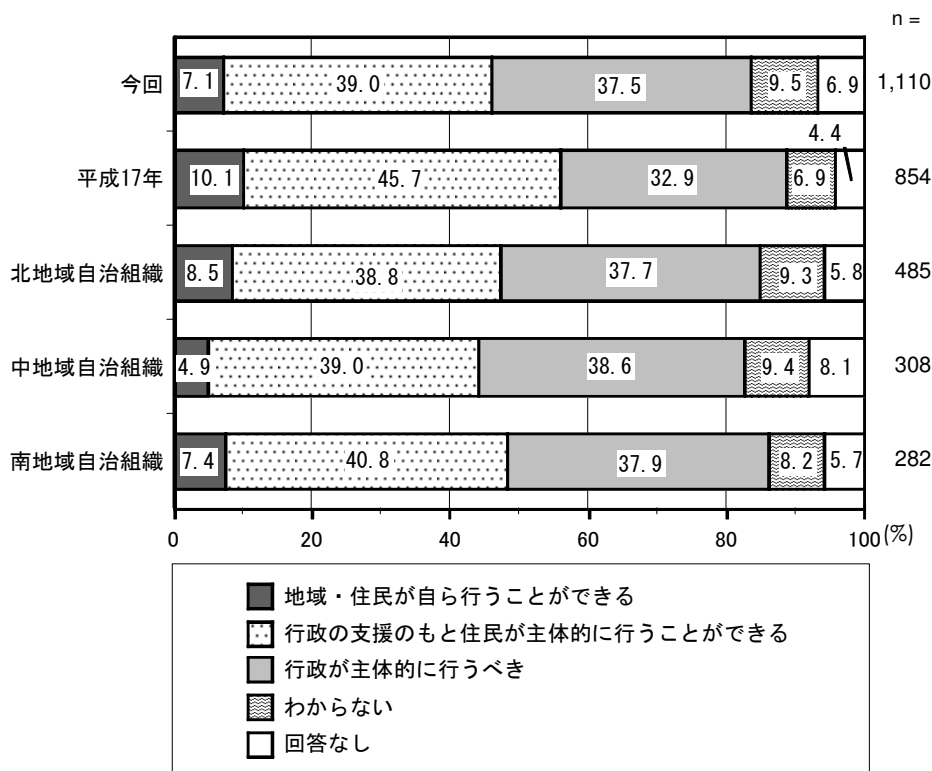
【項目③：前回比較】 (図9-9-4)

○「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」は平成17年調査の時よりも6.7ポイント減少し、「行政が主体的に行うべき」は4.6ポイント増加しました。

【項目③：居住地域別】 (図9-9-4)

○居住地域による有意な差は認められません。

図9-9-4 前回比較・居住地域別「③子育て相談や緊急時の預かりなど子育て家庭を支援する活動」
(まちづくり活動における考え方)



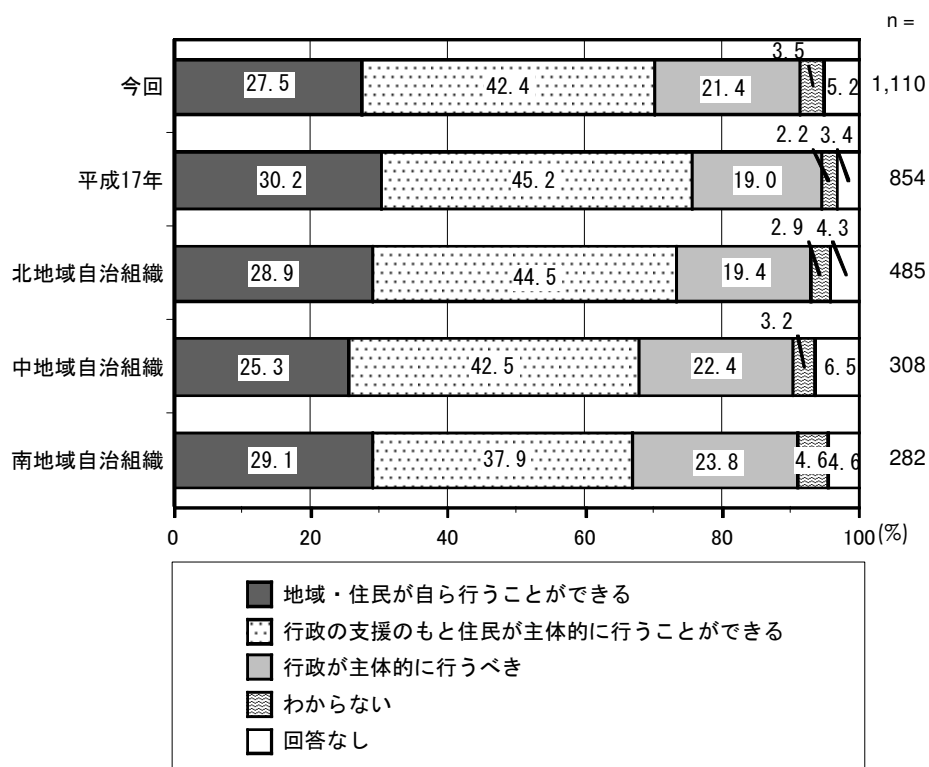
【項目④：前回比較】 (図9-9-5)

○平成17年調査と比較しては、大きな差は認められません。

【項目：④居住地域別】 (図9-9-5)

○南地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも4.5ポイント少なくなっています。

図9-9-5 前回比較・居住地域別「④道路の清掃や花植えなどまちの環境を美しくする活動」
(まちづくり活動における考え方)



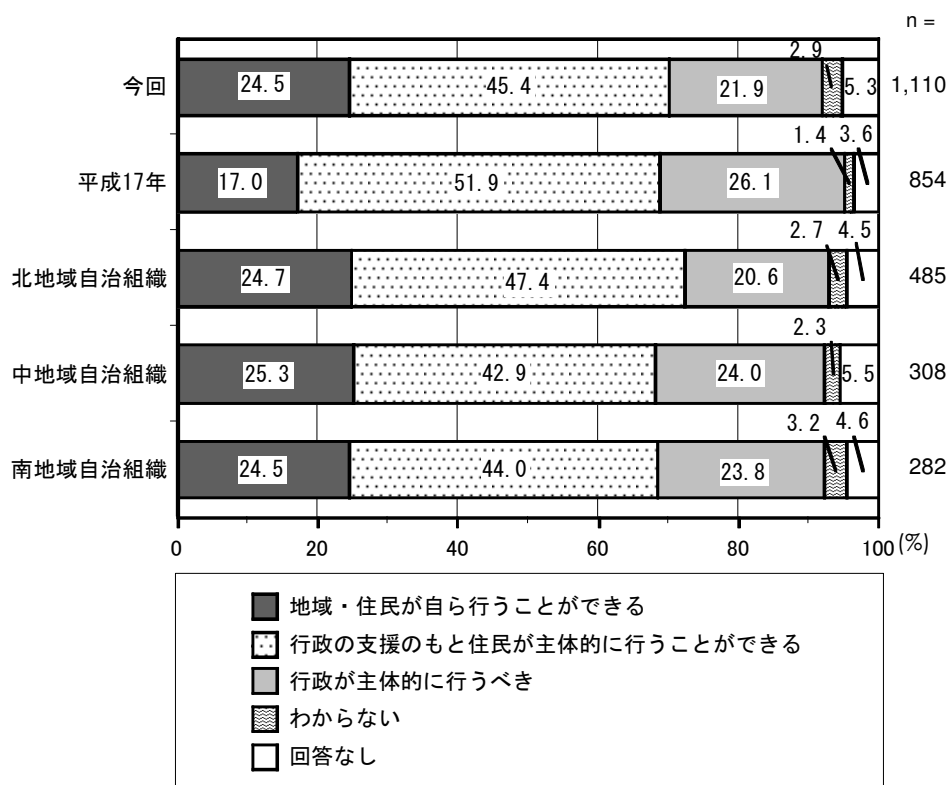
【項目⑤：前回比較】 (図9-9-6)

○「地域・住民自ら行うことができる」は、平成17年調査よりも7.5ポイント増加し、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が6.5ポイント、「行政が主体的に行うべき」が4.2ポイント減少し、徐々に地域主体の活動へと推移しているようです。

【項目⑤：居住地域別】 (図9-9-6)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図9-9-6 前回比較・居住地域別「⑤ごみの減量や省エネルギーなど環境問題に対応する活動」
(まちづくり活動における考え方)



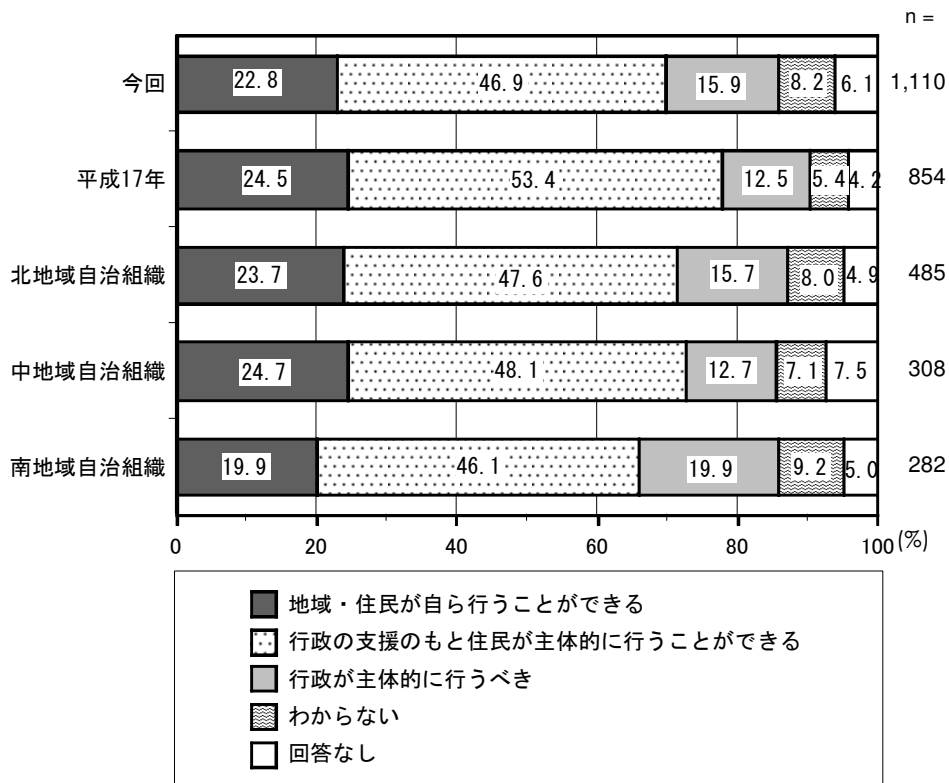
【項目⑥：前回比較】 (図9-9-7)

○「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が6.5ポイント減少し、「行政が主体的に行うべき」が3.4ポイント増加しました。

【項目⑥：居住地域別】 (図9-9-7)

○「行政が主体的に行うべき」は南地域自治組織において全体よりも4.0ポイント多く、中地域自治組織ではが全体よりも3.2ポイント少なくなっています。

図9-9-7 前回比較・居住地域別「⑥スポーツや趣味・芸術活動など生涯学習・スポーツに関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



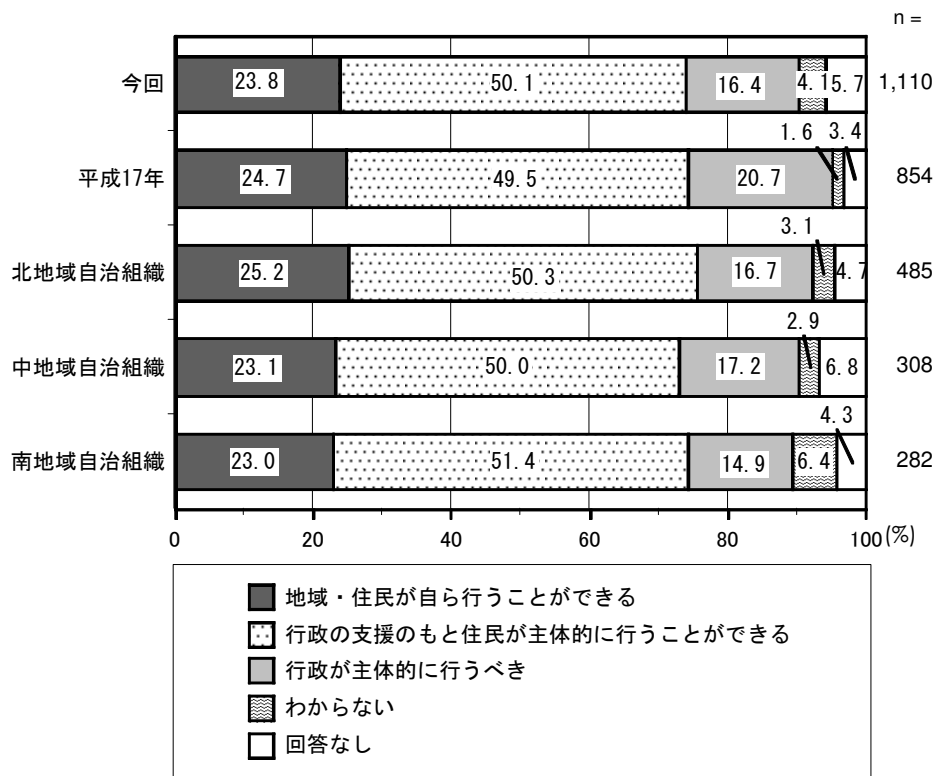
【項目⑦：前回比較】 (図9-9-8)

○平成17年調査からは「行政が主体的に行うべき」が4.3ポイント減少しました。

【項目⑦：居住地域別】 (図9-9-8)

○居住地域別では有意な差は認められません。

図9-9-8 前回比較・居住地域別「⑦パトロール活動など交通安全や防犯に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



【項目⑧：前回比較】 (図 9-9-9)

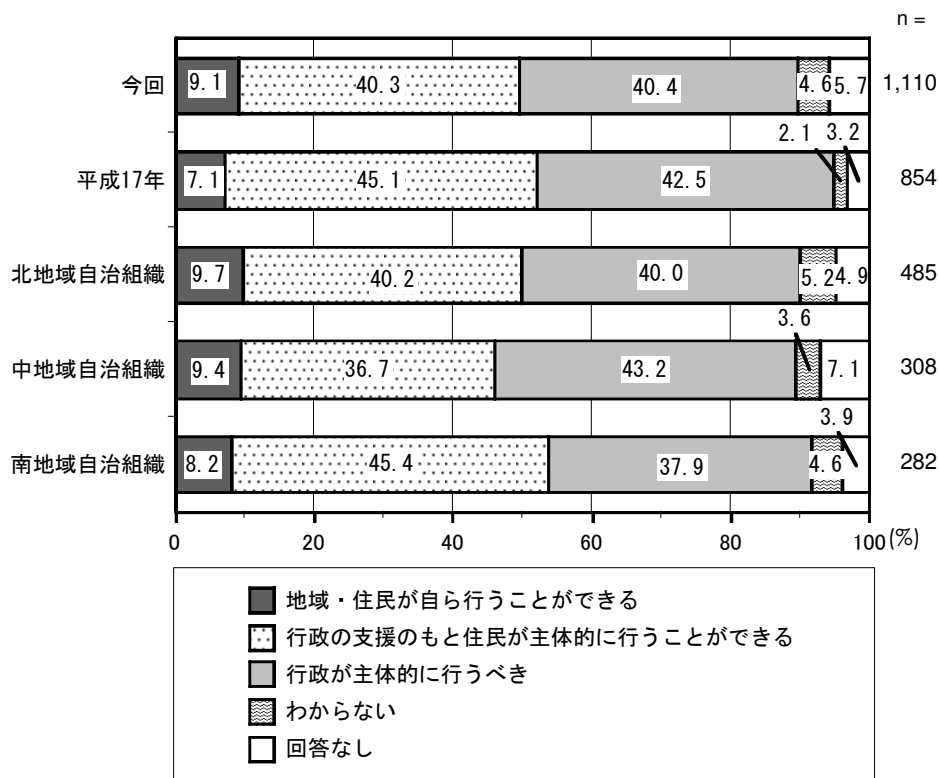
○平成 17 年調査から、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が 4.8 ポイント減少しました。

【項目⑧：居住地域別】 (図 9-9-9)

○中地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも 3.6 ポイント少なくなっています。

○南地域自治組織では、反対に「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも 5.1 ポイント多くなっています。

図 9-9-9 前回比較・居住地域別「⑧火災や災害に備えた消防や防災に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



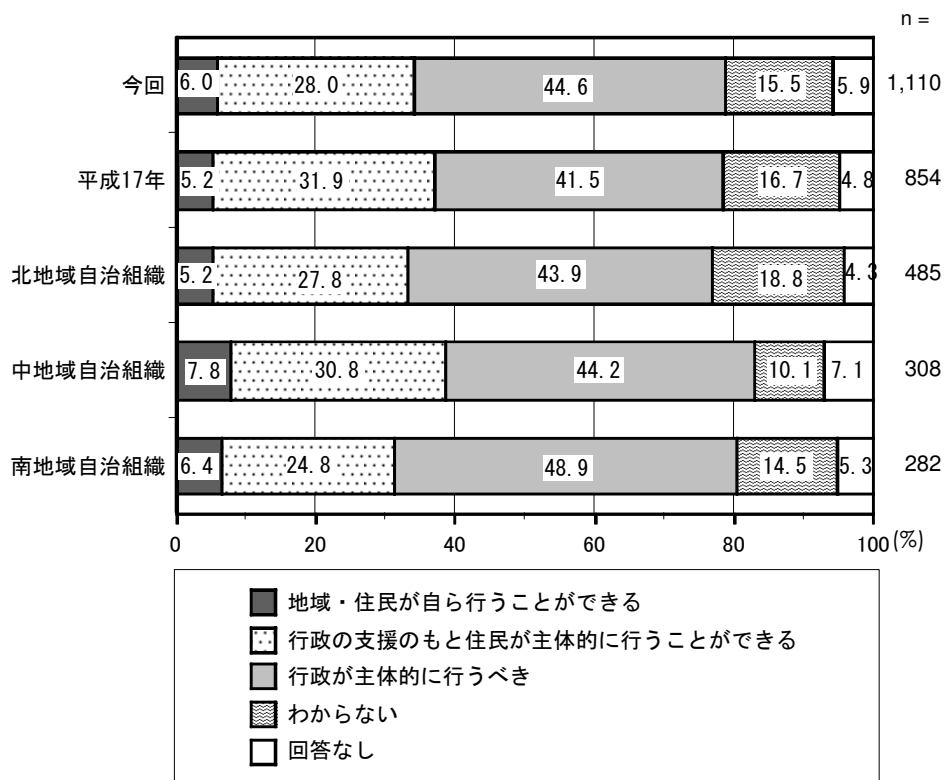
【項目⑨：前回比較】 (図9-9-10)

○平成17年調査と比較すると、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が3.9ポイント減少し、「行政が主体的に行うべき」が3.1ポイント増加しています。

【項目⑨：居住地域別】 (図9-9-10)

○南地域自治組織では「行政が主体的に行うべき」が全体よりも4.3ポイント多くなっています。

図9-9-10 前回比較・居住地域別「⑨通訳や交流イベントなど国際交流に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



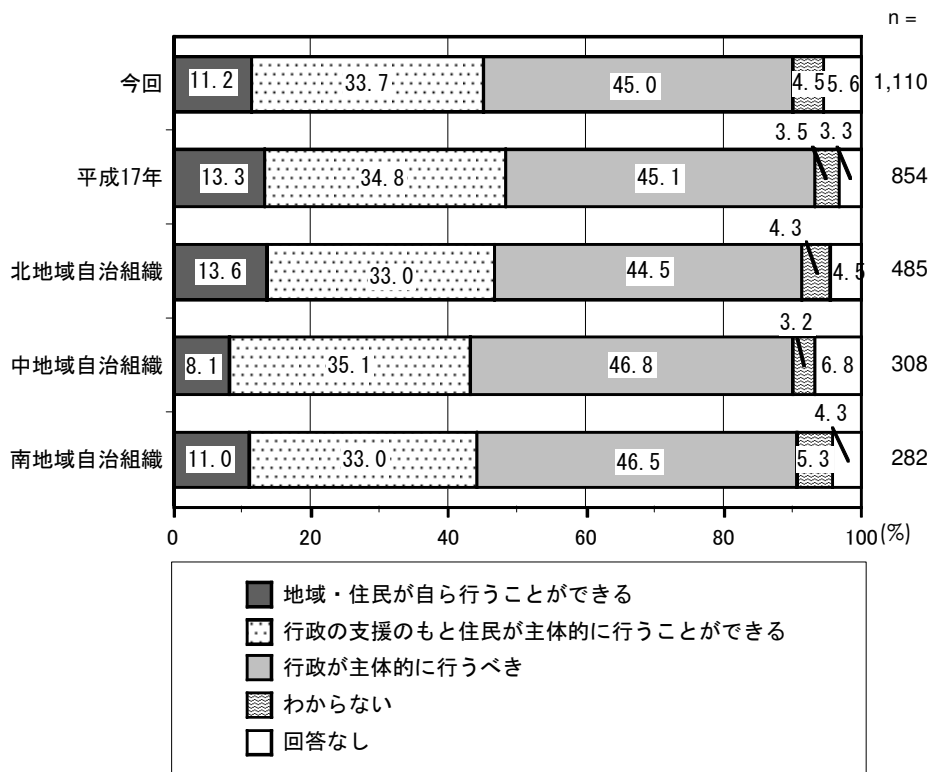
【項目⑩：前回比較】（図9-9-11）

○平成17年調査との有意な差は認められません。

【項目⑩：居住地域別】（図9-9-11）

○中地域自治組織では「行政が主体的に行うべき」が全体よりも3.1ポイント少なくなっています。

図9-9-11 前回比較・居住地域別「⑩公民館や公園など地域施設の管理・運営する活動」（まちづくり活動における考え方）



10. 地域の情報化について

10-1 「広報おおぐち」の利用状況（問44）

問 44 町では、毎月1回「広報おおぐち」を全戸配布していますが、あなたは、広報おおぐちを読んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

程度に差はありますが、9割以上の方が“広報おおぐちを利用している”と答えています。しかし、若い世代では、まだまだ利用率が低く、利用促進が必要です。

【全体】（図10-1-1）

- 「目を通す程度であるが毎回読んでいる」が39.7%と最も多く、「毎回よく読んでいる」が38.9%と続きます。
- 上記の2項目に「時々必要事項を選んで読んでいる」の12.4%を合わせると、程度に差はありますが、「広報おおぐち」9割以上に利用されています。

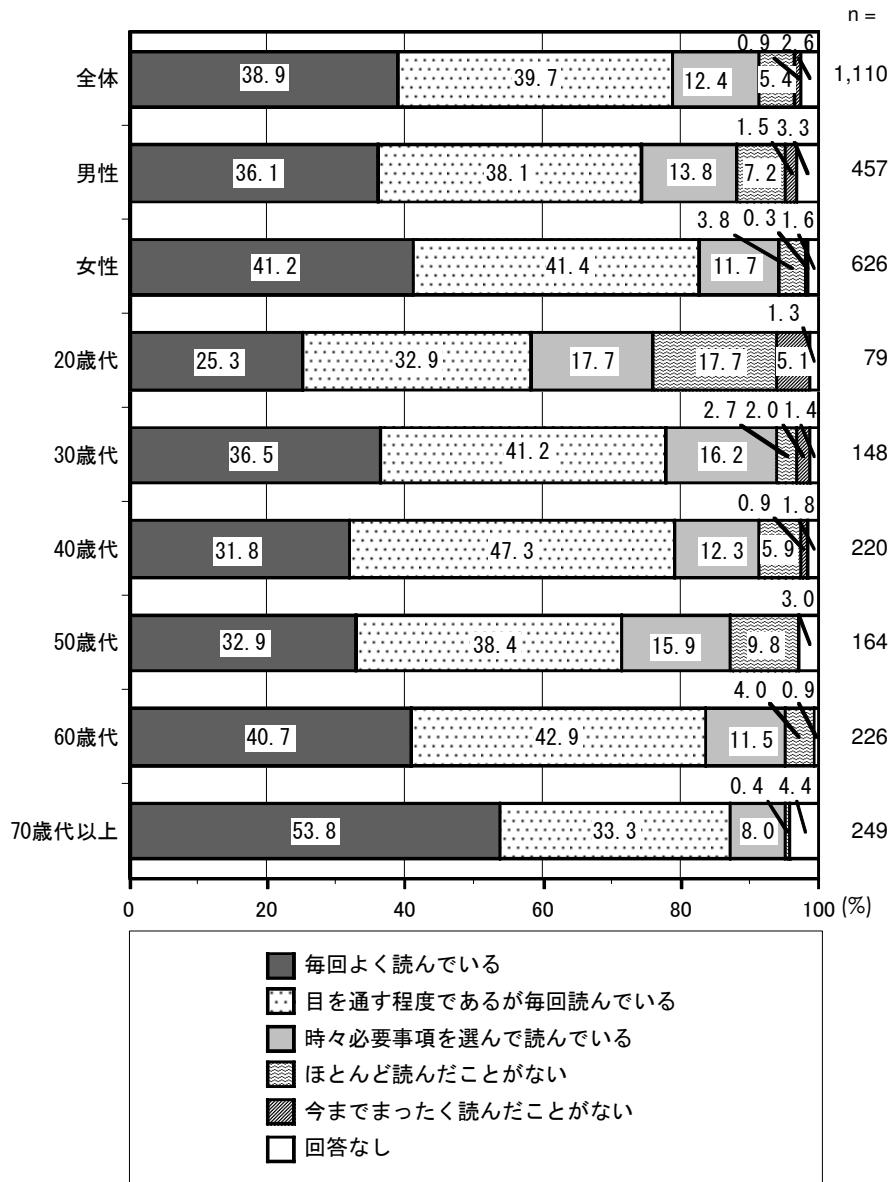
【性別】（図10-1-1）

- 女性の方が男性よりも「毎回よく読んでいる」は5.1ポイント、「目を通す程度であるが毎回読んでいる」は3.3ポイント多く、「広報おおぐち」をよく利用しています。

【年齢別】（図10-1-1）

- 「毎回よく読んでいる」は60歳代で40.7%、70歳代以上で53.8%と、高齢世代はよく利用しています。
- 一方、20歳代は「毎回よく読んでいる」が25.3%と少なく、「ほとんど読んだことがない」（17.7%）、「今までまったく読んだことがない」（5.1%）と合せて22.8%がほとんど利用していません。

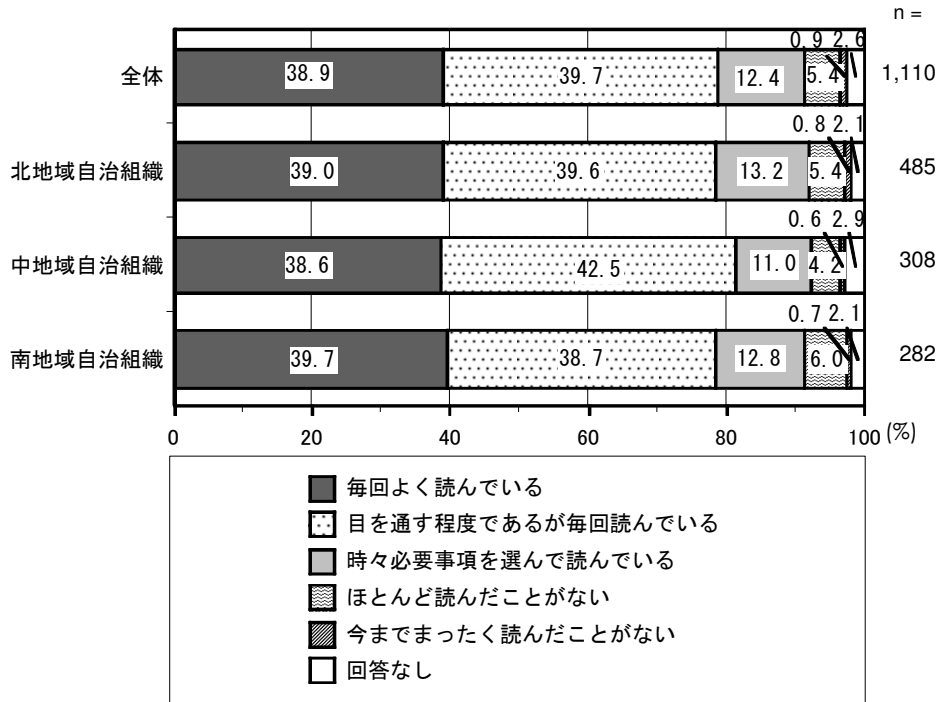
図 10-1-1 性別・年齢別『広報おおぐち』の利用状況



【居住地域別】 (図 10-1-2)

○居住地域別では利用状況に有意な差は認められません。

図 10-1-2 居住地域別『広報おおぐち』の利用状況



10-2 個別受信機による放送状況（問 45）

問 45 町では、毎朝（午前7時20分）と毎夕（午後7時15分）に防災無線の個別受信機を通じて「各課のお知らせ」を放送しています。あなたは、この放送を聴いていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

全体の 37.7%が「ほぼ毎日聴いている」、13.9%が「たまに聴いている（週に1～2回程度）」とし、特に高齢世代において、“防災無線の個別受信機による放送”はよく活用されています。若い世代では「個別受信機がない」とする人も多く、まだまだ普及していません。

【全体】（図 10-2-1）

- 「ほぼ毎日聴いている」が 37.7%と最も多く、「たまに聴いている（週に1～2回程度）」の 13.9%と合わせると、51.6%が“防災無線の個別受信機による放送”を活用しています。
- 「個別受信機がない」は 22.5%となっています。

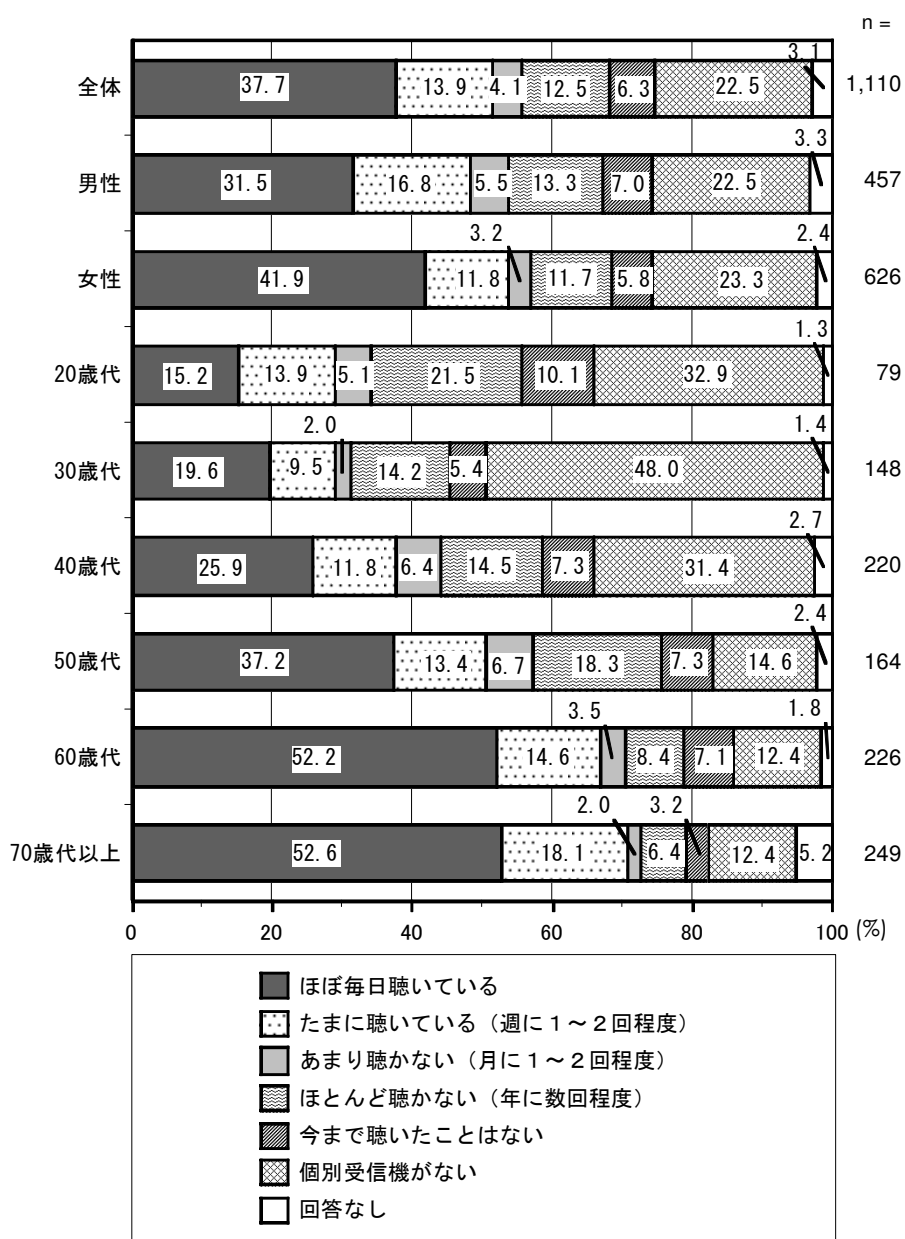
【性別】（図 10-2-1）

- 女性の方が男性よりも「ほぼ毎日聴いている」が 10.4 ポイント多く、よく活用しています。

【年齢別】（図 10-2-1）

- 若い世代よりも高齢者の方が、“防災無線の個別受信機による放送”をよく活用しています。「ほぼ毎日聴いている」と「たまに聴いている（週に1～2回程度）」を合わせると、60歳代は 66.8%、70歳代以上にいたっては7割以上になっています。
- 20・30歳代は「ほぼ毎日聴いている」が2割を下回っています。また、30歳代では「個別受信機がない」が 48.0%と他の世代に比べ非常に多くなっています。

図 10-2-1 性別・年齢別「個別受信機による放送状況」

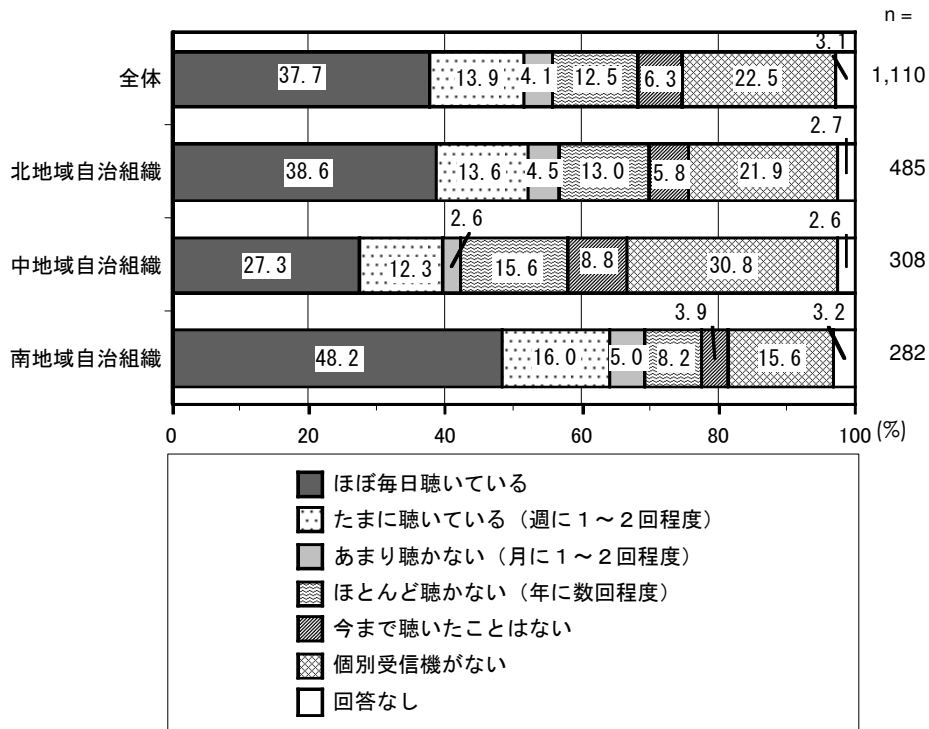


【居住地域別】 (図 10-2-2)

○南地域自治組織では「ほぼ毎日聴いている」が10.5ポイント全体よりも多く、よく活用されています。

○中地域自治組織では「個別受信機がない」が30.8%と最も多く、あまり普及していません。

図 10-2-2 居住地域別「個別受信機による放送状況」



10-3 インターネットの利用 (問 46)

問 46 あなたは、ご家庭でインターネットを利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

前回調査から「利用している」は2割弱増加し、6割以上がインターネットを利用するようになりました。若い世代にはより普及しています。

【全体】 (図 10-3)

- 「利用している」が62.5%と、「利用していない」の27.1%を大きく上回りました。
- 「利用したいが、パソコンがないなどの理由で利用できない」は7.6%となっています。

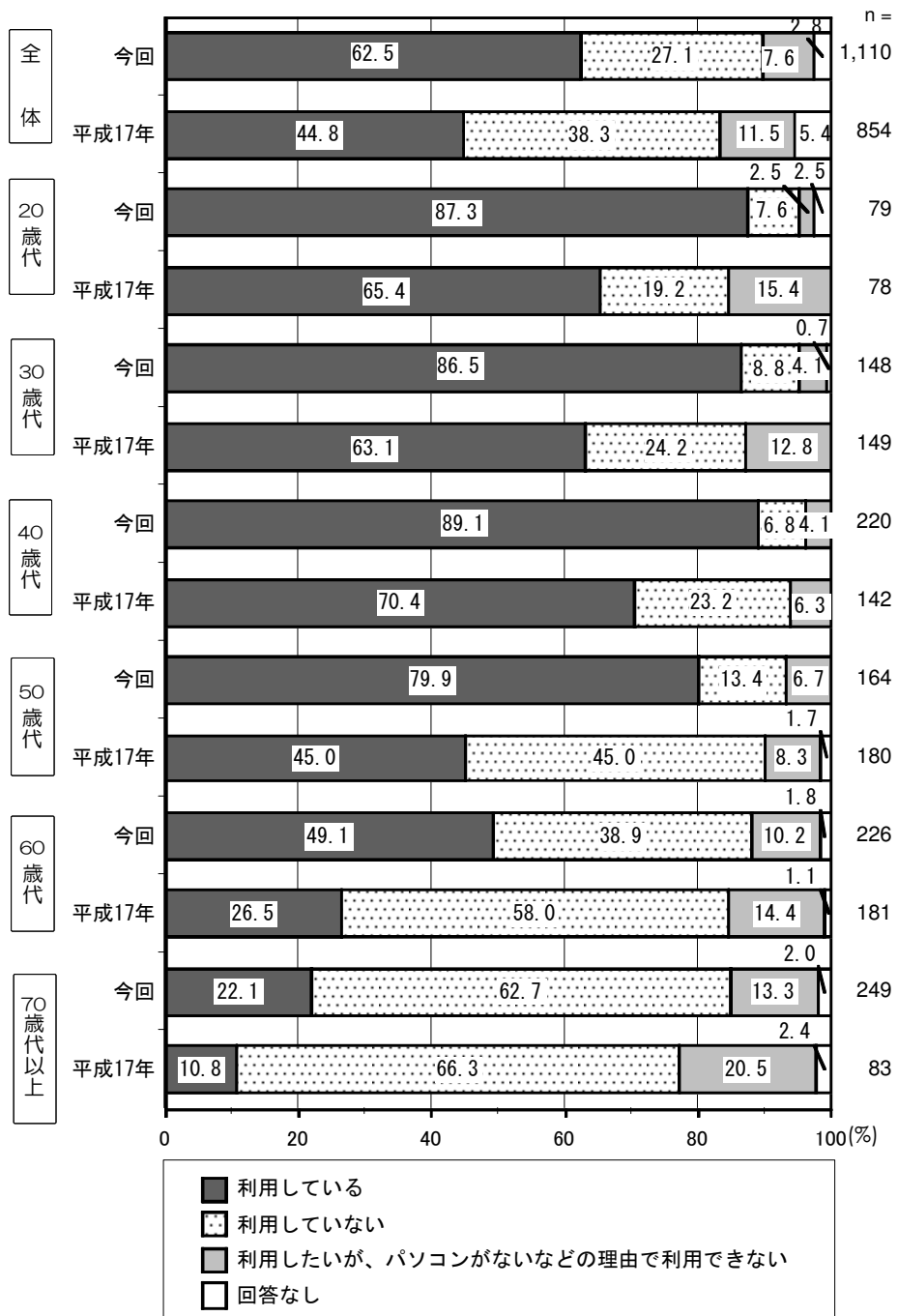
【前回比較】 (図 10-3)

- 平成17年調査から「利用している」は18.0ポイント増加し、また「利用したいが、パソコンがないなどの理由で利用できない」が3.9ポイント減少していることから、この10年間でインターネットの普及が進んだことがわかります。

【年齢別 (前回比較)】 (図 10-3)

- 20～50歳代では、普及が大きく進み、いずれも8割前後、40歳代ではほぼ9割の人がインターネットを利用しています。
- 60歳代は49.1%、70歳代以上は22.1%がインターネットを利用しています。若い世代に比べ、少なくなっていますが、平成17年からはいずれも倍増しています。

図10-3 前回比較・年齢別（前回比較）「インターネットの利用」



10-4 インターネット活用による地域情報化施策への期待 (問 47)

問 47 あなたは、インターネットを活用した地域情報化施策を進めることに、どのような効果を期待しますか。【回答数：2つまで○印】

“インターネット活用による地域情報化施策”には「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」ことが最も多く期待されています。

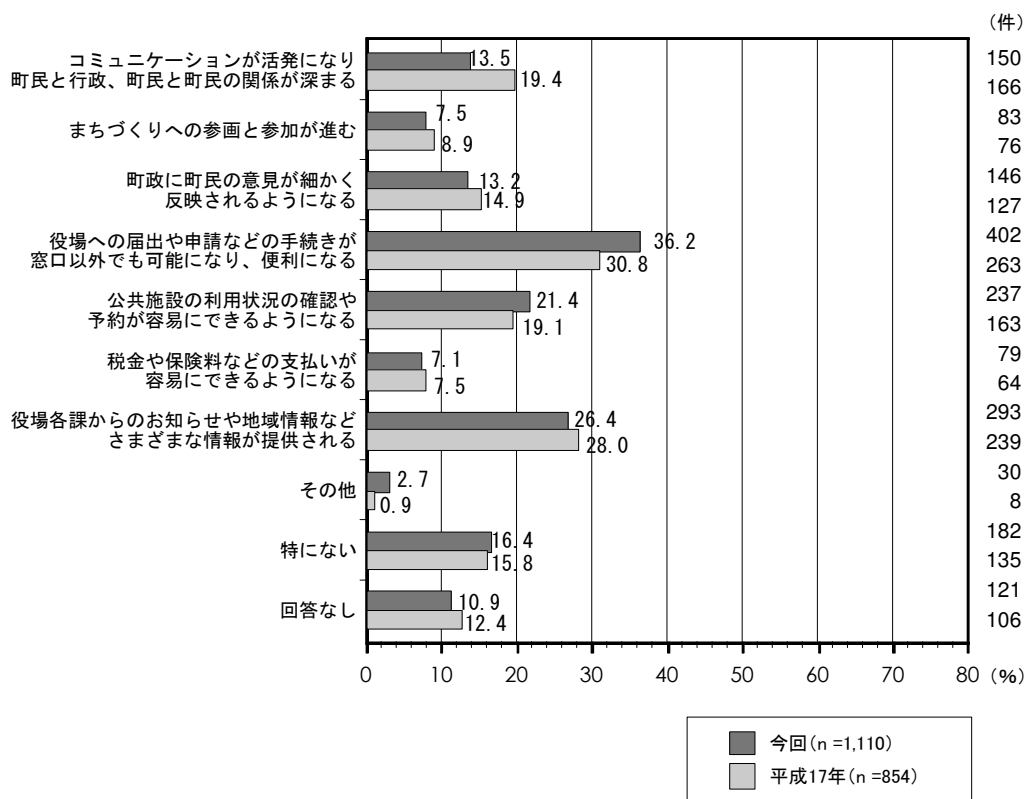
【全体】 (図 10-4-1)

- 「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」が36.2%と、最も多く期待されています。
- 「役場各課からのお知らせや地域情報などさまざまな情報が提供される」が26.4%、「公共施設の利用状況の確認や予約が容易にできるようになる」が21.4%と続きます。

【前回比較】 (図 10-4-1)

- 各項目の期待される順位に17年調査との大きな変化はありませんが、最も多い「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」への期待値は5.4ポイント増加しています。

図 10-4-1 前回比較「インターネット活用による地域情報化施策への期待」

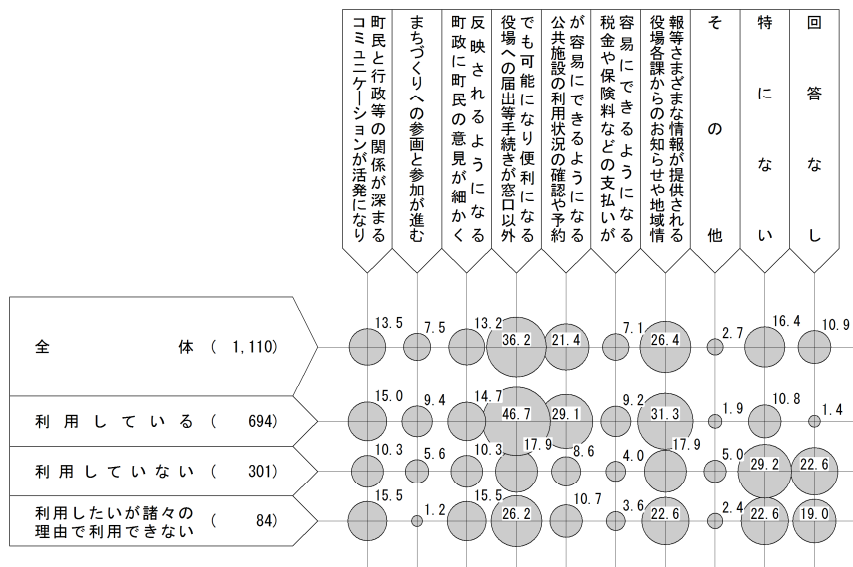


【問46「インターネットの利用」別】 (図10-4-2)

○前問で“インターネットを利用している”と答えた694人のうち、46.7%が「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」を、また31.3%が「役場各課からのお知らせや地域情報などさまざまな情報が提供される」を期待しています。いずれも全体よりも高い数値であり、インターネットをすでに利用している人は、その効果を実感し、より期待していることがわかります。

○一方、「利用していない」と答えた人は、その3割近くが「特になし」を選んでいきます。

図10-4-2 問46「インターネットの利用」別「インターネット活用による地域情報化施策への期待」



11. 町の事業やサービスなどの認知状況について

問48 あなたは、以下の①～⑱の大口町が実施している事業やサービスなどについて知っていますか。

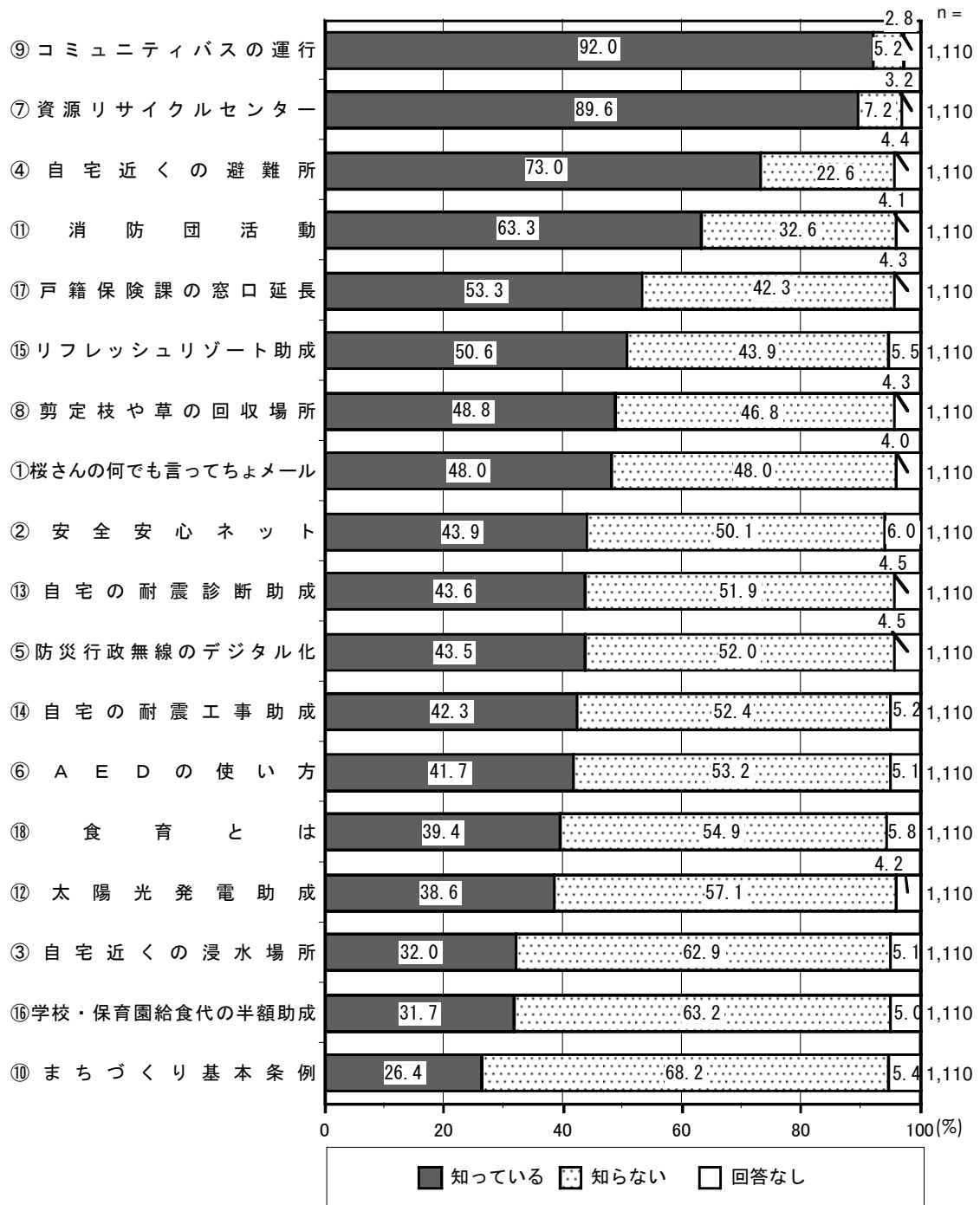
【回答数：①～⑱の項目それぞれについて1と2のどちらか一方に○印】

本庁が実施している18の事業・サービスのうち、9割前後と多くの人に認知されているのは、⑨コミュニティバスの運行と⑦資源リサイクルセンターです。市民の生活に直接関わる12もの事業やサービスが半数以下にしか認知されてらず、まだまだ周知が必要です。

【全体】(図11)

- 本庁が実施している18の事業・サービスについて、認知度の高い順に下図に並べました。
- 最も認知度の高いのは、⑨コミュニティバスの運行で、「知っている」が92.0%で、⑦資源リサイクルセンター(89.6%)、④自宅近くの避難所(73.0%)と続きます。
- 上記3項目に次いで、⑪消防団活動(63.3%)、⑰戸籍保健課の窓口延長(53.3%)、⑮リフレッシュリゾート助成(50.6%)の3項目は、半数以上に認知されていますが、それ以外の12項目は、まだまだ認知度が低いようです。
- 特に認知されていないのは、⑩まちづくり基本条例で「知っている」が26.4%、「知らない」が68.2%となっています。

図11 町の事業やサービスなどの認知状況について



12. 公共施設と住民負担の関係について

12-1 公共施設の利用（問 49）

問 49 あなたは、ここ 1 年以内に町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）を利用したことはありますか。【回答数：○印を 1 つだけ】

町内の公共施設を、ここ 1 年以内に利用したことがある人は約 3 割となっています。また、20 歳代以外の若い世代では利用率が高く、30・40 歳代は 4 割以上が利用しています。

【全体】（図 12-1）

○「利用したことがない」は 66.7%と「利用したことがある」の 30.5%を大きく上回りました。

【前回比較】（図 12-1）

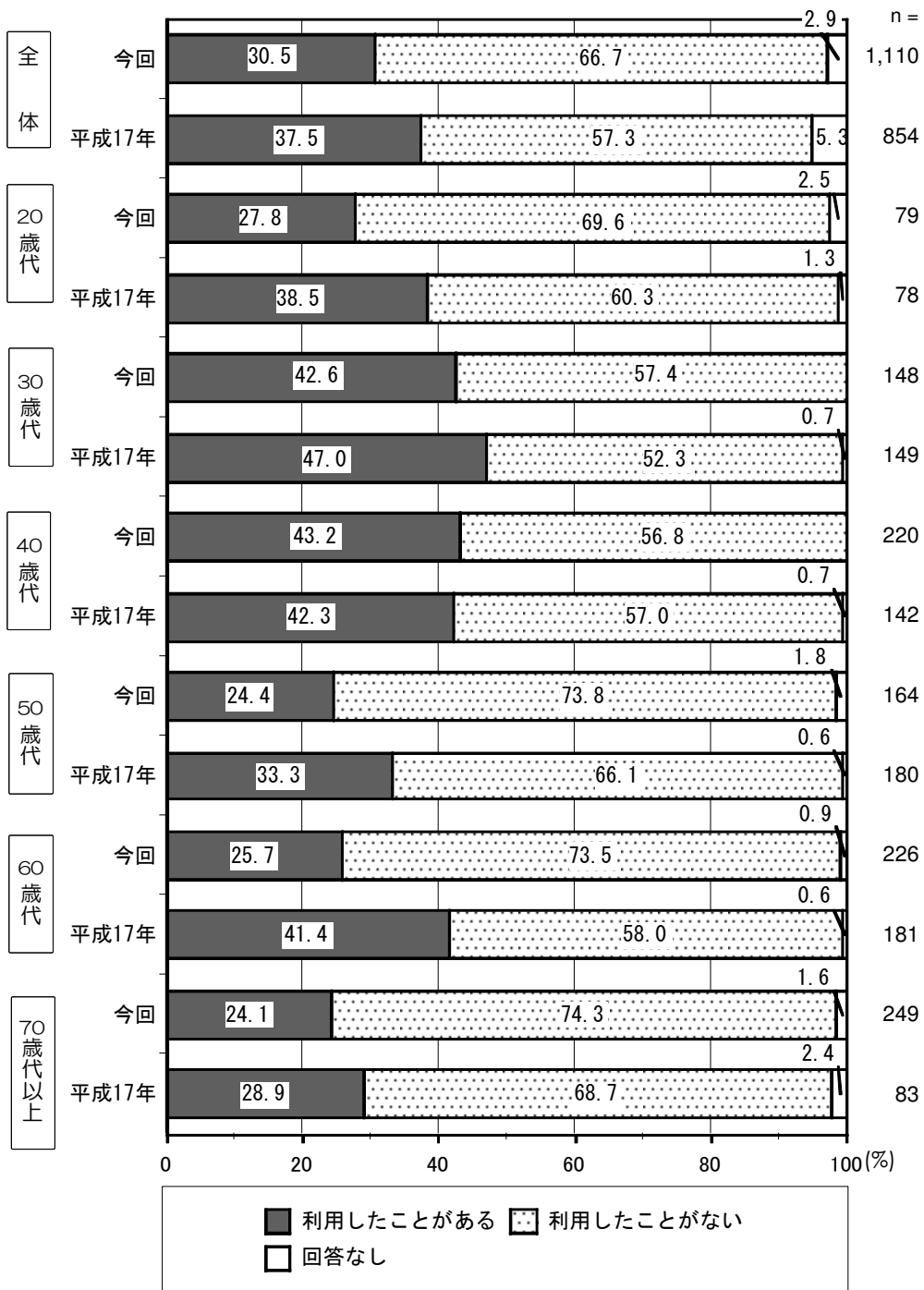
○「利用したことがある」は平成 17 年調査よりも 7.0 ポイント減少しています。

【年齢別（前回比較）】（図 12-1）

○年齢別では、30・40 歳代で 4 割以上が「利用したことがある」としていて、他の世代に比べ多くなっています。30 歳代は平成 17 年調査よりも 4.4 ポイント減少していますが、40 歳代は 0.9 ポイントとわずかなですが増加しています。

○40 歳代以外の全ての年代において平成 17 年調査よりも利用率が減少しています。なかでも 60 歳代は平成 17 年調査では 41.4%と利用率が全体よりも高かったのが、今回は 25.7%と 15.7 ポイント減少しています。

図 12-1 前回比較「公共施設の利用」



12-2 公共施設の利用と負担の関係（問 50）

問 50 現在、町の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プール、中央公民館等）は使用（利用）するときに決められた使用料が必要ですが、これらの施設の維持管理には多くの税金が使われています。これからの公共施設の利用と負担の関係について、あなたの考えに最も近いのは何ですか。

【回答数：○印を1つだけ】

【全体】（図 12-2-1）

- 「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が 69.3%と最も多くなっています。
- 「公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい」は 12.7%、「税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」は 12.3%となっています。

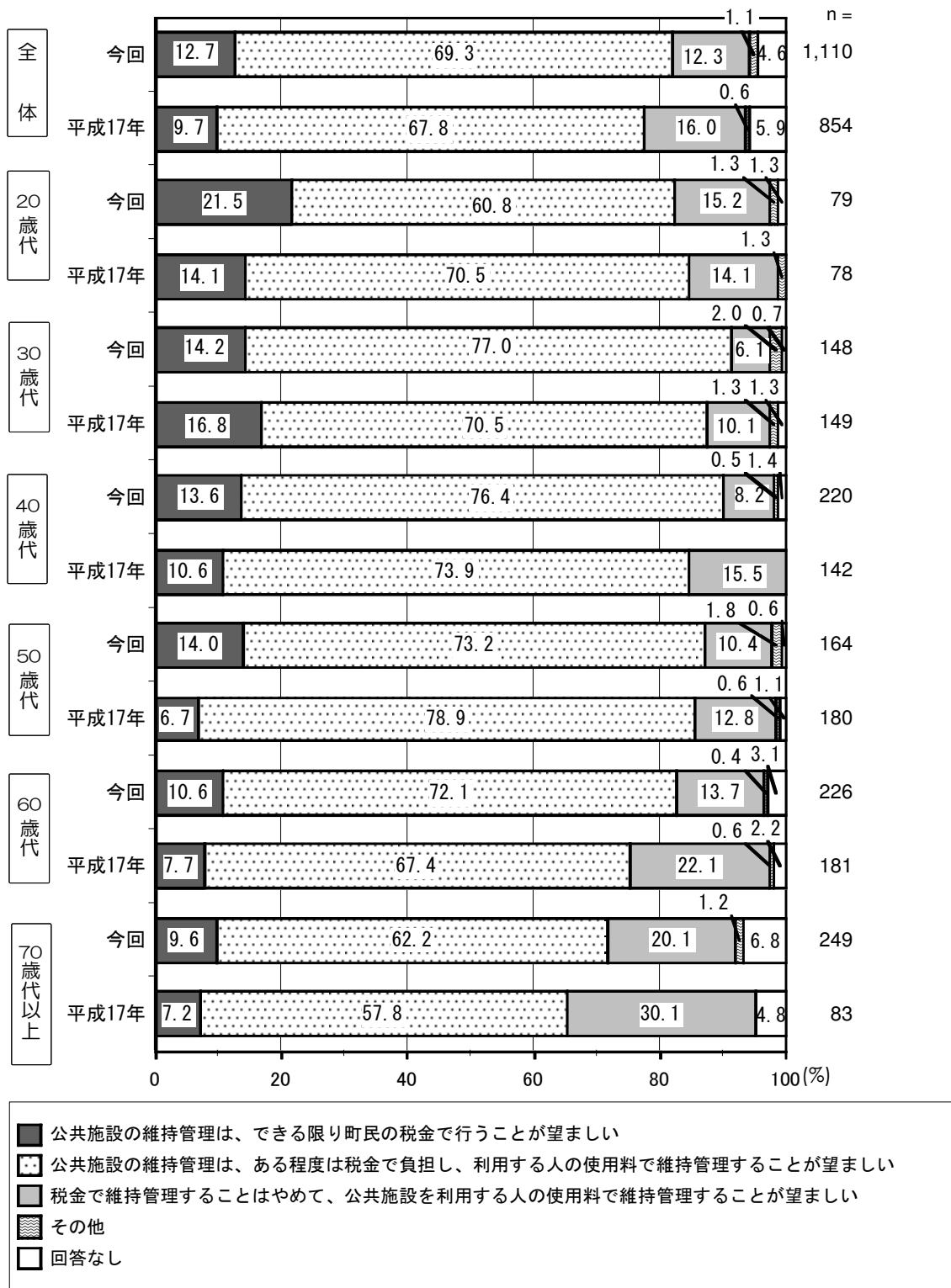
【前回比較】（図 12-2-1）

- 平成 17 年調査では、「税金で維持管理することはやめて、使用料で維持管理する」のほうが、「できるかぎり町民の税金で行う」よりも 6.3 ポイント多かったのですが、今回調査では、逆転し「できる限り町民の税金で行う」のほうが 0.4 ポイントとわずかではありますが、上回りました。

【年齢別（前回比較）】（図 12-2-1）

- 20 歳代は「ある程度は税金で負担し、利用する人の使用料で維持管理する」を全体よりも 8.8 ポイント多く望んでいます。
- 前問でこれらの施設を一年以内に利用したことがあると答えた人の多かった 30・40 歳代は、「税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」は一割未満で少なくなっています。
- 70 歳代以上では、「税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が 20.1%と、他の世代に比べて最も多くなっています。

図 12-2-1 年齢別（前回比較）「公共施設の利用と負担の関係」

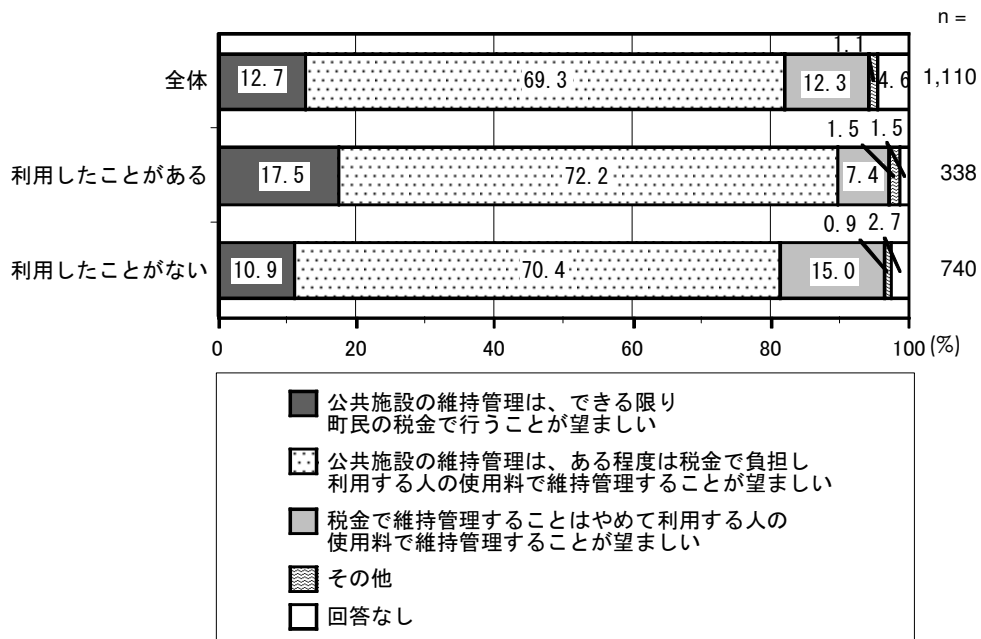


【問49「公共施設の利用」別】 (図12-2-2)

○前問で“ここ1年以内に町内の施設を利用した”ことがあるかどうかで見ると、「利用したことがある」人は、「利用したことがない」人よりも、「公共施設の維持管理はできる限り町民の税金で行うことが望ましい」を6.6ポイント多く選んでいます。

○一方、「利用したことがない」人は「税金で維持管理することはやめて利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」を7.6ポイント多く選んでいます。

図12-2-2 問49「公共施設の利用」別「公共施設の利用と負担の関係」



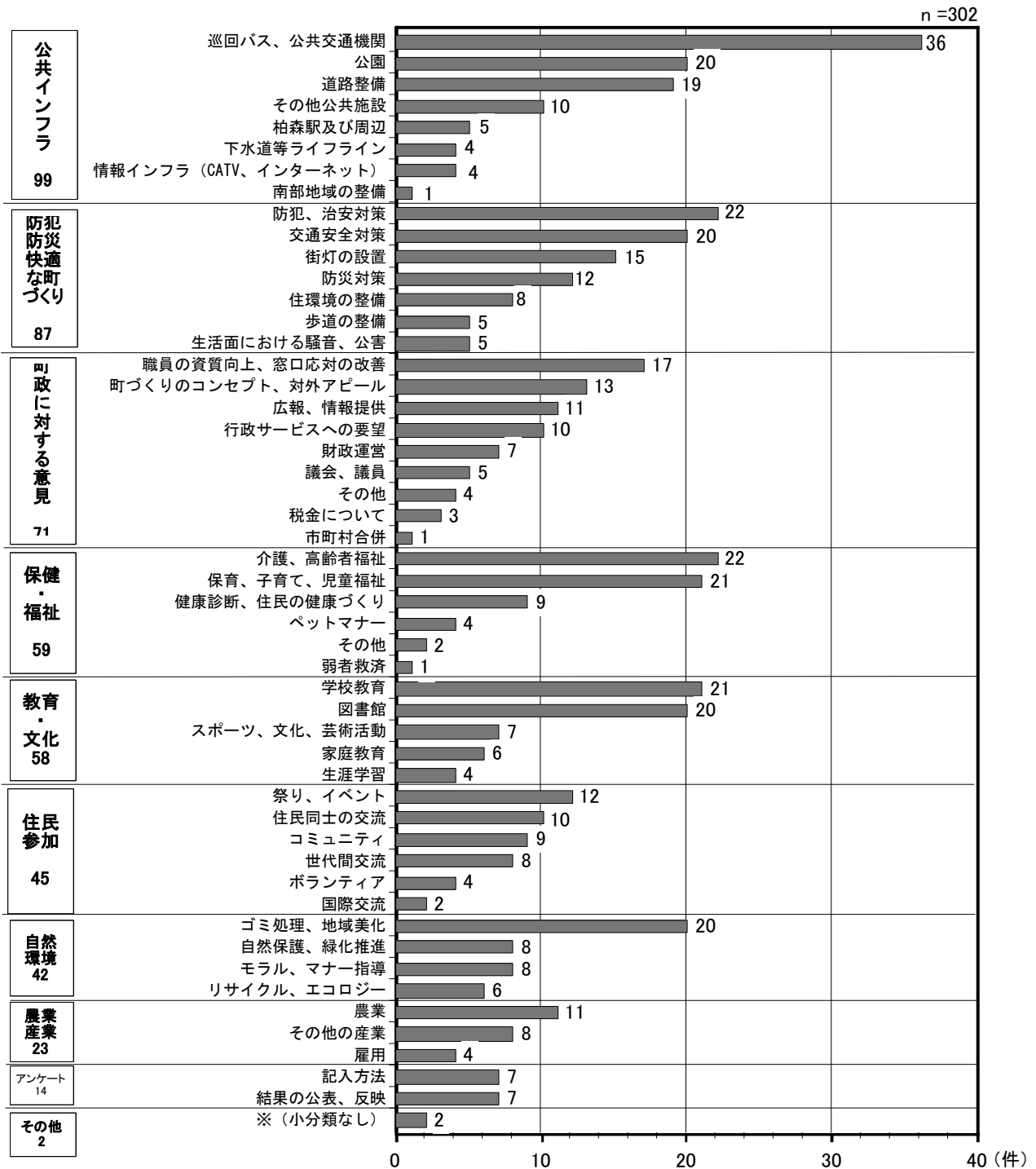
資料編

自由意見の回答結果

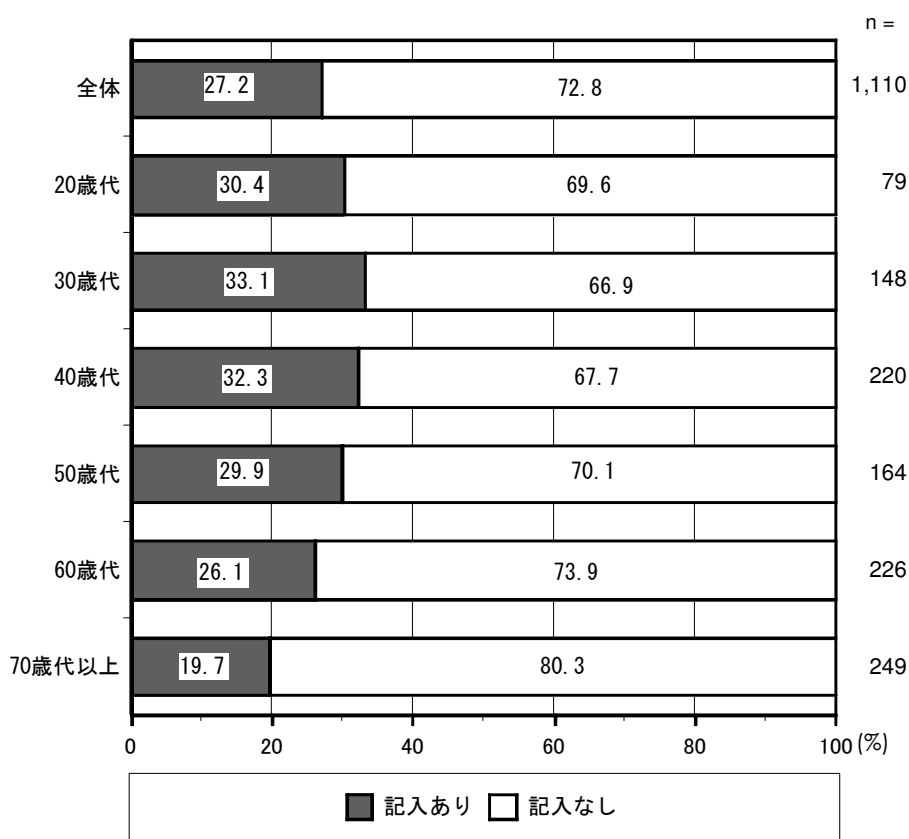
資料編 表1 分類別回答件数

サンプル数:302		件数:500		
No	大分類	大分類件数	小分類	小分類件数
1	自然・環境	42	(1)自然保護、緑化推進	8
			(2)ゴミ処理、地域美化	20
			(3)リサイクル、エコロジー	6
			(4)モラル、マナー指導	8
2	保健・福祉	59	(1)保育、子育て、児童福祉	21
			(2)介護、高齢者福祉	22
			(3)健康診断、住民の健康づくり	9
			(4)弱者救済	1
			(5)ペットマナー	4
			(6)その他	2
3	教育・文化	58	(1)学校教育	21
			(2)家庭教育	6
			(3)生涯学習	4
			(4)スポーツ、文化、芸術活動	7
			(5)図書館	20
4	農業・産業	23	(1)農業	11
			(2)その他の産業	8
			(3)雇用	4
5	公共インフラ	99	(1)巡回バス、公共交通機関	36
			(2)道路整備	19
			(3)下水道等ライフライン	4
			(4)公園	20
			(5)情報インフラ(CATV、インターネット)	4
			(6)南部地域の整備	1
			(7)柏森駅及び周辺	5
			(8)その他公共施設	10
6	防犯・防災・快適な町づくり	87	(1)住環境の整備	8
			(2)歩道の整備	5
			(3)交通安全対策	20
			(4)防犯、治安対策	22
			(5)街灯の設置	15
			(6)防災対策	12
			(7)生活面における騒音、公害	5
7	住民参加	45	(1)祭り、イベント	12
			(2)世代間交流	8
			(3)コミュニティ	9
			(4)住民同士の交流	10
			(5)ボランティア	4
			(6)国際交流	2
8	町政に対する意見	71	(1)広報、情報提供	11
			(2)財政運営	7
			(3)職員の資質向上、窓口対応の改善	17
			(4)行政サービスへの要望	10
			(5)税金について	3
			(6)議会、議員	5
			(7)市町村合併	1
			(8)町づくりのコンセプト、対外アピール	13
			(9)その他	4
9	このアンケートについて	14	(1)記入方法	7
			(2)結果の公表、反映	7
10	その他	2	※小分類なし	2

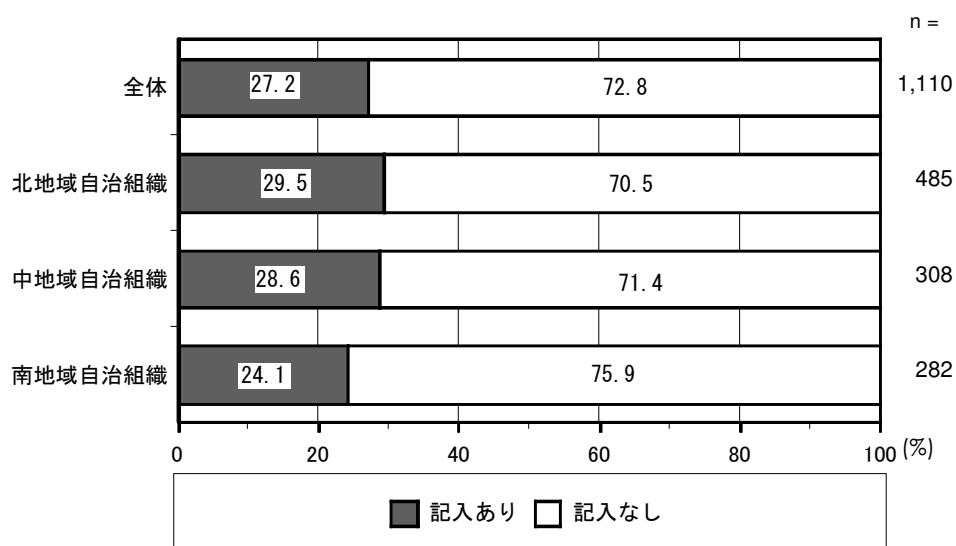
資料編 図1 分類別回答件数



資料編 図2 年齢別「自由意見の回答」



資料編 図3 居住地域別「自由意見の回答」



自由意見(サンプル数:302、件数:500)

1. 自然・環境

(1) 自然保護、緑化推進(8件)

企業による河川への排水で悪臭等が発生しているので環境問題として取り組んでほしい。	男性・60歳代・南地域
五条川の桜を守ってほしい。	女性・40歳代・北地域
不要な土地を町が買い取って森林をつくり、緑化推進してほしい。	男性・70歳代以上・中地域
歩道の樹木剪定をこまめにやってほしい。	女性・30歳代・中地域
前、北小学校敷地の校舎跡地の高台に桜を植生してはどうか。	女性・70歳代以上・北地域
緑豊かな大口町にしてほしい。	女性・30歳代・北地域
メインストリートへの桜並木を整備。	男性・40歳代・北地域
良き田舎をつくる。	男性・60歳代・南地域

(2) ゴミ処理、地域美化(20件)

各戸の前にゴミ出しすれば、しっかり分別されマナーもしっかりすると思う。	女性・40歳代・南地域
可燃ゴミの収集場所がネットだけではカラスや猫が荒らすので、鉄製の柵等を設置すべき。	女性・60歳代・北地域
可燃ゴミの集積場所のカラスや猫によるゴミの散乱は、ゴミを出す住民にも責任があるので、行政は指導すべき。	男性・70歳代以上・南地域
公共施設は草も生えており美しくない。	女性・50歳代・中地域
五条川の河川敷の整備をしてほしい。	女性・40歳代・北地域
五条川の清掃をしてほしい。	女性・40歳代・南地域
ゴミ焼却場の建設、運営を町がやるべき。	男性・60歳代・北地域
ゴミ当番があるが、高齢者にはきついのでなんとかしてほしい。他の市では当番制がないところがあり、指定した場所、時間に置いておけば業者が持って行ってくれるところもある。	女性・70歳代以上・南地域
ゴミ当番は廃止。	女性・30歳代・中地域
ゴミの収集について、午後1時頃に収集しているのに午前8時30分までに出すルールは疑問。	男性・20歳代・中地域
ゴミの量に対してネットが小さすぎる。	女性・30歳代・中地域
剪定枝や草の回収場所を北部地域にもほしい。	男性・70歳代以上・北地域
粗大ゴミの収集料金を値下げしてほしい。	女性・50歳代・南地域
町全体のゴミ問題がある。	女性・60歳代・中地域
町のゴミ袋で「小」と「減」の中間のものがほしい。	女性・40歳代・中地域
道路沿いのゴミが多く、困っている。	女性・40歳代・北地域

野焼きが禁止になったが再考願いたい。	女性・20歳代・北地域
野焼きの禁止を徹底せよ。	男性・40歳代・北地域
不燃ゴミの分別ルールを決めてもらいたい。	女性・30歳代・中地域
街並で雑草が目立つ。	女性・70歳代以上・中地域

(3) リサイクル、エコロジー(6件)

資源ゴミの収集に来てほしい。	女性・30歳代・北地域
プラスチックゴミの回収数を増やしてほしい。	女性・30歳代・地域不明
プラスチックゴミの回収をしてほしい。	女性・20歳代・南地域
プラスチックゴミは可燃ゴミ以上にすぐたまるので、収集してくれると助かる。	男性・40歳代・南地域
プラスチックゴミをリサイクルセンターに持ち込むのは面倒なので、可燃ゴミの集積場所に出せるようにしてほしい。	女性・40歳代・北地域
漏れなく、廃品回収案内してほしい。	男性・40歳代・南地域

(4) モラル、マナー指導(8件)

可燃ゴミを家の玄関近くで収集しているが、不燃物を混入したゴミをかつてに置いていく人がいる。	女性・60歳代・北地域
境界から出る樹木の枝の処理等について行政が指導願いたい。	男性・70歳代以上・南地域
ゴミのポイ捨て等をよく見かける。	女性・40歳代・南地域
ゴミのポイ捨てなどマナーが悪い。	男性・50歳代・南地域
田、畑にゴミが捨ててあって困る。	女性・60歳代・南地域
タバコのポイ捨てをなくす条例をつくってほしい。	女性・50歳代・北地域
近くのアパートから出される可燃ゴミに不燃物が混ざっている。	男性・40歳代・中地域
マナーを守れない人が増えた。	女性・30歳代・北地域

2. 保健・福祉

(1) 保育、子育て、児童福祉(21件)

一時保育の場を増やし、料金を安くしてほしい。また、休日保育の料金を安くしてほしい。保育園は働く親が預けるのだから園に出向く行事は減らしてほしい。	女性・20歳代・中地域
学童保育を6年生までにしてほしい。また、児童センターを改良してほしい。	女性・40歳代・中地域
学校、保育園の設備や給食費の無料、半額助成はありがたい。そういった点では近隣の市、町より誇れる町だと思う。	女性・30歳代・北地域
近隣市町の状況を見ると大口町は子育て世帯にとって育てやすい町であると思う。	女性・30歳代・中地域

子育て支援を充実させてほしい。	女性・20歳代・南地域
子育て世代の支援に尽力すべき。	男性・60歳代・北地域
子ども会は子どものためになる事をもっと考えた方がよい。	女性・40歳代・北地域
子ども達が地域で生き生き活動できる大口町にしてほしい。	女性・50歳代・南地域
子どもを育てやすいように税金を使ってほしい。	女性・30歳代・北地域
小1のカベ、小4のカベをなんとかしてほしい。	女性・40歳代・中地域
西保育園を整備してもらいたい。	女性・30歳代・中地域
妊婦が参加できる教室を増やす。	女性・30歳代・中地域
働きたいが病児保育が少なすぎる。	女性・30歳代・南地域
働けるように子どもを預けやすいようにしてほしい。	女性・20歳代・北地域
平日の小学校の受け入れが7時30分だと助かる。	女性・40歳代・中地域
保育園受け入れの充実を望む。	女性・30歳代・中地域
保育園の3歳未満の入園はくじ引きで決めるようにしてほしい。	男性・70歳代以上・北地域
保育園の未満児は育児休暇中に1度退園しなければならないが、子育てで大変な時期なので何とかしてほしい。また、保育料をもっと所得に応じて細分化してほしい。	女性・30歳代・南地域
保育園や幼稚園の費用の一部を補助してほしい。	女性・30歳代・地域不明
町の繁栄はこれからの子ども達が支えていくので、教育をしっかりと、子育てしやすい環境にしていく必要がある。	女性・40歳代・北地域
幼稚園に子どもを入園させられるか心配。	女性・30歳代・北地域

(2) 介護、高齢者福祉(22件)

介護施設が少ない。	女性・60歳代・中地域
介護施設を増設してほしい。	女性・70歳代以上・北地域
介護認定は市町によりばらつきがあるように思える。平等な認定を望む。	女性・40歳代・中地域
介護福祉医療についての専門職員が長期勤務できるようにしてほしい。	男性・50歳代・中地域
介護予防教室を増やしてはどうか。	女性・60歳代・北地域
高齢社会に向けた施策とすること。	男性・60歳代・北地域
高齢者が元気で生活できるように運動できる場を増やしてほしい。	女性・50歳代・北地域
高齢者にとって大口町は住みやすいまちだと思う。これからもしっかりとやってほしい。	女性・70歳代以上・北地域
高齢者の多い団地に住んでいるが、孤立感を感じる。	女性・70歳代以上・中地域
高齢者の見守り、支え合い活動の推進。	男性・60歳代・南地域
高齢者の有効活用を望む。	男性・60歳代・南地域
高齢者は自ら進んで挑戦することが難しいので、背中を押してあげることも必要。	女性・70歳代以上・北地域
高齢者への福祉など、住民にやさしいまちであってほしい。	男性・20歳代・南地域

高齢者用の緊急ブザーを設置し、素早く対応できる体制をつくる。	女性・50歳代・北地域
国民年金受給者に毎年100万円の給付金を希望する。	男性・70歳代以上・北地域
持病があるため、高齢の親の介護をいつまで続けられるか不安である。	女性・60歳代・北地域
町営の特別養護老人ホームを建設するとよいと思う。	女性・30歳代・南地域
特別養護老人施設を造ってもらいたい。	女性・50歳代・南地域
花見などに参加できない高齢者に食事等を配ってほしい。	女性・70歳代以上・中地域
身の周りの問題は個人で解決するという意識が必要だと思う。超高齢化社会を迎える中、どの分野もバランスよく発展させることは難しい。	女性・50歳代・中地域
老人ホームの増設を行い、身寄りのない高齢者を優先的に入所させてほしい。	女性・50歳代・中地域
老人に住みやすく、移動しやすいまちに。	男性・60歳代・南地域

(3) 健康診断、住民の健康づくり(9件)

インフルエンザ等の予防接種に補助金を出してほしい。	女性・40歳代・南地域
大口町は文化教育よりも健康に重点を置いているという印象を受ける。お互い励まし合いながら禁煙してはどうか。	女性・50歳代・中地域
健康診断や人間ドックに関する助成が他市町より低いと思う。	男性・50歳代・中地域
健康な身体づくりのため、地域でウォーキング等を皆でできたらよいと思う。	女性・50歳代・中地域
健康の基礎は「食」であるので、食について皆にもっと知ってほしい。	女性・20歳代・北地域
子ども対象の予防接種にも助成があればよい。	男性・30歳代・中地域
今後、高齢者が増えるが健康で元気な町にしてほしい。	女性・60歳代・南地域
町内の健康講座等の機会を増やす。	女性・60歳代・北地域
老若男女が健康で住みよいまちであってほしい。	女性・70歳代以上・北地域

(4) 弱者救済(1件)

弱者に優しいまちづくり。	女性・70歳代以上・北地域
--------------	---------------

(5) ペットマナー(4件)

犬の糞に関するマナー。	女性・60歳代・中地域
犬の糞のしまつをしっかりしてほしい。	男性・60歳代・北地域
猫を放し飼いにし、糞の始末をしない。	女性・70歳代以上・南地域
犬の糞が多い。	女性・60歳代・南地域

(6) その他(2件)

近所に野良猫が多く行政に相談したが、何もしてもらえず自費でTNR活動を行った。7～8年が過ぎた現在も一向に改善されていないので、行政	女性・30歳代・中地域
--	-------------

が地域の野良猫対策に取り組んでんもらいたい。	
子ども、高齢者、障害者に優しいまちを目指してまちづくりをしてほしい。	男性・60歳代・北地域

3. 教育・文化

(1) 学校教育(21件)

英語教育を早急に進めてほしい。	女性・40歳代・北地域
大口中学校の教科センター方式は生徒の負担が大きいので見直すべき。	女性・40歳代・南地域
大口中学校は学力が低いと聞いたが、小学生を持つ親としては不安である。	女性・30歳代・北地域
大口町は小学校ごとに雰囲気が違う。現在、進めている1～2年生対象の35人学級は全学年で行うべき。	女性・20歳代・北地域
外国人講師による英語教育の継続。	男性・30歳代・北地域
学校給食の質や量を検討してほしい。	男性・20歳代・北地域
学校給食費を町が全額払ってくれると聞いたが、まだ、ならないのか。	女性・30歳代・北地域
学校教育の強化を。	女性・40歳代・南地域
子どもの学力向上に向けた施策が必要。	男性・60歳代・北地域
小、中学校の学習指導の向上。	女性・40歳代・中地域
奨学金を充実してほしい。	男性・20歳代・中地域
小学校、中学校ともに学力不足といわれるが、なぜ、改善されないのか。また、中学校の縦割り方針も反対意見が多い中、なぜ、続けているのか。	女性・30歳代・中地域
小学校で部活動をしてほしい。	女性・40歳代・南地域
小学校などは子どもの数に対して教員数が少ないと感じるので、イベントや雑用などに保護者が手伝える機会が増えればよいと思う。	女性・40歳代・中地域
小学校の40人学級を35人学級にしてほしい。また、各小学校で宿題の量に差があると思う。	女性・30歳代・中地域
小学校の教員は土曜日も出勤しており、子ども達と接する余裕がない。教員を増員して子ども達と向き合う時間をとってほしい。	男性・40歳代・南地域
中学校がもう1校あってもよいのではないか。	男性・30歳代・北地域
中学校に関しては教師によって生徒の理解度に差があるということだが、よりよい方向へ行くように話あってほしい。	女性・50歳代・南地域
中学校の教育の充実。	女性・40歳代・中地域
中学校の体制を変えてほしい。ブロック制のため同学年同士の結束がない。また、移動教室が多く生徒同士の交流が少ない。	女性・40歳代・中地域
何事にも積極的にチャレンジする姿勢を育てることが、子ども達の教育の面でも重要だと思う。	男性・20歳代・北地域

(2) 家庭教育(6件)

学生のマナー低下が目立つ。	女性・50歳代・中地域
子ども達に大人としてのルールを教育すべき。	女性・60歳代・中地域
子どもに社会へ出て働く意味を教える。	男性・70歳代以上・北地域
上下関係、礼儀作法等を教育する必要がある。	男性・40歳代・北地域
小中学生のマナーの悪さが目につく。	男性・50歳代・南地域
箱物の充実も必要だが、未来を形成するには人材育成が大切と考える。地域全体で取り組む施策が必要ではないか。	男性・70歳代以上・中地域

(3) 生涯学習(4件)

高齢者が利用できる施設の充実。例えば、囲碁、将棋、カラオケができる施設。	男性・70歳代以上・北地域
前期、後期講座について講座数を増やしてほしい。	女性・30歳代・北地域
町民のみが利用できるヨガや体操教室を無料で定期的に行う。	女性・30歳代・中地域
パソコンを使いたいので、高齢者でも気軽に参加できるような教室を増やしてほしい。	女性・60歳代・南地域

(4) スポーツ、文化、芸術活動(7件)

ウィル大口スポーツクラブ利用について、町民を優先し、補助金等の優遇をしてほしい。	女性・40歳代・南地域
芸術文化に対する予算を充実してほしい。また、文化芸術の発信をしてほしい。	男性・50歳代・北地域
子どもから大人まで参加できるスポーツ、文化交流会の開催。	男性・20歳代・北地域
スポーツ施設の予約をインターネットでできるようにしてほしい。	男性・40歳代・中地域
スポーツ施設をもっと拡充してほしい。	男性・20歳代・北地域
図書館、運動施設、コンサートホール、交流の場等を集約した施設をつくり、活気ある大口町にしてほしい。	女性・40歳代・中地域
プロスポーツを開催できるようにしてほしい。	男性・40歳代・南地域

(5) 図書館(20件)

犬山市や扶桑町にあるような図書館にしてほしい。	性別不明・年齢不明・地域不明
仮設図書館は狭いのでなんとかしてほしい。	女性・30歳代・北地域
使い勝手のよい図書館を新設する。	男性・30歳代・北地域
図書館、プールは年末年始もやってほしい。	男性・60歳代・北地域
図書館の開館時間の延長を希望する。	女性・40歳代・中地域
図書館の拡充を希望。	男性・50歳代・北地域

図書館の休館日の廃止。	男性・50歳代・北地域
図書館の充実を。	男性・40歳代・北地域
図書館の設備、施設の充実。	女性・30歳代・中地域
図書館の蔵書、閲覧スペース、自習スペースを充実してほしい。	女性・30歳代・中地域
図書館の蔵書数、読書スペースが足りないので充実してほしい。	女性・40歳代・北地域
図書館の蔵書数を増やしてほしい。	女性・30歳代・地域不明
図書館の読書スペースや学習スペースがもっとあればよい。	女性・40歳代・北地域
図書館は暗く閉鎖的で、駐車場も狭い。	女性・20歳代・北地域
図書館を大きくしてほしい。	女性・20歳代・北地域
図書館を充実してほしい。	男性・50歳代・北地域
図書館を造ってほしい。	女性・50歳代・北地域
図書館をバリアフリーにする。	女性・40歳代・北地域
図書館を広くして蔵書数を増やす。	男性・20歳代・中地域
早く図書館の回収工事を終えてほしい。	男性・30歳代・北地域

4. 農業・産業

(1) 農業(11件)

秋田では用水路がない田んぼは、家庭から出る排水で米を作ると聞いたが、そのような用水路をつくってほしい。	女性・60歳代・中地域
大口で収穫される農産物のイベントを増やす。	女性・30歳代・中地域
学校給食におにぎりを出せば米の消費が上がるかも。	男性・70歳代以上・北地域
近年、工場、倉庫が増えて農地が減少してきているので、規制してほしい。	女性・30歳代・北地域
現在、食料自給率が下がり、安全安心な食べ物が求められている中、耕作放棄地が増えているが、本当の意味での緑豊かなまちになるよう願っている。	女性・70歳代以上・南地域
耕作放棄地の整備。	男性・60歳代・北地域
合瀬川の改良。	男性・70歳代以上・北地域
国道155号線上に商業施設をつくれるように農地を開放してほしい。	男性・60歳代・南地域
地元の野菜を販売する施設があるとよい。	女性・40歳代・北地域
農業、商工業の比率は最適だと思う。	男性・70歳代以上・北地域
レンタルの農地を貸してほしい。	男性・50歳代・中地域

(2) その他の産業(8件)

41号線沿いに道の駅をつくってはどうか。	女性・60歳代・北地域
イオンモールなどができるとよい。	女性・20歳代・北地域
大型商業施設があればよい。	女性・40歳代・南地域

企業の誘致を進めるべき。	男性・60歳代・北地域
企業誘致。	男性・50歳代・中地域
企業誘致をすべき。	女性・60歳代・北地域
娯楽施設のパチンコ店ではなく、大型ショッピングセンターなどを誘致してほしい。	男性・40歳代・南地域
優良企業が多いので大口町は財政的に豊かだと思う。今後も各企業が大口町に留まるよう支援、協力すべき。	女性・50歳代・北地域

(3) 雇用(4件)

企業誘致により雇用を創出し、町の活性化や国際化に向けた施策を希望。	男性・60歳代・北地域
ショッピングセンター等の働き口を増やしてほしい。	男性・20歳代・北地域
町内の仕事の紹介をする。	女性・30歳代・北地域
若者の雇用創出を考えるべき。	男性・60歳代・北地域

5. 公共インフラ

(1) 巡回バス、公共交通機関(36件)

公共交通機関が少なすぎる。コミュニティバスは本数が少なすぎる。また、定期券の導入も検討してほしい。	男性・30歳代・北地域
交通の便をよくしてほしい。マイカーがなくても生活しやすい環境を。	女性・50歳代・北地域
高齢者世帯なので、巡回バスが日に1～2回しか来ないのは困る。	女性・70歳代以上・北地域
子どもや大人のクラブ活動の移動に巡回バスを利用すれば環境によいと思う。また、電話受付による利用もやってみるとよい。	男性・70歳代以上・北地域
コミュニティバス等住民の足に関わることには力を入れてもらいたい。	女性・40歳代・北地域
コミュニティバスの運行時間と本数を増やしてほしい。	男性・40歳代・北地域
コミュニティバスの時間が正確ではない。また、本数が少ない。	女性・20歳代・南地域
コミュニティバスの時間と本数が少ない。	男性・50歳代・南地域
コミュニティバスの車両の大きさは利用者数に対して適正か。	男性・30歳代・北地域
コミュニティバスの通勤時間帯の本数を増やしてほしい。	男性・20歳代・南地域
コミュニティバスの停留所を増やしてほしい。	男性・30歳代・北地域
コミュニティバスの羽黒駅への増便を希望する。	女性・50歳代・北地域
コミュニティバスのハブ化を提案する。(柏森駅は本数が多いのでハブ化し、ハブエリア行の本数を増やし、駅への利便性を高める)	女性・40歳代・南地域
コミュニティバスの本数を増やしてほしい。	女性・30歳代・北地域
コミュニティバスの本数を増やしてほしい。	女性・50歳代・北地域
コミュニティバスの本数を増やす。	男性・50歳代・北地域
コミュニティバスのルートと柏森駅の最終バスの時間を検討してほしい。	女性・60歳代・中地域

コミュニティバスの路線拡大を希望。	女性・30歳代・地域不明
コミュニティバスはタクシーのように使えると便利。	女性・40歳代・中地域
コミュニティバスを増便してほしい。	女性・50歳代・北地域
コミュニティバスをもっと便利にしてほしい。また、停留所の設置も検討してほしい。江南厚生病院への直通バスがあるとよい。	女性・70歳代以上・南地域
巡回バスが少ない。交通の利便性を上げてほしい。	男性・60歳代・南地域
巡回バスの運転手はリフトの操作について定期的に練習する必要がある。	女性・40歳代・南地域
巡回バスの増便。	男性・60歳代・南地域
巡回バスのダイヤを見直したり、デマンド交通化の検討をするなど、合理的な運行をお願いする。	男性・20歳代・南地域
巡回バスの本数が少ない。	男性・20歳代・中地域
巡回バスの本数を増やしてほしい。(南部ルート)	女性・40歳代・南地域
巡回バスの利用者数が少ないのではないのか。	男性・70歳代以上・北地域
巡回バスの路線、バス停、時間等を年に1回は広報誌に載せてほしい。	女性・70歳代以上・北地域
巡回バスは名古屋市のようにフリーパスにすべき。	男性・60歳代・南地域
巡回バスを増やしてほしい。	女性・70歳代以上・中地域
小学生のバス下校のバス停が遠い。	女性・40歳代・南地域
町内循環バスは利用率が低く、効率がわるいので、タクシーを活用できないだろうか。	女性・60歳代・中地域
町民の足をもっと整備してほしい。	女性・60歳代・中地域
通勤のため駅まで循環バスを利用しようと思うが時間が合わない。もっと通勤者利用者のことを考えて本数を増やすなどはできないか。	女性・50歳代・北地域
バスの運行時間が夜は見づらいので明かりをつけてほしい。	女性・60歳代・南地域

(2) 道路整備(19件)

基幹道路ばかりでなく、生活道路の整備をしてほしい。	女性・70歳代以上・南地域
下水道工事の後の道路補修。	男性・60歳代・北地域
県道(草井羽黒線)の歩道を整備してほしい。	男性・70歳代以上・北地域
交差点によっては後輪が縁石に乗り上げることがある。	男性・40歳代・北地域
五条川沿いの遊歩道の路面を整備してほしい。	女性・40歳代・南地域
自転車が通る道路を整備してほしい。	女性・70歳代以上・北地域
渋滞を緩和してほしい。	女性・30歳代・北地域
少しの雨で道路が川のようにになるので、水はけを何とかしてほしい。	女性・40歳代・中地域
スター精機周辺の農道は大型トラックがすれ違えない。	男性・30歳代・北地域
生活道路の整備。	男性・60歳代・北地域
側溝の件を2年前にお願いしたが、未だに改善されていない。	女性・70歳代以上・南地域
道路整備。	男性・50歳代・北地域

道路の拡張整備、名古屋高速の延長、国道41号の3車線化。	男性・50歳代・中地域
道路の拡幅整備を進めてほしい。	男性・60歳代・北地域
道路を整備してほしい。	女性・50歳代・北地域
道路を広くする。	男性・60歳代・北地域
歩道を広くしてほしい。	男性・30歳代・中地域
道幅を広くし、通行止めの道路をなくす。また、計画道路を早く完成させる。	男性・70歳代以上・北地域
南地区の道路はいたるところで陥没、路肩崩れがある。早い対応を望む。	女性・40歳代・南地域

(3) 下水道等ライフライン(4件)

下水道整備を進めてほしい。	男性・60歳代・北地域
浄化槽の臭いかどうかは分からないが、町中が臭い。下水道の整備を早急にしてもらいたい。	女性・40歳代・北地域
浸水地をなくし、下水道を全地域に。	男性・70歳代以上・北地域
生活環境面の安全については失望している。区会での土木工事要求などの進捗、経過が全く不明確。U字溝などの整備が必要。	男性・60歳代・北地域

(4) 公園(20件)

秋田地区の公園を整備してほしい。	男性・40歳代・南地域
ウォーキングできる公園を造ってほしい。	女性・50歳代・南地域
大きな公園を造ってほしい。	男性・30歳代・北地域
おおなみ公園の遊具を復活してほしい。	女性・40歳代・北地域
大屋敷地区にもっと公園を造ってほしい。	女性・20歳代・南地域
親子で過ごせる農業公園の構想を進めてほしい。	男性・50歳代・北地域
球技のできる場所を増やしてほしい。	女性・40歳代・中地域
公園が少ない。	女性・40歳代・南地域
公園が少ない。	女性・30歳代・北地域
公園が少ないので、増やしてほしい。	男性・40歳代・南地域
公園にベンチや遊具を設置してほしい。	女性・20歳代・北地域
公園を造ってほしい。	男性・30歳代・北地域
公園を増やしてほしい。	女性・40歳代・北地域
子どもが道路で遊ばないように公園を造ってほしい。	女性・40歳代・北地域
子ども達が公園でのびのび遊べるようにしてほしい。	女性・60歳代・中地域
子どもを対象にした大規模公園の増設。	男性・30歳代・北地域
自転車をスポーツとして楽しめるような環境整備をしてほしい。	男性・40歳代・中地域
南部に町民がゆったりくつろげる公園がほしい。	男性・60歳代・南地域
ボール遊びができる公園が少ない。	男性・40歳代・中地域

遊具のある大きな公園があるとよい。	女性・30歳代・北地域
-------------------	-------------

(5) 情報インフラ(CATV、インターネット)(4件)

ケーブルテレビがあるとよい。	女性・40歳代・北地域
ケーブルテレビが大町にはないのであるとよい。1日2回の情報機とは違う用途で使用できると思う。	女性・30歳代・北地域
公立中学でスマートフォン所持が前提の連絡方法は疑問。	男性・40歳代・中地域
中学の部活で連絡にLINEを利用していると聞いたが、即刻中止を望む。	男性・40歳代・中地域

(6) 南部地域の整備(1件)

南部地域のまちづくり活動を本格的に進めてほしい。	男性・60歳代・南地域
--------------------------	-------------

(7) 柏森駅及び周辺(5件)

柏森駅周辺のもっと商業施設ができればと思う。	男性・20歳代・中地域
柏森駅に駐輪場を造ってほしい。	男性・40歳代・南地域
柏森駅の駐輪場整備、駅周辺地域への商業施設の誘致。	男性・50歳代・中地域
柏森駅は自転車の駐車が少なく、自家用車が入りにくい等不便。	女性・40歳代・中地域
柏森駅前の商業施設の充実。	女性・40歳代・中地域

(8) その他公共施設(10件)

大口北小の跡地にドーム型の多目的運動場を造ってほしい。	男性・50歳代・北地域
温水プールは耐用年数が過ぎていると思うので、整備してほしい。	男性・40歳代・北地域
公共施設等は地域差があると思う。	男性・60歳代・南地域
小牧市や一宮市のような大規模な体育館を建設してほしい。	男性・40歳代・南地域
中学校のテニスコート利用者用の駐車を増やしてほしい。	女性・30歳代・南地域
町としての墓地の分譲があれば助かる。	女性・60歳代・中地域
ドックランを造ってほしい。	女性・40歳代・北地域
福祉会館の整備をすべき。	男性・30歳代・北地域
福祉会館の風呂を大きくし、温水プールの更衣室、シャワー等をきれいにしてほしい。	男性・50歳代・南地域
プロパンガスから都市ガスにしてほしい。	女性・40歳代・地域不明

6. 防犯・防災・快適な町づくり

(1) 住環境の整備(8件)

大口町は他の市、町より住みやすいと思う。	女性・70歳代以上・北地域
大口は住みやすまちだと思う。	女性・40歳代・北地域

近隣の市町と情報共有を密にして、住みやすいまちづくりを願いたい。	男性・60歳代・北地域
住宅街とその他の地域を明確に分け、住みやすい環境にする。	男性・40歳代・南地域
住みやすい大口町を。	男性・60歳代・南地域
住みやすいまちづくりを希望する。	男性・60歳代・北地域
パチンコ店等の照明について規制条例をつくる。	男性・30歳代・北地域
パチンコ店はいない。	男性・60歳代・北地域

(2) 歩道の整備(5件)

自転車も通行する歩道が危険。	女性・40歳代・中地域
歩道が少ないので、整備してほしい。	男性・40歳代・南地域
歩道に危ない箇所が多い。	女性・20歳代・南地域
歩道の整備。	男性・60歳代・北地域
遊歩道のガードレールを設置してほしい。	女性・40歳代・北地域

(3) 交通安全対策(20件)

朝、夕の通学路の通行規制を行う。	女性・50歳代・北地域
車や自転車のマナーが悪い。	男性・50歳代・南地域
交通量が多い交差点には信号機を設置してほしい。	男性・40歳代・南地域
下小口の歩行者信号を歩道橋にしてほしい。	女性・60歳代・中地域
自動車が増え安全ではなくなっている。	女性・40歳代・南地域
小学生の登下校で引率している父兄は子どもに交通ルールを教えるようにしてほしい。また、カーブミラーの凍結防止処置をしてほしい。	男性・30歳代・北地域
信号無視する人がいる。	男性・60歳代・南地域
通学時間帯に車が生活道路に進入してくるので交通安全上不安になる。	男性・60歳代・南地域
通学路がパチンコ店の駐車場を通過しているが、大丈夫か。	女性・40歳代・北地域
道路標識の整備が必要な箇所が増えている。	男性・70歳代以上・中地域
通学路の整備。	女性・40歳代・北地域
徳林寺前の交通量が多く、登校する子ども達の安全のために押しボタン式の信号機が必要。	女性・40歳代・中地域
西小学校周辺の路上駐車はやめてほしい。	女性・30歳代・中地域
歩道橋や交差点に小学生が集中しないように通学路を分散してほしい。	男性・20歳代・北地域
ほほえみプラザで毎週行っている朝市の路上駐車を注意してほしい。	男性・40歳代・中地域
流通倉庫ができたのでトラック等の交通量が増え危険になった。	男性・50歳代・南地域
路上駐車を取り締まるべき。	男性・20歳代・中地域
路上駐車をなくしてほしい。	女性・50歳代・南地域
路上駐車をなんとかしてほしい。	女性・70歳代以上・南地域
沿道の樹木が視界を邪魔して危険な箇所がある。	男性・40歳代・北地域

(4) 防犯、治安対策(22件)

安全、安心のまちにしてほしい。町民も協力してできることは総て実行していければと思う。	女性・60歳代・中地域
上小口にパチンコ店ができたが、子ども達の通学路でもあるので事件、事故につながらないように対策をしてほしい。	女性・30歳代・北地域
町内全域の緊急通報システムの充実。	男性・50歳代・中地域
柏森駅～アピタ大口店間の街灯が暗いが、意図的に行っているのか。全地区の街灯はLED化し、歩きやすくしてほしい。全般的に防犯対策が不足と感じる。	男性・30歳代・北地域
公共施設や街路灯は防犯の観点から終夜点灯。	男性・70歳代以上・北地域
五条川沿いにパチンコ店ができたが、小学校に近いので心配である。	女性・50歳代・北地域
子ども達の安全のため、徳林寺周辺に防犯カメラを設置してほしい。	女性・40歳代・中地域
子ども達の通学路に最近、閉店したパチンコ店があったが、考えるべきだったと思う。	女性・70歳代以上・北地域
今後、治安が心配されるので、安心安全に重点をおいたまちづくりを期待する。	男性・70歳代以上・北地域
小学生、高齢者にはICチップを付けさせ、居場所の確認等ができるようにしては。また、事件等が発生したら、即座に公開し地域住民の協力を得る体制をつくる。	男性・70歳代以上・北地域
小学校の通学路にパチンコ店ができたが、子どもの安全に問題はないのか。	女性・20歳代・北地域
地区で防犯、防災面での危険箇所について話合った。この事で町に要望等を出す、出来るだけ応えてほしい。	男性・60歳代・北地域
道路で人とすれちがう際、不安を感じる。犯罪のないまちづくりを希望する。	女性・50歳代・中地域
パチンコ店の規制を強化する。	男性・60歳代・北地域
犯罪のない明るいまちづくり。	男性・60歳代・北地域
犯罪の発生しない安全なまちづくりのため、パトロールを充実してほしい。	男性・30歳代・北地域
防犯カメラの設置。	女性・40歳代・中地域
防犯の強化を。	男性・50歳代・中地域
防犯や子どもの安全を守るためのパトロールに力を入れてほしい。	男性・30歳代・中地域
本当の意味で安全を言えるまちづくりをしてほしい。	男性・30歳代・中地域
毎日、平和な生活ができることを望む。	女性・70歳代以上・中地域
まちづくりの基本は、安心安全に暮らせるまちづくりである。	男性・60歳代・北地域

(5) 街灯の設置(15件)

駅の周りが暗すぎる。	女性・40歳代・中地域
街灯が少ない。	女性・20歳代・北地域
街灯が少ない。	男性・40歳代・南地域

街灯が少ない。	男性・30歳代・北地域
街灯が少ない。	女性・70歳代以上・中地域
街灯が少ない。	女性・40歳代・南地域
街灯が少ない。ソーラーパネル付きの街灯を増やしてほしい。	男性・30歳代・北地域
街灯の増設。	女性・40歳代・中地域
街灯を設置してほしい。	女性・30歳代・南地域
街灯を増やしてほしい。	女性・50歳代・南地域
街灯を増やしてほしい。	男性・40歳代・北地域
街灯を増やしてほしい。	女性・40歳代・北地域
街灯を増やしてほしい。	男性・20歳代・中地域
暗い道路がある。	男性・60歳代・南地域
最近、大口町も犯罪が増えているので、街灯を増やして明るいまちにすべき。	女性・60歳代・中地域

(6) 防災対策(12件)

新しいハザードマップを。	男性・20歳代・中地域
インターネットをしていない家庭や受信機がない家では防災に関する情報が得にくい。	女性・50歳代・北地域
学習等の共用施設を避難所に整備すべき。	男性・60歳代・北地域
居住地区に防災組織があるのかないのかわからないが、防災組織をつくって、災害に強い町にしてほしい。	女性・30歳代・北地域
災害発生時、昼間は働く世代がいないことから高齢者の避難をどうするか考えてほしい。高齢者に対するやさしいまちづくりが必要だと思う。	女性・60歳代・北地域
災害発生時に避難を余儀なくされた町民の避難生活で、具体的に避難生活の不具合やどんなストレスが発生するかなどの考えが未熟であると推測されることから、避難生活訓練を実施し、内容を検証してほしい。	男性・40歳代・中地域
自助、共助、公助で災害に強いまちづくりを。	男性・60歳代・南地域
震災に対する万全のまちづくりは町民が一番安心して生活できる要素であるから、町が何をしているのかを発信し、町民ができることを示すことで各人が自分のこととして意識できると思う。	女性・50歳代・中地域
大地震は起きてからではなく、起こる前から復興を見据えての計画を考えておくべき。	女性・30歳代・中地域
防災活動の充実に期待。	男性・50歳代・中地域
防災無線で台風時の警報、注意等があるとよい。	女性・40歳代・中地域
デジタル防災無線のチャイムを音楽に替える。	男性・30歳代・北地域

(7) 生活面における騒音、公害(5件)

近所に駐車場があり、早朝エンジン音がうるさい。	女性・60歳代・中地域
工場と住宅地が近いため、騒音、悪臭等がある。	男性・60歳代・南地域
静かな住みよいまちであってほしい。	男性・20歳代・北地域
夜中、うるさいことがあるので注意をしてほしい。	女性・30歳代・南地域
夜、近くの公園での話声で不快になることがある。	女性・30歳代・中地域

7. 住民参加

(1) 祭り、イベント(12件)

朝市などのイベントがあるとよい。	女性・30歳代・南地域
イベントに参加する人はいつも同じ人達なので、町民全員が参加する一大イベントを開催する。	女性・60歳代・北地域
大口町は小さいイベントが多すぎる、大きい祭を年に1回だけ開催するのがよい。	女性・40歳代・北地域
五条川の花見時期にもっと楽しめる工夫をしてほしい。	女性・40歳代・北地域
子どもが健やかに育つ環境づくり。多様化した遊びがある中、大口町ならではのイベントがあれば、学校内でも共通話題となりコミュニケーションが活発になる。	男性・30歳代・南地域
子どもも参加できるイベントを増やしてほしい。	男性・30歳代・中地域
桜並木マラソンのときは仮装があったので楽しかったが、今は走るだけで楽しくない。	女性・50歳代・南地域
桜の開花時期に柏森駅から五条川へのシャトルバスを運行させる。	男性・50歳代・中地域
楽し行事を増やしてほしい。	女性・60歳代・南地域
町のイベントが多く、活発なまちだと思う。	女性・40歳代・中地域
ハートフル祭は盛り上がり欠ける。	男性・50歳代・南地域
もっと大勢参加できるイベントを開催するとよい。	男性・70歳代以上・北地域

(2) 世代間交流(8件)

家で暇を持て余している老人の活用。子どもの世話、料理指導等教わることは多いと思うが、その機会がない。	男性・40歳代・北地域
色々な年齢層がいる地域で活動することは非常に難しいものがあるが、よく意見を聞き改善すべきはして、進めるべきだと思う。	男性・40歳代・中地域
公園の草苧に老人、子どもを参加させ、交流を図る。	男性・70歳代以上・北地域
高齢者と子ども達との触れ合いの場が大切。	女性・70歳代以上・北地域
世代間のつながりがないように感じる。	男性・70歳代以上・北地域
地域ごとに世代を問わずに集まれる場所をつくってほしい。	女性・40歳代・南地域
若い世代との横のつながりをつくるような施策。	男性・30歳代・北地域

若い人が住みやすいまち。	女性・60歳代・北地域
(3) コミュニティ(9件)	
区長会ではどのような事が行われているのか広報で知らせてほしい。	男性・70歳代以上・北地域
区役員の上から目線。	男性・60歳代・北地域
地域自治組織に参加しているが、結論がはっきりせず、本当に住民のためになっているか分からない。	女性・60歳代・北地域
地域の行事に成人式の実行委員をもっと参加するようにしてほしい。	女性・20歳代・南地域
地域の役を年齢で免除してほしい。	男性・70歳代以上・南地域
地区の行事等についての情報を公開してもらいたい。	女性・20歳代・北地域
共働き家庭は忙しすぎるので、休日に地域の行事に参加できない。	男性・50歳代・中地域
日曜日の会議の廃止等、区の役割を見直すべき。また、班長に神社管理費等のお金を集めさせるのは問題がある。	女性・30歳代・中地域
古くからの住民と新規参入者との交流がコミュニティの充実には必要。	男性・30歳代・中地域
(4) 住民同士の交流(10件)	
あいさつ運動で明るい町づくりを。	女性・60歳代・中地域
アパートやマンションの住人を巻き込み、地域全体で考える必要がある。	男性・50歳代・中地域
学校を中心とした地域活動を増やしてほしい。	女性・30歳代・中地域
活動に参加している人は何かのグループに所属している。個人ではなかなか参加しづらい。	女性・50歳代・北地域
子どものいない家庭は地域に溶け込みにくい。	男性・50歳代・中地域
住民同士助け合える仕組みをつくる。	男性・40歳代・北地域
人と人とのつながりを増やせたらよい。	女性・70歳代以上・中地域
独り暮らしであり、大口町の人達との付き合いがないので、アンケートには答えたくない。	女性・60歳代・北地域
古くからの住民は新しく来た人達を受け入れない傾向がある。	男性・50歳代・中地域
利己的な人が増え、地域社会のつながりが少なくなっている。	女性・60歳代・南地域
(5) ボランティア(4件)	
住民に対し期待し過ぎだと思う。	男性・60歳代・北地域
町主体のボランティアの仕事を増やしてほしい。	男性・60歳代・南地域
何か貢献できることはと考えてもどのように動いたらよいか分からない。こういった人達はたくさんいると思うので、うまく活用したらよいと思う。	女性・20歳代・北地域
ボランティア活動に助成があるとよい。	女性・70歳代以上・北地域

(6) 国際交流(2件)

外国人との交流の場やボランティアがあるとよい。	女性・40歳代・中地域
外国人も住みやすいまちづくり。	女性・40歳代・北地域

8. 町政に対する意見

(1) 広報、情報提供(11件)

外国人向けの広報をつくる。	女性・30歳代・中地域
行政と町民とのコミュニケーションが大切。	女性・60歳代・中地域
行政との間に距離感があり、我々の要望が伝わっているのか疑問。	男性・40歳代・南地域
広報誌には町の人口が掲載されているが、小中学校の生徒数を掲載してみては。	男性・70歳代以上・北地域
広報は読みたいが役場の窓口でもらえるのか。町のカレンダーが届かない。	男性・50歳代・北地域
主婦の空いている時間を有効に使うための情報を発信してほしい。	女性・30歳代・北地域
税金の使い道と目的などを明確に提示してほしい。	男性・30歳代・中地域
町長のブログを復活させる。	男性・20歳代・中地域
手続き等を役場のどこにいけばよいか分からないので、一覧表にしたものを広報に載せてほしい。	女性・40歳代・北地域
ホームページが分かりづらい。	女性・40歳代・北地域
町の行政情報が把握できる仕組みづくりが必要。	男性・70歳代以上・北地域

(2) 財政運営(7件)

大口町の財政力指数は県下13位にあるので、できる限り住民に還元すべき。	男性・50歳代・中地域
総て住民税でやってもらいたい。	男性・50歳代・中地域
税金の使い方は公平にし、もっと手の届かないところに目を向けるべき。	男性・60歳代・南地域
税金の無駄使いをやめてほしい。	男性・20歳代・南地域
年間5千万円以上も税金を使っている巡回バスは廃止したほうがよい。	女性・70歳代以上・北地域
防犯、防災、福祉、環境等に予算を使ってほしい。	女性・50歳代・北地域
町の職員は町民の血税で総てを行っていることを肝に銘ずべき。	男性・60歳代・北地域

(3) 職員の資質向上、窓口対応の改善(17件)

一部役場の職員の態度がわるい。	男性・60歳代・北地域
大口町のことを真剣に考える人材の発掘。	女性・60歳代・北地域
介護に従事している人達はよい人が多い。	女性・70歳代以上・南地域
聞かれたくないことを聞いてくるので不愉快。	女性・70歳代以上・南地域
昨年、騒音があるということで役場の環境課に電話したが、何の対応もなかった。しっかり対応してほしい。	男性・50歳代・北地域

人材、ソフトを充実させる。	男性・30歳代・北地域
親族との複雑な相続の問題があり、役場に相談したが納得のいく回答を得られなかった。	男性・70歳代以上・南地域
町職員の仕事量にばらつきがあると思う。	女性・70歳代以上・北地域
町役場の窓口対応に疑問を感じる。	男性・50歳代・北地域
昼休みも窓口対応を希望する。	男性・20歳代・北地域
町の窓口の職員は思いやりがない。	女性・50歳代・中地域
役場の職員は上から目線である。	男性・70歳代以上・北地域
巡回バスに乗車した際、降車ボタンがあるのに降車場所を聞いてくる。また、車内の電光掲示板を点けていない。柏森駅で待っている車にクラクションを鳴らしている。	男性・20歳代・中地域
リサイクルセンターが昼に閉まるのは困る。	女性・60歳代・中地域
リサイクルセンターの職員の対応が厳しいので、利用しづらい。親切に対応してほしい。	女性・50歳代・南地域
リサイクルセンターの職員の対応が乱暴である。	女性・60歳代・中地域
リサイクルセンターの昼休憩での窓口閉鎖はやめてほしい。	男性・30歳代・中地域

(4) 行政サービスへの要望(10件)

行政サービスは平日9時～17時までなので、利用できない。また、住民が自由に書き込める掲示板等がネット上にあるとよい。	男性・40歳代・北地域
事務手続きが煩雑である。	女性・40歳代・中地域
役場の課を1つの建物にまとめてほしい。	女性・20歳代・北地域
役場の窓口が分かれているので、手続きに不便を感じる。	女性・40歳代・中地域
役場の窓口で対応してもらえる内容を増やしてほしい。	女性・40歳代・北地域
住民票申請等の土日の受付を可能にする。	男性・50歳代・北地域
住民票等を役場の窓口に行かなくてもアピタなどで交付できるようにしてほしい。	男性・20歳代・中地域
住民票をコンビニ等で発行できるようにしてほしい。	男性・20歳代・中地域
町の業務を業者や各地区に委託し過ぎではないか。	男性・70歳代以上・北地域
町役場の建物を統合してほしい。また、役場、図書館、温水プールを24時間営業してほしい。	男性・30歳代・北地域

(5) 税金について(3件)

国民保健料、介護保険料を下げしてほしい。	男性・60歳代・中地域
町民税の減額努力。	男性・50歳代・中地域
町の安定収入確保が大切。	男性・60歳代・北地域

(6) 議会、議員(5件)

議員数の削減。	女性・70歳代以上・南地域
町の議員数を減らす。	男性・60歳代・北地域
企業と地域の人材登用を行うことで、議会活動を活性化する。	男性・70歳代以上・北地域
町政の方向、積極性は高く評価したい。議会基本条例が本年度より施行されるが、行政特別職（議員）には何も期待していない。	男性・60歳代・北地域
町政には無関心であるが、現状に不満はない。	男性・50歳代・北地域

(7) 市町村合併(1件)

近隣自治体との合併案が再び持ち上がれば、人口の少ない町が不利益を被ることになるので、町は単独で運営していく方法を考えてほしい。	女性・40歳代・南地域
---	-------------

(8) 町づくりのコンセプト、対外アピール(13件)

以前、サイバータウンと名打っていたこともあったが、立ち消えになりがっかりした。大口町は知名度が低い。	男性・50歳代・北地域
大口町の名品、名産をつくる。	男性・60歳代・南地域
大口町の名物、名産をつくるべき。	男性・50歳代・南地域
ご当地グルメ等、名産品をつくる。	男性・30歳代・中地域
町の知名度を上げるアイデア。	男性・50歳代・中地域
今後、どのようにまちづくりをしていくかを明確にすべき。また、大口町のオリジナルをつくり、観光客を呼び込む。	男性・40歳代・南地域
女性が輝く町、力強さ、優しさを目指して努力すべき。	男性・60歳代・北地域
常に住民の立場を考えた施策を進めてほしい。住民のための行政が自治の原点。	男性・50歳代・北地域
まちづくりはボトムアップではなくトップダウンであるべきで、町長や議員等、町がビジョンを作成すべき。	男性・60歳代・中地域
まちづくりをもっと住民にアピールし、意見を聞くべき。	女性・50歳代・南地域
町の政策決定はトップダウンの印象が強い。アイデアや意見が吸い上げられる体質、雰囲気、機会、仕組みをつくってほしい。	男性・30歳代・北地域
近年著しく低下している「志」が復活するよう期待する。	男性・70歳代以上・北地域
若者が希望の持てるまちにしてほしい。	男性・70歳代以上・中地域

(9) その他(4件)

40代の独身者が増えているので、知り合える場、機会を町ぐるみでつくってほしい。	女性・60歳代・南地域
住民の声が直接届くように、町長との懇談会を開いてはどうか。	女性・60歳代・中地域

プレミアム商品券の発売を年2回にしてほしい。	女性・40歳代・南地域
余野投票所の利便性をよくしてほしい。	女性・40歳代・中地域

9. このアンケートについて

(1) 記入方法(7件)

アンケートで言葉の理解しづらい部分がある。	女性・60歳代・中地域
アンケート内容で、高齢者には関係ないものもある。	女性・70歳代以上・南地域
アンケートの実施方法で、無作為ではなく現在、活動中の人を対象に実施したほうがよい。	女性・60歳代・南地域
アンケートの趣旨が分からない。	男性・40歳代・北地域
アンケートの設問数が多すぎる。	女性・60歳代・北地域
アンケートの内容が細かすぎる。	男性・70歳代以上・南地域
生涯一人暮らしなので、アンケートの意図に答えられたか疑問。	女性・70歳代以上・中地域

(2) 結果の公表、反映(7件)

アンケートの結果がどのように反映されたかを広報してほしい。	女性・20歳代・北地域
行政がどのような活動をしているか分からないので、このようなアンケートがないと若い世代は興味をもたないと思う。	男性・20歳代・北地域
このアンケートを参考にまちづくりを進めることは止めたほうがよい。	男性・40歳代・北地域
このアンケートを町職員全員に回答させる。	男性・60歳代・北地域
この様なアンケートをどんどん実施してほしい。	男性・50歳代・北地域
今回のアンケートのように時々実施して、まちづくりの一環となるように希望する。	女性・60歳代・北地域
今回のようなアンケートは続けるべきだと思う。また、ホームページでもアンケートを実施してほしい。	男性・30歳代・北地域

10. その他(2件)

福利厚生を充実してほしい。	女性・40歳代・南地域
空き家をなくす。	男性・60歳代・北地域

第7次大口町総合計画策定のためのアンケート

◆ ご協力をお願い ◆

町民の皆さまには、日ごろから町政各般にわたりご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、大口町では、平成17年に策定した第6次総合計画の計画期間が、平成27年度末をもって終了します。また、参画と参加の協働のまちづくりが進展し、まちづくり条例の制定を契機とした地域自治の動きが現実のものとなってまいりました。

今後、少子高齢化がいつそう進むことが想定される中、社会全体では人口減、とりわけ、生産人口の減少に対応しつつ、暮らしの安全安心や健康維持、生活インフラの改修や環境課題等、これまで経験のない時代の変化に直面していくことが予想されます。

そこで、大口町では、第6次総合計画の理念を継承しつつ、次の時代に対応した総合計画をつくることになりました。そして、その一環として、町民の皆さまに生活環境等の現状や将来のまちづくりの方向性などについてご意見をお聞きし、新しい総合計画を策定していく上での基礎資料としていくためのアンケートを実施することになりました。

本アンケートは、大口町にお住まいの20歳以上の方の中から2,500人の方を無作為に選ばせていただき実施します。ご回答いただく内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成27年1月

大口町長 鈴木 雅博

■ご回答にあたっての留意事項

○この調査票は、あて名のご本人にお答えいただくようお送りしましたが、もし都合でご回答できない場合は、家族のどなたがご本人に代わってご記入いただいても結構です。その際は、記入された方の立場でお答えください。

○ご回答は、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。なお、設問によっては複数回答ができる場合もございますので、設問の【 】の内の注意書きをよくお読みになってください。

○ご記入いただきました調査票は、平成27年1月31日（土）までに同封の返信用の封筒（切手不要）に入れて投函してください。

○記入方法などについてわからないことがありましたら、下記までお問い合わせください。

■このアンケートに関する問い合わせ先■

大口町総務部政策推進課 総合計画担当（岩田・社本）

電話：0587-95-1111（内線204） Fax：0587-95-1030

E-mail：seisaku@town.oguchi.lg.jp

〒480-0144 大口町下小口七丁目155

1. 住み心地と定住意向について

問1 大口町は住みやすいまちだと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. 住みにくい

問2 あなたはこれからも大口町に住む予定ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

1. ずっと住み続ける
2. できれば住み続けたい
3. できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある
4. できるだけ早めに、町外に移り住みたい
5. わからない

問3 問2で「3.」、「4.」と回答された方のみにかがいます。あなたが町外へ移りたい、または、移る予定の主な理由は何ですか。 【回答数：2つまで○印】

1. 自分や家族の通勤・通学に不便だから
2. 自分の家を持ちたいから
3. 騒音や排気ガス等で生活環境が良くないから
4. よりよい医療や福祉サービスを受けたいから
5. 買い物や遊びに不便だから
6. 子どもの保育、子育て、教育をより良くしたいから
7. 自然災害への備え（防災）が不十分だから
8. 窃盗や空き巣など犯罪が心配だから
9. 地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから
10. 自然や気候が生活面において負担になっているから
11. 生まれ育った故郷に帰りたいから
12. 仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから
13. その他（具体的に：_____）

2. 町政等の満足度と重要度について

問4 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(34)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つずつ】

※回答欄は次ページ以降にあります。

記入例

この設問については、以下のように回答してください。

現在の状態にどれだけ満足していますか？

これからの地域づくりの中でどのくらい大切ですか？

項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	3	4	1	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4

このように○をつけてください



	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	3	4	1	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(4) スポーツ活動、教室のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(5) 町立図書館の規模、運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(6) 地域に住む外国人との交流・共生	1	2	3	4	1	2	3	4
(7) 安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	1	2	3	4	1	2	3	4
(8) 保育サービスや相談窓口などの子育て支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(9) 町による家庭ごみの収集回数	1	2	3	4	1	2	3	4
(10) ごみの分別や可燃ゴミ出しのルールが守られている状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(11) 五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(12) 緑地・公園など憩いの空間	1	2	3	4	1	2	3	4
(13) 街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	1	2	3	4	1	2	3	4
(14) 巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
(15) 道路や交通安全施設の維持補修の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(16) 段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(17) 住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(18) 生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	1	2	3	4	1	2	3	4
(19) 健康診断・保健指導などの健康づくり	1	2	3	4	1	2	3	4
(20) 地震や水害など防災に対する安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(21) 消防・救急体制	1	2	3	4	1	2	3	4
(22) 防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(23) 犯罪にあうことのない安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(24) 交通事故からの安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(25) 町民の、交通ルールやマナーを守る意識	1	2	3	4	1	2	3	4
(26) 区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(27) 町民や企業のまちづくりへの参加状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(28) NPO・ボランティア活動などへの支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(29) 町ホームページによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(30) 広報おおぐちによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(31) 町政への住民参画の機会や場	1	2	3	4	1	2	3	4
(32) 大口町議会の活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(33) 大口町の行財政運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(34) 受付・窓口などにおける町職員の応対	1	2	3	4	1	2	3	4

3. 子育て・教育について

問5 あなたは、大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|---------------|----------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思う | 3. あまりそう
思わない | 4. そう思わな
い | 5. わからない |
|---------|-----------|------------------|---------------|----------|

問6 家庭は、すべての教育の出発点となりますが、近年、家庭の教育力が低下していると言われています。あなたは、子どもを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | |
|------------------------------|
| 1. 親が責任を持ってしつけを行うこと |
| 2. 子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること |
| 3. 家庭で団らんの時間を作ること |
| 4. 手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること |
| 5. 家族で一緒に趣味やスポーツをすること |
| 6. その他（具体的に：_____） |
| 7. わからない |

問7 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせません。あなたは、地域ではどのような取組が重要であると思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | |
|--|
| 1. 地域の住民どうしが、気軽にあいさつや会話をすること |
| 2. 地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること |
| 3. 大人や子どもが交流できる機会を増やすこと |
| 4. 地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること |
| 5. 地域の住民が、地域のボランティア活動に参加すること |
| 6. その他（具体的に：_____） |
| 7. わからない |

問8 子どもの将来のために、大口町は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 道徳教育 | 7. 産業教育 ^{※3} |
| 2. キャリア教育 ^{※1} | 8. 文化芸術教育 |
| 3. 学力の育成 | 9. 情報教育 |
| 4. 環境教育 | 10. その他（具体的に：_____） |
| 5. 国際教育 | _____) |
| 6. 特別支援教育 ^{※2} | 11. わからない |

※1 キャリア教育とは、子どもに将来の生き方や社会人、職業人としての在り方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観や、社会に貢献していく態度と時代の変化に対応できる基礎的・基本的な資質と能力を育成する教育のことをいいます。

※2 特別支援教育とは、障がいのある子どもの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加するために必要な能力をつちかうため、一人一人の障がいの状態などに応じ適切に行う教育のことをいいます。

※3 産業教育とは、農業、工業、商業、水産業その他の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育のことをいいます。

問9 国際的な調査で、日本の教員は世界で一番多忙であるとの結果が示されるなど、「教員の多忙化」により教員が子どもと向き合う時間を十分に確保できないことが課題となっています。あなたは、授業以外で教員が行っている次の業務のうち優先すべき業務は何だと思いますか。【回答数：3つまで○印】

1. 基本的な生活習慣を確立するための指導
2. 礼儀やマナー等のしつけに関する指導
3. 児童生徒の安全確保に関する指導（登下校の指導や学校内での安全）
4. 休み時間や放課後に子どもと遊んだり、一緒に過ごしたりすること
5. 進路に応じた課外授業や補習、個別指導など
6. 部活動やクラブ活動に関する指導
7. 学校行事（運動会、遠足、文化祭など）に関する指導
8. 児童会・生徒会や、委員会・係等の活動に関する指導
9. 地域行事への参加等の地域との連携に関する業務
10. 保護者との連絡や、保護者会、保護者面接、家庭訪問など
11. 教員自らの資質・能力向上のための研修・研究
12. その他（具体的に：_____）
13. わからない

4. 環境に配慮した暮らしについて

問10 あなたのご家庭では、節電などの省エネの実践やマイカーの利用を控えるなど日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|------------|--------------|--------------|----------------|-------------|
| 1. 取り組んでいる | 2. まあ取り組んでいる | 3. どちらともいえない | 4. あまり取り組んでいない | 5. 取り組んでいない |
|------------|--------------|--------------|----------------|-------------|

問11 あなたのご家庭では、ごみの減量化や分別によるごみの資源化に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|------------|--------------|--------------|----------------|-------------|
| 1. 取り組んでいる | 2. まあ取り組んでいる | 3. どちらともいえない | 4. あまり取り組んでいない | 5. 取り組んでいない |
|------------|--------------|--------------|----------------|-------------|

5. 身の回りの安全(防犯・防災)について

問12 あなたは、身の回りで起きる犯罪を未然に防止するため、地域の役割としてどのようなことが主に重要だと思いますか。【回答数：3つまで○印】

1. 地域安全パトロール隊の活動を進める
2. 地域の犯罪が起りそうな場所の点検を行う
3. 日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる
4. 各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する
5. 夜間の門灯点灯を地域の活動として進める
6. 地区老人クラブ等で防犯活動を進める
7. 防犯講座などを開催し、地域住民の防犯意識を高める
8. その他（具体的に：_____）
9. 特にない

問13 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と振り込め詐欺や悪徳商法について話し合うなど被害にあわないよう注意していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 注意している | 3. あまり注意していない |
| 2. まあ注意している | 4. 注意していない |

問14 あなたのご家庭では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。

【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | |
|--|
| 1. 消火器や水をはったバケツを準備している |
| 2. いつも風呂の水をためおきしている |
| 3. 家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している |
| 4. 耐震性のある家に住んでいる |
| 5. 自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している |
| 6. 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している |
| 7. 自家用車の燃料が半分以下になれば満タンにするようにしている |
| 8. 食料や飲料水を準備している |
| 9. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している |
| 10. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している |
| 11. 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している |
| 12. 家族の安否確認の方法などを決めている |
| 13. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている |
| 14. 防災訓練に積極的に参加している |
| 15. 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している |
| 16. その他（具体的に：_____） |
| 17. 特に何もしてない |
| 18. わからない |

問15 あなたは、お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|
| 1. 参加して
いる | 2. まあ参加
している | 3. どちらと
もいえな
い | 4. あまり参
加してい
ない | 5. 参加して
いない | 6. やってい
ることを
知らない |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|

問16 あなたのご家庭では、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|------------------------|
| 1. 家庭内備蓄は何も行っていない |
| 2. 1～2日分程度の家庭内備蓄を行っている |
| 3. 3日分の家庭内備蓄を行っている |
| 4. 4日～6日分の家庭内備蓄を行っている |
| 5. 7日分の家庭内備蓄を行っている |
| 6. 8日以上分の家庭内備蓄を行っている |

問17 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問18 あなたのお住まいでは、家具・家電などを固定し、地震による家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--------------------------------|
| 1. ほぼ全ての家具・家電などの固定ができています |
| 2. 重量のある家具・家電などの固定はできています |
| 3. 重量のある家具・家電などの半分程度の固定はできています |
| 4. 重量のある家具・家電などの一部の固定はできています |
| 5. 家具・家電などの固定は行っていません |

問19 あなたのお住まいでは、住宅用火災報知機の設置を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している |
| 2. 一部の部屋に設置している |
| 3. 設置していない |

問20 あなたは、これまで救命救急講習を受けたことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

6. 健康や食生活について

問21 あなたは、健康に不安を感じていますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|------------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|------------------|----------|-------|

問22 あなたは、日頃、検査を受けたり運動をしたりと健康に気がついた暮らしができていますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|

問23 あなたには「かかりつけ医^{*}」がいますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

^{*}かかりつけ医：病気の時などにいつも治療を受けたり、体調に不安があるときに健康相談ができる医師・医療機関。

問24 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に定期的に歯科の健康診査を受けましたか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない |
|--------|-----------|

問25 お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|-----------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらも
いけない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|-----------------|----------|-------|

問26 あなたは、健康的な食生活ができていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらも
いけない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|

問27 あなたは、毎日朝食を食べていますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|------------|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 毎日食べている | 2. ほぼ毎日食べて
いる | 3. たまには食べて
いる | 4. まったく食べて
いない |
|------------|------------------|------------------|-------------------|

問28 あなたは、地産地消を意識して食材の買い物を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|---------------------|----------------------|-------------------|--------------------|
| 1. かなり意識的に
行っている | 2. まあまあ意識し
て行っている | 3. あまり意識して
いない | 4. まったく意識し
ていない |
|---------------------|----------------------|-------------------|--------------------|

問29 あなたは、日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらも
いけない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|

問30 大口町では、次のような健康づくりの施策を実施していますが、今後、どの施策により一層力を入れるべきと思われますか。 【回答数：3つまで○印】

- | |
|--|
| 1. 健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実 |
| 2. 食生活の改善に向けて栄養指導の充実 |
| 3. 健康診断やがん検診（胃がん、子宮がん、乳がん、肺がん、大腸がんなど）の充実 |
| 4. 健康問題に関する相談の充実 |
| 5. 歯科保健事業（歯科健診・相談、フッ素塗布など）の充実 |
| 6. 気軽にできる健康体操教室の充実 |
| 7. その他（ <input type="text"/> ） |
| 8. 特にない |

7. これからのライフスタイルと社会貢献について

【これからのライフスタイルについて】

問31 今後の生活において、物の豊かさと心の豊かさに関して、次の考え方の中で、あなたの考え方に近いのはどれですか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をする
ことに重きをおきたい |
| 2. まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい |
| 3. どちらもいえない |
| 4. わからない |

問32 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | | |
|---------------|--------------|--------------------|
| 1. 報酬を得て行う仕事 | 6. 介護 | 11. 健康づくり |
| 2. ボランティア | 7. 趣味 | 12. その他（具体的に：_____ |
| 3. 自治会などの地域活動 | 8. 勉強 | _____ |
| 4. 家事 | 9. 家族のだんらん | _____） |
| 5. 子育て | 10. 友人とのつきあい | 13. 特にない |

【社会貢献について】

問33 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 思っている | 2. あまり考えていない | 3. わからない |
|----------|--------------|----------|

問34 問33で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っているのはどのようなことですか。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | |
|---|
| 1. 青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウト・ガールスカウト活動、子ども会など） |
| 2. 体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・レクリエーション指導、祭り、学校でのクラブ活動における指導など） |
| 3. 自主防災活動や災害援助活動 |
| 4. 公共施設での活動（学校や図書館、老人福祉センター等でのボランティアなど） |
| 5. 生涯学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動（料理、英語、書道など） |
| 6. 国際交流（協力）に関する活動（通訳、難民援助、技術援助、留学生援助など） |
| 7. 社会福祉に関する活動（老人や障がい者などに対する介護、身の回りの世話、給食、保育など） |
| 8. 保健・医療・衛生に関する活動（病院ボランティアなど） |
| 9. 自然・環境保護に関する活動（環境美化、リサイクル活動、牛乳パックの回収など） |
| 10. 交通安全に関する活動（子どもの登下校時の安全監視など） |
| 11. 募金活動、チャリティーバザー等への参加 |
| 12. 町内会などの地域活動（地区の役員、防犯や防火活動など） |
| 13. 家事や子どもの養育を通して |
| 14. 自分の職業を通して |
| 15. その他（具体的に：_____） |
| 16. わからない |

8. 人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について

【人や地域のつながりについて】

問35 あなたは、日常的に身近な地域の方々とあいさつをしていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|
| 1. している | 2. まあしている | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりして
いない | 5. していない |
|---------|-----------|------------------|-----------------|----------|

問36 あなたは、登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-----------|------------|--------------|--------------|------------|
| 1. 行なっている | 2. まあ行っている | 3. どちらともいえない | 4. あまり行っていない | 5. 行なっていない |
|-----------|------------|--------------|--------------|------------|

問37 あなたは、高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会った時、手助けをしたことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 手助けをしたことがある |
| 2. そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う |
| 3. そのような場面に出会った時はあるが、手助けできなかった |
| 4. そのような場面にであったとしても、なかなか手助けはできないと思う |
| 5. そのような場面に出会ったことがないので、わからない |

【地域自治活動について】

問38 大口町では、平成22年にまちづくり基本条例を制定し、これに基づき3つの小学校区毎に地域自治組織を設置して、行政区の範囲を超えた地域の課題を把握してその改善等を進めていくための活動を始めています。あなたは、こうしたことをご存じですか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. その活動に関わっており、よく知っている |
| 2. その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている |
| 3. 設立したこと程度は知っている |
| 4. 設立されていることも知らない |

問39 あなたは、地域自治組織の活動に参加したいと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------------|-------------|---------------|----------|----------|
| 1. 既に参加している | 2. 参加したいと思う | 3. あまり参加したくない | 4. 参加しない | 5. 興味もない |
|-------------|-------------|---------------|----------|----------|

【ボランティア活動への参加について】

問40 あなたは、ここ1年間の中で、ボランティア活動にどの程度参加していますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|------------------------|
| 1. 積極的に参加している |
| 2. 内容によって参加している |
| 3. 参加する考えはあるが、参加できていない |
| 4. ほとんど参加していない |
| 5. まったく参加していない |

【住民と行政の協働について】

問41 住民の町行政への関わりについて、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい |
| 2. 事前に住民の意見を聞いて行政が責任を持って施策・計画をつくり、それを実施すればよい |
| 3. 住民参加により施策・計画をつくり、住民と行政が協力しながらそれを実施するべきである |
| 4. 施策・計画への住民参加だけではなく、実施にあたっては住民の自主性・主体性に任せ、行政はできるだけ支援に徹するべきである |
| 5. その他（具体的に：_____） |
| 6. わからない |

問42 住民の参画と参加のまちづくりのために、町ではどのようなことを進める必要があると思いますか。【回答数：3つまで○印】

- | |
|---|
| 1. 広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実 |
| 2. 町政懇談会や住民相談など広聴活動の充実 |
| 3. 情報提供・情報公開の拡充 |
| 4. アンケートや聞き取り調査の実施 |
| 5. FAXやメールなどによる住民提案・意見箱の充実（わかりやすい場所への設置や設置数の増加など） |
| 6. 委員会や審議会などにおける住民の公募枠の拡大 |
| 7. 町民会議やワークショップなど、直接的な住民参加機会の拡大 |
| 8. 住民のまちづくりへの参加や住民自治を進めるための条例や制度づくり |
| 9. 議会、審議会などの議事録のわかりやすい提示 |
| 10. 区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり |
| 11. 議員を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり |
| 12. その他（具体的に：_____） |
| 13. 特にない |

問43 町では、地域の自治を大切にして、これから町民の皆さんと一緒にあったまちづくりを一段と強く進めていこうと考えています。そこで、次に掲げる①～⑩の活動について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：それぞれ①～⑩について1つずつあてはまる番号に○印】

	地域・住民が自ら行うことができる	行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる	行政が主体的に行うべき	わからない
①日常の安否確認や外出支援など高齢者の生活を支える活動	1	2	3	4
②点訳や要約筆記、手話通訳など障がい者の生活を支える活動	1	2	3	4
③子育て相談や緊急時の預かりなど子育て家庭を支援する活動	1	2	3	4

	地域・住民が 自ら行うこ とができる	行政の支援 のもと住民 が主体的に 行うことが できる	行政が 主体的に行 うべき	わから ない
④道路の清掃や花植えなど まちの環境を美しくする活動	1	2	3	4
⑤ごみの減量や省エネルギーなど 環境問題に対応する活動	1	2	3	4
⑥スポーツや趣味・芸術活動など 生涯学習・スポーツに関する活動	1	2	3	4
⑦パトロール活動など 交通安全や防犯に関する活動	1	2	3	4
⑧火災や災害に備えた 消防や防災に関する活動	1	2	3	4
⑨通訳や交流イベントなど 国際交流に関する活動	1	2	3	4
⑩公民館や公園など 地域施設の管理・運営する活動	1	2	3	4

9. 地域の情報化について

問44 町では、毎月1回「広報おおぐち」を全戸配布していますが、あなたは、広報おおぐちを読んでいますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 毎回よく読んでいる | 4. ほとんど読んだことがない |
| 2. 目を通す程度であるが毎回読んでいる | 5. 今までまったく読んだことがない |
| 3. 時々必要事項を選んで読んでいる | |

問45 町では、毎朝（午前7時20分）と毎夕（午後7時15分）に防災無線の個別受信機を通じて「各課のお知らせ」を放送しています。あなたは、この放送を聴いていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. ほぼ毎日聴いている | 4. ほとんど聴かない（年に数回程度） |
| 2. たまに聴いている（週に1～2回程度） | 5. 今まで聴いたことはない |
| 3. あまり聴かない（月に1～2回程度） | 6. 個別受信機がない |

問46 あなたは、ご家庭でインターネットを利用していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------|
| 1. 利用している |
| 2. 利用していない |
| 3. 利用したいが、パソコンがないなどの理由で利用できない |

問47 あなたは、インターネットを活用した地域情報化施策を進めることに、どのような効果を期待しますか。【回答数：2つまで○印】

- | |
|---------------------------------------|
| 1. コミュニケーションが活発になり、町民と行政、町民と町民の関係が深まる |
| 2. まちづくりへの参画と参加が進む |
| 3. 町政に町民の意見が細かく反映されるようになる |
| 4. 役場への届出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる |
| 5. 公共施設の利用状況の確認や予約が容易にできるようになる |
| 6. 税金や保険料などの支払いが容易にできるようになる |
| 7. 役場各課からのお知らせや地域情報など、さまざまな情報が提供される |
| 8. その他（具体的に：_____） |
| 9. 特にない |

10. 町の事業やサービスなどの認知状況について

問48 あなたは、以下の①～⑬の大口町が実施している事業やサービスなどについて知っていますか。

【回答数：①～⑬の項目それぞれについて1と2のどちらか一方に○印】

項 目	知ってる	知らない
① 桜さんの何でも言っちゃメール	1	2
② あんしん・安全ねっと	1	2
③ 自宅近くの浸水場所	1	2
④ 自宅近くの避難所	1	2
⑤ 防災行政無線のデジタル化	1	2
⑥ AEDの使い方	1	2
⑦ 資源リサイクルセンター	1	2
⑧ 剪定枝や草の回収場所（豊田地内）	1	2
⑨ コミュニティバスの運行	1	2
⑩ まちづくり基本条例	1	2
⑪ 消防団活動	1	2
⑫ 太陽光発電助成	1	2
⑬ 自宅の耐震診断助成	1	2

項 目	知ってる	知らない
⑭ 自宅の耐震工事助成	1	2
⑮ リフレッシュリゾート助成	1	2
⑯ 学校給食の半額・保育園主食代の全額助成	1	2
⑰ 戸籍保険課（住民票発行）の窓口延長	1	2
⑱ 食育とは	1	2

11. 公共施設と住民負担の関係について

問49 あなたは、ここ1年以内に町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）を利用したことはありますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない

問50 現在、町の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プール、中央公民館等）は使用（利用）するときに決められた使用料が必要ですが、これらの施設の維持管理には多くの税金が使われています。これからの公共施設の利用と負担の関係について、あなたの考えに最も近いのは何ですか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい
2. 公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい
3. 税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい
4. その他（具体的に：_____）

12. あなた自身のことについて

問51 あなたの性別はどちらですか【回答数：○印を1つだけ】

1. 男性
2. 女性

問52 あなたの年齢はいくつですか【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|---------|---------|------------|------------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳～64歳 | 7. 70歳～74歳 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | 6. 65歳～69歳 | 8. 75歳以上 |

問53 あなたは、どの地区にお住まいですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | | |
|-------|--------|--------|--------|--------|-----------|
| 1. 秋田 | 3. 大屋敷 | 5. .河北 | 7. 上小口 | 9. 下小口 | 11. さつきケ丘 |
| 2. 豊田 | 4. 外坪 | 6. 余野 | 8. 中小口 | 10. 垣田 | |

問54 あなたは大口町に住んで何年くらい経ちますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| 1. 5年未満 | 3. 10年以上20年未満 | 5. 30年以上 |
| 2. 5年以上10年未満 | 4. 20年以上30年未満 | |

問55 あなたの職業は次のうちどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 農業従事者 | 6. パート・アルバイト、フリーター |
| 2. 自営業・自由業 | 7. 家事従事・無職 |
| 3. 会社員・店員等 | 8. 学生 |
| 4. 公務員・団体職員 | 9. その他 |
| 5. 会社・団体の役員 | |

問56 あなたの同居家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなたご自身も含めてご回答ください。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 6. 大学（院）生・専門学校生 |
| 2. 幼児（1歳から小学校入学前まで） | 7. 65～74歳の高齢者 |
| 3. 小学生 | 8. 75歳以上の高齢者 |
| 4. 中学生 | 9. 1～8にあてはまる人はいない |
| 5. 高校生 | |

●これからの大口町のまちづくりについてアイデアやご意見がありましたら、どんなことでも結構ですので、自由にご記入ください。[箇条書き]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。